

---

第3次上尾市地域福祉計画及び  
第6次上尾市地域福祉活動計画策定のための  
アンケート調査報告書

---

令和3年3月  
上尾市  
上尾市社会福祉協議会



# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の概要.....	2
<b>II. 市民調査結果</b> .....	<b>5</b>
1. あなたご自身について.....	6
2. 地域福祉や福祉課題に関する意識や行動について.....	13
3. 地域活動・ボランティア活動（無償・有償）について.....	37
4. 防災活動について.....	53
5. 日常生活での交通手段について.....	59
6. 福祉サービスについて.....	65
7. 社会福祉協議会について.....	70
8. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて.....	78
9. 新型コロナウイルス問題について.....	91
自由記述.....	96
<b>III. 福祉関係事業所調査結果</b> .....	<b>135</b>
1. 貴事業者について.....	136
2. 地域貢献、社会貢献や地域での活動について.....	138
3. 他の団体・組織及び地域との連携について.....	142
4. 新型コロナウイルス問題について.....	148
自由記述.....	153
<b>IV. 福祉関係団体調査結果</b> .....	<b>155</b>
1. 貴団体の活動について.....	156
2. 地域について.....	194
3. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて.....	196
4. 今後の活動に向けて.....	197
5. 新型コロナウイルス問題について.....	210
自由記述.....	224
<b>V. 民生委員・児童委員調査結果</b> .....	<b>233</b>
1. 担当地区について.....	234
2. 民生委員・児童委員の活動について.....	235
3. 地域の課題について.....	245
4. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて.....	248
5. 新型コロナウイルス問題について.....	249
自由記述.....	266

VI. 調査結果のまとめ .....	273
資料編 使用した調査票 .....	281
1. 市民 .....	282
2. 福祉関係事業所 .....	290
3. 福祉関係団体 .....	294
4. 民生委員・児童委員 .....	300

---

---

## I. 調査の概要

---

---

# 1. 調査の概要

## (1) 目的

第3次上尾市地域福祉計画及び第6次上尾市地域福祉活動計画の策定にあたり、市民の皆様より福祉に対する意識や地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画を策定するための基礎資料として、アンケート調査を実施しました。

## (2) 調査期間

令和2年10月14日（水）～ 令和2年11月9日（月）

## (3) 調査対象者

- ①上尾市に在住する18歳以上の、無作為抽出による市民3,000人
- ②福祉関係事業所
- ③福祉関係団体
- ④上尾市内において活動する民生委員・児童委員

## (4) 調査方法

- ①②郵送配布・郵送回収
- ③直接配布・直接/郵送回収
- ④直接配布・直接回収

## (5) 配布数及び回収数

	配布数	回収数	回収率
①市民調査	3,000件	1,216件	40.5%
②事業所調査	90件	53件	58.9%
③団体調査	200件	155件	77.5%
④民生委員・児童委員調査	316件	296件	93.7%

## (6) 報告書の見方

- ・回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・図表中の「n」は、有効サンプル数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する数）を表しています。
- ・回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対するそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・本報告書は、分析手法のひとつとしてクロス集計を用います。クロス集計表では「無回答」を表示していません。そのため回答者数の合計が全体の合計と一致しない場合があります。
- ・『問○ × 性別、年齢別、地区別』という表記は、その問の性別、年齢別、地区別のクロス集計の項目を示します。クロス集計表中の網かけの数値は、その項目の最大値を指します。
- ・自由記述においては、個人・法人・場所が特定されるような記述については、○○○と記載したり、省略している場合があります。

- ・本報告書のなかで、前回の第2次上尾市地域福祉計画及び第5次上尾市地域福祉活動計画の策定の際に行ったアンケート調査との比較をしている箇所があります。前回のアンケートの概要は次のとおりです。

(前回調査期間)

平成27年9月

(前回調査対象者)

- ①上尾市に在住する18歳以上の、無作為抽出による市民3,000人
- ②福祉関係事業所
- ③福祉関係団体
- ④上尾市内において活動する民生委員・児童委員

(前回調査方法)

- ①②郵送配布・郵送回収
- ③④直接配布・直接回収

(前回配布数及び回収数)

	配布数	回収数	回収率
①市民調査	3,000件	1,200件	40.0%
②事業所調査	93件	62件	66.7%
③団体調査	204件	153件	75.0%
④民生委員・児童委員調査	313件	275件	87.9%





---

---

## II. 市民調查結果

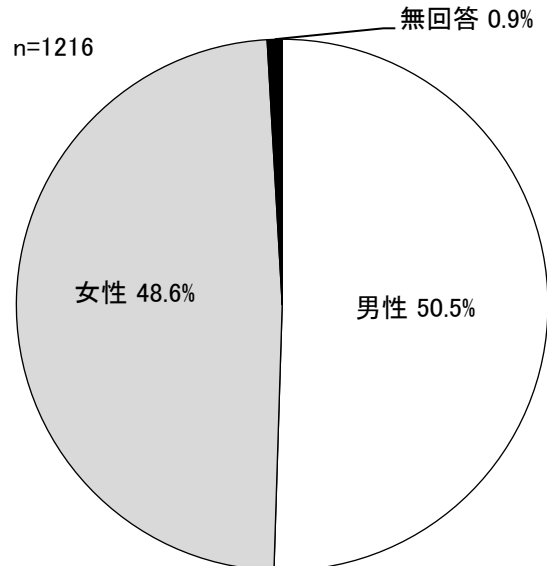
---

---

## 1. あなたご自身について

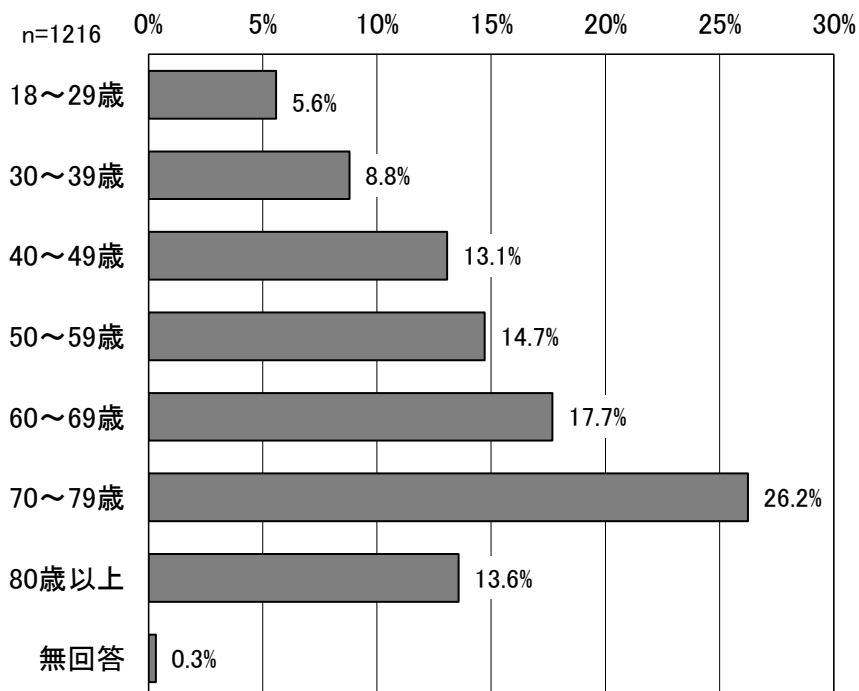
### 問1 あなたの性別はどちらですか。(どちらかに○)

性別については、「男性」が50.5%、「女性」が48.6%となっており、「男性」が「女性」をやや上回っています。



### 問2 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)

年代については、「70～79歳」が26.2%と最も高く、次いで「60～69歳」が17.7%、「50～59歳」が14.7%となっており、60歳以上が半数を超えています。



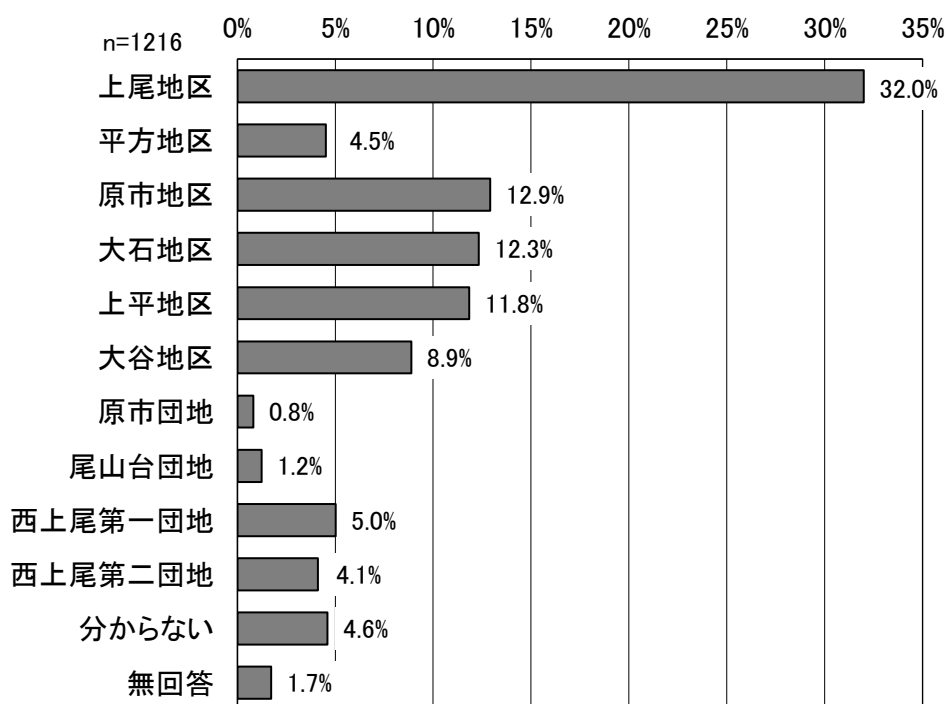
### 問2×地区別

地区別にみると、原市団地を除くすべての地区で「70～79歳」（尾山台団地は「80歳以上」も同率）、原市団地では「80歳以上」が最も高くなっています。

		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答	
	n									
地区別	上尾地区	389	8.2%	9.3%	13.1%	12.1%	21.9%	23.4%	11.6%	0.5%
	平方地区	55	3.6%	7.3%	7.3%	7.3%	16.4%	38.2%	20.0%	0.0%
	原市地区	157	3.8%	7.6%	17.2%	14.6%	15.3%	23.6%	17.8%	0.0%
	大石地区	150	4.0%	5.3%	15.3%	16.0%	14.0%	30.0%	15.3%	0.0%
	上平地区	144	3.5%	5.6%	15.3%	18.8%	17.4%	27.8%	11.8%	0.0%
	大谷地区	108	2.8%	13.0%	7.4%	17.6%	21.3%	26.9%	11.1%	0.0%
	原市団地	10	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%
	尾山台団地	15	6.7%	13.3%	13.3%	6.7%	6.7%	26.7%	26.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	3.3%	3.3%	1.6%	18.0%	13.1%	36.1%	24.6%	0.0%
	西上尾第二団地	50	4.0%	4.0%	8.0%	8.0%	24.0%	42.0%	10.0%	0.0%

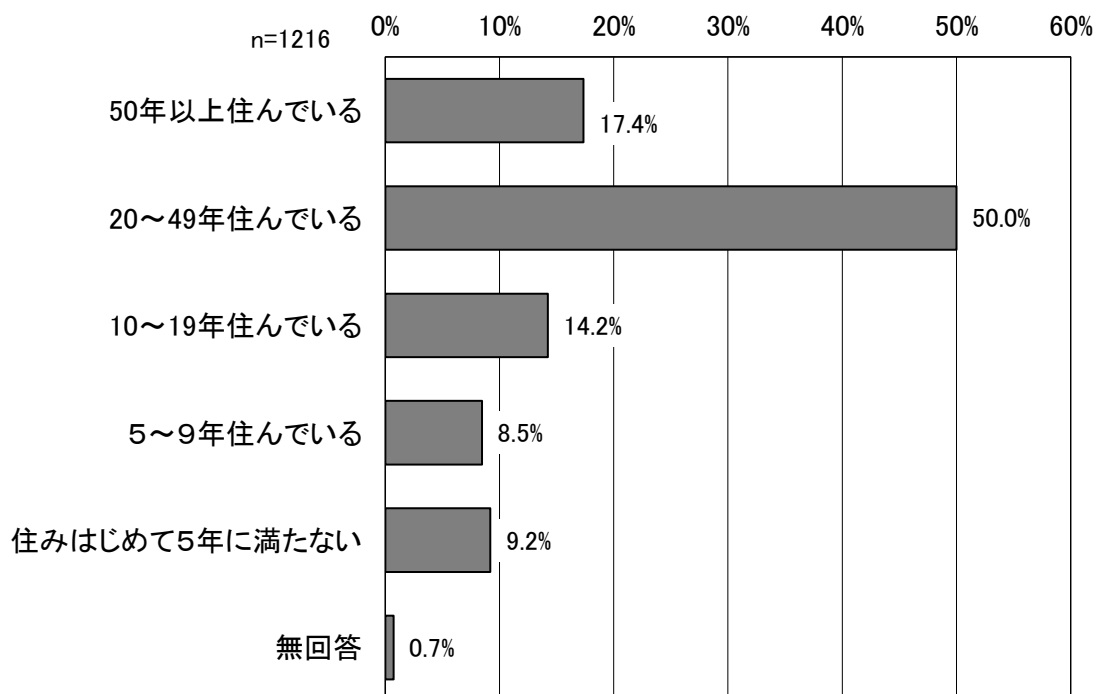
### 問3 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。（ひとつだけ○）

居住地区については、「上尾地区」が32.0%と最も高く、次いで「原市地区」が12.9%、「大石地区」が12.3%となっています。



**問4 あなたは上尾市に何年住んでいますか。(ひとつだけ)**

居住年数については、「20～49年住んでいる」が50.0%と最も高く、次いで「50年以上住んでいる」が17.4%、「10～19年住んでいる」が14.2%となっています。



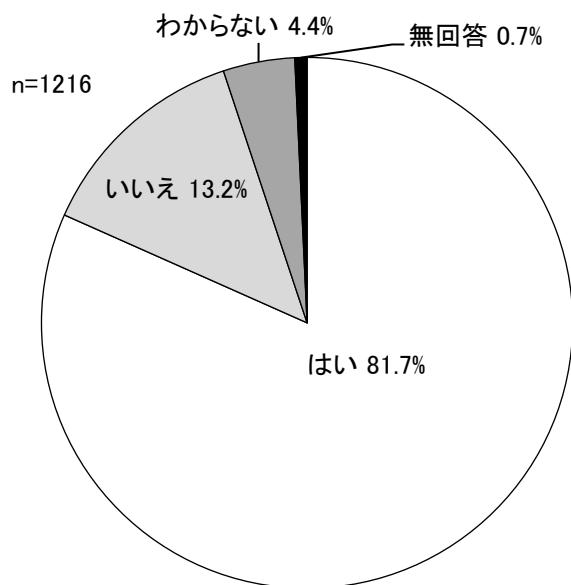
**問4×地区別**

地区別にみると、尾山台団地を除くすべての地区で「20～49年住んでいる」、尾山台団地では「50年以上住んでいる」が最も高くなっています。また、尾山台団地では住みはじめて10年以内の人が約4割と、他の地区より高くなっています。

地区別	n	50年以上	20～49年	10～19年	5～9年住	住みはじ	無回答
		住んでいる	住んでいる	住んでいる	んでいる	めて5年に	
		住んでいる	住んでいる	住んでいる	んでいる	満たない	
上尾地区	389	17.2%	47.0%	15.7%	7.2%	12.3%	0.5%
平方地区	55	34.5%	49.1%	7.3%	3.6%	5.5%	0.0%
原市地区	157	17.8%	53.5%	14.0%	10.8%	3.8%	0.0%
大石地区	150	16.0%	61.3%	13.3%	5.3%	3.3%	0.7%
上平地区	144	21.5%	52.1%	15.3%	6.3%	4.9%	0.0%
大谷地区	108	17.6%	56.5%	10.2%	7.4%	8.3%	0.0%
原市団地	10	30.0%	40.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%
尾山台団地	15	26.7%	13.3%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	13.1%	50.8%	9.8%	14.8%	11.5%	0.0%
西上尾第二団地	50	12.0%	48.0%	16.0%	10.0%	10.0%	4.0%

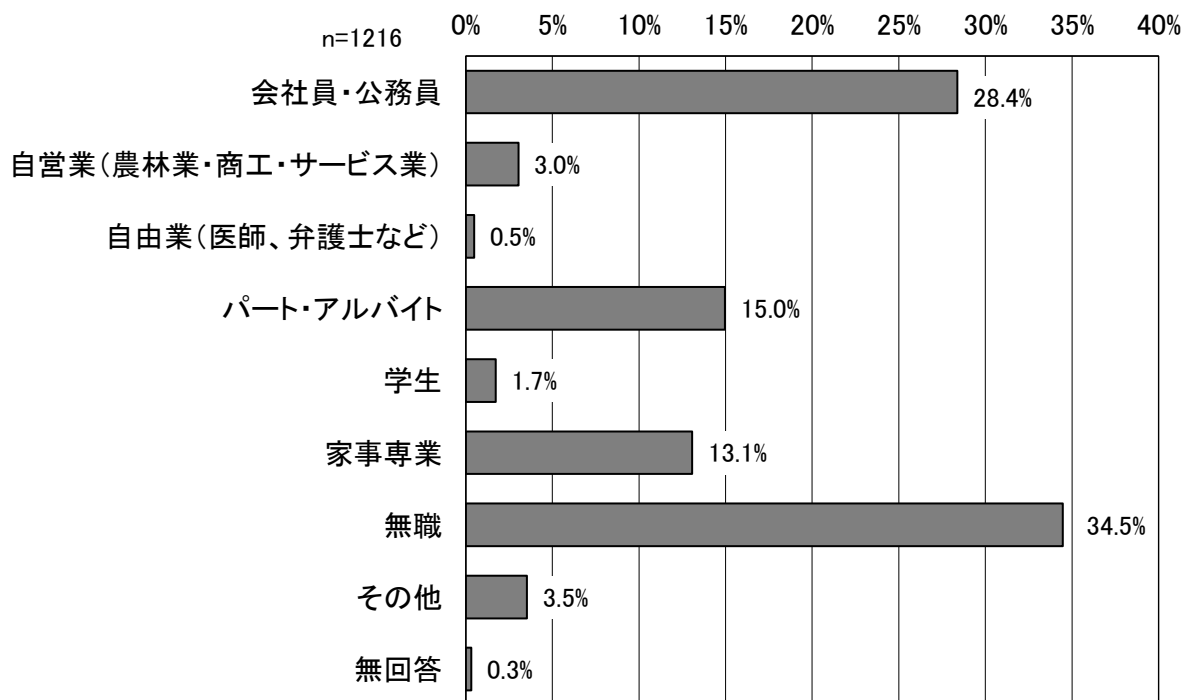
**問5 あなたの世帯は自治会・町内会・区会に入っていますか。(ひとつだけ〇)**

自治会・町内会・区会への入会状況は、「はい」が81.7%、「いいえ」が13.2%、「わからない」が4.4%となっています。



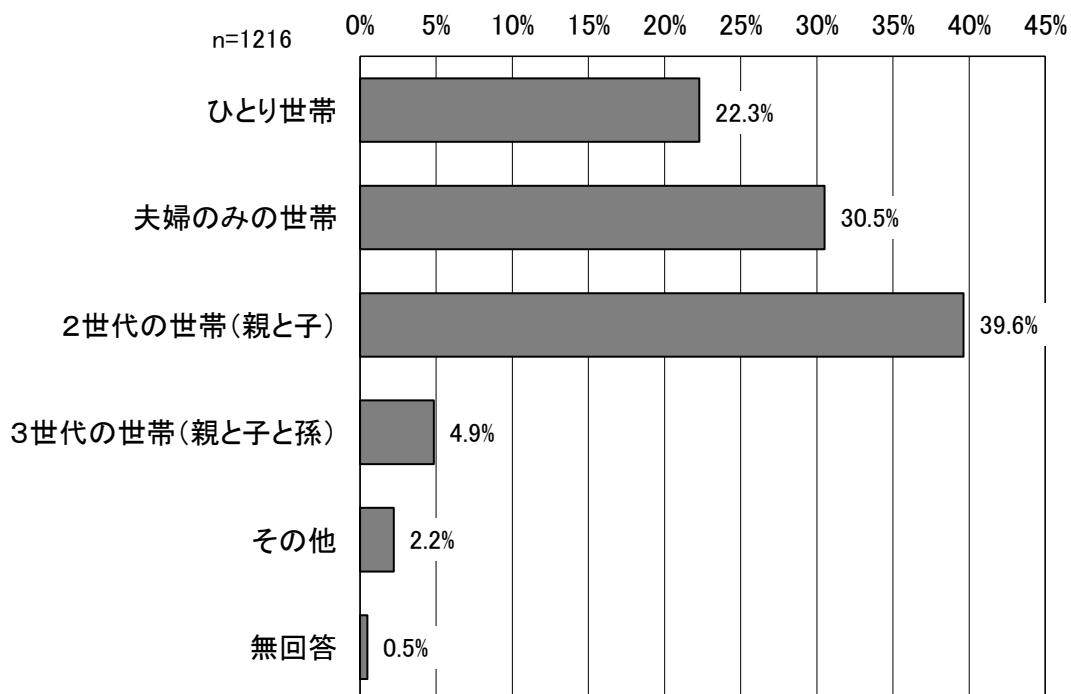
**問6 あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ〇)**

主な職業については、「無職」が34.5%と最も高く、次いで「会社員・公務員」が28.4%、「パート・アルバイト」が15.0%となっています。



**問7 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)**

家族構成については、「2世代の世帯（親と子）」が39.6%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が30.5%、「ひとり世帯」が22.3%となっています。



問7×年代別、地区別

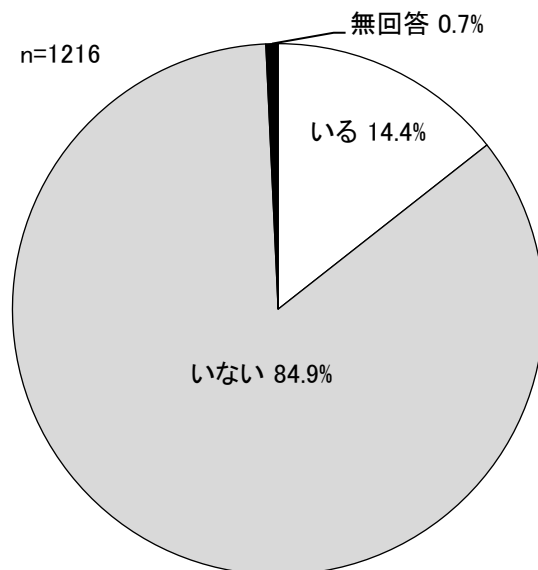
年代別にみると、60歳未満では「2世代の世帯（親と子）」、60歳以上では「夫婦のみの世帯」が最も高くなっています。また、「ひとり世帯」が80歳以上で約3割と、他の年代よりも高くなっています。

地区別にみると、上尾地区、原市地区、大石地区、上平地区、大谷地区では「2世代の世帯（親と子）」、平方地区、原市団地、尾山台団地では「夫婦のみの世帯」、西上尾第一団地、西上尾第二団地では「ひとり世帯」が最も高くなっています。

		n	ひとり世帯	夫婦のみの世帯	2世代の世帯（親と子）	3世代の世帯（親と子と孫）	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	13.2%	14.7%	60.3%	8.8%	2.9%	0.0%
	30～39歳	107	15.0%	11.2%	69.2%	4.7%	0.0%	0.0%
	40～49歳	159	15.1%	14.5%	62.3%	6.3%	0.6%	1.3%
	50～59歳	179	21.2%	23.5%	47.5%	4.5%	3.4%	0.0%
	60～69歳	215	24.7%	35.8%	32.1%	4.2%	3.3%	0.0%
	70～79歳	319	25.7%	47.0%	21.3%	3.4%	2.5%	0.0%
	80歳以上	165	29.7%	33.9%	27.3%	6.1%	1.8%	1.2%
地区別	上尾地区	389	25.2%	26.5%	39.8%	5.1%	3.3%	0.0%
	平方地区	55	20.0%	36.4%	34.5%	3.6%	3.6%	1.8%
	原市地区	157	16.6%	31.8%	43.9%	6.4%	0.0%	1.3%
	大石地区	150	13.3%	37.3%	42.0%	4.0%	3.3%	0.0%
	上平地区	144	17.4%	28.5%	45.8%	6.3%	2.1%	0.0%
	大谷地区	108	12.0%	36.1%	44.4%	6.5%	0.9%	0.0%
	原市団地	10	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	26.7%	53.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	45.9%	29.5%	21.3%	1.6%	1.6%	0.0%
	西上尾第二団地	50	50.0%	24.0%	24.0%	0.0%	0.0%	2.0%

**問8 あなたの家族に介護・介助が必要な方がいらっしゃいますか。(どちらかに○)**

介護・介助が必要な家族の有無については、「いる」が14.4%、「いない」が84.9%となっており、「いない」が「いる」を上回っています。

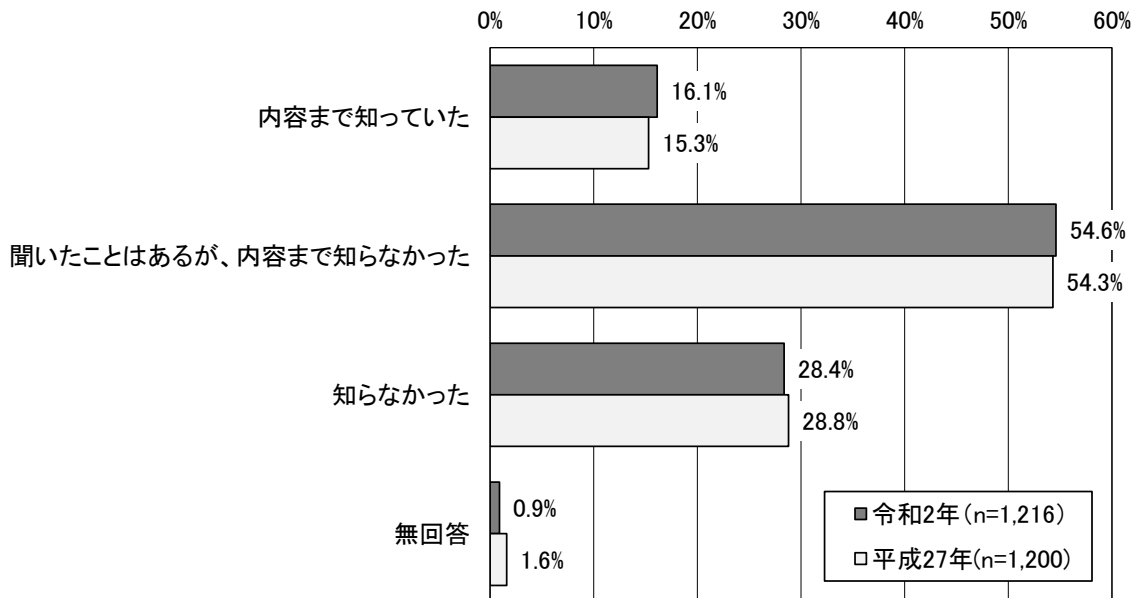




## 2. 地域福祉や福祉課題に関する意識や行動について

問9 あなたはこの調査に回答する前から「地域福祉」という言葉を知っていましたか。(ひとつだけ○)

「地域福祉」という言葉の認識については、「聞いたことはあるが、内容まで知らなかった」が54.6%と最も高く、次いで「知らなかった」が28.4%、「内容まで知っていた」が16.1%となっており、内容を知らない人は8割を超えています。



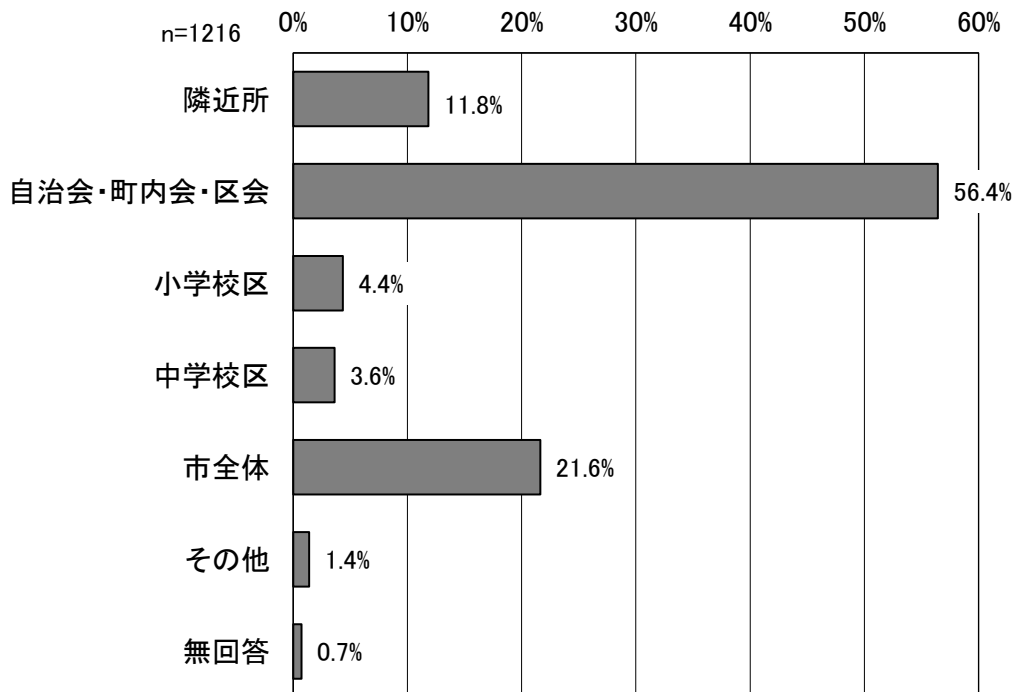
### 問9×年代別

年代別にみると、すべての年代で「聞いたことはあるが、内容まで知らなかった」が最も高くなっています。また、70歳以上では「内容まで知っていた」が2割を超え他の年代よりも高くなっており、70歳未満では「知らなかった」が3割を超えています。

年代別	n	内容まで知っていた	聞いたことはあるが、内容まで知らなかった	知らなかった	無回答
18～29歳	68	10.3%	48.5%	41.2%	0.0%
30～39歳	107	8.4%	53.3%	38.3%	0.0%
40～49歳	159	14.5%	52.2%	33.3%	0.0%
50～59歳	179	12.3%	54.2%	33.0%	0.6%
60～69歳	215	13.0%	52.6%	33.0%	1.4%
70～79歳	319	20.7%	56.7%	21.0%	1.6%
80歳以上	165	24.8%	58.8%	15.2%	1.2%

問10 あなたにとって地域とは、日常生活の上でどのような範囲のことだと思いますか。(ひとつだけ○)

地域の範囲については、「自治会・町内会・区会」が56.4%と最も高く、次いで「市全体」が21.6%、「隣近所」が11.8%となっています。



問 10×年代別、地区別

年代別にみると、18～29 歳を除くすべての年代で「自治会・町内会・区会」、18～29 歳では「市全体」が最も高くなっています。また、30～49 歳では「小学校区」が 1 割以上と、他の年代よりも高くなっています。

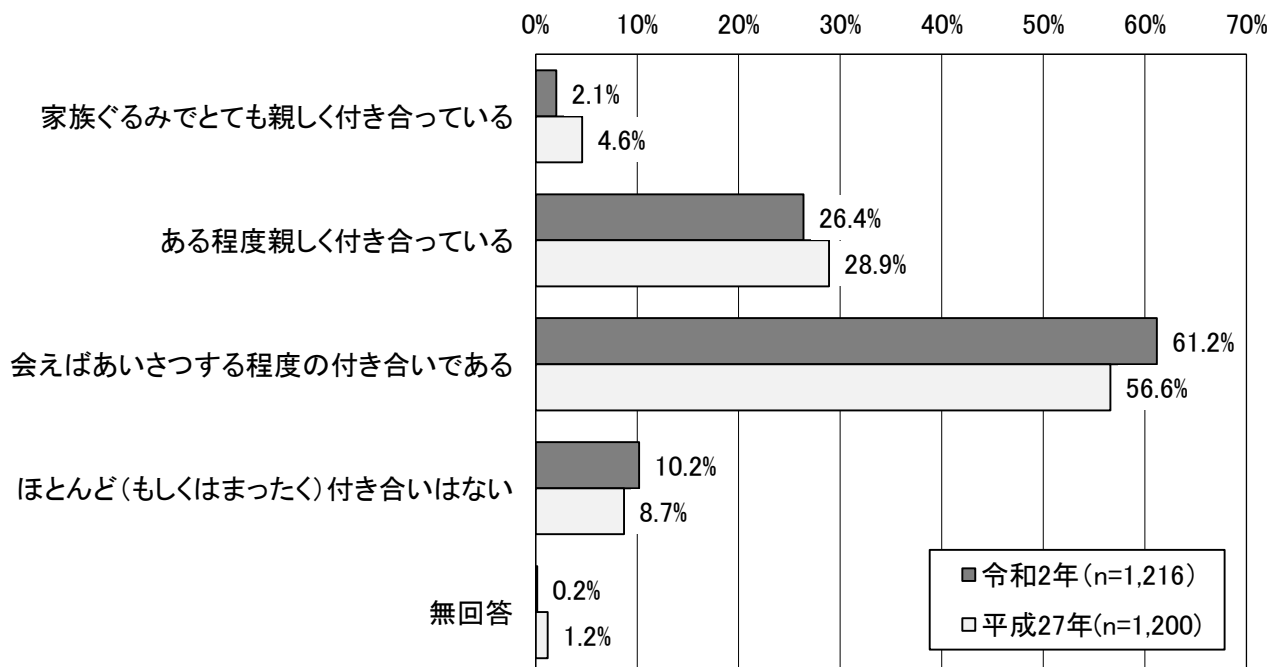
地区別にみると、すべての地区で「自治会・町内会・区会」が最も高くなっています。また、上尾地区では「市全体」が約 3 割と、他の地区よりも高くなっています。

		n	隣近所	自治会・町内会・区会	小学校区	中学校区	市全体	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	10.3%	35.3%	5.9%	5.9%	41.2%	1.5%	0.0%
	30～39歳	107	12.1%	36.4%	12.1%	10.3%	28.0%	0.9%	0.0%
	40～49歳	159	5.7%	39.6%	13.2%	7.5%	32.7%	1.3%	0.0%
	50～59歳	179	8.9%	59.8%	2.2%	3.4%	22.9%	2.8%	0.0%
	60～69歳	215	11.2%	57.2%	2.8%	3.7%	23.7%	0.5%	0.9%
	70～79歳	319	14.1%	68.0%	1.3%	0.9%	13.2%	1.3%	1.3%
	80歳以上	165	18.2%	66.1%	0.6%	0.0%	11.5%	1.8%	1.8%

地区別	上尾地区	389	14.9%	46.0%	4.1%	3.1%	30.1%	1.3%	0.5%
	平方地区	55	9.1%	72.7%	5.5%	3.6%	7.3%	1.8%	0.0%
	原市地区	157	10.2%	58.6%	4.5%	5.1%	18.5%	1.9%	1.3%
	大石地区	150	7.3%	68.7%	6.0%	4.7%	10.0%	1.3%	2.0%
	上平地区	144	14.6%	56.9%	4.9%	3.5%	18.1%	1.4%	0.7%
	大谷地区	108	5.6%	68.5%	2.8%	2.8%	19.4%	0.9%	0.0%
	原市団地	10	10.0%	70.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	26.7%	33.3%	6.7%	0.0%	26.7%	6.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	19.7%	63.9%	0.0%	0.0%	14.8%	1.6%	0.0%
	西上尾第二団地	50	14.0%	60.0%	4.0%	2.0%	20.0%	0.0%	0.0%

問11 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ〇)

近所付き合いについては、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が61.2%と最も高く、次いで「ある程度親しく付き合っている」が26.4%、「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が10.2%となっています。



問 11×性別、年代別、地区別

性別にみると、男女ともに「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も高くなっています。また、「ある程度親しく付き合っている」が男性よりも女性で 8 ポイント高くなっています。

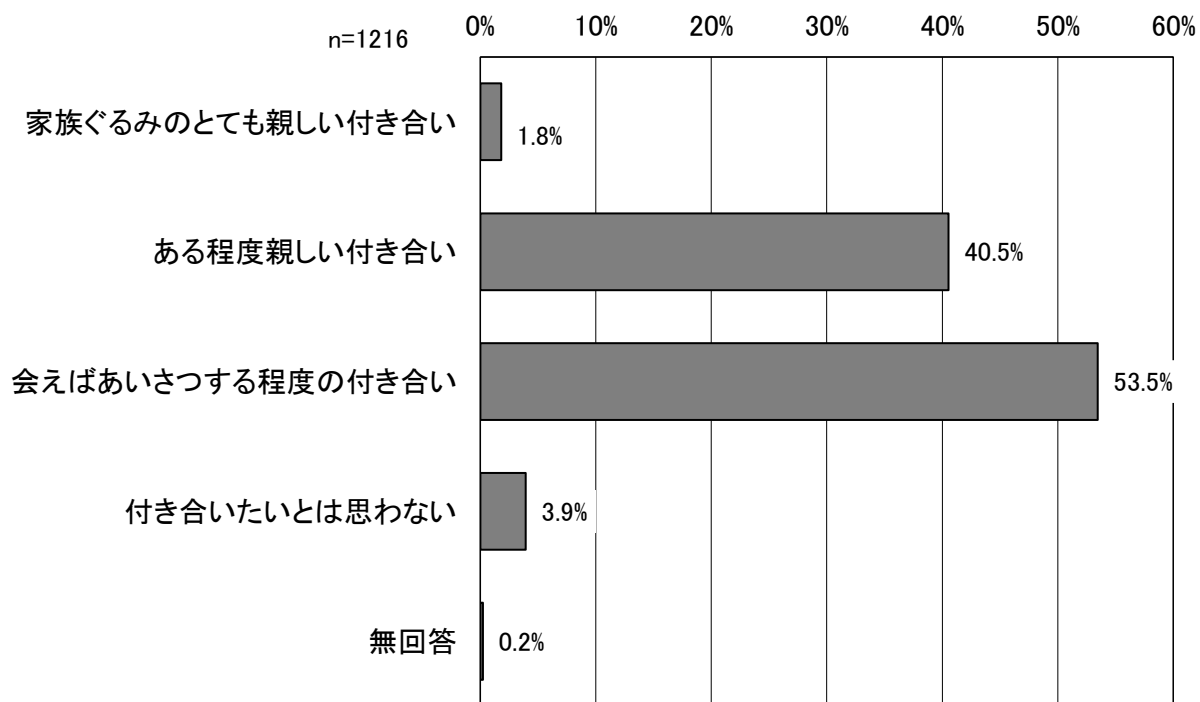
年代別にみると、すべての年代で「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も高くなっています。また、「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」は、若い年代で割合が高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も高くなっています。また、平方地区、原市地区、上平地区、大谷地区では「ある程度親しく付き合っている」が3割を超え、他の地区よりも高くなっています。

		n	家族ぐるみでとても親しく付き合っている	ある程度親しく付き合っている	会えばあいさつする程度の付き合いである	ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない	無回答
全体		1,216	2.1%	26.4%	61.2%	10.2%	0.2%
性別	男性	614	1.6%	22.3%	63.7%	12.2%	0.2%
	女性	591	2.5%	30.3%	58.7%	8.3%	0.2%
年代別	18～29歳	68	1.5%	16.2%	47.1%	35.3%	0.0%
	30～39歳	107	0.9%	10.3%	73.8%	15.0%	0.0%
	40～49歳	159	1.3%	18.9%	65.4%	14.5%	0.0%
	50～59歳	179	0.6%	13.4%	77.1%	8.9%	0.0%
	60～69歳	215	0.0%	27.0%	66.5%	6.0%	0.5%
	70～79歳	319	3.1%	37.3%	53.9%	5.3%	0.3%
	80歳以上	165	6.1%	40.0%	45.5%	8.5%	0.0%
地区別	上尾地区	389	1.8%	21.6%	64.5%	12.1%	0.0%
	平方地区	55	7.3%	36.4%	49.1%	7.3%	0.0%
	原市地区	157	1.3%	31.2%	57.3%	10.2%	0.0%
	大石地区	150	3.3%	29.3%	60.7%	6.0%	0.7%
	上平地区	144	2.1%	36.1%	56.9%	4.9%	0.0%
	大谷地区	108	2.8%	35.2%	58.3%	3.7%	0.0%
	原市団地	10	0.0%	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%
	尾山台団地	15	0.0%	13.3%	80.0%	6.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	0.0%	16.4%	75.4%	8.2%	0.0%
	西上尾第二団地	50	0.0%	22.0%	62.0%	14.0%	2.0%

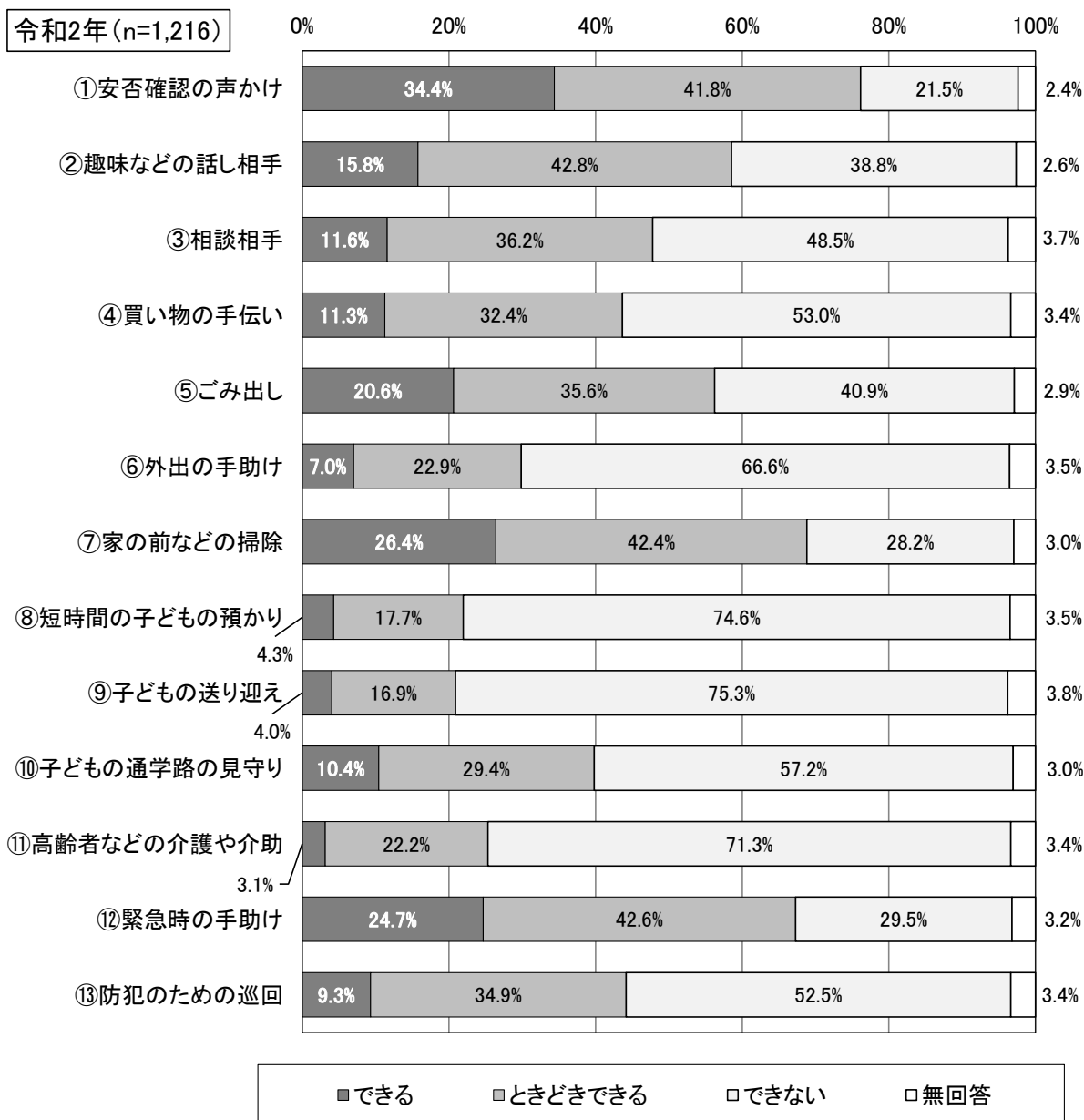
**問12 あなたは、近所の人とどの程度の付き合いをしたいと思いますか。(ひとつだけ〇)**

近所付き合いの程度については、「会えばあいさつする程度の付き合い」が53.5%と最も高く、次いで「ある程度親しい付き合い」が40.5%、「付き合いたいとは思わない」が3.9%となっています。

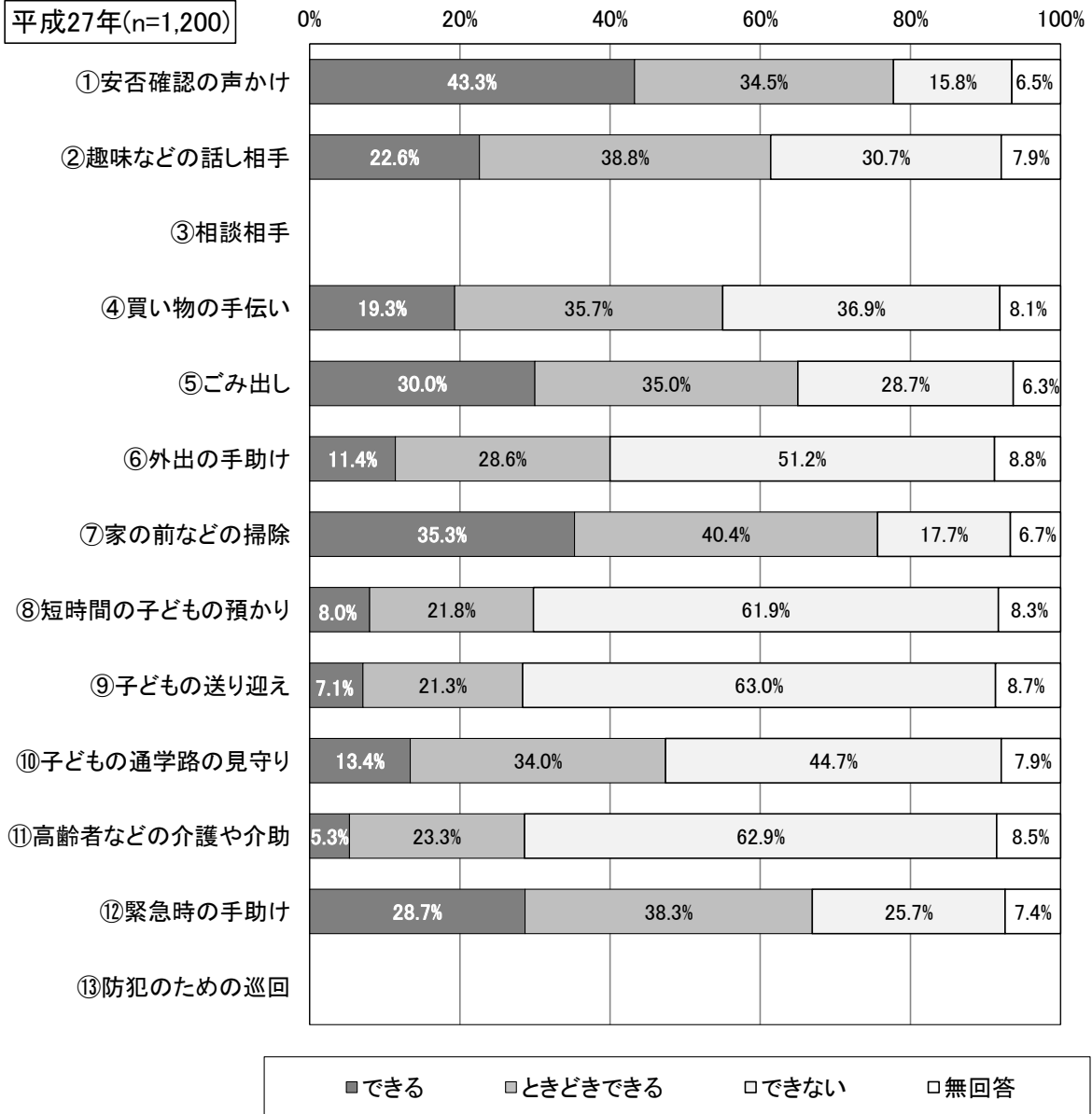


**問 13 あなたは、身近な地域の人に対して、どのような手助けや支援ができますか。（各項目の番号にひとつだけ〇）**

身近な地域の人に対してできる手助けや支援については、「できる」で最も高い項目は①安否確認の声かけ、次いで⑦家の前などの掃除、⑫緊急時の手助けとなっています。一方で、「できない」では⑨子どもの送り迎え、⑧短時間の子どもの預かり、⑪高齢者などの介護や介助の項目で7割を超えています。



平成27年(n=1,200)



※平成27年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。



問 13×年代別、地区別

各項目を年代別、地区別にみると以下のとおりです。

①安否確認の声かけ

年代別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
18～29歳	68	27.9%	41.2%	30.9%	0.0%
30～39歳	107	32.7%	46.7%	20.6%	0.0%
40～49歳	159	27.7%	51.6%	20.8%	0.0%
50～59歳	179	34.6%	42.5%	22.3%	0.6%
60～69歳	215	38.1%	42.8%	18.1%	0.9%
70～79歳	319	38.2%	39.8%	18.2%	3.8%
80歳以上	165	32.1%	30.9%	28.5%	8.5%

②趣味などの話し相手

年代別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
18～29歳	68	10.3%	39.7%	50.0%	0.0%
30～39歳	107	11.2%	43.0%	45.8%	0.0%
40～49歳	159	7.5%	49.1%	43.4%	0.0%
50～59歳	179	7.8%	46.4%	44.7%	1.1%
60～69歳	215	15.3%	42.8%	40.9%	0.9%
70～79歳	319	22.9%	42.6%	31.0%	3.4%
80歳以上	165	23.6%	34.5%	31.5%	10.3%

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	32.9%	44.5%	20.1%	2.6%
平方地区	55	40.0%	40.0%	18.2%	1.8%
原市地区	157	31.2%	45.2%	21.0%	2.5%
大石地区	150	40.7%	38.0%	19.3%	2.0%
上平地区	144	43.8%	41.0%	13.9%	1.4%
大谷地区	108	26.9%	45.4%	25.0%	2.8%
原市団地	10	50.0%	20.0%	30.0%	0.0%
尾山台団地	15	46.7%	26.7%	26.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	21.3%	34.4%	36.1%	8.2%
西上尾第二団地	50	26.0%	46.0%	26.0%	2.0%

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	14.9%	40.1%	41.4%	3.6%
平方地区	55	20.0%	41.8%	36.4%	1.8%
原市地区	157	13.4%	43.3%	40.8%	2.5%
大石地区	150	20.0%	47.3%	30.7%	2.0%
上平地区	144	17.4%	50.0%	29.9%	2.8%
大谷地区	108	14.8%	43.5%	38.0%	3.7%
原市団地	10	30.0%	40.0%	30.0%	0.0%
尾山台団地	15	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	19.7%	27.9%	49.2%	3.3%
西上尾第二団地	50	12.0%	42.0%	46.0%	0.0%

③相談相手

年代別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
18～29歳	68	10.3%	23.5%	66.2%	0.0%
30～39歳	107	11.2%	37.4%	51.4%	0.0%
40～49歳	159	5.7%	40.9%	53.5%	0.0%
50～59歳	179	6.1%	34.6%	58.7%	0.6%
60～69歳	215	11.2%	35.8%	51.6%	1.4%
70～79歳	319	17.2%	39.2%	37.3%	6.3%
80歳以上	165	13.3%	32.7%	41.2%	12.7%

④買い物の手伝い

年代別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
18～29歳	68	2.9%	29.4%	67.6%	0.0%
30～39歳	107	10.3%	29.9%	59.8%	0.0%
40～49歳	159	6.3%	40.9%	52.8%	0.0%
50～59歳	179	7.3%	34.1%	58.1%	0.6%
60～69歳	215	13.5%	41.9%	43.3%	1.4%
70～79歳	319	16.9%	29.8%	48.9%	4.4%
80歳以上	165	10.9%	18.2%	57.0%	13.9%

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	10.8%	35.5%	50.1%	3.6%
平方地区	55	16.4%	34.5%	49.1%	0.0%
原市地区	157	8.3%	39.5%	49.0%	3.2%
大石地区	150	14.7%	34.7%	46.0%	4.7%
上平地区	144	14.6%	41.0%	38.9%	5.6%
大谷地区	108	9.3%	43.5%	42.6%	4.6%
原市団地	10	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	46.7%	46.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	13.1%	27.9%	54.1%	4.9%
西上尾第二団地	50	10.0%	26.0%	58.0%	6.0%

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	9.3%	31.9%	54.8%	4.1%
平方地区	55	9.1%	40.0%	50.9%	0.0%
原市地区	157	10.2%	31.8%	53.5%	4.5%
大石地区	150	14.0%	35.3%	48.0%	2.7%
上平地区	144	15.3%	37.5%	43.8%	3.5%
大谷地区	108	8.3%	26.9%	60.2%	4.6%
原市団地	10	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	26.7%	66.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	16.4%	24.6%	55.7%	3.3%
西上尾第二団地	50	14.0%	36.0%	46.0%	4.0%

⑤ごみ出し

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	7.4%	38.2%	54.4%	0.0%
	30～39歳	107	17.8%	34.6%	47.7%	0.0%
	40～49歳	159	11.3%	37.7%	49.7%	1.3%
	50～59歳	179	12.3%	44.7%	42.5%	0.6%
	60～69歳	215	19.5%	42.8%	36.7%	0.9%
	70～79歳	319	29.8%	32.0%	34.5%	3.8%
	80歳以上	165	30.3%	20.0%	38.8%	10.9%

⑥外出時の手助け

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	4.4%	23.5%	72.1%	0.0%
	30～39歳	107	4.7%	19.6%	75.7%	0.0%
	40～49歳	159	4.4%	25.2%	70.4%	0.0%
	50～59歳	179	4.5%	19.0%	74.3%	2.2%
	60～69歳	215	7.0%	27.9%	63.7%	1.4%
	70～79歳	319	11.6%	22.9%	61.4%	4.1%
	80歳以上	165	6.1%	20.0%	60.0%	13.9%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	17.2%	38.3%	41.1%	3.3%
平方地区	55	20.0%	36.4%	43.6%	0.0%
原市地区	157	21.0%	33.1%	43.3%	2.5%
大石地区	150	20.0%	39.3%	38.0%	2.7%
上平地区	144	27.1%	33.3%	36.8%	2.8%
大谷地区	108	17.6%	36.1%	41.7%	4.6%
原市団地	10	30.0%	30.0%	40.0%	0.0%
尾山台団地	15	20.0%	26.7%	53.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	29.5%	27.9%	36.1%	6.6%
西上尾第二団地	50	28.0%	36.0%	34.0%	2.0%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	5.9%	22.1%	68.4%	3.6%
平方地区	55	7.3%	27.3%	63.6%	1.8%
原市地区	157	7.0%	22.3%	66.2%	4.5%
大石地区	150	10.7%	22.7%	64.0%	2.7%
上平地区	144	7.6%	25.0%	62.5%	4.9%
大谷地区	108	5.6%	26.9%	63.9%	3.7%
原市団地	10	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%
尾山台団地	15	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	6.6%	21.3%	67.2%	4.9%
西上尾第二団地	50	10.0%	22.0%	66.0%	2.0%

⑦家の前などの掃除

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	10.3%	45.6%	44.1%	0.0%
	30～39歳	107	10.3%	56.1%	33.6%	0.0%
	40～49歳	159	13.8%	50.3%	35.8%	0.0%
	50～59歳	179	15.6%	50.3%	32.4%	1.7%
	60～69歳	215	28.8%	46.5%	23.7%	0.9%
	70～79歳	319	42.3%	34.2%	19.4%	4.1%
	80歳以上	165	33.3%	26.7%	29.1%	10.9%

⑧短時間の子どもの預かり

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	4.4%	23.5%	72.1%	0.0%
	30～39歳	107	4.7%	23.4%	72.0%	0.0%
	40～49歳	159	5.0%	22.0%	73.0%	0.0%
	50～59歳	179	2.8%	12.8%	83.2%	1.1%
	60～69歳	215	4.2%	19.1%	75.3%	1.4%
	70～79歳	319	5.3%	19.1%	70.8%	4.7%
	80歳以上	165	3.0%	7.9%	75.8%	13.3%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	22.9%	45.0%	28.8%	3.3%
平方地区	55	30.9%	36.4%	30.9%	1.8%
原市地区	157	26.8%	47.8%	22.9%	2.5%
大石地区	150	32.7%	40.0%	25.3%	2.0%
上平地区	144	30.6%	43.1%	23.6%	2.8%
大谷地区	108	30.6%	39.8%	24.1%	5.6%
原市団地	10	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%
尾山台団地	15	13.3%	40.0%	46.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	18.0%	42.6%	36.1%	3.3%
西上尾第二団地	50	40.0%	30.0%	26.0%	4.0%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	4.6%	17.7%	73.8%	3.9%
平方地区	55	1.8%	18.2%	76.4%	3.6%
原市地区	157	3.2%	17.8%	75.2%	3.8%
大石地区	150	4.7%	16.7%	75.3%	3.3%
上平地区	144	6.9%	24.3%	65.3%	3.5%
大谷地区	108	3.7%	20.4%	72.2%	3.7%
原市団地	10	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%
尾山台団地	15	0.0%	13.3%	86.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	1.6%	4.9%	88.5%	4.9%
西上尾第二団地	50	4.0%	18.0%	76.0%	2.0%

⑨子どもの送り迎え

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	5.9%	20.6%	73.5%	0.0%
	30～39歳	107	1.9%	21.5%	76.6%	0.0%
	40～49歳	159	5.0%	20.8%	74.2%	0.0%
	50～59歳	179	2.8%	12.8%	83.2%	1.1%
	60～69歳	215	4.2%	17.2%	76.7%	1.9%
	70～79歳	319	5.0%	21.9%	67.7%	5.3%
	80歳以上	165	3.0%	3.0%	80.0%	13.9%

⑩子どもの通学路の見守り

		n	できる	ときどきできる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	10.3%	33.8%	55.9%	0.0%
	30～39歳	107	10.3%	38.3%	51.4%	0.0%
	40～49歳	159	10.7%	35.8%	53.5%	0.0%
	50～59歳	179	4.5%	28.5%	65.9%	1.1%
	60～69歳	215	12.1%	36.7%	49.8%	1.4%
	70～79歳	319	13.5%	26.6%	56.1%	3.8%
	80歳以上	165	8.5%	12.7%	66.7%	12.1%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	4.6%	14.1%	76.9%	4.4%
平方地区	55	1.8%	21.8%	72.7%	3.6%
原市地区	157	3.8%	15.3%	76.4%	4.5%
大石地区	150	4.0%	19.3%	73.3%	3.3%
上平地区	144	4.9%	22.9%	68.8%	3.5%
大谷地区	108	2.8%	21.3%	71.3%	4.6%
原市団地	10	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	0.0%	93.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	1.6%	8.2%	85.2%	4.9%
西上尾第二団地	50	6.0%	24.0%	68.0%	2.0%

地区別

地区別	n	できる	ときどきできる	できない	無回答
上尾地区	389	9.5%	29.3%	58.1%	3.1%
平方地区	55	10.9%	40.0%	47.3%	1.8%
原市地区	157	10.2%	31.2%	54.8%	3.8%
大石地区	150	11.3%	30.0%	56.0%	2.7%
上平地区	144	11.8%	34.7%	50.0%	3.5%
大谷地区	108	11.1%	36.1%	49.1%	3.7%
原市団地	10	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%
尾山台団地	15	13.3%	6.7%	80.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	4.9%	8.2%	82.0%	4.9%
西上尾第二団地	50	16.0%	22.0%	60.0%	2.0%

⑪高齢者などの  
介護や介助

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	4.4%	25.0%	70.6%	0.0%
	30～39歳	107	0.0%	23.4%	76.6%	0.0%
	40～49歳	159	3.8%	28.3%	67.9%	0.0%
	50～59歳	179	2.8%	21.8%	74.3%	1.1%
	60～69歳	215	2.8%	26.5%	68.8%	1.9%
	70～79歳	319	4.4%	22.6%	69.0%	4.1%
	80歳以上	165	2.4%	9.1%	75.2%	13.3%

⑫緊急時の手助け

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	32.4%	44.1%	23.5%	0.0%
	30～39歳	107	25.2%	54.2%	20.6%	0.0%
	40～49歳	159	31.4%	49.1%	19.5%	0.0%
	50～59歳	179	27.9%	47.5%	24.0%	0.6%
	60～69歳	215	23.7%	54.0%	20.9%	1.4%
	70～79歳	319	22.9%	35.1%	37.9%	4.1%
	80歳以上	165	16.4%	21.8%	48.5%	13.3%

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
地区別	上尾地区	389	3.1%	21.9%	71.7%	3.3%
	平方地区	55	1.8%	20.0%	76.4%	1.8%
	原市地区	157	5.1%	17.2%	73.9%	3.8%
	大石地区	150	2.0%	25.3%	70.0%	2.7%
	上平地区	144	4.9%	27.1%	63.9%	4.2%
	大谷地区	108	0.0%	27.8%	68.5%	3.7%
	原市団地	10	10.0%	20.0%	70.0%	0.0%
	尾山台団地	15	6.7%	20.0%	73.3%	0.0%
	西上尾第一団地	61	3.3%	9.8%	78.7%	8.2%
	西上尾第二団地	50	4.0%	22.0%	72.0%	2.0%

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
地区別	上尾地区	389	21.9%	48.3%	26.0%	3.9%
	平方地区	55	29.1%	36.4%	32.7%	1.8%
	原市地区	157	28.7%	38.2%	29.3%	3.8%
	大石地区	150	26.7%	43.3%	28.0%	2.0%
	上平地区	144	24.3%	45.8%	26.4%	3.5%
	大谷地区	108	24.1%	39.8%	32.4%	3.7%
	原市団地	10	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%
	尾山台団地	15	20.0%	33.3%	40.0%	6.7%
	西上尾第一団地	61	23.0%	26.2%	45.9%	4.9%
	西上尾第二団地	50	24.0%	40.0%	34.0%	2.0%

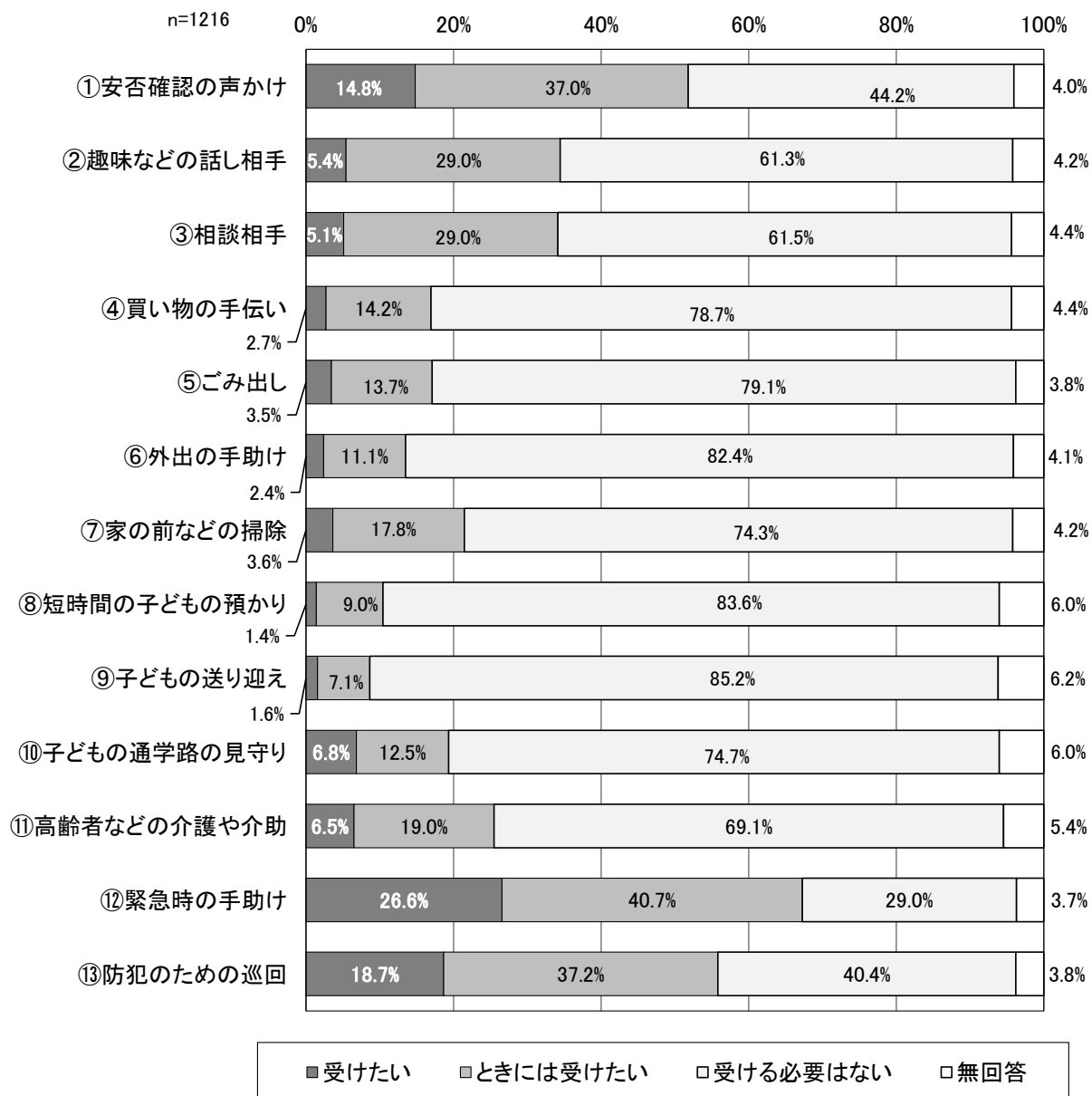
⑬防犯のための巡回

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
年代別	18～29歳	68	8.8%	35.3%	54.4%	1.5%
	30～39歳	107	5.6%	44.9%	48.6%	0.9%
	40～49歳	159	7.5%	49.1%	43.4%	0.0%
	50～59歳	179	8.9%	38.5%	51.4%	1.1%
	60～69歳	215	11.6%	41.4%	45.1%	1.9%
	70～79歳	319	10.3%	28.5%	57.1%	4.1%
	80歳以上	165	9.1%	14.5%	64.2%	12.1%

		n	できる	ときどき できる	できない	無回答
地区別	上尾地区	389	7.7%	35.7%	52.7%	3.9%
	平方地区	55	5.5%	36.4%	52.7%	5.5%
	原市地区	157	9.6%	37.6%	49.0%	3.8%
	大石地区	150	13.3%	27.3%	57.3%	2.0%
	上平地区	144	9.7%	42.4%	44.4%	3.5%
	大谷地区	108	8.3%	42.6%	45.4%	3.7%
	原市団地	10	30.0%	10.0%	60.0%	0.0%
	尾山台団地	15	13.3%	6.7%	80.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	3.3%	23.0%	68.9%	4.9%
	西上尾第二団地	50	16.0%	28.0%	54.0%	2.0%

**問 14 あなたは、どのような手助けや支援を受けたいですか。(各項目の番号にひとつだけ○)**

身近な地域の人から受けたい手助けや支援については、「受けたい」で最も高い項目は⑫緊急時の手助け、次いで⑬防犯のための巡回、①安否確認の声かけとなっています。一方で、「受ける必要はない」で最も高い項目は⑨子どもの送り迎え、⑧短時間の子どもの預かり、⑥外出時の手助けの項目で8割を超えています。



問 14×年代別、地区別

各項目を年代別、地区別にみると以下のとおりです。

①安否確認の声かけ

年代別	n	安否確認の声かけ			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	23.5%	35.3%	41.2%	0.0%
30～39歳	107	14.0%	32.7%	53.3%	0.0%
40～49歳	159	14.5%	36.5%	47.8%	1.3%
50～59歳	179	15.1%	33.0%	49.2%	2.8%
60～69歳	215	14.0%	38.6%	45.1%	2.3%
70～79歳	319	11.9%	40.4%	42.9%	4.7%
80歳以上	165	18.8%	35.2%	32.7%	13.3%

②趣味などの話し相手

年代別	n	趣味などの話し相手			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	5.9%	22.1%	72.1%	0.0%
30～39歳	107	2.8%	11.2%	86.0%	0.0%
40～49歳	159	3.1%	28.9%	67.3%	0.6%
50～59歳	179	1.7%	20.7%	76.0%	1.7%
60～69歳	215	4.2%	30.2%	63.3%	2.3%
70～79歳	319	6.3%	35.7%	52.0%	6.0%
80歳以上	165	13.3%	37.6%	35.2%	13.9%

地区別	n	安否確認の声かけ			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	15.2%	40.1%	40.1%	4.6%
平方地区	55	16.4%	41.8%	36.4%	5.5%
原市地区	157	15.9%	36.9%	42.0%	5.1%
大石地区	150	14.7%	34.7%	45.3%	5.3%
上平地区	144	16.7%	36.1%	44.4%	2.8%
大谷地区	108	11.1%	37.0%	48.1%	3.7%
原市団地	10	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%
尾山台団地	15	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	11.5%	39.3%	45.9%	3.3%
西上尾第二団地	50	14.0%	38.0%	44.0%	4.0%

地区別	n	趣味などの話し相手			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	5.1%	28.0%	61.7%	5.1%
平方地区	55	10.9%	29.1%	56.4%	3.6%
原市地区	157	3.2%	29.9%	61.8%	5.1%
大石地区	150	9.3%	32.0%	54.7%	4.0%
上平地区	144	6.3%	35.4%	55.6%	2.8%
大谷地区	108	1.9%	25.9%	68.5%	3.7%
原市団地	10	10.0%	30.0%	60.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	60.0%	33.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	8.2%	14.8%	67.2%	9.8%
西上尾第二団地	50	2.0%	38.0%	58.0%	2.0%

③相談相手

年代別	n	相談相手			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	5.9%	19.1%	75.0%	0.0%
30～39歳	107	2.8%	24.3%	72.9%	0.0%
40～49歳	159	3.8%	30.2%	65.4%	0.6%
50～59歳	179	2.2%	25.1%	70.9%	1.7%
60～69歳	215	5.6%	29.3%	63.7%	1.4%
70～79歳	319	4.7%	32.3%	56.1%	6.9%
80歳以上	165	10.9%	32.1%	42.4%	14.5%

④買い物の手伝い

年代別	n	買い物の手伝い			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	0.0%	13.2%	86.8%	0.0%
30～39歳	107	1.9%	8.4%	89.7%	0.0%
40～49歳	159	2.5%	11.3%	84.9%	1.3%
50～59歳	179	2.2%	12.3%	83.8%	1.7%
60～69歳	215	1.4%	15.8%	80.0%	2.8%
70～79歳	319	3.4%	16.6%	74.3%	5.6%
80歳以上	165	5.5%	17.0%	63.0%	14.5%

地区別	n	相談相手			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	5.1%	26.7%	62.7%	5.4%
平方地区	55	7.3%	36.4%	52.7%	3.6%
原市地区	157	2.5%	28.0%	63.7%	5.7%
大石地区	150	5.3%	29.3%	60.7%	4.7%
上平地区	144	6.9%	38.9%	51.4%	2.8%
大谷地区	108	3.7%	31.5%	63.0%	1.9%
原市団地	10	20.0%	10.0%	70.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	40.0%	46.7%	6.7%
西上尾第一団地	61	3.3%	18.0%	68.9%	9.8%
西上尾第二団地	50	8.0%	36.0%	54.0%	2.0%

地区別	n	買い物の手伝い			
		受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	2.6%	10.3%	82.0%	5.1%
平方地区	55	3.6%	20.0%	72.7%	3.6%
原市地区	157	1.9%	12.1%	80.3%	5.7%
大石地区	150	3.3%	16.7%	75.3%	4.7%
上平地区	144	4.2%	17.4%	75.0%	3.5%
大谷地区	108	0.9%	16.7%	79.6%	2.8%
原市団地	10	10.0%	40.0%	50.0%	0.0%
尾山台団地	15	0.0%	33.3%	60.0%	6.7%
西上尾第一団地	61	1.6%	9.8%	80.3%	8.2%
西上尾第二団地	50	2.0%	26.0%	70.0%	2.0%

⑤ごみ出し

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	0.0%	16.2%	83.8%	0.0%
30～39歳	107	1.9%	10.3%	87.9%	0.0%
40～49歳	159	2.5%	13.8%	83.0%	0.6%
50～59歳	179	3.4%	8.9%	86.6%	1.1%
60～69歳	215	1.9%	14.9%	80.9%	2.3%
70～79歳	319	5.0%	15.7%	74.3%	5.0%
80歳以上	165	6.1%	14.5%	66.1%	13.3%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	3.3%	11.1%	81.0%	4.6%
平方地区	55	7.3%	16.4%	72.7%	3.6%
原市地区	157	2.5%	10.2%	82.8%	4.5%
大石地区	150	4.0%	15.3%	76.7%	4.0%
上平地区	144	4.9%	17.4%	74.3%	3.5%
大谷地区	108	0.9%	16.7%	79.6%	2.8%
原市団地	10	10.0%	10.0%	80.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	33.3%	60.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	1.6%	9.8%	80.3%	8.2%
西上尾第二団地	50	2.0%	28.0%	70.0%	0.0%

⑥外出時の手助け

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	1.5%	8.8%	89.7%	0.0%
30～39歳	107	0.9%	8.4%	90.7%	0.0%
40～49歳	159	2.5%	9.4%	87.4%	0.6%
50～59歳	179	1.7%	8.9%	87.7%	1.7%
60～69歳	215	1.4%	9.3%	87.0%	2.3%
70～79歳	319	2.5%	12.2%	79.6%	5.6%
80歳以上	165	5.5%	18.2%	62.4%	13.9%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	2.1%	9.3%	83.8%	4.9%
平方地区	55	7.3%	18.2%	72.7%	1.8%
原市地区	157	1.3%	9.6%	83.4%	5.7%
大石地区	150	2.7%	10.7%	82.7%	4.0%
上平地区	144	3.5%	12.5%	80.6%	3.5%
大谷地区	108	0.9%	13.9%	82.4%	2.8%
原市団地	10	10.0%	10.0%	80.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	13.3%	73.3%	6.7%
西上尾第一団地	61	0.0%	11.5%	80.3%	8.2%
西上尾第二団地	50	2.0%	18.0%	78.0%	2.0%

⑦家の前などの掃除

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	1.5%	30.9%	67.6%	0.0%
30～39歳	107	2.8%	16.8%	80.4%	0.0%
40～49歳	159	3.1%	22.6%	73.6%	0.6%
50～59歳	179	2.8%	12.8%	82.7%	1.7%
60～69歳	215	1.9%	19.5%	76.3%	2.3%
70～79歳	319	4.7%	15.4%	74.3%	5.6%
80歳以上	165	6.7%	15.8%	63.0%	14.5%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	3.9%	17.0%	74.0%	5.1%
平方地区	55	5.5%	20.0%	72.7%	1.8%
原市地区	157	1.9%	15.3%	77.7%	5.1%
大石地区	150	2.7%	20.0%	72.0%	5.3%
上平地区	144	6.9%	15.3%	74.3%	3.5%
大谷地区	108	0.0%	20.4%	76.9%	2.8%
原市団地	10	20.0%	10.0%	70.0%	0.0%
尾山台団地	15	6.7%	26.7%	66.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	3.3%	16.4%	72.1%	8.2%
西上尾第二団地	50	4.0%	28.0%	66.0%	2.0%

⑧短時間の子どもの預かり

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	2.9%	14.7%	82.4%	0.0%
30～39歳	107	3.7%	25.2%	71.0%	0.0%
40～49歳	159	2.5%	19.5%	77.4%	0.6%
50～59歳	179	1.7%	3.9%	92.7%	1.7%
60～69歳	215	0.9%	4.2%	91.2%	3.7%
70～79歳	319	0.6%	5.6%	84.0%	9.7%
80歳以上	165	0.0%	4.8%	77.0%	18.2%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	1.5%	7.7%	84.1%	6.7%
平方地区	55	1.8%	10.9%	74.5%	12.7%
原市地区	157	1.3%	8.3%	84.1%	6.4%
大石地区	150	0.7%	10.7%	82.0%	6.7%
上平地区	144	2.8%	10.4%	82.6%	4.2%
大谷地区	108	0.0%	12.0%	85.2%	2.8%
原市団地	10	10.0%	10.0%	70.0%	10.0%
尾山台団地	15	0.0%	26.7%	73.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	0.0%	1.6%	86.9%	11.5%
西上尾第二団地	50	2.0%	6.0%	88.0%	4.0%

⑨子どもの送り迎え

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	0.0%	11.8%	88.2%	0.0%
30～39歳	107	4.7%	17.8%	77.6%	0.0%
40～49歳	159	3.1%	12.6%	83.0%	1.3%
50～59歳	179	1.7%	3.4%	93.3%	1.7%
60～69歳	215	1.4%	3.7%	91.6%	3.3%
70～79歳	319	0.9%	6.0%	82.4%	10.7%
80歳以上	165	0.0%	3.6%	78.8%	17.6%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	1.5%	6.4%	85.1%	6.9%
平方地区	55	1.8%	10.9%	74.5%	12.7%
原市地区	157	1.9%	5.1%	87.3%	5.7%
大石地区	150	0.7%	8.7%	83.3%	7.3%
上平地区	144	2.1%	6.9%	86.1%	4.9%
大谷地区	108	0.0%	6.5%	89.8%	3.7%
原市団地	10	10.0%	10.0%	70.0%	10.0%
尾山台団地	15	0.0%	26.7%	73.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	0.0%	3.3%	85.2%	11.5%
西上尾第二団地	50	4.0%	6.0%	88.0%	2.0%

⑩子どもの通学路の見守り

年代別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
18～29歳	68	8.8%	17.6%	73.5%	0.0%
30～39歳	107	20.6%	29.9%	49.5%	0.0%
40～49歳	159	18.2%	25.2%	56.0%	0.6%
50～59歳	179	4.5%	6.7%	87.2%	1.7%
60～69歳	215	2.8%	7.0%	87.0%	3.3%
70～79歳	319	3.1%	10.0%	76.5%	10.3%
80歳以上	165	1.2%	5.5%	75.8%	17.6%

地区別	n	受けたい	ときには受けたい	受ける必要はない	無回答
上尾地区	389	5.1%	10.3%	77.6%	6.9%
平方地区	55	14.5%	12.7%	63.6%	9.1%
原市地区	157	3.8%	15.9%	74.5%	5.7%
大石地区	150	8.7%	16.0%	68.0%	7.3%
上平地区	144	9.0%	13.9%	72.9%	4.2%
大谷地区	108	6.5%	16.7%	72.2%	4.6%
原市団地	10	10.0%	10.0%	70.0%	10.0%
尾山台団地	15	6.7%	20.0%	73.3%	0.0%
西上尾第一団地	61	3.3%	0.0%	85.2%	11.5%
西上尾第二団地	50	10.0%	6.0%	82.0%	2.0%

⑪高齢者などの  
介護や介助

年代別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
18～29歳	68	7.4%	10.3%	82.4%	0.0%
30～39歳	107	4.7%	14.0%	81.3%	0.0%
40～49歳	159	4.4%	18.9%	75.5%	1.3%
50～59歳	179	6.1%	20.7%	69.8%	3.4%
60～69歳	215	5.6%	18.1%	72.6%	3.7%
70～79歳	319	5.3%	21.9%	65.8%	6.9%
80歳以上	165	13.3%	18.8%	50.9%	17.0%

地区別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
上尾地区	389	4.4%	17.5%	72.2%	5.9%
平方地区	55	7.3%	25.5%	60.0%	7.3%
原市地区	157	5.1%	14.6%	73.9%	6.4%
大石地区	150	8.7%	21.3%	64.7%	5.3%
上平地区	144	8.3%	23.6%	63.9%	4.2%
大谷地区	108	6.5%	20.4%	68.5%	4.6%
原市団地	10	20.0%	10.0%	70.0%	0.0%
尾山台団地	15	13.3%	33.3%	46.7%	6.7%
西上尾第一団地	61	6.6%	16.4%	68.9%	8.2%
西上尾第二団地	50	12.0%	28.0%	54.0%	6.0%

⑬防犯のための巡回

年代別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
18～29歳	68	19.1%	33.8%	47.1%	0.0%
30～39歳	107	24.3%	42.1%	33.6%	0.0%
40～49歳	159	20.8%	45.3%	34.0%	0.0%
50～59歳	179	13.4%	37.4%	48.0%	1.1%
60～69歳	215	16.3%	41.4%	40.0%	2.3%
70～79歳	319	19.4%	31.0%	43.9%	5.6%
80歳以上	165	20.6%	32.7%	33.9%	12.7%

地区別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
上尾地区	389	18.3%	34.7%	42.7%	4.4%
平方地区	55	27.3%	43.6%	27.3%	1.8%
原市地区	157	15.3%	43.3%	37.6%	3.8%
大石地区	150	24.7%	32.7%	38.7%	4.0%
上平地区	144	18.1%	44.4%	34.0%	3.5%
大谷地区	108	16.7%	38.0%	41.7%	3.7%
原市団地	10	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%
尾山台団地	15	26.7%	46.7%	26.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	8.2%	21.3%	60.7%	9.8%
西上尾第二団地	50	18.0%	42.0%	38.0%	2.0%

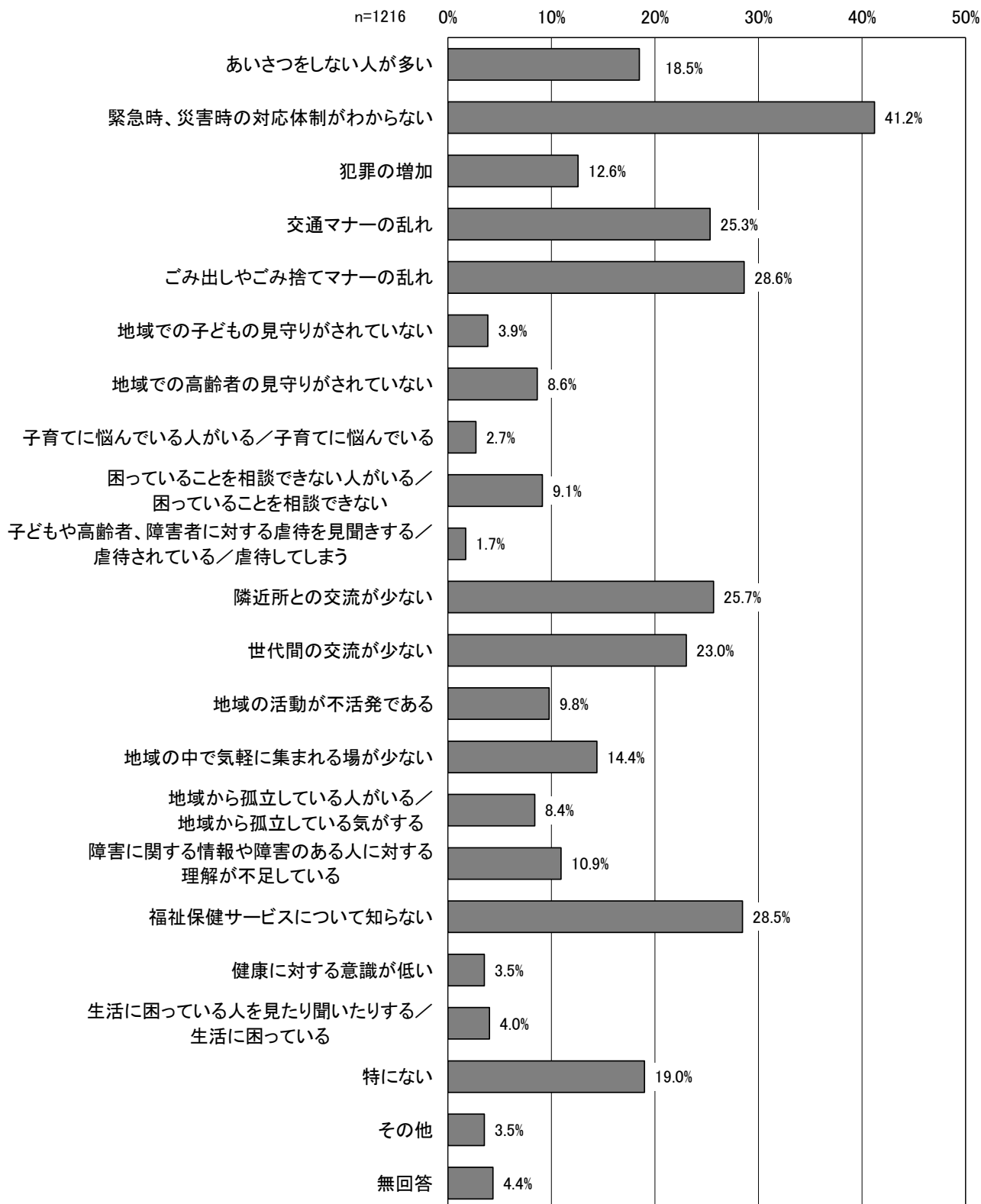
⑫緊急時の手助け

年代別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
18～29歳	68	38.2%	30.9%	30.9%	0.0%
30～39歳	107	35.5%	43.0%	21.5%	0.0%
40～49歳	159	30.8%	43.4%	25.8%	0.0%
50～59歳	179	23.5%	38.0%	37.4%	1.1%
60～69歳	215	21.9%	47.4%	28.8%	1.9%
70～79歳	319	22.9%	42.0%	29.5%	5.6%
80歳以上	165	28.5%	31.5%	27.3%	12.7%

地区別	n	受けたい	ときには 受けたい	受ける必 要はない	無回答
上尾地区	389	27.2%	40.4%	28.3%	4.1%
平方地区	55	36.4%	40.0%	20.0%	3.6%
原市地区	157	24.2%	38.9%	33.1%	3.8%
大石地区	150	30.7%	40.0%	25.3%	4.0%
上平地区	144	27.1%	43.8%	25.7%	3.5%
大谷地区	108	25.9%	43.5%	26.9%	3.7%
原市団地	10	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
尾山台団地	15	26.7%	53.3%	20.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	14.8%	36.1%	41.0%	8.2%
西上尾第二団地	50	28.0%	36.0%	34.0%	2.0%

問 15 あなたや、あなたの住んでいる身近な地域の中で課題や問題と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

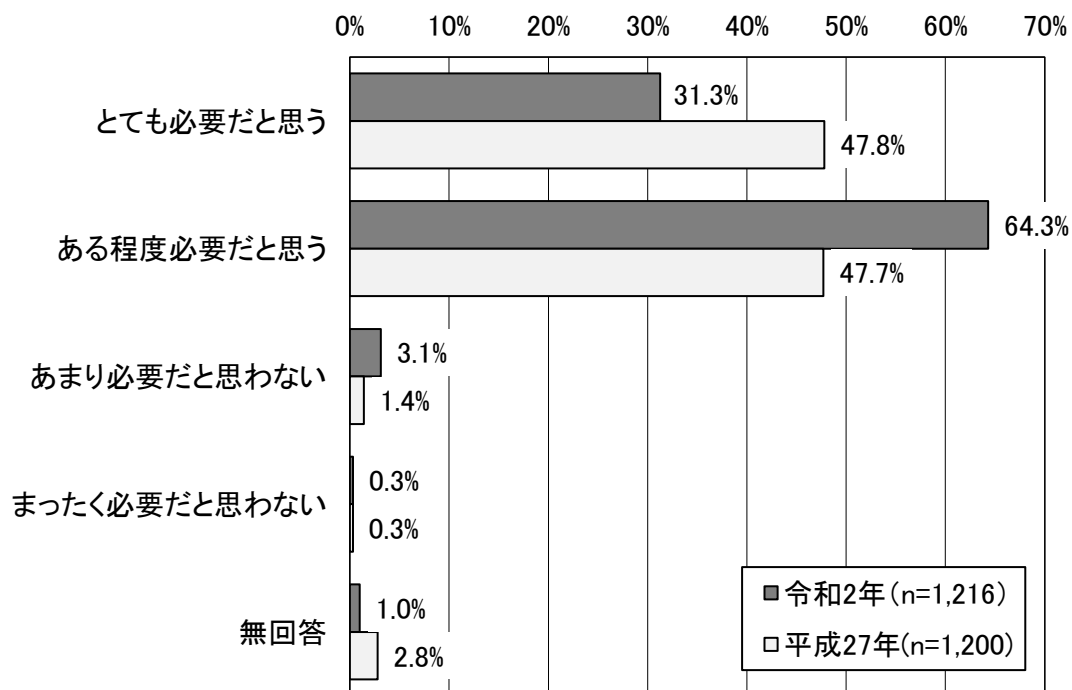
地域の課題や問題点については、「緊急時、災害時の対応体制がわからない」が41.2%と最も高く、次いで「ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ」が28.6%、「福祉保健サービスについて知らない」が28.5%となっています。





**問 16 あなたは、地域の課題（ひとり暮らし高齢者の見守り、子どもへの虐待、孤立死など）を解決するにあたって、支え合い、助け合いが必要だと思いますか。（ひとつだけ〇）**

地域の課題を解決するにあたって、支え合い、助け合いが必要だと思うかについては、「とても必要だと思う（31.3%）」と「ある程度必要だと思う（64.3%）」を合わせた『必要だと思う（計）』が9割を超えています。



問 16×年代別、地区別

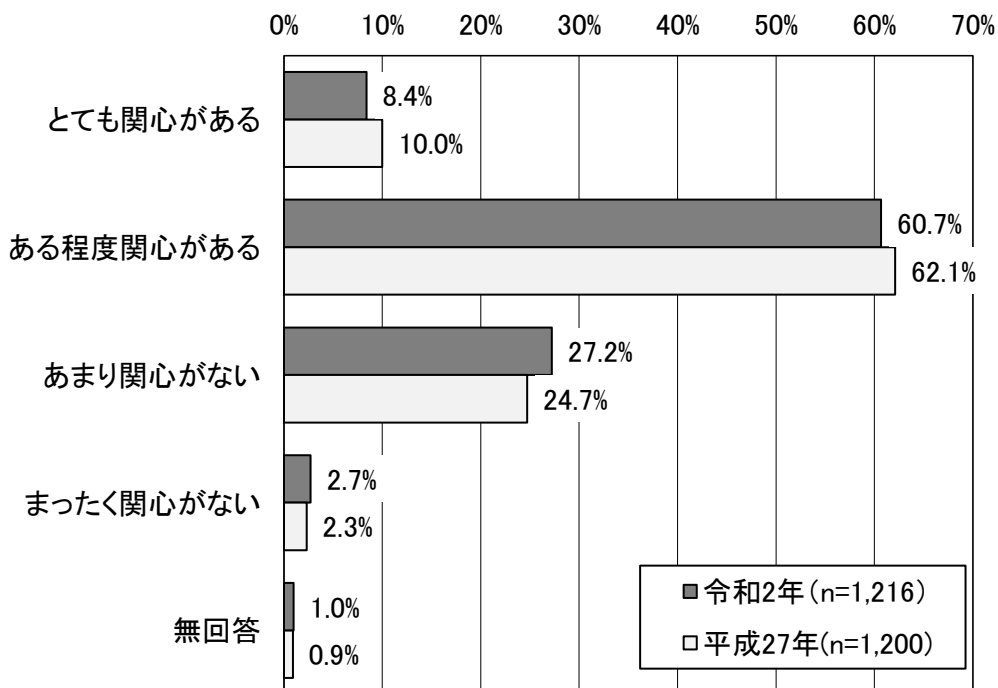
年代別、地区別にみると、「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせた『必要だと思う（計）』が、すべての年代、すべての地区で9割を超えて高くなっています。

		n	とても必要 だと思う	ある程度 必要だ と思う	あまり必 要だと思 わない	まったく必 要だと思 わない	無回答
年代別	18～29歳	68	19.1%	77.9%	0.0%	2.9%	0.0%
	30～39歳	107	28.0%	66.4%	4.7%	0.9%	0.0%
	40～49歳	159	28.9%	66.7%	4.4%	0.0%	0.0%
	50～59歳	179	27.9%	69.8%	1.7%	0.6%	0.0%
	60～69歳	215	31.2%	64.7%	4.2%	0.0%	0.0%
	70～79歳	319	33.5%	63.6%	0.9%	0.0%	1.9%
	80歳以上	165	40.0%	49.7%	6.7%	0.0%	3.6%

地区別	上尾地区	389	30.1%	65.6%	2.6%	1.0%	0.8%
	平方地区	55	38.2%	54.5%	1.8%	0.0%	5.5%
	原市地区	157	28.7%	65.6%	4.5%	0.0%	1.3%
	大石地区	150	28.0%	66.7%	4.0%	0.0%	1.3%
	上平地区	144	38.9%	56.9%	4.2%	0.0%	0.0%
	大谷地区	108	31.5%	67.6%	0.9%	0.0%	0.0%
	原市団地	10	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	26.2%	65.6%	4.9%	0.0%	3.3%
	西上尾第二団地	50	36.0%	62.0%	2.0%	0.0%	0.0%

**問17 あなたは、地域の課題に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)**

地域の課題への関心度については、「とても関心がある(8.4%)」と「ある程度関心がある(60.7%)」を合わせた『関心がある(計)』が約7割となっています。一方、「あまり関心がない(27.2%)」と「まったく関心がない(2.7%)」を合わせた『関心がない(計)』は29.9%となっています。



問 17×性別、年代別、地区別

性別にみると、男女ともに「ある程度関心がある」が最も高くなっています。

年代別にみると、18～29歳を除くすべての年代で「ある程度関心がある」、18～29歳では「あまり関心がない」が最も高くなっています。また、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が30～69歳では6割以上、70歳以上では7割を超えています。一方で、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が18～29歳で5割を超えています。

地区別にみると、すべての地区で「ある程度関心がある」が最も高くなっています。また、『関心がある(計)』が大谷地区で約8割と、他の地区よりも高くなっています。

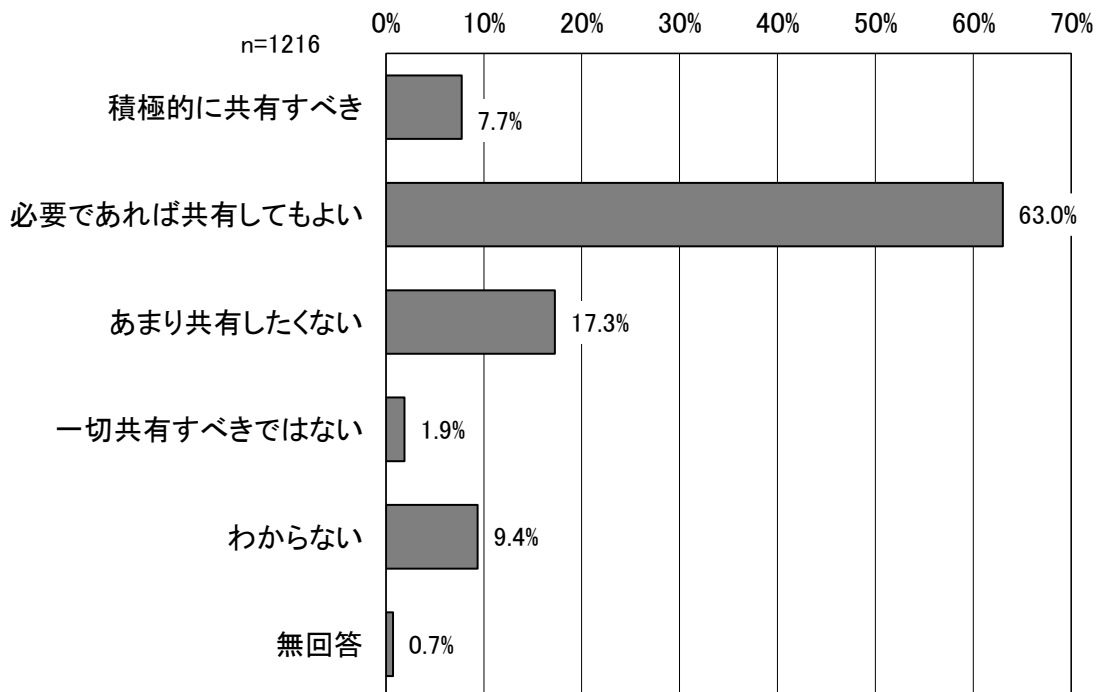
		n	とても関心 がある	ある程度関 心がある	あまり関心 がない	まったく関心 がない	無回答
性別	男性	614	9.1%	59.3%	27.4%	3.9%	0.3%
	女性	591	7.3%	62.1%	27.6%	1.4%	1.7%

年代別	18～29歳	68	2.9%	42.6%	44.1%	10.3%	0.0%
	30～39歳	107	4.7%	56.1%	32.7%	6.5%	0.0%
	40～49歳	159	4.4%	56.6%	37.1%	1.9%	0.0%
	50～59歳	179	5.0%	63.7%	29.1%	2.2%	0.0%
	60～69歳	215	4.7%	64.2%	29.3%	1.9%	0.0%
	70～79歳	319	12.5%	65.2%	20.1%	0.6%	1.6%
	80歳以上	165	17.0%	58.8%	16.4%	3.6%	4.2%

地区別	上尾地区	389	6.4%	60.4%	27.8%	4.1%	1.3%
	平方地区	55	12.7%	63.6%	18.2%	1.8%	3.6%
	原市地区	157	8.9%	54.8%	33.8%	1.3%	1.3%
	大石地区	150	11.3%	60.7%	26.0%	1.3%	0.7%
	上平地区	144	8.3%	65.3%	24.3%	2.1%	0.0%
	大谷地区	108	7.4%	71.3%	17.6%	2.8%	0.9%
	原市団地	10	0.0%	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	尾山台団地	15	13.3%	53.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	9.8%	57.4%	31.1%	0.0%	1.6%
	西上尾第二団地	50	6.0%	68.0%	24.0%	2.0%	0.0%

**問18 あなたは、地域での支え合いや孤立死の防止などのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(ひとつだけ○)**

地域の支え合いや孤独死の防止などのために、支援者が必要な個人情報を共有することについては、「必要であれば共有してもよい」が63.0%と最も高く、次いで「あまり共有したくない」が17.3%、「わからない」が9.4%となっています。



問 18×年代別、地区別

年代別にみると、すべての年代で「必要であれば共有してもよい」が最も高くなっています。また、18～39歳では「あまり共有したくない」が他の年代より高くなっています。

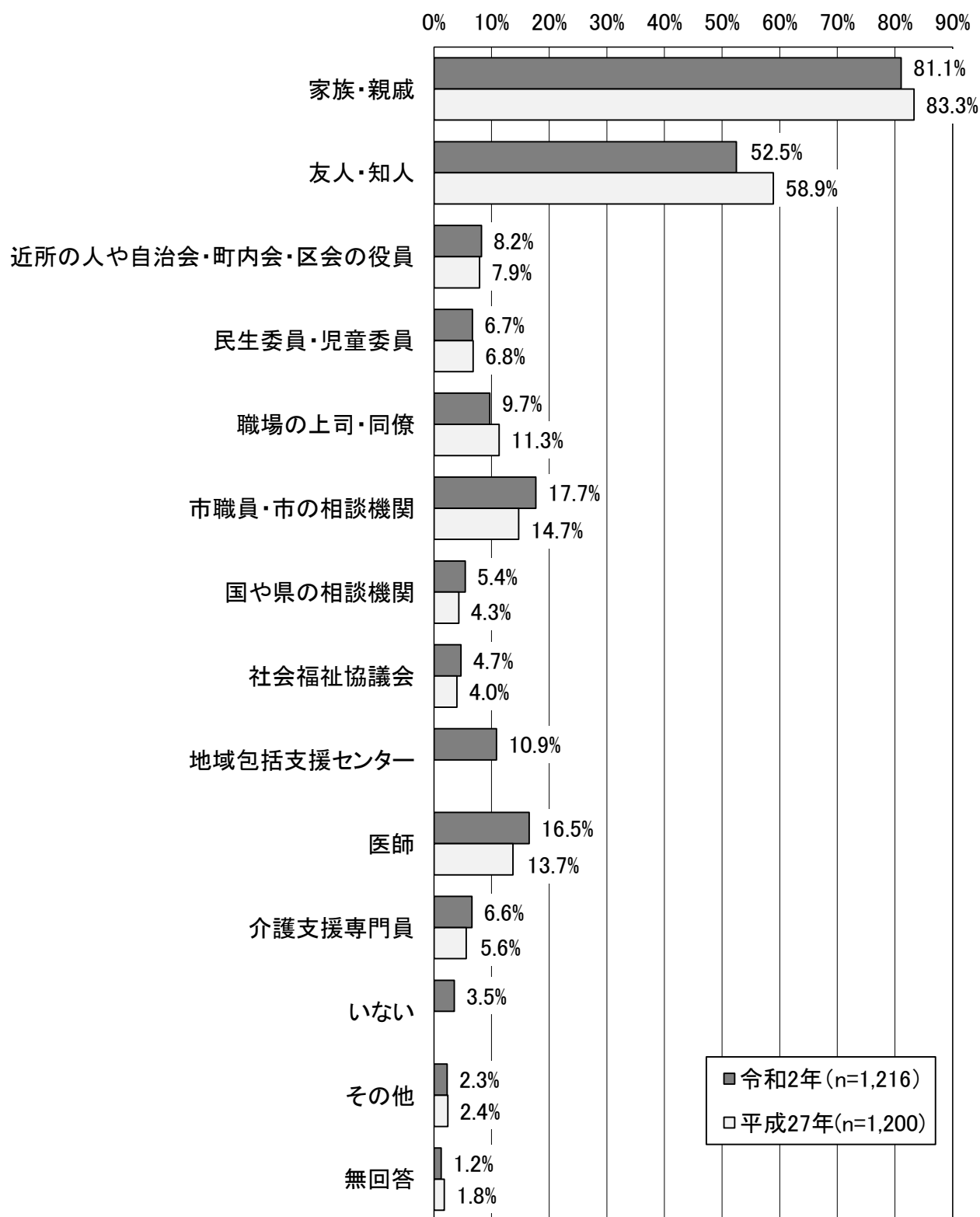
地区別にみると、すべての地区で「必要であれば共有してもよい」が最も高くなっています。また、「積極的に共有すべき」と「必要であれば共有してもよい」を合わせた共有に肯定的な人は、大石地区で約8割になっています。

		n	積極的に共有すべき	必要であれば共有してもよい	あまり共有したくない	一切共有すべきではない	わからない	無回答
年代別	18～29歳	68	2.9%	50.0%	30.9%	2.9%	13.2%	0.0%
	30～39歳	107	4.7%	57.9%	31.8%	1.9%	3.7%	0.0%
	40～49歳	159	3.8%	67.3%	22.0%	1.3%	5.7%	0.0%
	50～59歳	179	7.3%	67.0%	14.0%	3.9%	7.8%	0.0%
	60～69歳	215	5.1%	65.6%	18.6%	2.8%	7.9%	0.0%
	70～79歳	319	10.0%	63.3%	12.9%	0.9%	12.2%	0.6%
	80歳以上	165	14.5%	59.4%	7.9%	0.6%	13.3%	4.2%

地区別	上尾地区	389	7.5%	62.0%	20.3%	2.6%	7.2%	0.5%
	平方地区	55	12.7%	61.8%	10.9%	0.0%	9.1%	5.5%
	原市地区	157	6.4%	64.3%	19.1%	1.9%	7.6%	0.6%
	大石地区	150	9.3%	70.0%	9.3%	0.0%	10.7%	0.7%
	上平地区	144	6.3%	66.0%	17.4%	2.8%	6.9%	0.7%
	大谷地区	108	6.5%	67.6%	13.9%	0.9%	11.1%	0.0%
	原市団地	10	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	尾山台団地	15	0.0%	53.3%	20.0%	0.0%	26.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	8.2%	52.5%	14.8%	1.6%	21.3%	1.6%
	西上尾第二団地	50	16.0%	48.0%	18.0%	4.0%	14.0%	0.0%

問 19 あなたが不安に感じていることや、悩み事を相談する場合、誰に相談しますか。もしくは、相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

不安や悩み事の相談先については、「家族・親戚」が81.1%と最も高く、次いで「友人・知人」が52.5%、「市職員・市の相談機関」が17.7%となっています。



※平成 27 年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。

問 19×年代別、地区別

年代別にみると、すべての年代で「家族・親戚」（18～29歳は「友人・知人」も同率）が最も高くなっています。また、70歳以上では「近所の人や自治会・町内会・区会の役員」「民生委員・児童委員」「地域包括支援センター」が1割を超え、他の年代よりも高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で「家族・親戚」が最も高くなっています。

		n	家族・親戚	友人・知人	近所の人 や自治会・ 町内会・区 会の役員	民生委員・ 児童委員	職場の上 司・同僚	市職員・市 の相談機 関	国や県の 相談機関
年代別	18～29歳	68	80.9%	80.9%	2.9%	2.9%	19.1%	1.5%	2.9%
	30～39歳	107	88.8%	75.7%	3.7%	0.9%	28.0%	15.9%	6.5%
	40～49歳	159	84.3%	73.6%	1.9%	2.5%	25.2%	18.9%	5.7%
	50～59歳	179	79.9%	57.5%	3.9%	1.7%	11.7%	20.1%	10.1%
	60～69歳	215	83.3%	54.4%	7.4%	2.8%	4.7%	20.9%	4.7%
	70～79歳	319	78.7%	40.1%	13.8%	10.3%	1.3%	16.9%	4.1%
	80歳以上	165	77.0%	21.2%	14.5%	19.4%	0.0%	18.8%	4.2%

地区別	上尾地区	389	82.8%	56.6%	6.4%	7.2%	10.0%	19.5%	5.9%
	平方地区	55	85.5%	41.8%	10.9%	12.7%	9.1%	14.5%	1.8%
	原市地区	157	79.6%	45.2%	4.5%	5.7%	8.3%	14.6%	3.8%
	大石地区	150	82.7%	57.3%	12.0%	4.7%	8.7%	11.3%	6.7%
	上平地区	144	76.4%	48.6%	11.8%	5.6%	11.8%	22.2%	6.3%
	大谷地区	108	87.0%	53.7%	8.3%	3.7%	9.3%	12.0%	1.9%
	原市団地	10	100.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	尾山台団地	15	66.7%	46.7%	13.3%	20.0%	13.3%	33.3%	13.3%
	西上尾第一団地	61	75.4%	36.1%	11.5%	9.8%	1.6%	14.8%	4.9%
	西上尾第二団地	50	76.0%	56.0%	14.0%	10.0%	8.0%	32.0%	6.0%

		n	社会福祉 協議会	地域包括 支援セン ター	医師	介護支援 専門員	いない	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	0.0%	1.5%	8.8%	0.0%	4.4%	1.5%	0.0%
	30～39歳	107	0.9%	3.7%	13.1%	0.9%	2.8%	0.9%	0.0%
	40～49歳	159	3.1%	5.7%	9.4%	1.9%	5.7%	3.1%	0.6%
	50～59歳	179	2.2%	7.8%	16.2%	5.6%	3.4%	2.8%	0.0%
	60～69歳	215	3.3%	9.3%	19.1%	5.1%	3.7%	2.3%	0.9%
	70～79歳	319	5.6%	13.8%	18.2%	8.5%	2.5%	1.9%	2.5%
	80歳以上	165	12.7%	24.2%	23.0%	17.0%	3.6%	2.4%	2.4%

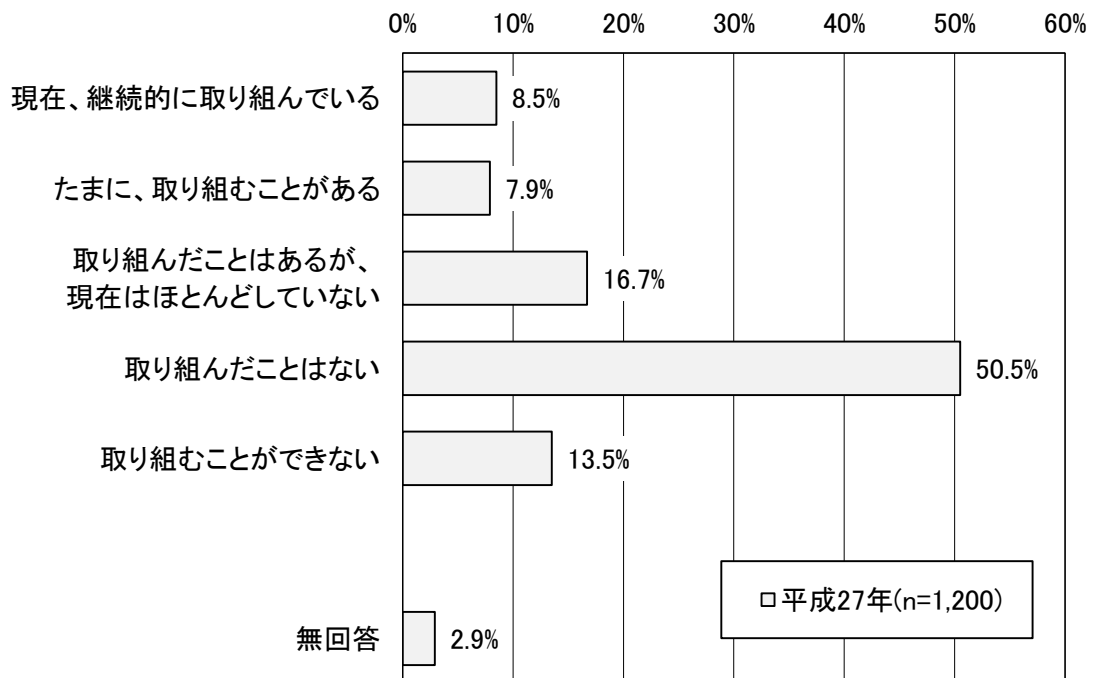
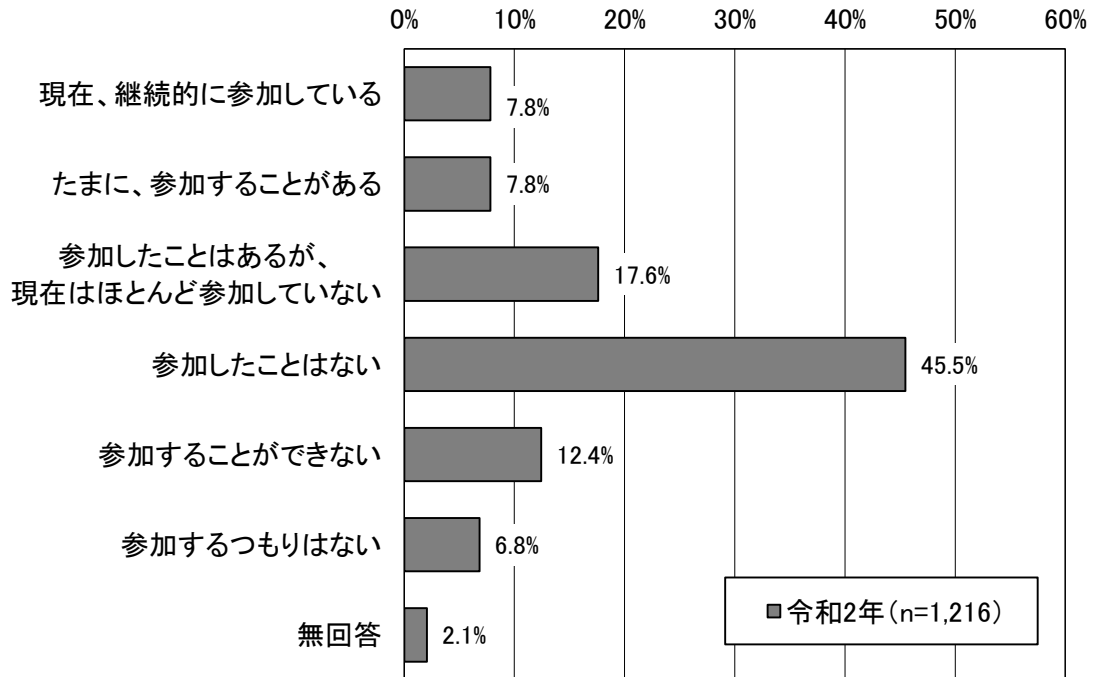
地区別	上尾地区	389	3.6%	10.3%	17.0%	5.7%	3.1%	2.1%	1.3%
	平方地区	55	5.5%	12.7%	20.0%	10.9%	0.0%	1.8%	3.6%
	原市地区	157	5.7%	12.1%	14.6%	5.1%	3.8%	2.5%	2.5%
	大石地区	150	4.0%	4.0%	11.3%	4.0%	3.3%	0.7%	0.7%
	上平地区	144	5.6%	12.5%	14.6%	10.4%	3.5%	4.2%	0.0%
	大谷地区	108	1.9%	9.3%	17.6%	7.4%	2.8%	1.9%	0.9%
	原市団地	10	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	6.7%	6.7%	13.3%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	6.6%	23.0%	27.9%	11.5%	4.9%	3.3%	1.6%
	西上尾第二団地	50	8.0%	20.0%	22.0%	12.0%	4.0%	4.0%	0.0%



### 3. 地域活動・ボランティア活動（無償・有償）について

問 20 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動などに参加していますか。（ひとつだけ○）

地域活動等への参加状況については、「参加したことはない」が45.5%と最も高く、次いで「参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない」が17.6%、「参加することができない」が12.4%となっています。「現在、継続的に参加している」「たまに、参加することがある」「参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない」を合わせた『参加したことがある（計）』は3割を超えています。



※平成27年の調査時に対し、選択項目の語句と項目数が変わっています。

問 20×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「参加したことはない」が最も高くなっています。

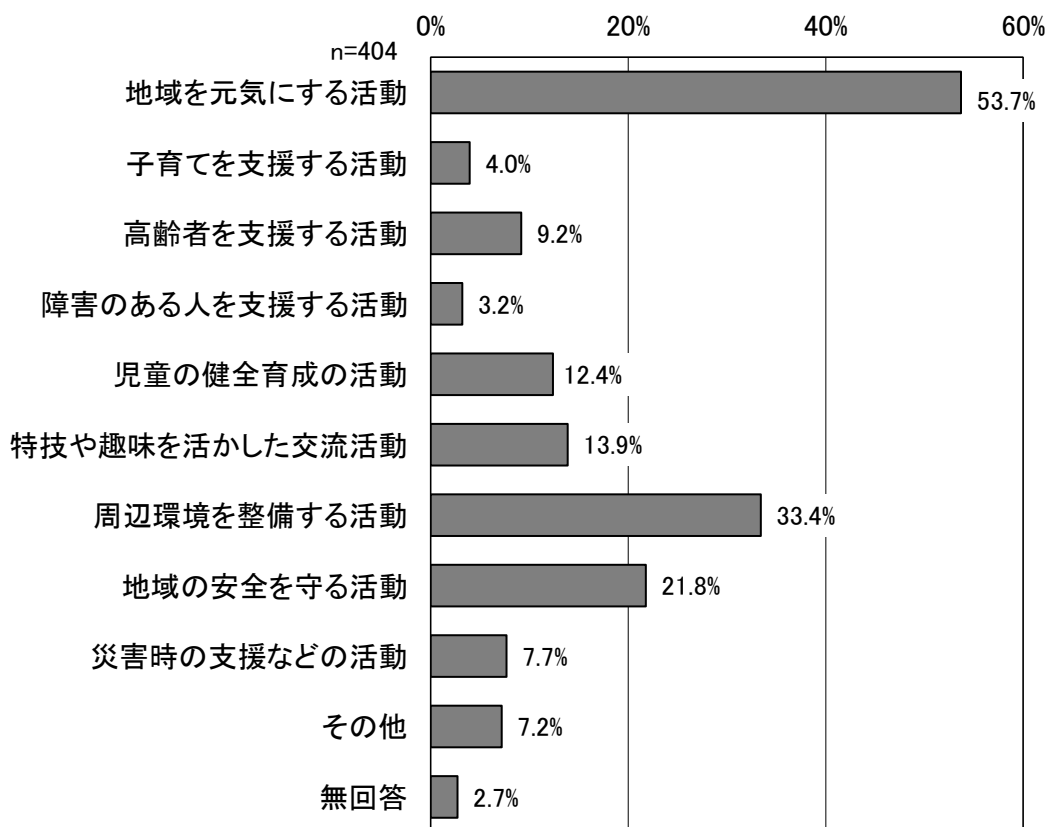
年代別にみると、すべての年代で「参加したことはない」が最も高くなっています。また、「現在、継続的に参加している」「たまに、参加することがある」「参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない」を合わせた『参加したことがある（計）』は 50 歳以上で3割を超え、他の年代よりも高くなっています。

		n	現在、継続的に参加している	たまに、参加することがある	参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない	参加したことはない	参加することができない	参加するつもりはない	無回答
全体		1,216	7.8%	7.8%	17.6%	45.5%	12.4%	6.8%	2.1%
性別	男性	614	9.1%	8.3%	16.9%	45.3%	11.7%	7.3%	1.3%
	女性	591	5.9%	7.3%	18.6%	45.5%	13.4%	6.4%	2.9%
年代別	18～29歳	68	2.9%	0.0%	19.1%	52.9%	11.8%	11.8%	1.5%
	30～39歳	107	2.8%	5.6%	15.9%	55.1%	8.4%	11.2%	0.9%
	40～49歳	159	3.1%	9.4%	17.0%	47.2%	10.1%	12.6%	0.6%
	50～59歳	179	3.4%	9.5%	17.9%	49.2%	14.5%	5.0%	0.6%
	60～69歳	215	9.3%	8.4%	16.7%	51.6%	6.5%	6.5%	0.9%
	70～79歳	319	13.5%	8.2%	17.9%	41.7%	10.3%	5.0%	3.4%
	80歳以上	165	9.7%	7.3%	19.4%	29.7%	27.3%	1.8%	4.8%

※問 20 で「1 現在継続的に参加している」「2 たまに、参加することがある」「3 参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない」を選んだ方にうかがいます

問 20-1 どんな地域活動やボランティア活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

参加している地域活動等については、「地域を元気にする活動」が 53.7%と最も高く、次いで「周辺環境を整備する活動」が 33.4%、「地域の安全を守る活動」が 21.8%となっています。



問 20-1×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「地域を元気にする活動」が最も高くなっています。また、男性では「周辺環境を整備する活動」「災害時の支援などの活動」が女性よりも約5ポイント以上、女性では「子育てを支援する活動」「高齢者を支援する活動」「児童の健全育成の活動」が男性より4ポイント以上高くなっています。

年代別にみると、18～39歳では「周辺環境を整備する活動」、40歳以上では「地域を元気にする活動」が最も高くなっています。

		n	地域を元気にする活動	子育てを支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	児童の健全育成の活動	特技や趣味を活かした交流活動
性別	男性	211	54.0%	1.4%	7.1%	2.8%	10.4%	12.3%
	女性	188	53.2%	6.9%	11.2%	3.7%	14.9%	15.4%

年代別	18～29歳	15	40.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	30～39歳	26	30.8%	3.8%	3.8%	11.5%	15.4%	7.7%
	40～49歳	47	53.2%	6.4%	4.3%	2.1%	27.7%	6.4%
	50～59歳	55	50.9%	5.5%	7.3%	3.6%	20.0%	9.1%
	60～69歳	74	58.1%	5.4%	10.8%	4.1%	12.2%	12.2%
	70～79歳	126	61.9%	3.2%	9.5%	1.6%	7.9%	19.8%
	80歳以上	60	46.7%	1.7%	13.3%	3.3%	5.0%	20.0%

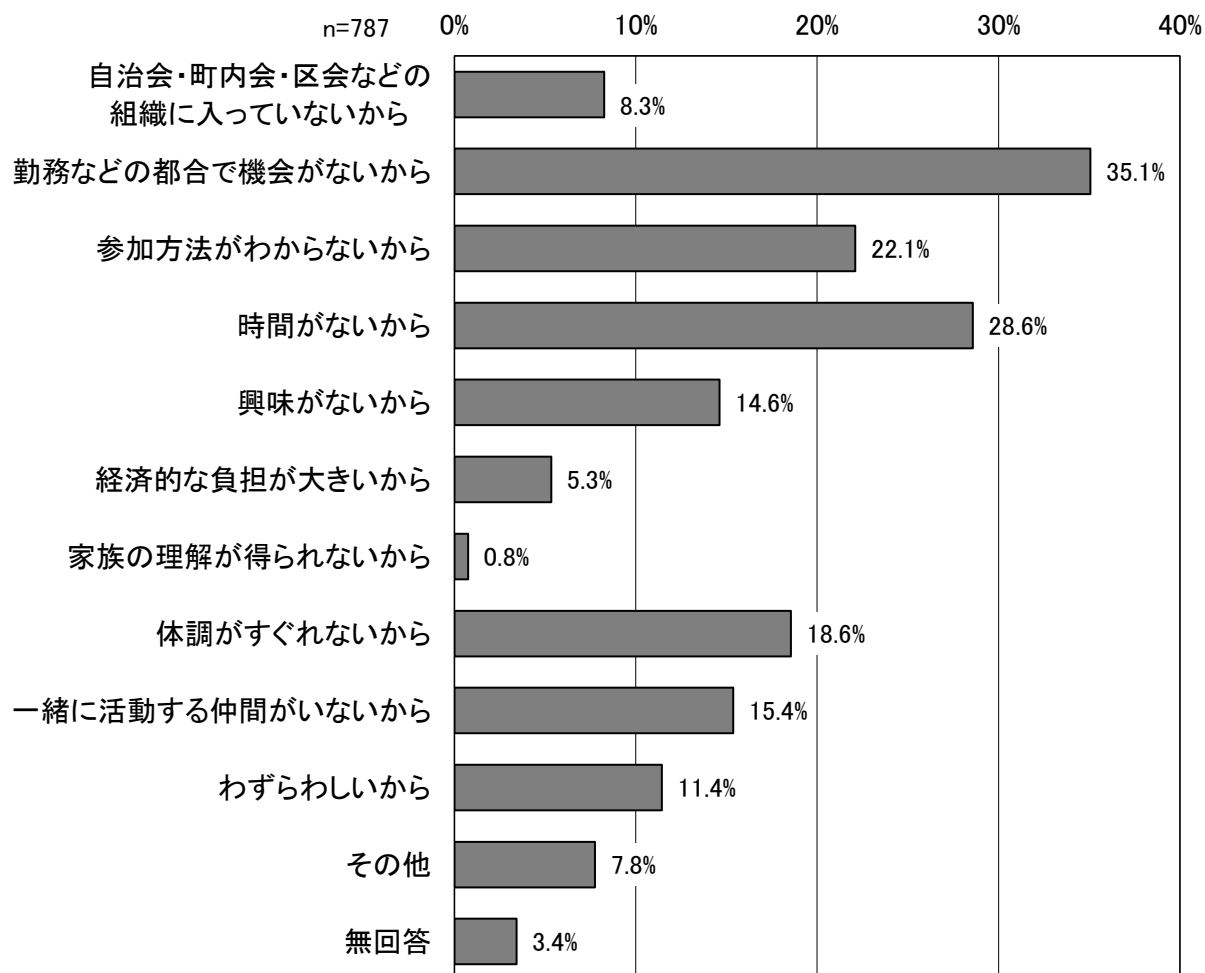
		n	周辺環境を整備する活動	地域の安全を守る活動	災害時の支援などの活動	その他	無回答
性別	男性	211	39.3%	22.7%	10.0%	5.2%	3.3%
	女性	188	27.1%	19.7%	5.3%	9.0%	2.1%

年代別	18～29歳	15	80.0%	13.3%	6.7%	13.3%	0.0%
	30～39歳	26	53.8%	23.1%	0.0%	3.8%	0.0%
	40～49歳	47	34.0%	36.2%	6.4%	6.4%	0.0%
	50～59歳	55	23.6%	10.9%	7.3%	10.9%	3.6%
	60～69歳	74	32.4%	17.6%	10.8%	2.7%	2.7%
	70～79歳	126	30.2%	23.0%	7.1%	7.1%	2.4%
	80歳以上	60	28.3%	25.0%	10.0%	10.0%	6.7%

※問 20 で「4 参加したことはない」「5 参加することができない」「6 参加するつもりはない」を選んだ方にうかがいます

問 20-2 活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動等に参加していない理由については、「勤務などの都合で機会がないから」が 35.1%と最も高く、次いで「時間がないから」が 28.6%、「参加方法がわからないから」が 22.1%となっています。



問 20-2×性別、年代別

性別にみると、男性は「勤務などの都合で機会がないから」、女性は「時間がないから」が最も高くなっています。また、「参加方法がわからないから」が女性よりも男性で約5ポイント高くなっています。

年代別にみると、18～39歳では「時間がないから」、40～69歳では「勤務などの都合で機会がないから」、70歳以上では「体調がすぐれないから」が最も高くなっています。また、「興味がないから」が18～29歳で約3割と、他の年代より高くなっています。

		n	自治会・町内会・区会などの組織に入っていないから	勤務などの都合で機会がないから	参加方法がわからないから	時間がないから	興味がないから	経済的な負担が大きいから
性別	男性	395	9.4%	38.0%	24.6%	24.8%	15.9%	6.1%
	女性	386	7.0%	32.4%	19.9%	32.9%	13.0%	4.7%

年代別	18～29歳	52	13.5%	40.4%	30.8%	51.9%	32.7%	7.7%
	30～39歳	80	18.8%	55.0%	37.5%	56.3%	13.8%	3.8%
	40～49歳	111	9.9%	58.6%	18.9%	47.7%	14.4%	11.7%
	50～59歳	123	10.6%	54.5%	23.6%	39.8%	13.8%	7.3%
	60～69歳	139	6.5%	38.8%	22.3%	22.3%	15.1%	4.3%
	70～79歳	182	3.8%	12.6%	20.3%	8.2%	12.1%	2.2%
	80歳以上	97	3.1%	2.1%	10.3%	5.2%	10.3%	3.1%

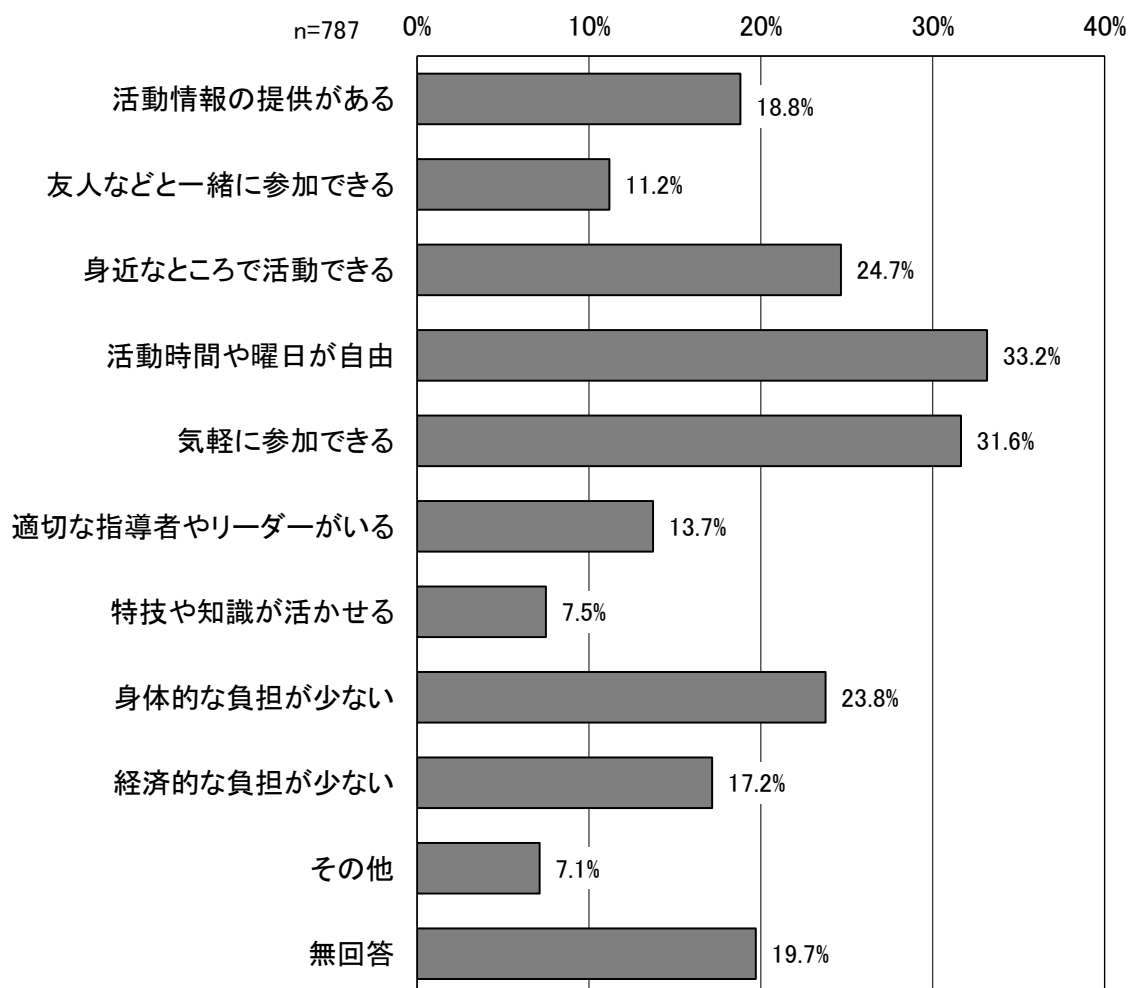
		n	家族の理解が得られないから	体調がすぐれないから	一緒に活動する仲間がいないから	わずらわしいから	その他	無回答
性別	男性	395	0.5%	15.2%	15.4%	13.9%	7.1%	4.3%
	女性	386	1.0%	22.0%	15.5%	8.8%	8.3%	2.3%

年代別	18～29歳	52	0.0%	3.8%	21.2%	5.8%	5.8%	0.0%
	30～39歳	80	0.0%	3.8%	21.3%	12.5%	7.5%	1.3%
	40～49歳	111	0.0%	9.9%	9.9%	9.9%	1.8%	1.8%
	50～59歳	123	0.8%	8.1%	14.6%	12.2%	6.5%	0.0%
	60～69歳	139	1.4%	14.4%	18.0%	13.7%	5.0%	1.4%
	70～79歳	182	1.1%	36.3%	17.6%	12.1%	7.7%	4.4%
	80歳以上	97	1.0%	35.1%	7.2%	8.2%	20.6%	13.4%

※問 20 で「4 参加したことはない」「5 参加することができない」「6 参加するつもりはない」を選んだ方にうかがいます

問 20-3 どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

活動・参加の条件については、「活動時間や曜日が自由」が 33.2%と最も高く、次いで「気軽に参加できる」が 31.6%、「身近なところで活動できる」が 24.7%となっています。



問 20-3×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「活動時間や曜日が自由」が最も高くなっています。また、「友人などと一緒に参加できる」「身体的な負担が少ない」が男性よりも女性で5ポイント以上高くなっています。

年代別にみると、18～39歳と70～79歳では「気軽に参加できる」、40～69歳では「活動時間や曜日が自由」、80歳以上では「身体的負担が少ない」が最も高くなっています。さらに、30～39歳で「活動情報の提供がある」が3割以上、18～29歳で「友人などと一緒に参加できる」が3割以上と、他の年代より高くなっています。

		n	活動情報の提供がある	友人などと一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日が自由	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる
性別	男性	395	22.5%	8.4%	24.6%	33.9%	32.2%	12.4%
	女性	386	15.3%	14.2%	24.6%	32.4%	31.6%	15.0%

年代別	18～29歳	52	19.2%	32.7%	26.9%	32.7%	46.2%	21.2%
	30～39歳	80	31.3%	12.5%	37.5%	47.5%	51.3%	23.8%
	40～49歳	111	21.6%	17.1%	25.2%	47.7%	36.0%	12.6%
	50～59歳	123	27.6%	10.6%	20.3%	41.5%	31.7%	17.1%
	60～69歳	139	20.9%	6.5%	28.8%	46.0%	31.7%	15.8%
	70～79歳	182	9.3%	7.1%	21.4%	17.6%	25.3%	9.3%
	80歳以上	97	8.2%	6.2%	16.5%	4.1%	14.4%	4.1%

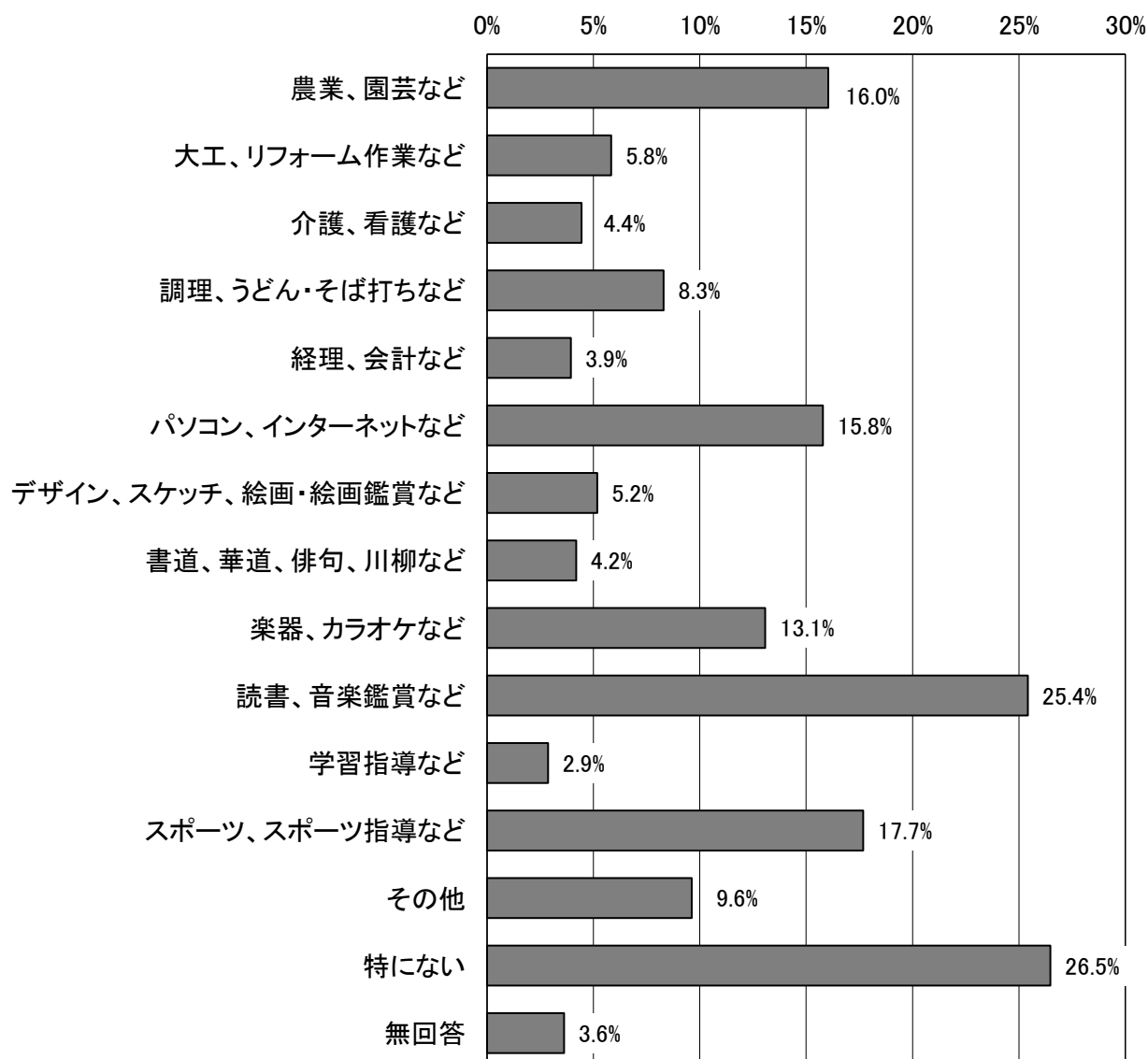
		n	特技や知識が活かせる	身体的な負担が少ない	その他	無回答	回答者数
性別	男性	395	8.9%	21.0%	18.2%	5.8%	19.5%
	女性	386	6.0%	26.9%	16.3%	8.3%	19.7%

年代別	18～29歳	52	11.5%	11.5%	23.1%	5.8%	5.8%
	30～39歳	80	11.3%	25.0%	35.0%	7.5%	5.0%
	40～49歳	111	7.2%	21.6%	24.3%	9.0%	9.0%
	50～59歳	123	7.3%	26.0%	18.7%	4.1%	14.6%
	60～69歳	139	9.4%	29.5%	16.5%	5.0%	12.9%
	70～79歳	182	5.5%	23.1%	7.1%	7.1%	30.8%
	80歳以上	97	3.1%	22.7%	8.2%	12.4%	46.4%



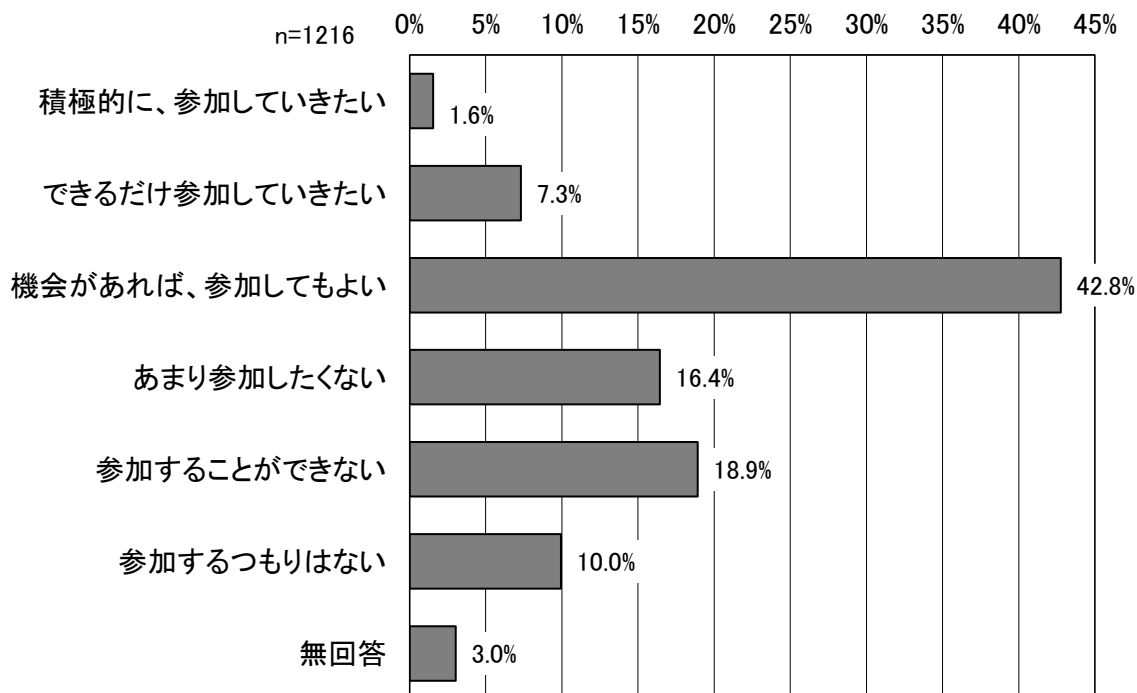
問21 あなたの趣味や特技を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

趣味や特技については、「読書、音楽鑑賞など」が25.4%と最も高く、次いで「スポーツ、スポーツ指導など」が17.7%、「農業、園芸など」が16.0%となっています。また、「特にない」が26.5%となっています。



**問 22 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動などに、どの程度参加していきたいと考えていますか。(ひとつだけ○)**

今後の地域活動等への参加意向については、「機会があれば、参加してもよい」が42.8%と最も高く、次いで「参加することができない」が18.9%、「あまり参加したくない」が16.4%となっています。「積極的に、参加していきたい」「できるだけ参加していきたい」「機会があれば、参加してもよい」を合わせた『参加していきたい・参加してもよい(計)』は合わせて約5割となっています。



問 22×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「機会があれば、参加してもよい」が最も高くなっています。

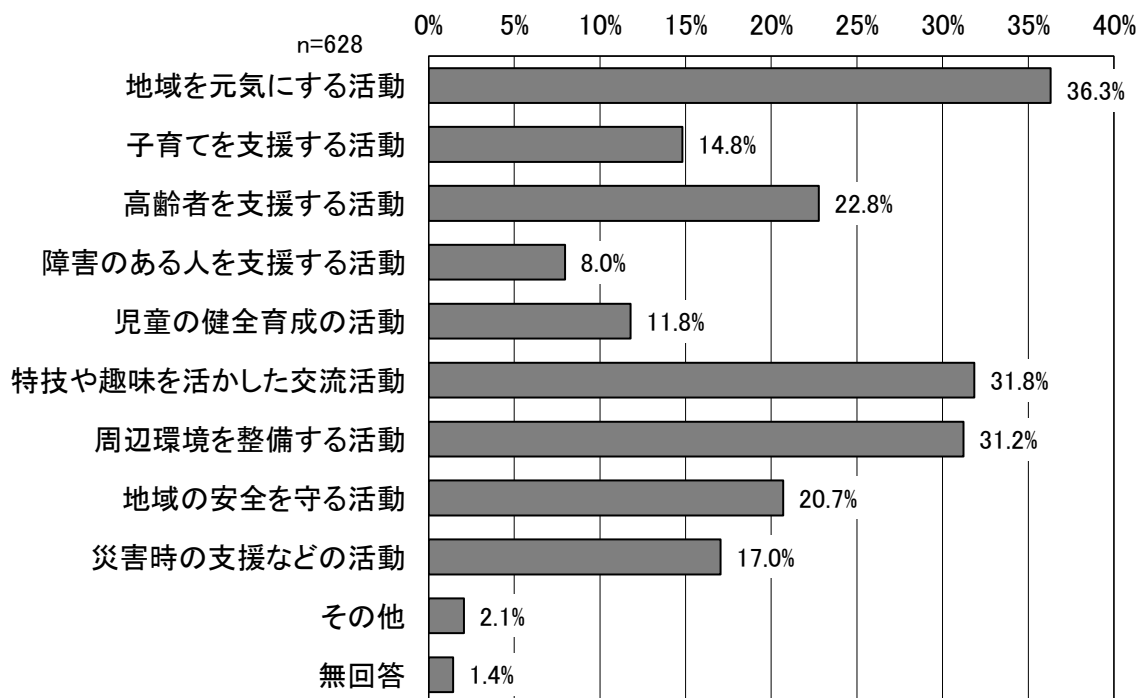
年代別にみると、80歳以上を除くすべての年代で「機会があれば、参加してもよい」、80歳以上では「参加することができない」が最も高くなっています。また、「積極的に、参加していきたい」「できるだけ参加していきたい」「機会があれば、参加してもよい」を合わせた『参加していきたい・参加してもよい（計）』が60～69歳で6割を超え、他の年代より高くなっています。「あまり参加したくない」「参加することができない」「参加するつもりはない」を合わせた『参加したくない・参加しない（計）』は80歳以上で5割を超え、他の年代より高くなっています。

		n	積極的に、参加 していきたい	できるだけ 参加して いきたい	機会があ れば、参加 してもよい	あまり参加 したくない	参加する ことができ ない	参加する つもりは ない	無回答
性別	男性	614	2.1%	8.0%	43.3%	17.4%	15.8%	11.2%	2.1%
	女性	591	0.8%	6.4%	42.5%	15.4%	22.5%	8.6%	3.7%
年代別	18～29歳	68	0.0%	2.9%	52.9%	20.6%	10.3%	10.3%	2.9%
	30～39歳	107	0.9%	2.8%	55.1%	15.9%	12.1%	12.1%	0.9%
	40～49歳	159	0.6%	3.8%	44.7%	23.3%	14.5%	12.6%	0.6%
	50～59歳	179	0.0%	3.4%	48.0%	20.7%	20.1%	7.3%	0.6%
	60～69歳	215	1.4%	8.8%	53.5%	15.8%	12.6%	6.5%	1.4%
	70～79歳	319	3.8%	11.3%	36.4%	15.0%	19.1%	10.7%	3.8%
	80歳以上	165	1.2%	9.7%	21.8%	6.7%	38.2%	12.1%	10.3%

※問 22 で「1 積極的に、参加していきたい」「2 できるだけ参加していきたい」「3 機会があれば、参加してもよい」を選んだ方にうかがいます

問 22-1 あなたが今後参加してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動は何ですか。(〇は3つまで)

今後参加してみたい地域活動やボランティア活動については、「地域を元気にする活動」が 36.3%と最も高く、次いで「特技や趣味を活かした交流活動」が 31.8%、「周辺環境を整備する活動」が 31.2%となっています。



問 22-1×性別、年代別

性別にみると、男性では「地域を元気にする活動」、女性では「特技や趣味を活かした交流活動」が最も高くなっています。また、「子育てを支援する活動」で男性よりも女性が10ポイント以上、「地域の安全を守る活動」で女性よりも男性が20ポイント以上高くなっています。

年代別にみると、18～29歳と60～69歳では「周辺環境を整備する活動」、30～39歳では「子育てを支援する活動」、40～49歳と70歳以上では「地域を元気にする活動」、50～59歳では「特技や趣味を活かした交流活動」がそれぞれ最も高くなっています。

		n	地域を元気にする活動	子育てを支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	児童の健全育成の活動	特技や趣味を活かした交流活動
性別	男性	328	40.5%	9.1%	14.9%	6.7%	15.2%	30.5%
	女性	294	31.3%	21.1%	31.3%	9.5%	8.2%	33.0%

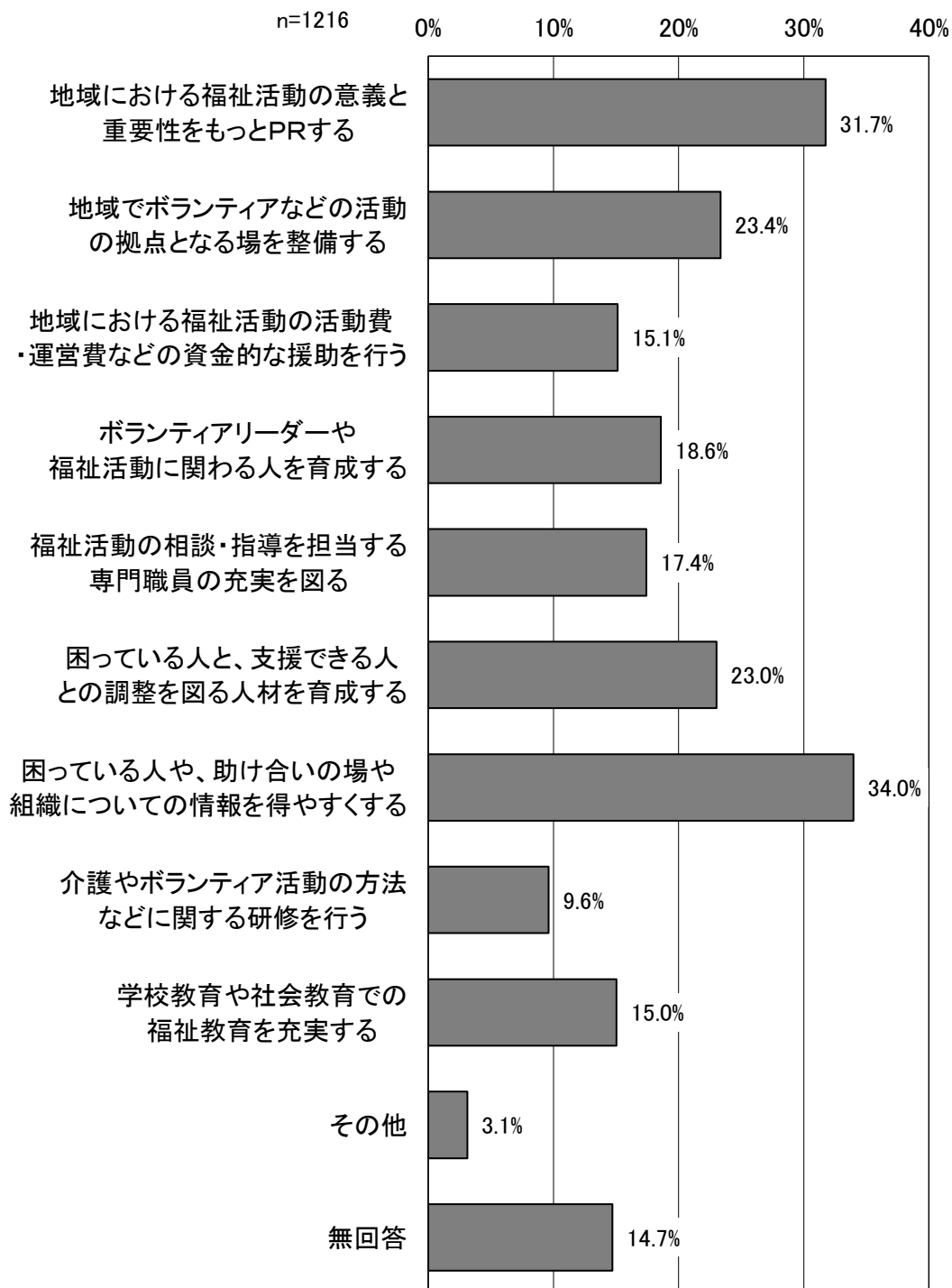
年代別	18～29歳	38	21.1%	31.6%	23.7%	5.3%	15.8%	31.6%
	30～39歳	63	30.2%	39.7%	15.9%	19.0%	31.7%	30.2%
	40～49歳	78	30.8%	24.4%	20.5%	11.5%	20.5%	28.2%
	50～59歳	92	28.3%	10.9%	27.2%	12.0%	9.8%	33.7%
	60～69歳	137	33.6%	11.7%	20.4%	4.4%	8.8%	27.7%
	70～79歳	164	47.0%	6.1%	25.6%	4.9%	5.5%	34.1%
	80歳以上	54	48.1%	1.9%	22.2%	3.7%	3.7%	37.0%

		n	周辺環境を整備する活動	地域の安全を守る活動	その他	無回答	回答者数
性別	男性	328	37.8%	30.5%	18.3%	2.1%	1.5%
	女性	294	24.1%	9.2%	15.6%	2.0%	1.4%

年代別	18～29歳	38	36.8%	10.5%	15.8%	2.6%	0.0%
	30～39歳	63	33.3%	23.8%	28.6%	1.6%	0.0%
	40～49歳	78	25.6%	21.8%	19.2%	2.6%	1.3%
	50～59歳	92	26.1%	16.3%	25.0%	5.4%	2.2%
	60～69歳	137	35.0%	27.7%	19.7%	0.0%	0.7%
	70～79歳	164	29.9%	18.3%	10.4%	1.8%	1.8%
	80歳以上	54	35.2%	20.4%	1.9%	1.9%	3.7%

**問 23 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)**

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」が34.0%と最も高く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が31.7%、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が23.4%となっています。



問 23×性別、年代別、地区別

性別にみると、男性では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」、女性では「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」が最も高くなっています。

年代別にみると、70歳以上を除くすべての年代で「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」、70歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が最も高くなっています。

地区別にみると、大谷地区、原市団地を除くすべての地区で「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」（原市地区では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」も同率）が最も高くなっています。大谷地区、原市団地では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」（原市団地では「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」も同率）が最も高くなっています。

		n	地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人と、支援できる人の調整を図る人材を育成する
性別	男性	614	34.4%	25.1%	17.4%	19.5%	16.4%	22.3%
	女性	591	28.9%	21.8%	12.9%	17.4%	18.1%	24.2%

年代別	18～29歳	68	32.4%	26.5%	14.7%	7.4%	7.4%	22.1%
	30～39歳	107	33.6%	32.7%	17.8%	16.8%	9.3%	29.9%
	40～49歳	159	25.8%	23.9%	18.2%	23.9%	19.5%	30.2%
	50～59歳	179	31.3%	27.9%	19.6%	18.4%	22.9%	27.4%
	60～69歳	215	30.7%	26.5%	20.0%	16.7%	18.1%	22.3%
	70～79歳	319	36.4%	20.4%	10.0%	18.8%	17.2%	20.4%
	80歳以上	165	28.5%	12.1%	9.7%	20.6%	18.2%	13.9%

地区別	上尾地区	389	30.6%	24.2%	13.6%	20.8%	17.5%	22.6%
	平方地区	55	29.1%	27.3%	14.5%	12.7%	10.9%	23.6%
	原市地区	157	33.1%	28.0%	17.2%	14.6%	15.3%	22.9%
	大石地区	150	30.0%	24.0%	12.7%	16.0%	19.3%	20.0%
	上平地区	144	31.9%	13.9%	13.9%	23.6%	15.3%	31.3%
	大谷地区	108	38.0%	25.9%	19.4%	16.7%	19.4%	19.4%
	原市団地	10	50.0%	50.0%	10.0%	40.0%	20.0%	20.0%
	尾山台団地	15	26.7%	6.7%	6.7%	20.0%	40.0%	33.3%
	西上尾第一団地	61	26.2%	14.8%	14.8%	18.0%	23.0%	18.0%
	西上尾第二団地	50	26.0%	26.0%	18.0%	16.0%	12.0%	22.0%

		n	困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	その他	無回答
性別	男性	614	29.8%	9.4%	15.1%	3.7%	13.8%
	女性	591	38.6%	9.6%	14.9%	2.4%	15.2%

年代別	18～29歳	68	39.7%	4.4%	30.9%	4.4%	7.4%
	30～39歳	107	45.8%	8.4%	23.4%	3.7%	7.5%
	40～49歳	159	37.1%	9.4%	26.4%	3.8%	5.0%
	50～59歳	179	36.9%	6.7%	16.2%	2.2%	9.5%
	60～69歳	215	38.1%	9.3%	10.2%	1.4%	13.5%
	70～79歳	319	27.6%	9.7%	7.8%	3.1%	19.7%
	80歳以上	165	25.5%	16.4%	11.5%	4.2%	29.1%

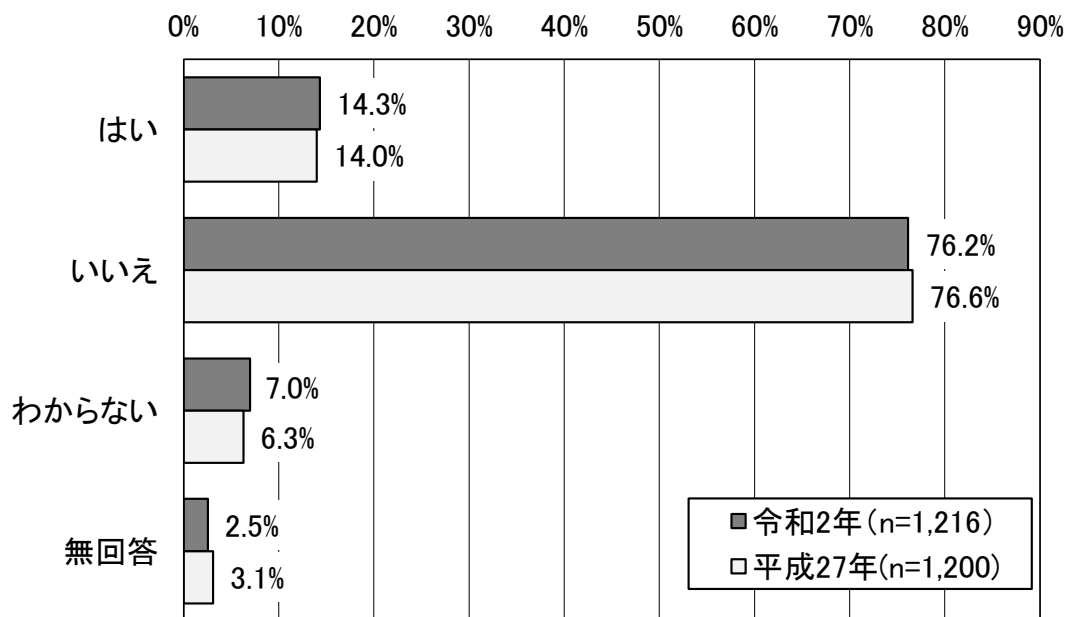
地区別	上尾地区	389	33.9%	8.5%	14.9%	3.1%	17.2%
	平方地区	55	30.9%	12.7%	16.4%	1.8%	18.2%
	原市地区	157	33.1%	10.2%	12.7%	1.9%	17.8%
	大石地区	150	37.3%	6.7%	13.3%	1.3%	16.0%
	上平地区	144	40.3%	9.0%	20.1%	3.5%	10.4%
	大谷地区	108	27.8%	13.0%	13.0%	6.5%	5.6%
	原市団地	10	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%
	尾山台団地	15	53.3%	20.0%	6.7%	6.7%	6.7%
	西上尾第一団地	61	31.1%	18.0%	11.5%	4.9%	19.7%
	西上尾第二団地	50	32.0%	6.0%	16.0%	2.0%	18.0%



## 4. 防災活動について

問 24 あなたは日ごろから地域の防災訓練に参加していますか。(ひとつだけ〇)

地域の防災活動への参加状況については、「はい」が 14.3%、「いいえ」が 76.2%となっており、参加していない人の割合が高くなっています。



問 24×性別、年代別、地区別

性別にみると、男女ともに「いいえ」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「いいえ」が最も高くなっています。また、「はい」が 60 歳以上で 2 割前後と、他の年代より高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で「いいえ」が最も高くなっています。

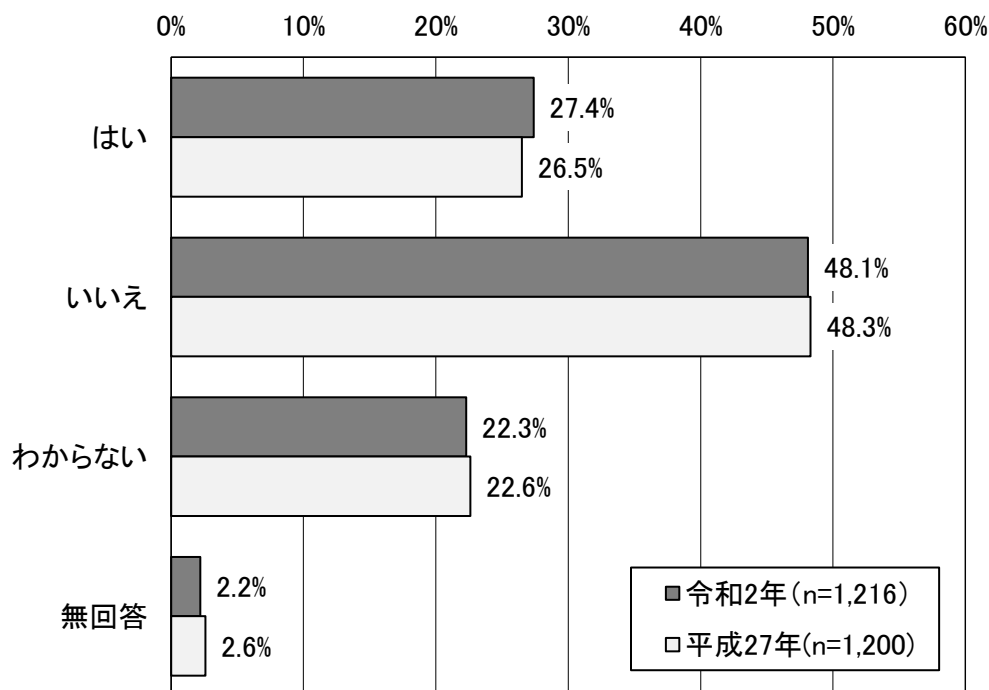
		n	はい	いいえ	わからない	無回答
性別	男性	614	16.0%	75.4%	6.7%	2.0%
	女性	591	12.0%	77.5%	7.4%	3.0%

年代別	18～29歳	68	4.4%	91.2%	4.4%	0.0%
	30～39歳	107	4.7%	87.9%	7.5%	0.0%
	40～49歳	159	6.3%	88.1%	5.7%	0.0%
	50～59歳	179	7.8%	81.6%	8.9%	1.7%
	60～69歳	215	17.7%	71.6%	9.3%	1.4%
	70～79歳	319	22.9%	67.4%	6.3%	3.4%
	80歳以上	165	18.2%	67.9%	5.5%	8.5%

地区別	上尾地区	389	14.1%	76.1%	6.9%	2.8%
	平方地区	55	18.2%	74.5%	1.8%	5.5%
	原市地区	157	15.9%	71.3%	8.9%	3.8%
	大石地区	150	17.3%	74.7%	7.3%	0.7%
	上平地区	144	15.3%	73.6%	9.0%	2.1%
	大谷地区	108	16.7%	71.3%	9.3%	2.8%
	原市団地	10	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	6.7%	93.3%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	4.9%	88.5%	3.3%	3.3%
	西上尾第二団地	50	20.0%	74.0%	4.0%	2.0%

**問 25 あなたの世帯は地域の自主防災組織（自治会・町内会・区会などを母体に、地域の住民が防災活動をする組織）に入っていますか。（ひとつだけ〇）**

地域の自主防災組織への参加状況については、「はい」が27.4%、「いいえ」が48.1%となっており、自主防災組織へ参加していない人の割合が高くなっています。



**問 25×地区別**

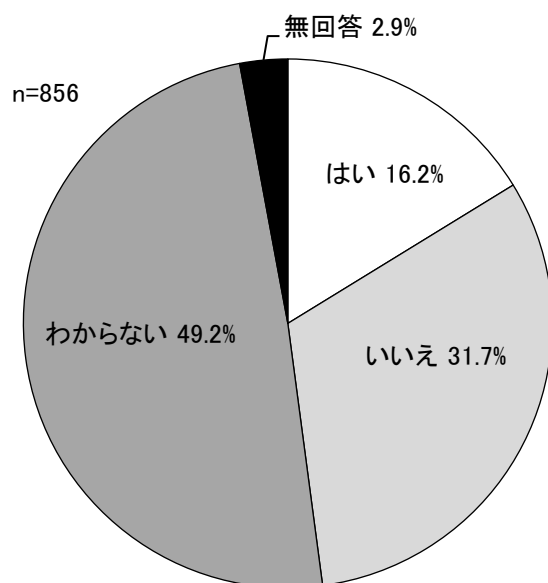
地区別にみると、大石地区、原市団地を除くすべての地区で「いいえ」が、大石地区、原市団地では「はい」が、最も高くなっています。

		n	はい	いいえ	わからない	無回答
地区別	上尾地区	389	24.4%	51.9%	21.9%	1.8%
	平方地区	55	30.9%	43.6%	20.0%	5.5%
	原市地区	157	25.5%	47.1%	24.2%	3.2%
	大石地区	150	39.3%	38.0%	22.0%	0.7%
	上平地区	144	27.1%	41.7%	29.2%	2.1%
	大谷地区	108	32.4%	45.4%	20.4%	1.9%
	原市団地	10	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	尾山台団地	15	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	21.3%	57.4%	14.8%	6.6%
	西上尾第二団地	50	26.0%	62.0%	10.0%	2.0%

※問 25 で「2.いいえ」または「3.わからない」を選んだ方にうかがいます

問 25-1 今後、あなたの世帯は地域の自主防災組織に入りたいと思いますか。(ひとつだけ○)

地域の自主防災組織への参加意向については、「はい」が 16.2%、「いいえ」が 31.7%、「わからない」が 49.2%となっています。



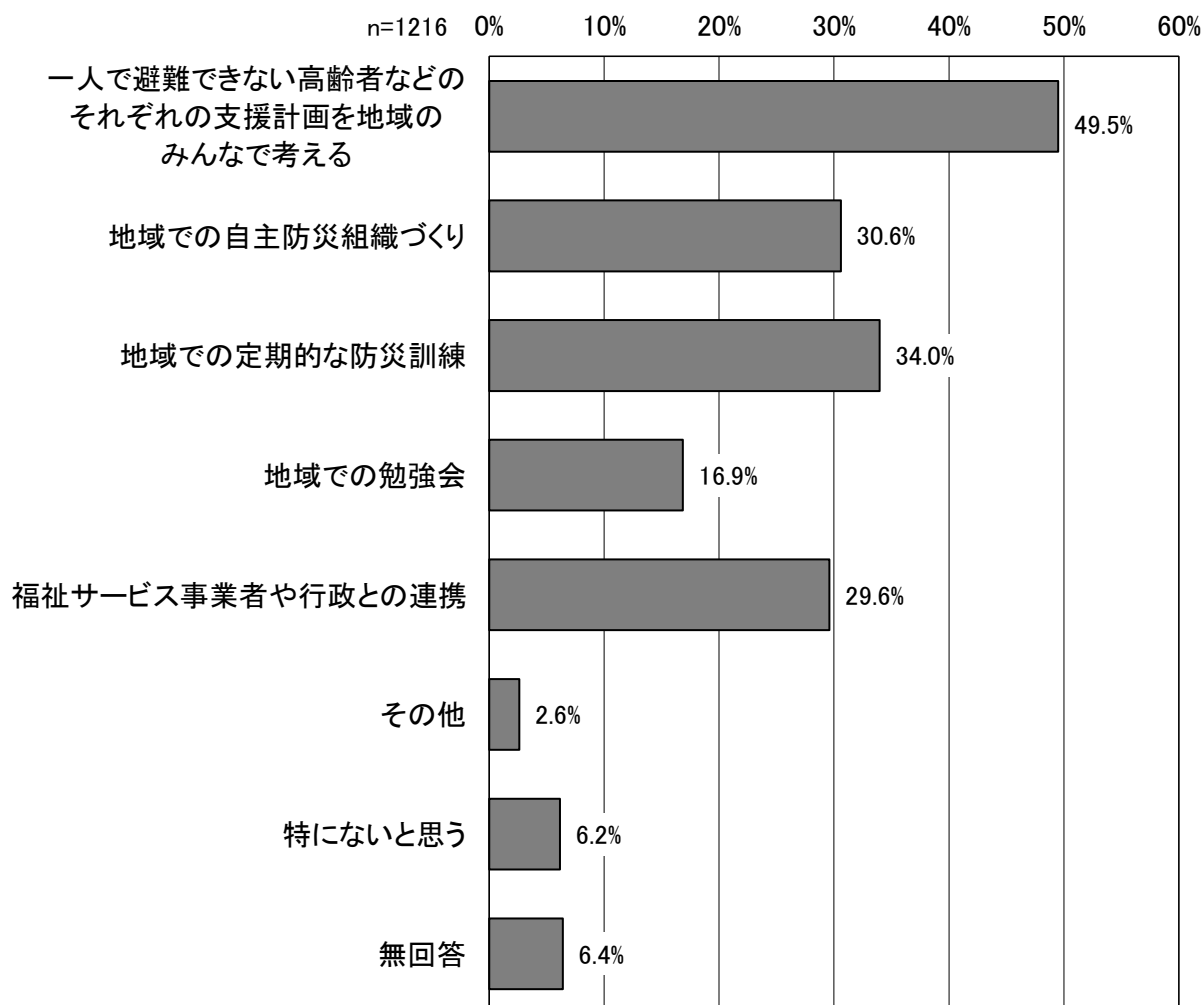
問 25-1×地区別

地区別にみると、すべての地区で「わからない」(西上尾第二団地では「いいえ」も同率)が最も高くなっています。

		n	はい	いいえ	わからない	無回答
地区別	上尾地区	287	14.6%	30.7%	50.2%	4.5%
	平方地区	35	17.1%	37.1%	45.7%	0.0%
	原市地区	112	17.9%	32.1%	46.4%	3.6%
	大石地区	90	21.1%	36.7%	41.1%	1.1%
	上平地区	102	14.7%	26.5%	56.9%	2.0%
	大谷地区	71	16.9%	36.6%	46.5%	0.0%
	原市団地	5	20.0%	0.0%	80.0%	0.0%
	尾山台団地	10	10.0%	30.0%	60.0%	0.0%
	西上尾第一団地	44	15.9%	36.4%	43.2%	4.5%
	西上尾第二団地	36	25.0%	36.1%	36.1%	2.8%

**問 26 地震や火災などの災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)**

災害時に住民同士が協力し合えるために必要なことについては、「一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみんなで考える」が49.5%と最も高く、次いで「地域での定期的な防災訓練」が34.0%、「地域での自主防災組織づくり」が30.6%となっています。



問 26×年代別、地区別

年代別にみると、30～39歳を除くすべての年代で「一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみinnで考える」(18～29歳では「地域での定期的な防災訓練」も同率)が、30～39歳では「地域での定期的な防災訓練」が最も高くなっています。

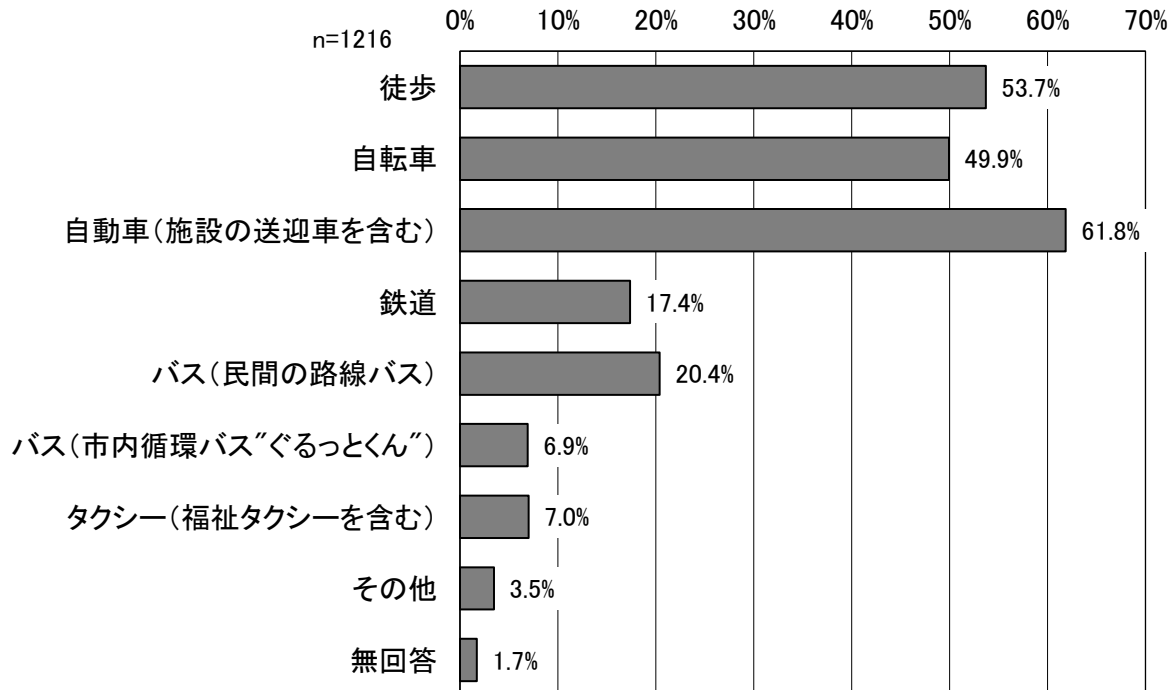
地区別にみると、すべての地区で「一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみinnで考える」(原市団地では「地域での定期的な防災訓練」も同率)が最も高くなっています。

		n	一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみinnで考える	地域での自主防災組織づくり	地域での定期的な防災訓練	地域での勉強会	福祉サービス事業者や行政との連携	その他	特にないと思う	無回答
年代別	18～29歳	68	41.2%	22.1%	41.2%	13.2%	32.4%	2.9%	2.9%	2.9%
	30～39歳	107	41.1%	25.2%	43.0%	12.1%	37.4%	5.6%	12.1%	0.9%
	40～49歳	159	39.0%	32.7%	31.4%	13.8%	36.5%	3.1%	11.3%	2.5%
	50～59歳	179	47.5%	25.1%	34.1%	15.6%	34.6%	3.4%	3.9%	3.4%
	60～69歳	215	52.1%	40.5%	31.6%	15.8%	30.2%	0.9%	5.6%	5.1%
	70～79歳	319	54.2%	32.6%	32.9%	21.6%	23.8%	2.5%	5.3%	8.2%
	80歳以上	165	58.8%	24.8%	32.7%	17.6%	21.8%	1.8%	3.0%	16.4%
地区別	上尾地区	389	48.3%	35.5%	32.9%	17.2%	30.3%	3.1%	5.4%	6.2%
	平方地区	55	60.0%	29.1%	32.7%	16.4%	32.7%	1.8%	1.8%	7.3%
	原市地区	157	42.7%	27.4%	32.5%	17.2%	26.1%	1.9%	3.8%	12.1%
	大石地区	150	50.0%	33.3%	42.0%	19.3%	18.7%	2.0%	7.3%	4.0%
	上平地区	144	50.0%	27.8%	31.9%	20.8%	27.1%	3.5%	9.7%	5.6%
	大谷地区	108	55.6%	29.6%	29.6%	22.2%	37.0%	1.9%	3.7%	3.7%
	原市団地	10	70.0%	20.0%	70.0%	20.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	尾山台団地	15	46.7%	33.3%	33.3%	20.0%	33.3%	0.0%	6.7%	6.7%
	西上尾第一団地	61	50.8%	23.0%	39.3%	8.2%	27.9%	3.3%	8.2%	6.6%
	西上尾第二団地	50	54.0%	26.0%	34.0%	6.0%	32.0%	4.0%	10.0%	8.0%

## 5. 日常生活での交通手段について

問27 あなたは、ふだん買い物（日常の食品などの購入）や通院、公共施設などを利用する際に、どのような交通手段を利用しますか。（あてはまるものすべてに○）

ふだん買い物や通院、公共施設などを利用する際の交通手段については、「自動車（施設の送迎車を含む）」が61.8%と最も高く、次いで「徒歩」が53.7%、「自転車」が49.9%となっています。



問 27×年代別、地区別

年代別にみると、18～29歳では「自転車」、30～69歳では「自動車（施設の送迎者を含む）」、70歳以上では「徒歩」が最も高くなっています。

地区別にみると、上尾地区、原市団地、尾山台団地、西上尾第一団地では「徒歩」（原市団地は「自動車（施設の送迎車を含む）」「バス（民間の路線バス）」も同率）が最も高くなっています。平方地区、原市地区、大石地区、上平地区、大谷地区では「自動車（施設の送迎者を含む）」、西上尾第二団地では「バス（民間の路線バス）」が最も高くなっています。

年代別	n	徒歩	自転車	自動車 (施設の送迎車を含む)	鉄道	バス(民間の路線バス)
		18～29歳	68	55.9%	60.3%	52.9%
30～39歳	107	64.5%	50.5%	78.5%	24.3%	15.0%
40～49歳	159	48.4%	54.1%	79.2%	15.7%	8.8%
50～59歳	179	43.6%	48.0%	72.6%	19.0%	17.9%
60～69歳	215	59.5%	47.0%	74.0%	15.8%	16.3%
70～79歳	319	55.2%	53.0%	50.5%	16.0%	29.2%
80歳以上	165	50.3%	40.6%	33.3%	13.9%	27.9%

地区別	n	徒歩	自転車	自動車 (施設の送迎車を含む)	鉄道	バス(民間の路線バス)
		上尾地区	389	63.0%	50.6%	56.6%
平方地区	55	34.5%	41.8%	60.0%	9.1%	27.3%
原市地区	157	45.9%	53.5%	65.0%	15.9%	16.6%
大石地区	150	48.0%	56.0%	70.0%	14.0%	13.3%
上平地区	144	51.4%	53.5%	71.5%	20.8%	12.5%
大谷地区	108	39.8%	47.2%	72.2%	7.4%	20.4%
原市団地	10	60.0%	40.0%	60.0%	20.0%	60.0%
尾山台団地	15	66.7%	40.0%	33.3%	33.3%	46.7%
西上尾第一団地	61	73.8%	44.3%	31.1%	24.6%	60.7%
西上尾第二団地	50	56.0%	38.0%	50.0%	16.0%	58.0%

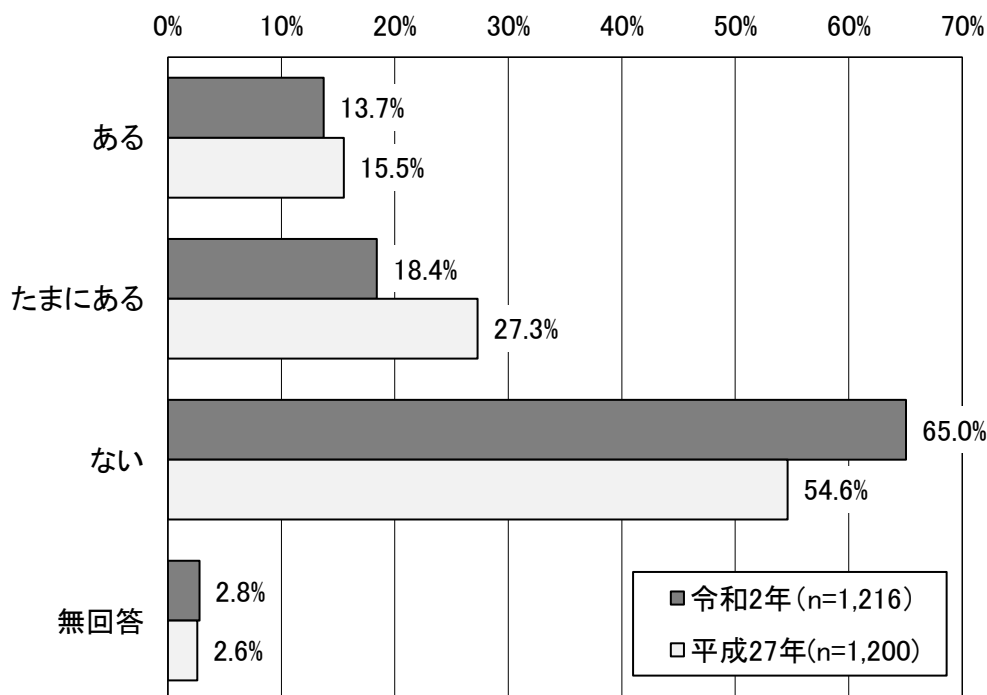
年代別	n	バス(市内循環バス“ぐるっとくん”)	タクシー (福祉タクシーを含む)	その他	無回答
		18～29歳	68	2.9%	4.4%
30～39歳	107	2.8%	4.7%	0.0%	0.0%
40～49歳	159	4.4%	1.3%	1.9%	0.0%
50～59歳	179	3.9%	4.5%	2.2%	1.7%
60～69歳	215	8.4%	4.2%	2.3%	0.5%
70～79歳	319	8.5%	9.7%	4.4%	1.9%
80歳以上	165	12.1%	15.8%	9.1%	6.7%

地区別	n	バス(市内循環バス“ぐるっとくん”)	タクシー (福祉タクシーを含む)	その他	無回答
		上尾地区	389	3.9%	7.7%
平方地区	55	7.3%	9.1%	7.3%	5.5%
原市地区	157	9.6%	5.7%	4.5%	1.9%
大石地区	150	5.3%	2.7%	4.0%	0.7%
上平地区	144	7.6%	5.6%	2.8%	0.7%
大谷地区	108	11.1%	5.6%	4.6%	0.9%
原市団地	10	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%
尾山台団地	15	26.7%	13.3%	6.7%	0.0%
西上尾第一団地	61	3.3%	14.8%	1.6%	3.3%
西上尾第二団地	50	8.0%	12.0%	2.0%	4.0%



**問 28 あなたは、ふだん買い物（日常の食品などの購入）や通院、公共施設などを利用する際の移動手段について、不便だと感じることがありますか。（ひとつだけ〇）**

ふだん買い物や通院、公共施設などを利用する際の移動手段を不便だと感じるかについては、「ある」が13.7%、「ない」が65.0%、「たまにある」が18.4%、となっています。「ある（13.7%）」と「たまにある（18.4%）」を合わせた『ある（計）』は3割を超えています。



**問 28×地区別**

地区別にみると、すべての地区で「ない」（原市団地は「はい」も同率）が最も高くなっています。

地区別	n	ある	たまにある	ない	無回答
上尾地区	389	9.0%	18.5%	69.4%	3.1%
平方地区	55	9.1%	16.4%	65.5%	9.1%
原市地区	157	21.0%	16.6%	59.2%	3.2%
大石地区	150	10.0%	19.3%	68.7%	2.0%
上平地区	144	18.8%	14.6%	65.3%	1.4%
大谷地区	108	19.4%	18.5%	59.3%	2.8%
原市団地	10	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%
尾山台団地	15	33.3%	6.7%	60.0%	0.0%
西上尾第一団地	61	11.5%	23.0%	63.9%	1.6%
西上尾第二団地	50	8.0%	28.0%	62.0%	2.0%

※問 28 で「1 ある（不便だと感じる）」「2 たまにある（不便だとたまに感じる）」を選んだ方に  
うかがいます

問 28-1 不便だと感じることはどのようなことですか。ご自由にお書きください。

市民の皆さまからいただいた主なご意見・ご要望は以下のとおりです。

（1 位：バスが少ない / 100 名）

■市内循環バス・ぐるっとくんもっと便を多くしてほしいです。便数が少ないと思います。

（2 位：バスの利便性が悪い / 89 名）

■バス停が少ない。

■バス停が遠い。

■駅まで遠いので鉄道に乗るのに不便。

■民間公共を含めバス便経路が少なすぎる。

■この秋から東武バスの上尾駅西口発車の市民体育館経由が大幅に減らされた。第 1 団地の終点には便数の多い柏座経由で大久保で下車して団地迄歩かなければならない。

■しらこぼと団地ですが、バスのぐるっとくん、あまり走ってない。

■原市地域の為、上尾駅方面への移手段が不便である。また、近くに商店、その他店舗が少なく不便。

■バス停の自転車置き場が狭く置きづらい。上尾駅、北上尾駅から桶川駅まで行けるバスがあったらいいなあと思う。

（3 位：買い物、病院、公共施設等が遠い / 35 名）

■近くに商店がない。買い物が不便。

■使う病院が遠い。

■重いもの、大きいものを買ったとき、自転車だとつらい。

■地域的に上尾市の端に位置しているので、上尾駅（市役所など）への公共交通が不便である。また上尾市内の商店が近隣にない。（商圈はさいたま市である）

■鉄道のネットワークについて、埼玉県内での南北移動は便利だが東西の移動は非常に不便です。

■東大宮メディカルセンターに行くときに通院が不便。アクセスが良くない。

（4 位：駐輪場、駐車場が少ない / 25 名）

■公共の駐車場が少ない。

■自転車を停める場所が少ない。

■駐車場がせまいところがある。となりの車の間隔が狭い。

（5 位：雨の日 / 18 名）

■雨の日は自転車に乗れない。その場合は路線バスを利用することとなる。

■10 分程度歩く必要がある為大雨や雪などの日。

■雨の日の通院。

(6位：バスが時間通りに来ない / 11名)

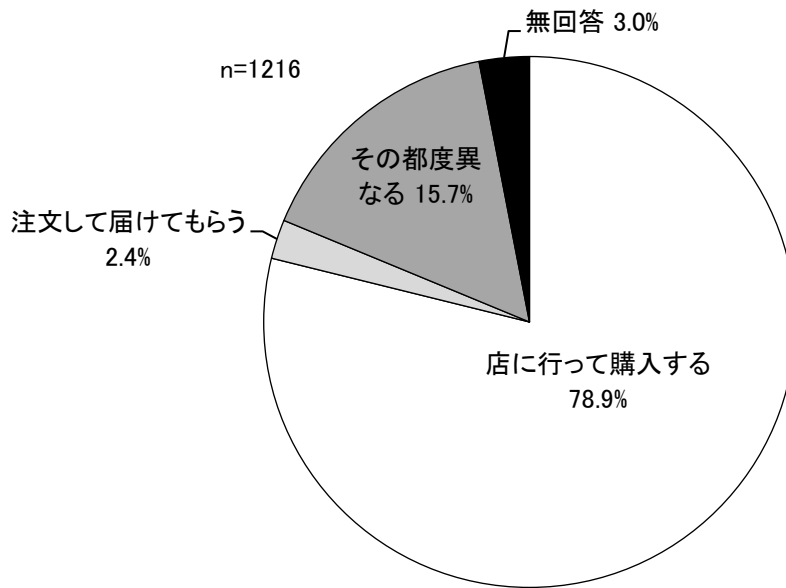
- なかなかバスが来ない。
- バス（民間の路線バス）にて時間通りに来ることがなく、電車乗車時刻に合わせるため、2、3本前の時刻に来るバスに乗っているのが現状。
- 平日2時間（雨の日5時間待ち）余裕を持ってバス停に着き、待ってて車の渋滞あると6時間、無い時ではバスは時間通りなので良いです。

(その他)

- 自分で車を運転する事ができないので買い物等、雨が降ると自転車も使えなくなるので複数まわることができない。母親の通院時は介護タクシーを（高くても）利用しなくてはならない。
- 他の市には共同集合タクシーのデマンドタクシー制度があるが上尾にはない。ぜひ設けてほしい。
- 渋滞で時間がかかる。
- 交通ルールに対してマナーの悪い人がいる事。
- 若い時から足が不自由な為、長距離移動（歩いて）ができない。最近は自転車を漕ぐことが少し辛い。
- 身体の障害によって、使える交通手段が限られてくる。

問 29 あなたは、買い物をする際、店に行って直接購入する方法と、注文して届けてもらう方法（近くの商店からの宅配）のうち、どちらを選びますか。（ひとつだけ〇）

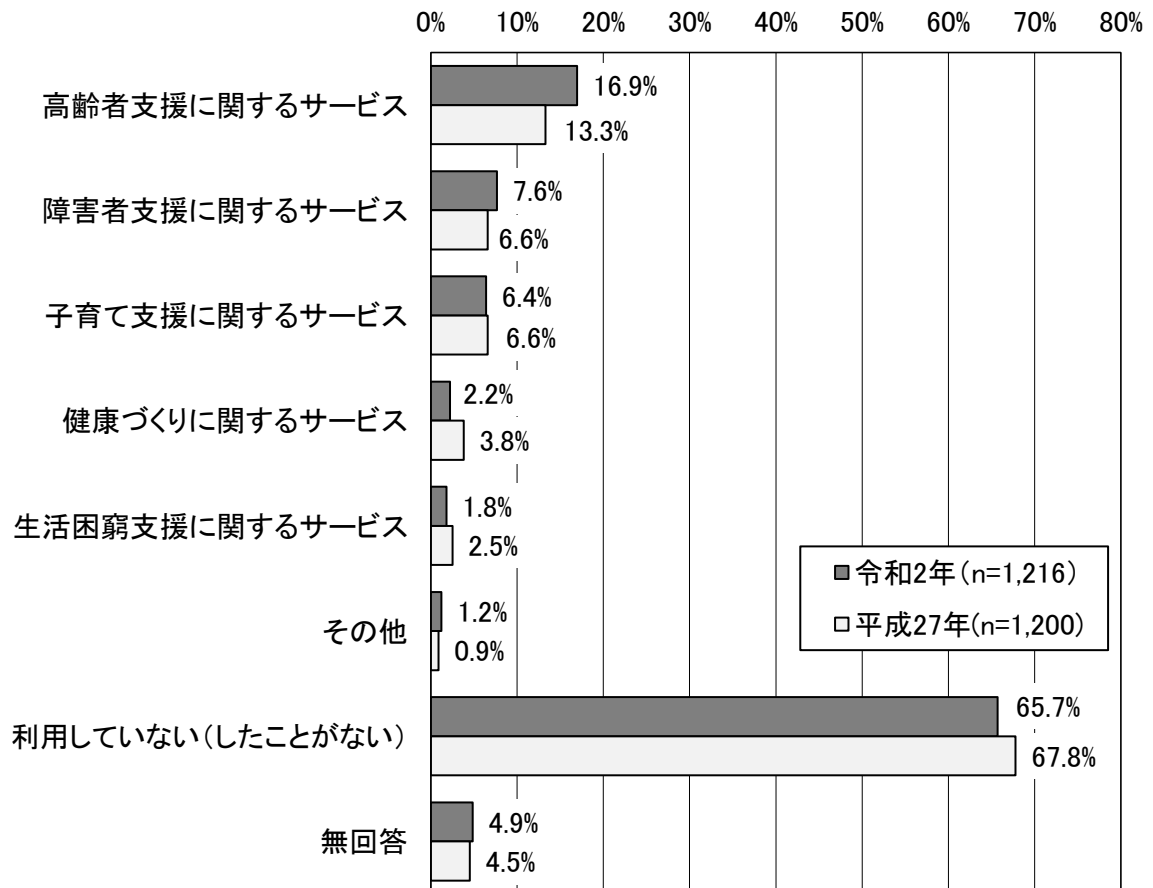
買い物の方法については、「店に行って購入する」が 78.9%と最も高く、次いで「その都度異なる」が 15.7%、「注文して届けてもらう」が 2.4%となっています。



## 6. 福祉サービスについて

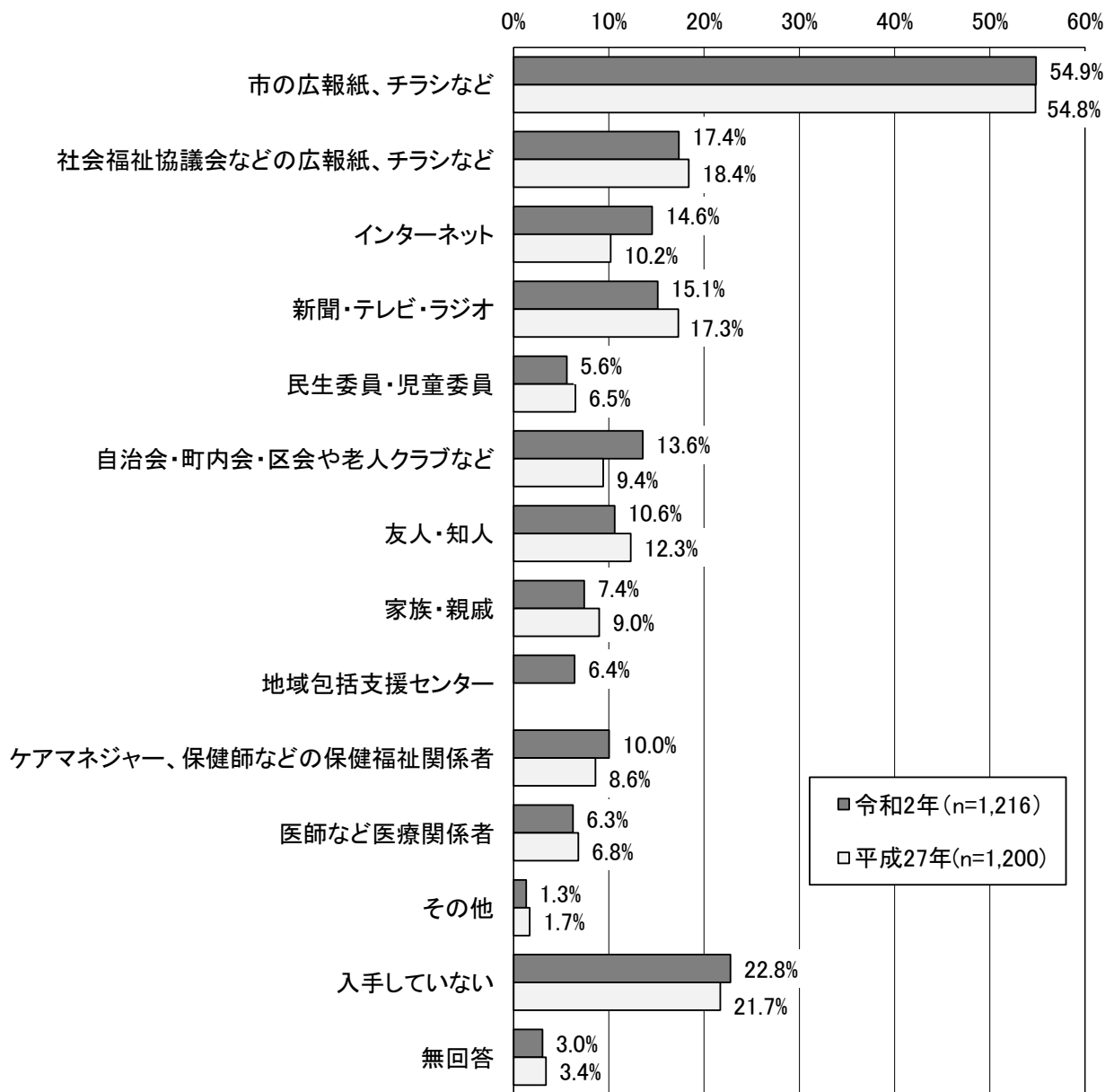
問 30 あなたやあなたの家族は、どの福祉サービスを利用していますか（したことがありますか）。  
（あてはまるものすべてに○）

福祉サービスの利用状況については、「利用していない（したことがない）」が 65.7%と最も高く、次いで「高齢者支援に関するサービス」が 16.9%、「障害者支援に関するサービス」が 7.6%となっています。



問31 あなたは、ふだん福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

福祉サービスに関する情報の入手先については、「市の広報紙、チラシなど」が54.9%と最も高く、次いで「入手していない」が22.8%、「社会福祉協議会などの広報紙、チラシなど」が17.4%となっています。



※平成27年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。

問31×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「市の広報紙、チラシなど」が最も高くなっています。また、「インターネット」「自治会・町内会・区会や老人クラブなど」で、男性が女性よりも5ポイント以上、「友人・知人」で女性が男性よりも5ポイント以上高くなっています。

年代別にみると、30歳以上のすべての年代で「市の広報紙、チラシなど」が、18～29歳では「入手していない」が最も高くなっています。また、「インターネット」が30～39歳で3割を超え、「新聞・テレビ・ラジオ」が60歳以上で2割前後と他の年代よりも高くなっています。

		n	市の広報紙、チラシなど	社会福祉協議会などの広報紙、チラシなど	インターネット	新聞・テレビ・ラジオ	民生委員・児童委員	自治会・町内会・区会や老人クラブなど	友人・知人
性別	男性	614	53.6%	18.2%	17.3%	15.5%	6.0%	16.0%	7.7%
	女性	591	56.3%	15.9%	11.8%	14.9%	4.6%	10.7%	13.4%

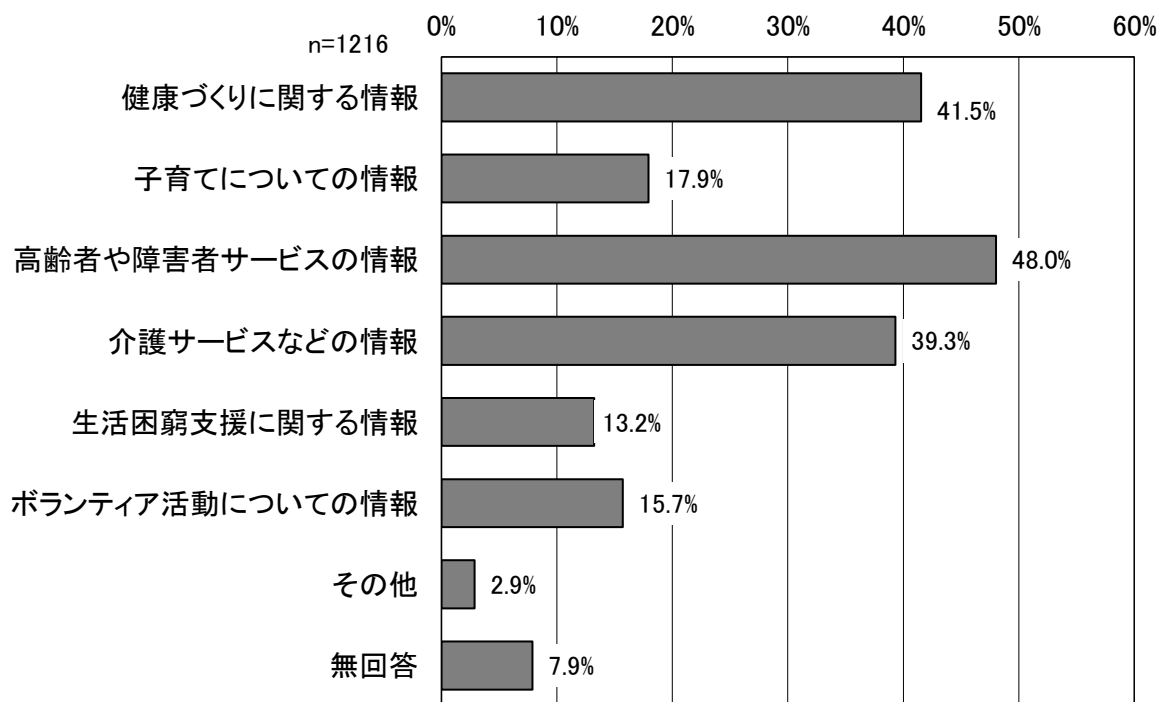
年代別	18～29歳	68	30.9%	8.8%	22.1%	8.8%	1.5%	0.0%	5.9%
	30～39歳	107	51.4%	6.5%	34.6%	5.6%	0.9%	1.9%	9.3%
	40～49歳	159	49.1%	8.2%	25.2%	8.8%	0.6%	6.3%	11.9%
	50～59歳	179	49.2%	13.4%	17.3%	7.3%	0.6%	6.7%	3.9%
	60～69歳	215	62.8%	21.4%	13.5%	17.2%	5.1%	15.3%	11.6%
	70～79歳	319	60.2%	24.5%	5.6%	20.4%	6.3%	21.3%	13.5%
	80歳以上	165	58.2%	21.8%	3.6%	25.5%	20.0%	24.2%	12.1%

		n	家族・親戚	地域包括支援センター	ケアマネジャー、保健師などの保健福祉関係者	医師など医療関係者	その他	入手していない	無回答
性別	男性	614	8.0%	6.0%	9.6%	5.9%	1.3%	23.8%	2.4%
	女性	591	6.9%	6.9%	10.3%	6.8%	1.4%	22.0%	3.7%

年代別	18～29歳	68	5.9%	4.4%	1.5%	2.9%	4.4%	51.5%	2.9%
	30～39歳	107	9.3%	5.6%	3.7%	6.5%	4.7%	29.9%	0.9%
	40～49歳	159	7.5%	3.1%	4.4%	5.0%	1.3%	35.2%	0.0%
	50～59歳	179	5.0%	6.1%	14.0%	7.8%	0.0%	29.6%	2.2%
	60～69歳	215	3.3%	6.5%	11.6%	5.6%	0.5%	18.1%	0.9%
	70～79歳	319	8.8%	6.9%	10.3%	5.6%	0.9%	14.7%	4.7%
	80歳以上	165	12.1%	10.3%	16.4%	9.1%	1.2%	8.5%	7.9%

問32 あなたは、保健・福祉について、どんな情報を充実してほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

保健・福祉の情報で充実してほしいと思うものについては、「高齢者や障害者サービスの情報」が48.0%と最も高く、次いで「健康づくりに関する情報」が41.5%、「介護サービスなどの情報」が39.3%となっています。





問 32×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「高齢者や障害者サービスの情報」が最も高くなっています。また、「介護サービスなどの情報」では女性が男性よりも5ポイント以上、「子育てについての情報」では4ポイント高くなっています。

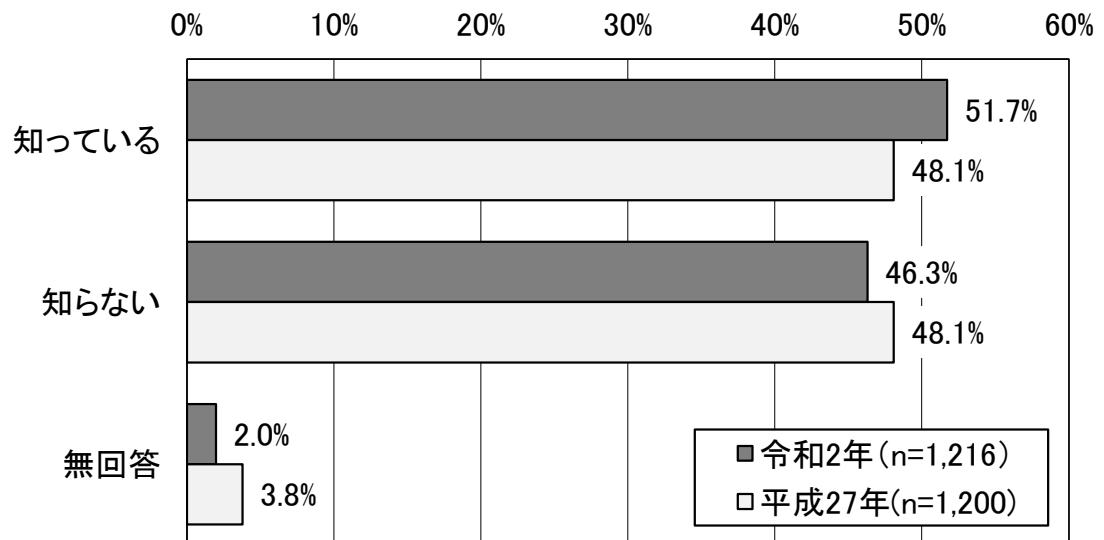
年代別にみると、18～49歳では「子育てについての情報」、50～59歳と70歳以上では「高齢者や障害者サービスの情報」、60～69歳では「健康づくりに関する情報」が最も高くなっています。

		n	健康づくりに関する情報	子育てについての情報	高齢者や障害者サービスの情報	介護サービスなどの情報	生活困窮支援に関する情報	ボランティア活動についての情報	その他	無回答
性別	男性	614	43.0%	16.1%	49.2%	36.5%	13.4%	16.8%	3.4%	7.3%
	女性	591	40.1%	20.1%	47.0%	42.3%	13.0%	14.4%	2.2%	8.5%
年代別	18～29歳	68	36.8%	42.6%	23.5%	23.5%	17.6%	25.0%	1.5%	4.4%
	30～39歳	107	25.2%	64.5%	26.2%	18.7%	15.0%	18.7%	5.6%	3.7%
	40～49歳	159	30.2%	39.0%	38.4%	31.4%	15.1%	12.6%	4.4%	8.2%
	50～59歳	179	45.3%	15.1%	54.2%	49.7%	20.1%	16.2%	1.7%	7.3%
	60～69歳	215	52.1%	8.8%	50.7%	41.9%	14.0%	21.9%	1.4%	4.2%
	70～79歳	319	45.8%	2.8%	55.8%	42.3%	10.0%	14.7%	3.1%	10.0%
	80歳以上	165	38.2%	1.2%	56.4%	46.7%	6.7%	6.1%	3.0%	13.3%

## 7. 社会福祉協議会について

問 33 あなたは、「上尾市社会福祉協議会」を知っていますか。(ひとつだけ〇)

上尾市社会福祉協議会の認識については、「知っている」が51.7%、「知らない」が46.3%となっています。



問 33×性別、年代別、地区別

性別にみると、男性は「知らない」、女性は「知っている」が最も高くなっています。

年代別にみると、50歳未満では「知らない」、50歳以上では「知っている」が最も高く、年代が若くなるほど「知らない」の割合が高くなっています。

地区別にみると、上尾地区、尾山台団地を除くすべての地区で「知っている」、上尾地区、尾山台団地では「知らない」が最も高くなっています。

		n	知っている	知らない	無回答
性別	男性	614	47.6%	51.5%	1.0%
	女性	591	55.8%	41.1%	3.0%

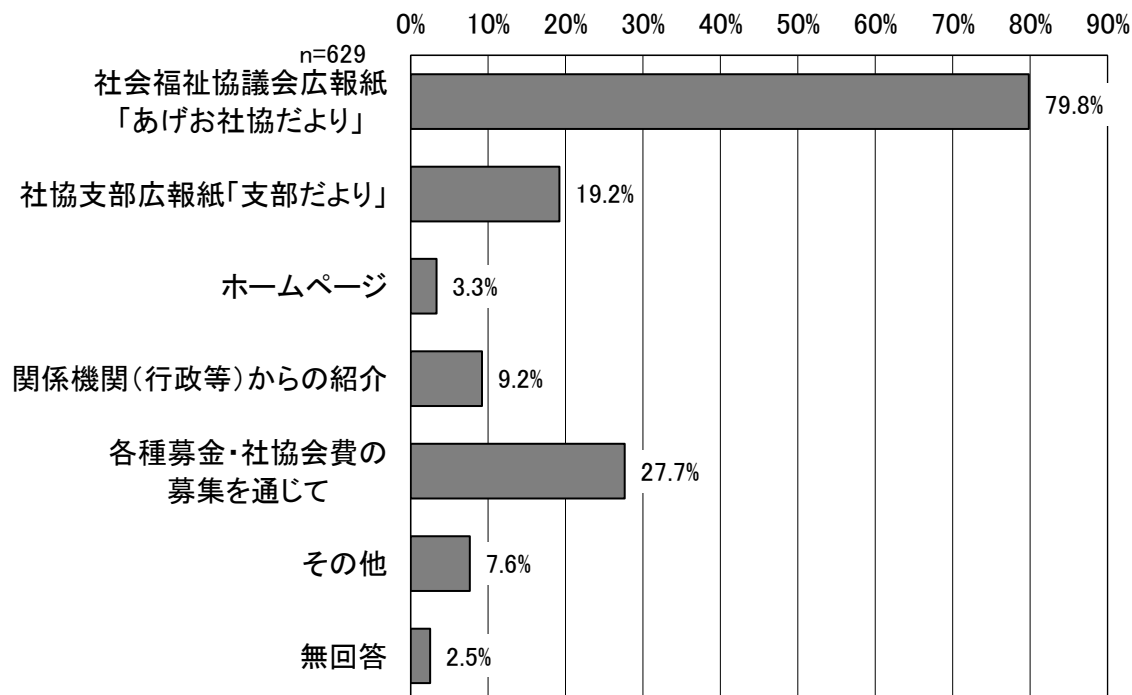
年代別	18～29歳	68	17.6%	82.4%	0.0%
	30～39歳	107	29.0%	71.0%	0.0%
	40～49歳	159	42.8%	57.2%	0.0%
	50～59歳	179	54.2%	45.8%	0.0%
	60～69歳	215	54.4%	44.7%	0.9%
	70～79歳	319	61.8%	36.1%	2.2%
	80歳以上	165	64.2%	26.7%	9.1%

地区別	上尾地区	389	44.2%	54.8%	1.0%
	平方地区	55	63.6%	30.9%	5.5%
	原市地区	157	53.5%	43.9%	2.5%
	大石地区	150	60.0%	38.7%	1.3%
	上平地区	144	62.5%	35.4%	2.1%
	大谷地区	108	60.2%	37.0%	2.8%
	原市団地	10	80.0%	10.0%	10.0%
	尾山台団地	15	40.0%	53.3%	6.7%
	西上尾第一団地	61	59.0%	39.3%	1.6%
	西上尾第二団地	50	52.0%	46.0%	2.0%

※問 33 で「1 知っている」を選んだ方にうかがいます

問 34 「上尾市社会福祉協議会」のことは何で知りましたか（あてはまるものすべてに○）

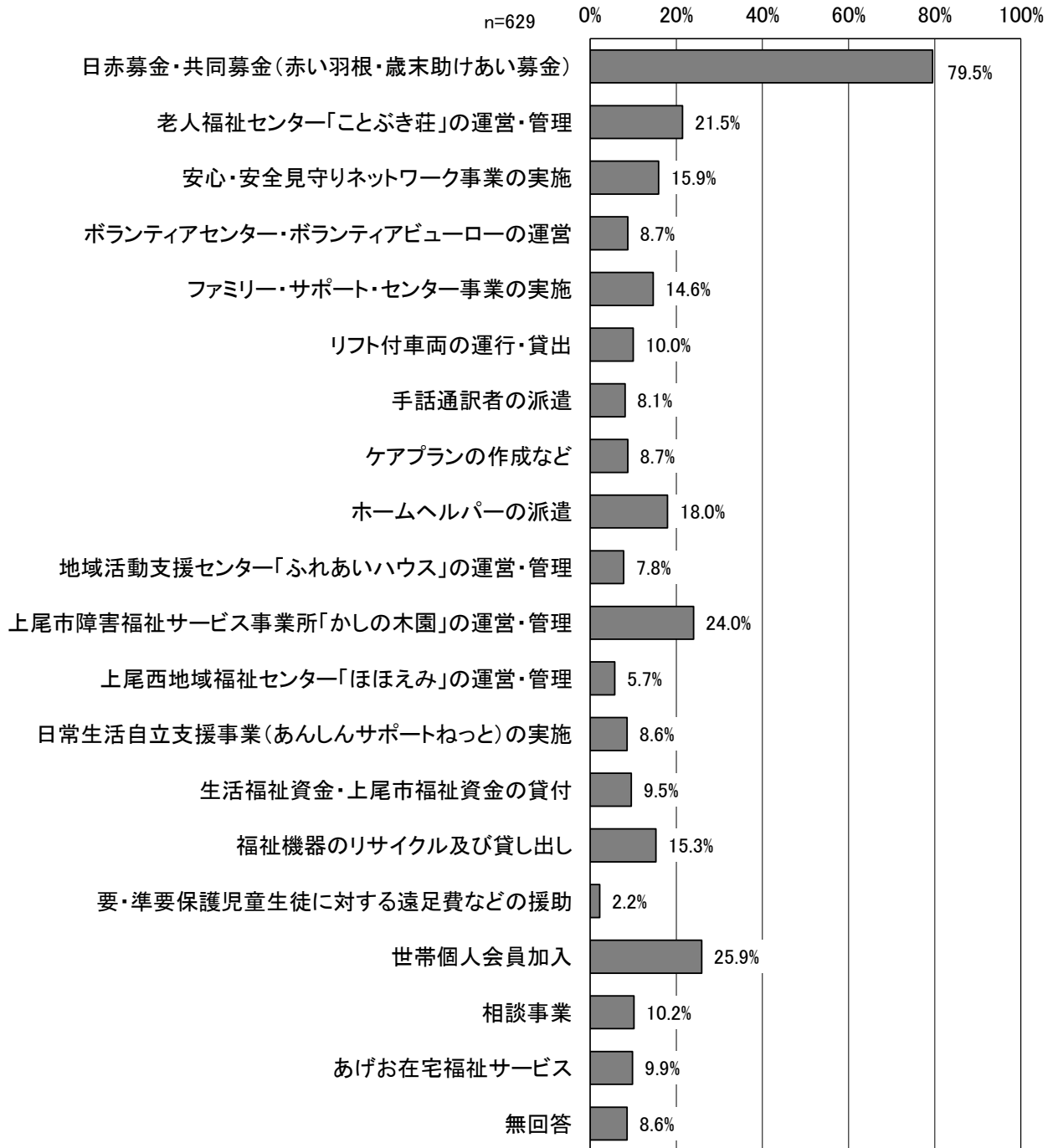
「上尾市社会福祉協議会」のことを何で知ったかについては、「社会福祉協議会広報紙「あげお社協だより」」が 79.8%と最も高く、次いで「各種募金・社協会費の募集を通じて」が 27.7%、「社協支部広報紙「支部だより」」が 19.2%となっています。



※問 33 で「1 知っている」を選んだ方にうかがいます

問 35 上尾市社会福祉協議会の事業で、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

社会福祉協議会の事業で知っているものについては、「日赤募金・共同募金（赤い羽根・歳末助けあい募金）」が 79.5%と最も高く、次いで「世帯個人会員加入」が 25.9%、「上尾市障害福祉サービス事業所「かしの木園」の運営・管理」が 24.0%となっています。



問 35×性別、年代別（上位5項目）

上位5項目を性別にみると、男女ともに「日赤募金・共同募金（赤い羽根・歳末助けあい募金）」が最も高くなっています。また、上位4項目は順位の相違はあるものの、項目は同様となっています。5位が男性では「ホームヘルパーの派遣」、女性では「ファミリー・サポート・センター事業の実施」となっています。

上位5項目を年代別にみると、すべての年代で「日赤募金・共同募金（赤い羽根・歳末助けあい募金）」が最も高くなっています。

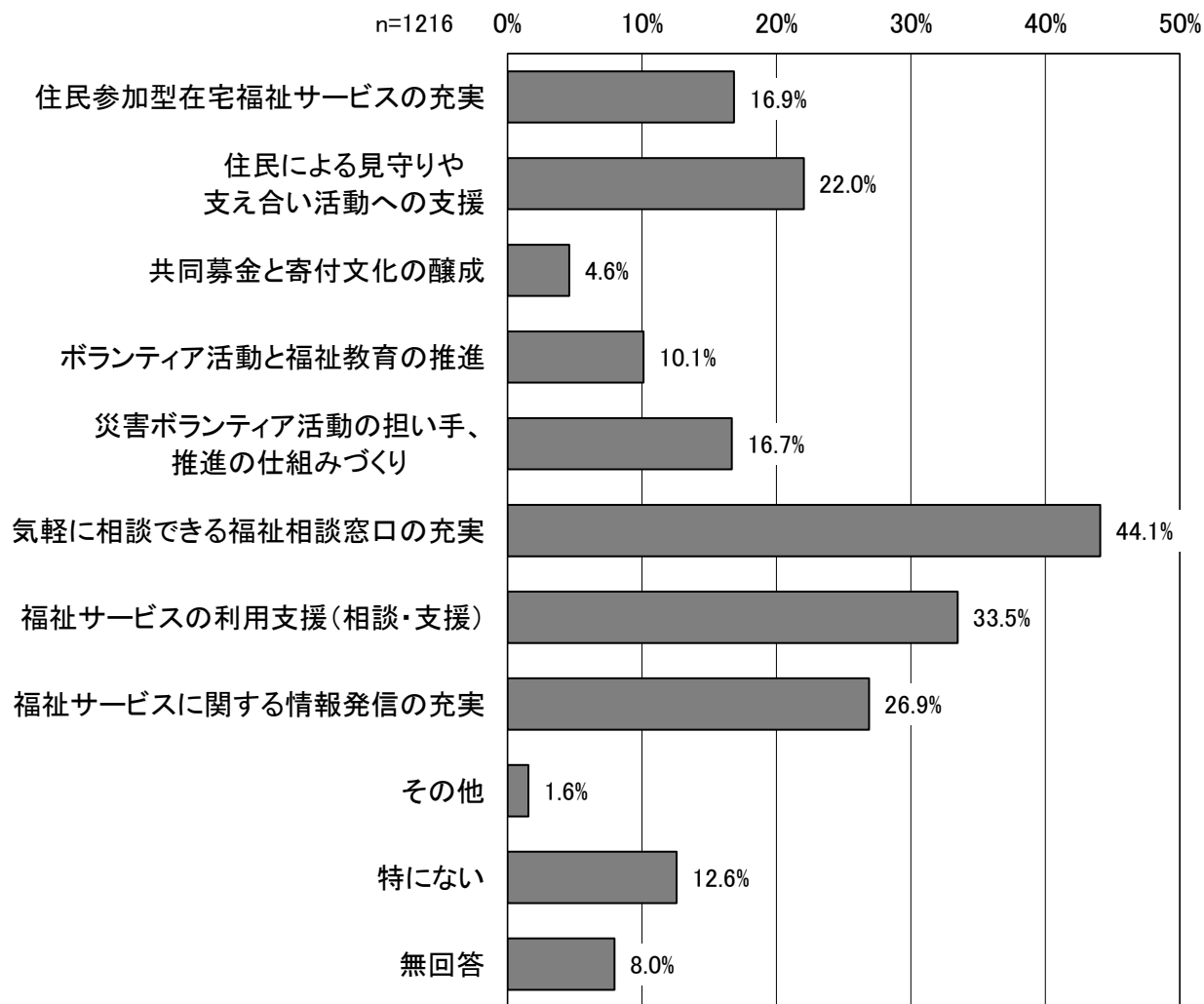
また、60歳以上では、2位から5位の項目が、順位の相違はあるものの、「世帯個人会員加入」「上尾市障害福祉サービス事業所「かしの木園」の運営・管理」「老人福祉センター「ことぶき荘」の運営・管理」「ホームヘルパーの派遣」と、同じになっています。

単位：%		1位	2位	3位	4位	5位
性別	男性 (n=292)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	世帯個人会員加入	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	ホームヘルパーの派遣
		79.8%	27.7%	21.6%	20.2%	18.2%
	女性 (n=330)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	世帯個人会員加入	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理	ファミリー・サポート・セ ンター事業の実施
		78.8%	27.6%	23.9%	21.2%	19.7%
年代別	18～29歳 (n=12)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	安心・安全見守りネット ワーク事業の実施	リフト付車両の運行・貸 出	ボランティアセンター・ ボランティアビューロー の運営	相談事業
		66.7%	33.3%	33.3%	25.0%	25.0%
	30～39歳 (n=31)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	ファミリー・サポート・セ ンター事業の実施	生活福祉資金・上尾市 福祉資金の貸付	相談事業	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理
		58.1%	35.5%	32.3%	22.6%	19.4%
	40～49歳 (n=68)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	ファミリー・サポート・セ ンター事業の実施	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	世帯個人会員加入	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理
		60.3%	32.4%	25.0%	17.6%	14.7%
	50～59歳 (n=97)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	世帯個人会員加入	ファミリー・サポート・セ ンター事業の実施	安心・安全見守りネット ワーク事業の実施
		75.3%	23.7%	20.6%	19.6%	14.4%
	60～69歳 (n=117)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	世帯個人会員加入	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理	ホームヘルパーの派遣
		85.5%	29.1%	28.2%	21.4%	20.5%
	70～79歳 (n=197)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	世帯個人会員加入	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	ホームヘルパーの派遣
		86.3%	27.4%	25.4%	21.8%	19.8%
	80歳以上 (n=106)	日赤募金・共同募金 (赤い羽根・歳末助け あい募金)	老人福祉センター「こと ぶき荘」の運営・管理	世帯個人会員加入	上尾市障害福祉サービ ス事業所「かしの木園」 の運営・管理	ホームヘルパーの派遣
		84.0%	33.0%	33.0%	25.5%	22.6%

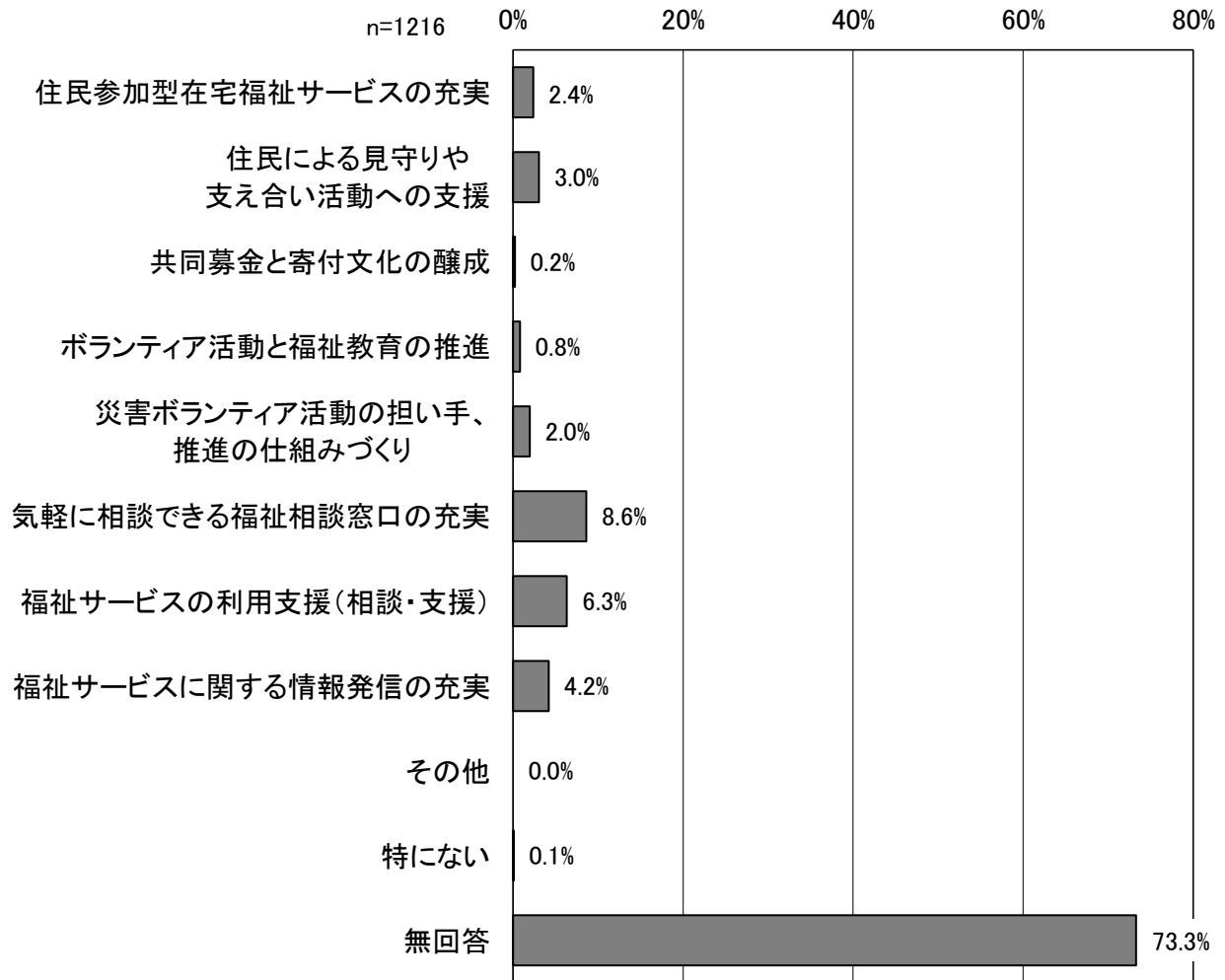
**問 36 あなたは、上尾市社会福祉協議会に対してどのような活動や支援を期待しますか。(〇は3つまで。その中で最も重視する項目には◎をつけてください)**

上尾市社会福祉協議会に対して期待する活動や支援については、「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」が 44.1%と最も高く、次いで「福祉サービスの利用支援（相談・支援）」が 33.5%、「福祉サービスに関する情報発信の充実」が 26.9%となっています。

また、このうち最も重視する活動については、「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」が 8.6%と最も高くなっています。



【最も重視する項目】





問 36×性別、年代別

性別にみると、男女ともに「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」が最も高くなっています。また、「福祉サービスに関する情報発信の充実」では男性が女性よりも6ポイント以上高くなっています。

年代別にみると、18～29歳を除くすべての年代で「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」、18～29歳では「福祉サービスの利用支援（相談・支援）」が最も高くなっています。また、「ボランティア活動と福祉教育の推進」では18～29歳が約2割、「福祉サービスに関する情報発信の充実」では50～59歳が約4割と、他の年代より高くなっています。

		n	住民参加型在宅福祉サービスの充実	住民による見守りや支え合い活動への支援	共同募金と寄付文化の醸成	ボランティア活動と福祉教育の推進	災害ボランティア活動の担い手、推進の仕組みづくり	気軽に相談できる福祉相談窓口の充実
性別	男性	614	17.9%	21.5%	5.4%	10.9%	16.3%	40.7%
	女性	591	15.9%	22.3%	3.7%	9.1%	17.3%	47.0%

年代別	18～29歳	68	14.7%	20.6%	4.4%	20.6%	17.6%	29.4%
	30～39歳	107	10.3%	18.7%	1.9%	15.9%	22.4%	38.3%
	40～49歳	159	13.2%	18.9%	4.4%	12.6%	22.6%	37.7%
	50～59歳	179	15.6%	23.5%	1.7%	8.9%	19.0%	49.7%
	60～69歳	215	12.6%	22.8%	1.4%	8.8%	20.5%	51.2%
	70～79歳	319	23.5%	23.2%	6.9%	6.9%	11.3%	45.8%
	80歳以上	165	20.0%	23.0%	9.7%	8.5%	10.3%	41.2%

		n	福祉サービスの利用支援（相談・支援）	福祉サービスに関する情報発信の充実	その他	特にない	無回答
性別	男性	614	32.9%	30.0%	2.3%	14.7%	6.5%
	女性	591	34.0%	23.9%	0.8%	10.3%	9.6%

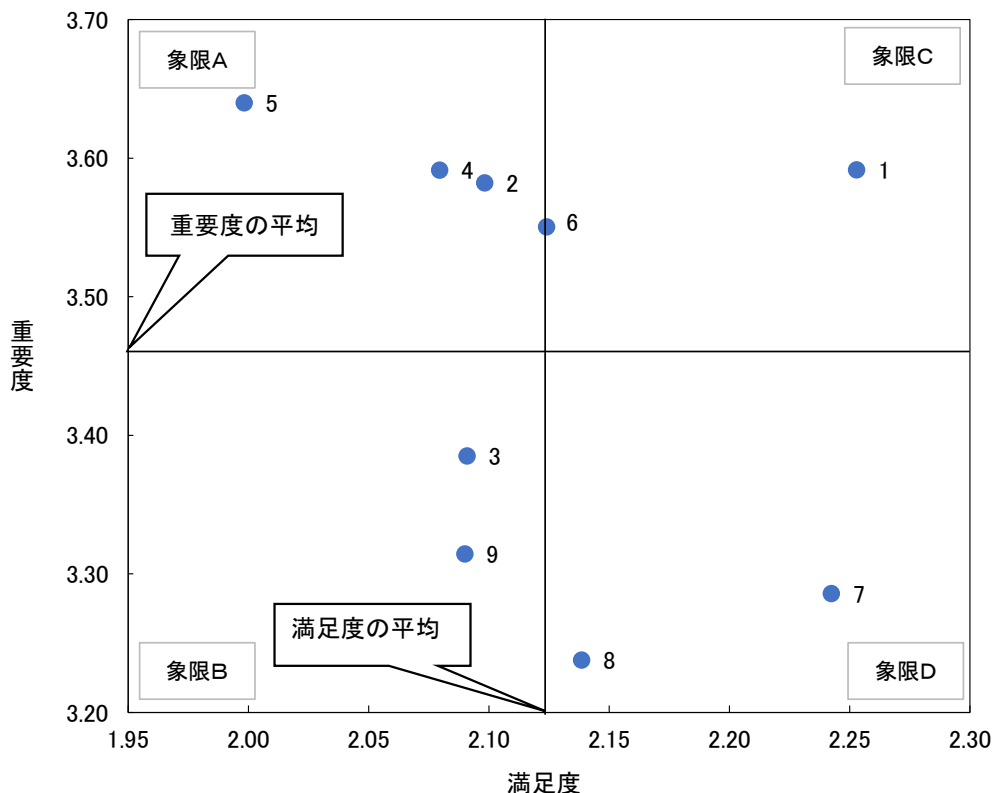
年代別	18～29歳	68	33.8%	20.6%	2.9%	20.6%	1.5%
	30～39歳	107	33.6%	26.2%	2.8%	20.6%	1.9%
	40～49歳	159	31.4%	28.9%	2.5%	15.7%	5.0%
	50～59歳	179	39.1%	38.5%	0.6%	10.1%	5.0%
	60～69歳	215	41.9%	30.7%	0.0%	9.3%	6.5%
	70～79歳	319	29.5%	21.9%	2.2%	12.2%	10.3%
	80歳以上	165	26.7%	19.4%	1.2%	8.5%	18.2%

## 8. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて

### 問37 次の項目の現在の満足度と今後の重要度はどれにあたりますか。(それぞれ0はひとつずつ)

各項目を点数化してみると、重要度・満足度ともに高い<象限C>に「1. 福祉サービスの利用支援」が入っています。また、重要度が高く、満足度の低い<象限A>には、「5. 地域における防災機能の強化」「4. 誰もが外出しやすい環境づくり」「2. 支援をつなぐ仕組みづくり」が入っています。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 福祉サービスの利用支援             | 6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保   |
| 2. 支援をつなぐ仕組みづくり            | 7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり |
| 3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり | 8. 地域福祉活動の担い手の育成           |
| 4. 誰もが外出しやすい環境づくり          | 9. 活動団体への支援                |
| 5. 地域における防災機能の強化           |                            |



象限A 重要度が高く、満足度が低いため、優先的に取り組みを進めるべき項目

象限B 重要度、満足度ともに低いため、他の取り組み状況を考慮しながら改善していくべき項目

象限C 重要度、満足度ともに高いため、引き続き推進していくべき項目

象限D 重要度が低く、満足度は高いため、満足度を維持しながら推進していくべき項目

#### ※点数化について※

「満足している／重要である」を4点、「ほぼ満足している／やや重要である」を3点、「あまり満足していない／あまり重要でない」を2点、「満足していない／重要でない」を1点とし、それぞれの回答者数に乘じ、合計した数値を実質の回答者数（全体の回答者より無回答数と「わからない」の回答数を引いた数値）で除した。

### 問 37×年代別、地区別

各項目を年代別、地区別にみると以下のとおりです。

1.福祉サービスの利用支援		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.26	3.54	C
	30～39歳	2.63	3.68	C
	40～49歳	2.12	3.55	A
	50～59歳	2.03	3.65	A
	60～69歳	2.14	3.62	C
	70～79歳	2.28	3.60	C
	80歳以上	2.48	3.44	D

2.支援をつなぐ仕組みづくり		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.25	3.51	C
	30～39歳	2.45	3.60	C
	40～49歳	1.96	3.60	A
	50～59歳	2.00	3.65	A
	60～69歳	1.90	3.62	A
	70～79歳	2.05	3.54	A
	80歳以上	2.37	3.51	C

地区別	上尾地区	2.20	3.59	C
	平方地区	2.52	3.71	C
	原市地区	2.17	3.58	C
	大石地区	2.35	3.63	C
	上平地区	2.14	3.53	C
	大谷地区	2.37	3.55	C
	原市団地	2.50	3.80	C
	尾山台団地	2.80	3.33	D
	西上尾第一団地	2.56	3.53	C
	西上尾第二団地	1.79	3.65	A

地区別	上尾地区	2.09	3.53	A
	平方地区	2.21	3.69	C
	原市地区	2.00	3.57	A
	大石地区	2.21	3.59	C
	上平地区	1.98	3.59	A
	大谷地区	2.13	3.58	C
	原市団地	1.75	3.80	A
	尾山台団地	2.60	3.67	C
	西上尾第一団地	2.53	3.58	C
	西上尾第二団地	1.82	3.67	A

3.さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.23	3.30	D
	30～39歳	2.25	3.42	D
	40～49歳	1.89	3.29	B
	50～59歳	2.02	3.31	B
	60～69歳	1.94	3.40	B
	70～79歳	2.07	3.46	B
	80歳以上	2.37	3.47	C

4.誰もが外出しやすい環境づくり		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.83	3.68	C
	30～39歳	2.39	3.51	C
	40～49歳	1.98	3.58	A
	50～59歳	1.82	3.68	A
	60～69歳	2.04	3.55	A
	70～79歳	2.01	3.56	A
	80歳以上	2.11	3.63	A

地区別	上尾地区	2.13	3.33	D
	平方地区	2.13	3.65	C
	原市地区	1.91	3.45	B
	大石地区	2.27	3.36	D
	上平地区	1.93	3.37	B
	大谷地区	2.00	3.37	B
	原市団地	2.00	3.33	B
	尾山台団地	2.00	3.50	A
	西上尾第一団地	2.44	3.43	D
	西上尾第二団地	2.06	3.41	B

地区別	上尾地区	2.20	3.55	C
	平方地区	1.84	3.67	A
	原市地区	1.76	3.62	A
	大石地区	2.08	3.56	A
	上平地区	1.91	3.63	A
	大谷地区	2.20	3.62	C
	原市団地	1.86	3.67	A
	尾山台団地	2.43	3.33	D
	西上尾第一団地	2.35	3.60	C
	西上尾第二団地	2.19	3.60	C

5.地域における防災機能の強化		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.43	3.65	C
	30～39歳	1.90	3.65	A
	40～49歳	1.87	3.63	A
	50～59歳	1.86	3.64	A
	60～69歳	1.89	3.58	A
	70～79歳	2.03	3.70	A
	80歳以上	2.20	3.62	C

6.地域における見守り・声かけによる安全の確保		満足度	重要度	象限
年代別	18～29歳	2.54	3.49	C
	30～39歳	2.37	3.56	C
	40～49歳	2.04	3.53	A
	50～59歳	2.11	3.52	A
	60～69歳	1.94	3.53	A
	70～79歳	2.04	3.59	A
	80歳以上	2.28	3.60	C

地区別	上尾地区	1.99	3.62	A
	平方地区	2.15	3.83	C
	原市地区	2.00	3.58	A
	大石地区	1.97	3.65	A
	上平地区	1.76	3.69	A
	大谷地区	2.00	3.63	A
	原市団地	1.83	3.83	A
	尾山台団地	2.50	3.67	C
	西上尾第一団地	2.59	3.50	C
	西上尾第二団地	2.04	3.70	A

地区別	上尾地区	2.19	3.52	C
	平方地区	2.19	3.79	C
	原市地区	2.18	3.43	D
	大石地区	1.97	3.56	A
	上平地区	2.00	3.61	A
	大谷地区	2.18	3.54	C
	原市団地	1.50	3.71	A
	尾山台団地	2.40	3.50	C
	西上尾第一団地	2.44	3.54	C
	西上尾第二団地	1.93	3.74	A

7.隣近所や地域の力 による福祉活動の きっかけづくり		満足度	重要度	象限
年 代 別	18～29歳	2.45	3.08	D
	30～39歳	2.40	3.21	D
	40～49歳	2.23	3.21	D
	50～59歳	2.26	3.24	D
	60～69歳	2.13	3.26	D
	70～79歳	2.18	3.40	D
	80歳以上	2.37	3.41	D

地 区 別	上尾地区	2.12	3.25	B
	平方地区	2.41	3.63	C
	原市地区	2.21	3.14	D
	大石地区	2.40	3.39	D
	上平地区	2.33	3.33	D
	大谷地区	2.32	3.31	D
	原市団地	1.75	3.71	A
	尾山台団地	2.29	3.25	D
	西上尾第一団地	2.33	3.21	D
	西上尾第二団地	2.14	3.13	D

8.地域福祉活動の 担い手の育成		満足度	重要度	象限
年 代 別	18～29歳	2.28	3.00	D
	30～39歳	2.25	3.18	D
	40～49歳	2.16	3.09	D
	50～59歳	1.97	3.18	B
	60～69歳	1.97	3.25	B
	70～79歳	2.12	3.37	D
	80歳以上	2.45	3.39	D

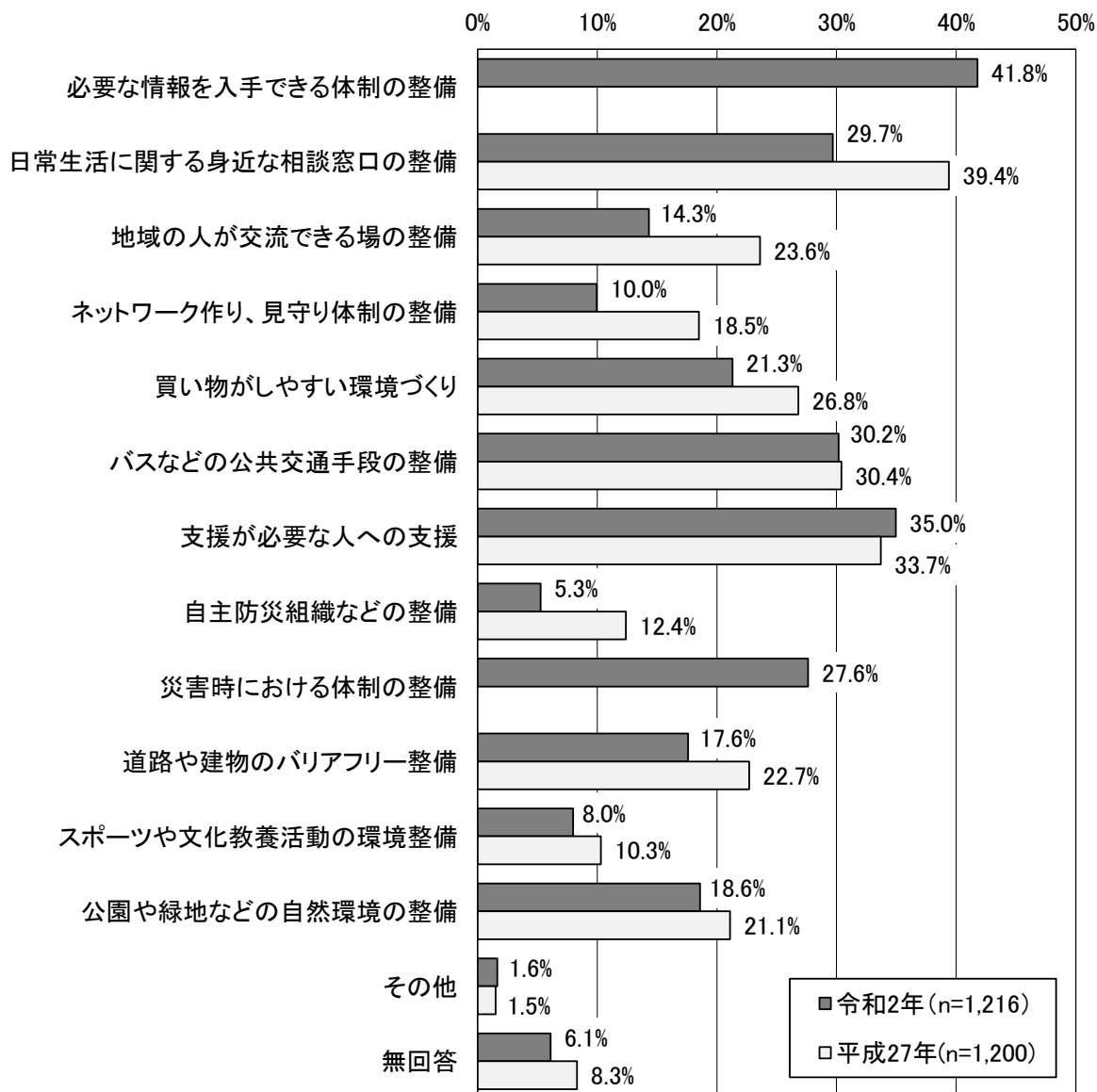
地 区 別	上尾地区	2.04	3.19	B
	平方地区	2.36	3.49	C
	原市地区	2.12	3.23	B
	大石地区	2.18	3.26	D
	上平地区	2.13	3.20	D
	大谷地区	2.23	3.26	D
	原市団地	2.00	3.50	A
	尾山台団地	2.20	3.50	C
	西上尾第一団地	2.44	3.29	D
	西上尾第二団地	2.00	3.23	B

9.活動団体への支援		満足度	重要度	象限
年 代 別	18～29歳	2.40	3.21	D
	30～39歳	2.42	3.33	D
	40～49歳	2.24	3.26	D
	50～59歳	2.00	3.34	B
	60～69歳	1.82	3.25	B
	70～79歳	2.03	3.39	B
	80歳以上	2.28	3.36	D

地 区 別	上尾地区	2.05	3.29	B
	平方地区	2.25	3.51	C
	原市地区	1.91	3.29	B
	大石地区	2.27	3.37	D
	上平地区	2.04	3.29	B
	大谷地区	2.02	3.36	B
	原市団地	1.50	3.60	A
	尾山台団地	2.33	3.11	D
	西上尾第一団地	2.29	3.31	D
	西上尾第二団地	2.00	3.33	B

問38 地域での暮らしをより豊かにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)

地域でのより豊かな暮らしのために必要なものについては、「必要な情報入手できる体制の整備」が41.8%と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が35.0%、「バスなどの公共交通手段の整備」が30.2%となっています。



※平成27年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。

問 38×年代別、地区別

年代別にみると、18～79 歳では「必要な情報を入手できる体制の整備」、80 歳以上では「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が最も高くなっています。

地区別では、上尾地区、平方地区、原市地区、大石地区、上平地区、大谷地区、西上尾第一団地では「必要な情報を入手できる体制の整備」（西上尾第一団地では「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」も同率）、原市団地では「買い物がしやすい環境づくり」「バスなどの公共交通手段の整備」、尾山台団地では「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」「支援が必要な人への支援」、西上尾第二団地では「バスなどの公共交通手段の整備」が最も高くなっています。

		n	必要な情報を入手できる体制の整備	日常生活に関する身近な相談窓口の整備	地域の人と交流できる場の整備	ネットワーク作り、見守り体制の整備	買い物がしやすい環境づくり	バスなどの公共交通手段の整備	支援が必要な人への支援
年代別	18～29歳	68	51.5%	19.1%	11.8%	13.2%	14.7%	32.4%	27.9%
	30～39歳	107	49.5%	20.6%	11.2%	15.0%	20.6%	28.0%	38.3%
	40～49歳	159	47.2%	27.7%	11.3%	15.1%	19.5%	30.2%	40.3%
	50～59歳	179	52.5%	35.2%	6.1%	10.1%	22.9%	35.2%	41.3%
	60～69歳	215	42.8%	32.1%	16.7%	8.4%	17.2%	28.4%	42.3%
	70～79歳	319	33.2%	29.8%	18.8%	6.3%	25.1%	29.2%	29.5%
	80歳以上	165	31.5%	32.7%	17.6%	9.7%	21.8%	29.7%	25.5%

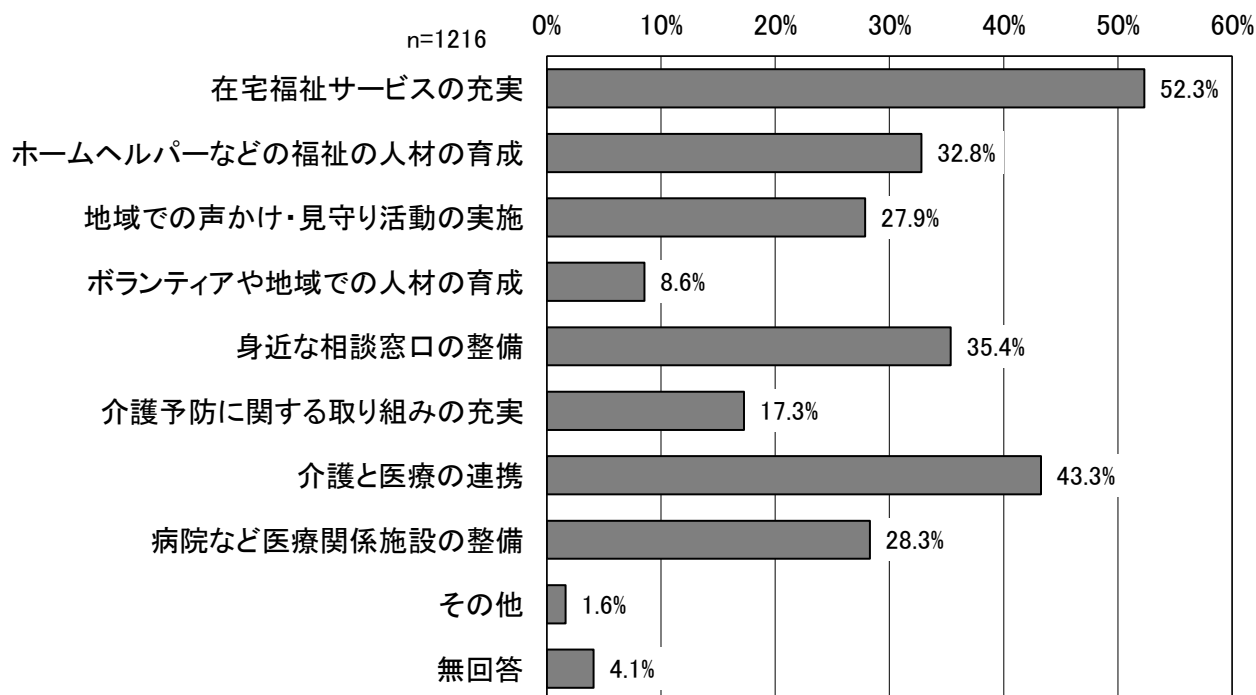
地区別	上尾地区	389	43.2%	30.8%	15.4%	11.3%	20.3%	24.4%	38.3%
	平方地区	55	38.2%	23.6%	20.0%	9.1%	25.5%	29.1%	23.6%
	原市地区	157	44.6%	29.3%	17.8%	10.8%	24.2%	29.9%	33.1%
	大石地区	150	38.7%	28.0%	16.0%	8.7%	16.7%	31.3%	33.3%
	上平地区	144	43.1%	31.3%	11.8%	6.3%	20.1%	35.4%	36.1%
	大谷地区	108	38.0%	27.8%	12.0%	9.3%	19.4%	35.2%	34.3%
	原市団地	10	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	70.0%	70.0%	30.0%
	尾山台団地	15	33.3%	40.0%	6.7%	13.3%	26.7%	26.7%	40.0%
	西上尾第一団地	61	32.8%	32.8%	1.6%	9.8%	23.0%	24.6%	31.1%
	西上尾第二団地	50	34.0%	30.0%	18.0%	6.0%	26.0%	40.0%	28.0%

		n	自主防災組織などの整備	災害時における体制の整備	道路や建物のバリアフリー整備	スポーツや文化教養活動の環境整備	公園や緑地などの自然環境の整備	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	10.3%	23.5%	26.5%	13.2%	23.5%	1.5%	2.9%
	30～39歳	107	3.7%	34.6%	18.7%	9.3%	31.8%	1.9%	1.9%
	40～49歳	159	5.7%	30.8%	19.5%	6.9%	22.0%	1.9%	1.9%
	50～59歳	179	2.8%	27.4%	20.1%	7.3%	13.4%	2.8%	1.7%
	60～69歳	215	5.1%	31.6%	16.3%	10.2%	19.1%	1.4%	2.8%
	70～79歳	319	6.3%	26.6%	16.3%	6.9%	16.9%	1.3%	9.7%
	80歳以上	165	4.8%	18.8%	13.3%	5.5%	12.1%	1.2%	15.8%

地区別	上尾地区	389	4.6%	32.1%	19.8%	6.9%	19.8%	1.3%	4.9%
	平方地区	55	9.1%	25.5%	10.9%	10.9%	14.5%	1.8%	9.1%
	原市地区	157	4.5%	15.9%	13.4%	7.6%	21.7%	0.6%	7.0%
	大石地区	150	4.7%	31.3%	16.0%	10.7%	18.0%	2.0%	8.0%
	上平地区	144	6.3%	23.6%	18.8%	7.6%	13.9%	4.2%	6.9%
	大谷地区	108	5.6%	37.0%	13.0%	9.3%	25.0%	1.9%	2.8%
	原市団地	10	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%
	尾山台団地	15	13.3%	26.7%	20.0%	13.3%	13.3%	13.3%	0.0%
	西上尾第一団地	61	3.3%	24.6%	23.0%	1.6%	11.5%	0.0%	13.1%
	西上尾第二団地	50	8.0%	16.0%	24.0%	10.0%	8.0%	0.0%	8.0%

**問 39 高齢者が安心して暮らすためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)**

高齢者が安心して暮らすために必要なものについては、「在宅福祉サービスの充実」が52.3%と最も高く、次いで「介護と医療の連携」が43.3%、「身近な相談窓口の整備」が35.4%となっています。



問 39×年代別、地区別

年代別にみると、すべての年代で「在宅福祉サービスの充実」が最も高くなっています。

地区別にみると、大谷地区、原市団地、尾山台団地を除くすべての地区で「在宅福祉サービスの充実」（西上尾第二団地は「身近な相談窓口の整備」も同率）、大谷地区では「介護と医療の連携」、原市団地、尾山台団地では「身近な相談窓口の整備」が最も高くなっています。

		n	在宅福祉サービスの充実	ホームヘルパーなどの福祉の人材の育成	地域での声かけ・見守り活動の実施	ボランティアや地域での人材の育成	身近な相談窓口の整備
年代別	18～29歳	68	55.9%	35.3%	23.5%	17.6%	27.9%
	30～39歳	107	54.2%	47.7%	33.6%	8.4%	23.4%
	40～49歳	159	49.1%	43.4%	26.4%	7.5%	34.6%
	50～59歳	179	53.1%	29.6%	31.8%	7.8%	41.3%
	60～69歳	215	56.3%	33.5%	27.4%	9.3%	38.1%
	70～79歳	319	53.3%	27.9%	25.1%	9.1%	35.4%
	80歳以上	165	45.5%	24.2%	28.5%	4.8%	35.8%

地区別	上尾地区	389	49.9%	37.8%	27.0%	10.3%	34.2%
	平方地区	55	65.5%	34.5%	23.6%	7.3%	18.2%
	原市地区	157	49.0%	29.3%	27.4%	5.1%	36.9%
	大石地区	150	60.0%	28.7%	30.7%	10.0%	30.0%
	上平地区	144	54.9%	26.4%	32.6%	7.6%	42.4%
	大谷地区	108	53.7%	34.3%	25.9%	7.4%	31.5%
	原市団地	10	50.0%	20.0%	30.0%	10.0%	70.0%
	尾山台団地	15	40.0%	33.3%	20.0%	0.0%	60.0%
	西上尾第一団地	61	47.5%	23.0%	26.2%	0.0%	41.0%
	西上尾第二団地	50	36.0%	32.0%	30.0%	16.0%	36.0%

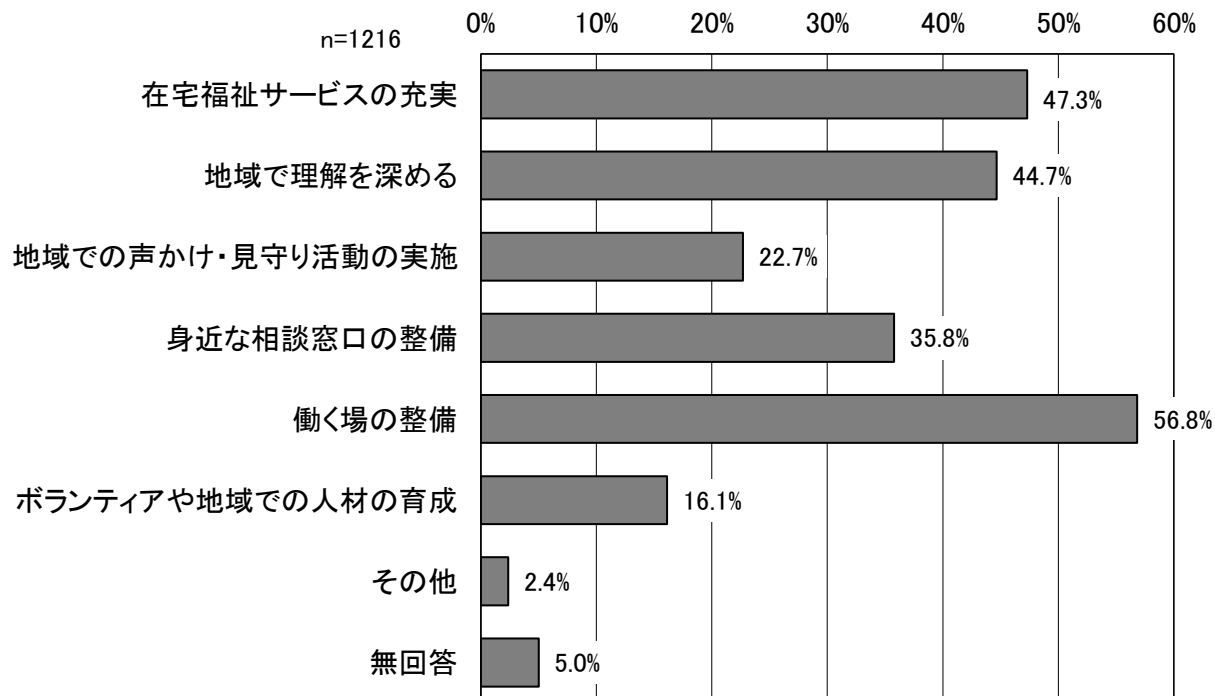
		n	介護予防に関する取り組みの充実	介護と医療の連携	病院など医療関係施設の整備	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	16.2%	48.5%	25.0%	0.0%	1.5%
	30～39歳	107	19.6%	45.8%	32.7%	2.8%	1.9%
	40～49歳	159	17.6%	47.8%	23.3%	3.8%	0.0%
	50～59歳	179	17.3%	44.7%	27.4%	2.8%	1.7%
	60～69歳	215	17.7%	43.3%	30.2%	0.0%	1.9%
	70～79歳	319	16.6%	39.5%	31.7%	0.9%	5.6%
	80歳以上	165	17.0%	40.6%	23.6%	1.8%	13.3%

地区別	上尾地区	389	17.0%	46.0%	28.5%	1.3%	4.6%
	平方地区	55	18.2%	47.3%	25.5%	3.6%	5.5%
	原市地区	157	14.6%	32.5%	30.6%	1.9%	5.7%
	大石地区	150	20.0%	37.3%	26.7%	1.3%	4.7%
	上平地区	144	16.0%	45.1%	22.9%	1.4%	5.6%
	大谷地区	108	18.5%	54.6%	28.7%	0.9%	0.9%
	原市団地	10	10.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	13.3%	33.3%	33.3%	6.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	14.8%	42.6%	32.8%	1.6%	4.9%
	西上尾第二団地	50	22.0%	34.0%	28.0%	6.0%	2.0%



**問 40 障害者が生きがいをもって暮らすためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)**

障害者が生きがいをもって暮らすために必要なものについては、「働く場の整備」が56.8%と最も高く、次いで「在宅福祉サービスの充実」が47.3%、「地域で理解を深める」が44.7%となっています。



問 40×年代別、地区別

年代別にみると、70歳未満で「働く場の整備」、70歳以上で「在宅福祉サービスの充実」が最も高くなっています。

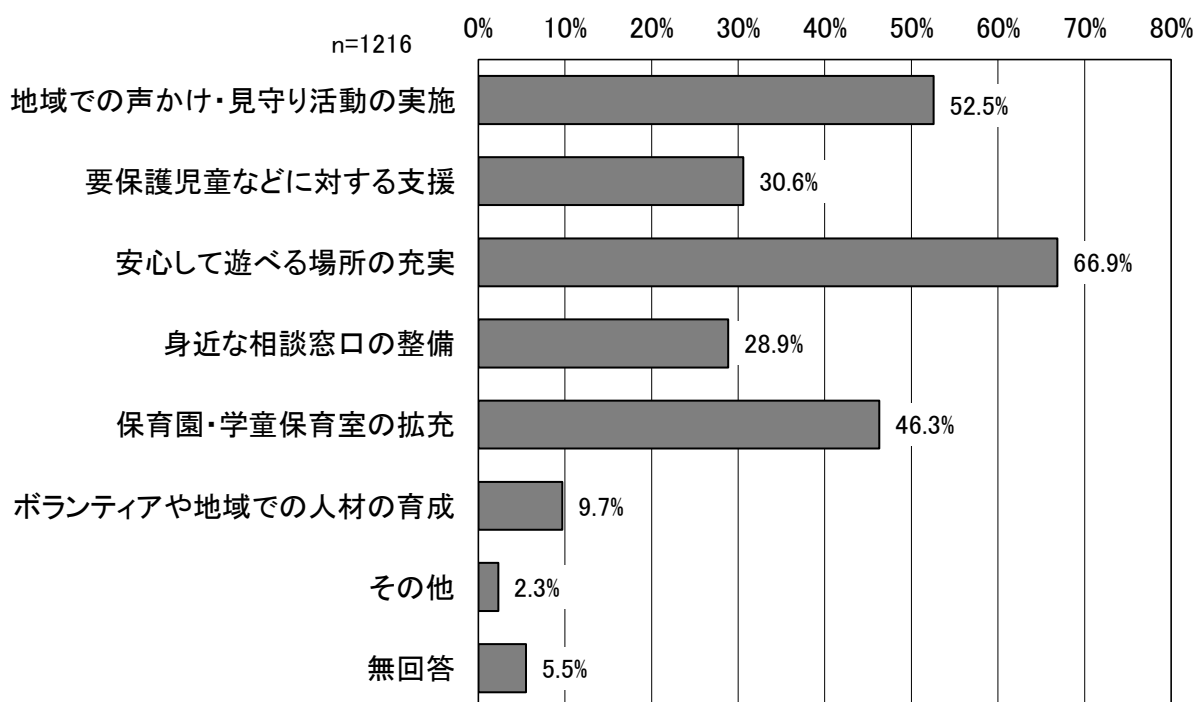
地区別にみると、平方地区、西上尾第一団地を除くすべての地区で「働く場の整備」、平方地区では「在宅福祉サービスの充実」、西上尾第一団地では「身近な相談窓口の整備」が最も高くなっています。

		n	在宅福祉サービスの充実	地域で理解を深める	地域での声かけ・見守り活動の実施	身近な相談窓口の整備	働く場の整備	ボランティアや地域での人材の育成	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	44.1%	39.7%	19.1%	29.4%	60.3%	10.3%	2.9%	2.9%
	30～39歳	107	45.8%	50.5%	16.8%	27.1%	77.6%	23.4%	3.7%	2.8%
	40～49歳	159	39.6%	47.2%	17.0%	35.8%	75.5%	16.4%	4.4%	0.6%
	50～59歳	179	47.5%	48.0%	16.8%	34.1%	69.3%	12.3%	3.9%	1.7%
	60～69歳	215	47.0%	47.0%	19.5%	38.1%	65.6%	14.9%	1.4%	2.3%
	70～79歳	319	52.0%	39.5%	29.8%	39.2%	39.8%	17.6%	1.3%	6.9%
	80歳以上	165	47.9%	43.0%	29.7%	36.4%	32.1%	17.0%	1.2%	15.2%

地区別	上尾地区	389	47.3%	41.4%	19.8%	36.0%	58.6%	20.3%	2.3%	5.4%
	平方地区	55	58.2%	41.8%	20.0%	40.0%	49.1%	10.9%	1.8%	5.5%
	原市地区	157	47.1%	45.2%	16.6%	34.4%	52.2%	13.4%	2.5%	6.4%
	大石地区	150	44.0%	47.3%	30.7%	34.7%	56.7%	14.0%	1.3%	4.7%
	上平地区	144	45.8%	54.9%	30.6%	33.3%	61.8%	13.9%	3.5%	5.6%
	大谷地区	108	53.7%	48.1%	19.4%	27.8%	60.2%	13.0%	2.8%	1.9%
	原市団地	10	30.0%	30.0%	10.0%	40.0%	50.0%	30.0%	0.0%	20.0%
	尾山台団地	15	40.0%	40.0%	26.7%	46.7%	60.0%	13.3%	0.0%	0.0%
	西上尾第一団地	61	41.0%	44.3%	24.6%	45.9%	37.7%	11.5%	1.6%	9.8%
	西上尾第二団地	50	38.0%	38.0%	30.0%	42.0%	52.0%	16.0%	6.0%	4.0%

**問 41 子どもが健やかに育つためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)**

子どもが健やかに育つために必要なものについては、「安心して遊べる場所の充実」が66.9%と最も高く、次いで「地域での声かけ・見守り活動の実施」が52.5%、「保育園・学童保育室の拡充」が46.3%となっています。



問 41×年代別、地区別

年代別にみると、すべての年代で「安心して遊べる場所の充実」が最も高くなっています。

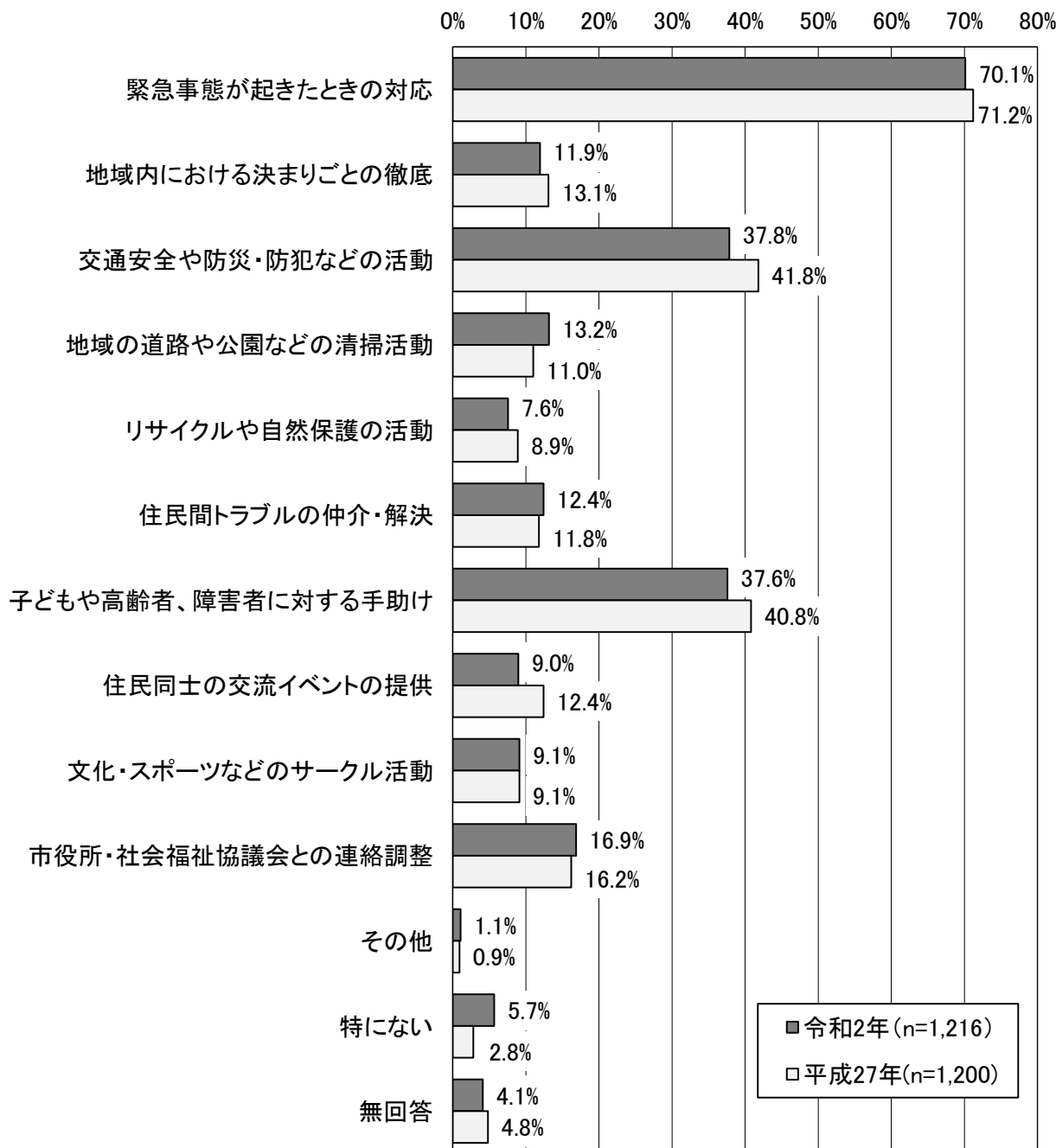
地区別にみると、西上尾第二団地を除くすべての地区で「安心して遊べる場所の充実」（原市団地では「保育園・学童保育室の充実」も同率）、西上尾第二団地では「地域での声かけ・見守り活動の実施」が最も高くなっています。

		n	地域での声かけ・見守り活動の実施	要保護児童などに対する支援	安心して遊べる場所の充実	身近な相談窓口の整備	保育園・学童保育室の充実	ボランティアや地域での人材の育成	その他	無回答
年代別	18～29歳	68	48.5%	26.5%	77.9%	27.9%	63.2%	7.4%	2.9%	2.9%
	30～39歳	107	48.6%	28.0%	77.6%	27.1%	59.8%	10.3%	1.9%	0.9%
	40～49歳	159	56.0%	27.0%	79.2%	34.0%	43.4%	9.4%	4.4%	0.0%
	50～59歳	179	53.1%	33.0%	65.4%	29.1%	49.2%	10.6%	3.4%	1.7%
	60～69歳	215	53.5%	39.5%	63.7%	29.8%	52.6%	7.4%	0.5%	1.9%
	70～79歳	319	52.4%	28.8%	61.4%	29.5%	41.7%	11.9%	1.9%	8.2%
	80歳以上	165	52.1%	27.3%	60.0%	23.6%	30.9%	8.5%	1.8%	18.8%

地区別	上尾地区	389	50.4%	33.4%	68.4%	30.1%	46.0%	9.3%	1.5%	5.4%
	平方地区	55	47.3%	20.0%	69.1%	21.8%	54.5%	9.1%	1.8%	9.1%
	原市地区	157	54.1%	28.7%	65.6%	27.4%	40.1%	8.9%	1.9%	6.4%
	大石地区	150	55.3%	25.3%	64.0%	20.7%	47.3%	12.0%	2.7%	8.0%
	上平地区	144	59.7%	31.9%	69.4%	36.1%	47.2%	6.9%	2.8%	4.2%
	大谷地区	108	52.8%	37.0%	71.3%	20.4%	44.4%	13.0%	1.9%	4.6%
	原市団地	10	50.0%	40.0%	60.0%	20.0%	60.0%	10.0%	0.0%	10.0%
	尾山台団地	15	40.0%	6.7%	80.0%	40.0%	40.0%	0.0%	13.3%	0.0%
	西上尾第一団地	61	39.3%	39.3%	59.0%	31.1%	47.5%	9.8%	3.3%	4.9%
	西上尾第二団地	50	60.0%	28.0%	50.0%	30.0%	40.0%	14.0%	4.0%	8.0%

**問 42 あなたが住んでいる地域のなかで安心して暮らしていくには、地域にある組織や団体に対してどのような活動を期待していますか。(〇は3つまで)**

住んでいる地域のなかで安心して暮らしていくために、地域にある組織や団体に対して期待する活動については、「緊急事態が起きたときの対応」が70.1%と最も高く、次いで「交通安全や防災・防犯などの活動」が37.8%、「子どもや高齢者、障害者に対する手助け」が37.6%となっています。



問 42×年代別、地区別

年代別にみると、すべての年代で「緊急事態が起きたときの対応」が最も高くなっています。地区別にみると、すべての地区で「緊急事態が起きたときの対応」が最も高くなっています。

	n	緊急事態 が起きたと きの対応	地域内に おける決 まりごとの 徹底	交通安全 や防災・防 犯などの 活動	地域の道 路や公園 などの清 掃活動	リサイクル や自然保 護の活動	住民間トラ ブルの仲 介・解決	子どもや 高齢者、 障害者に 対する手 助け	
年代別	18～29歳	68	69.1%	10.3%	42.6%	26.5%	8.8%	25.0%	23.5%
	30～39歳	107	67.3%	11.2%	48.6%	21.5%	4.7%	15.9%	44.9%
	40～49歳	159	76.1%	6.3%	43.4%	16.4%	6.9%	20.1%	42.1%
	50～59歳	179	76.0%	8.4%	46.9%	11.2%	6.1%	16.8%	38.0%
	60～69歳	215	73.5%	10.7%	40.5%	10.2%	8.4%	9.3%	38.1%
	70～79歳	319	68.7%	15.0%	28.2%	11.6%	9.7%	7.2%	35.1%
	80歳以上	165	58.8%	18.2%	29.1%	8.5%	5.5%	7.3%	38.2%

地区別	上尾地区	389	72.2%	10.5%	38.0%	14.1%	8.0%	12.6%	38.8%
	平方地区	55	67.3%	10.9%	34.5%	14.5%	10.9%	3.6%	25.5%
	原市地区	157	65.0%	11.5%	36.3%	11.5%	5.7%	10.8%	38.9%
	大石地区	150	66.7%	15.3%	34.7%	14.7%	12.0%	12.7%	32.7%
	上平地区	144	73.6%	10.4%	45.1%	13.2%	4.9%	16.0%	41.0%
	大谷地区	108	78.7%	13.0%	41.7%	11.1%	3.7%	6.5%	40.7%
	原市団地	10	80.0%	30.0%	40.0%	30.0%	0.0%	20.0%	30.0%
	尾山台団地	15	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	13.3%	53.3%
	西上尾第一団地	61	62.3%	13.1%	27.9%	4.9%	9.8%	18.0%	26.2%
	西上尾第二団地	50	64.0%	16.0%	22.0%	16.0%	12.0%	10.0%	36.0%

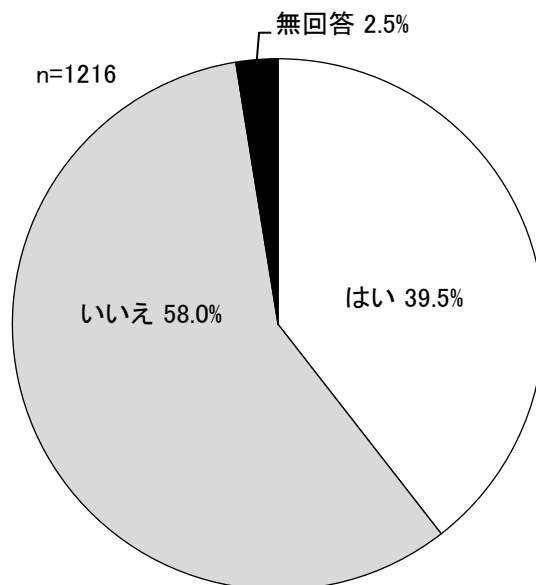
	n	住民同士 の交流イ ベントの提 供	文化・ス ポーツなど のサーク ル活動	市役所・社 会福祉協 議会との 連絡調整	その他	特にな い	無回答	
年代別	18～29歳	68	4.4%	10.3%	8.8%	0.0%	2.9%	2.9%
	30～39歳	107	10.3%	9.3%	8.4%	0.0%	8.4%	0.9%
	40～49歳	159	8.8%	8.2%	10.7%	0.6%	5.7%	0.0%
	50～59歳	179	2.8%	7.3%	15.6%	0.6%	5.6%	1.7%
	60～69歳	215	9.8%	10.7%	19.5%	1.4%	3.7%	2.3%
	70～79歳	319	12.9%	8.8%	20.7%	1.3%	6.3%	6.0%
	80歳以上	165	8.5%	9.7%	21.8%	2.4%	6.7%	12.1%

地区別	上尾地区	389	8.0%	9.5%	17.0%	1.3%	3.6%	4.6%
	平方地区	55	10.9%	10.9%	20.0%	1.8%	7.3%	7.3%
	原市地区	157	7.0%	7.6%	14.6%	1.9%	6.4%	5.1%
	大石地区	150	13.3%	12.0%	14.7%	0.7%	6.0%	5.3%
	上平地区	144	8.3%	9.0%	13.9%	0.7%	6.3%	2.8%
	大谷地区	108	11.1%	6.5%	15.7%	0.9%	7.4%	1.9%
	原市団地	10	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	尾山台団地	15	6.7%	6.7%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	西上尾第一団地	61	6.6%	8.2%	31.1%	0.0%	4.9%	4.9%
	西上尾第二団地	50	14.0%	6.0%	18.0%	2.0%	14.0%	4.0%

## 9. 新型コロナウイルス問題について

### 問 43 あなたは、新型コロナウイルス問題に関連して、困ったことがありましたか。(どちらかに○)

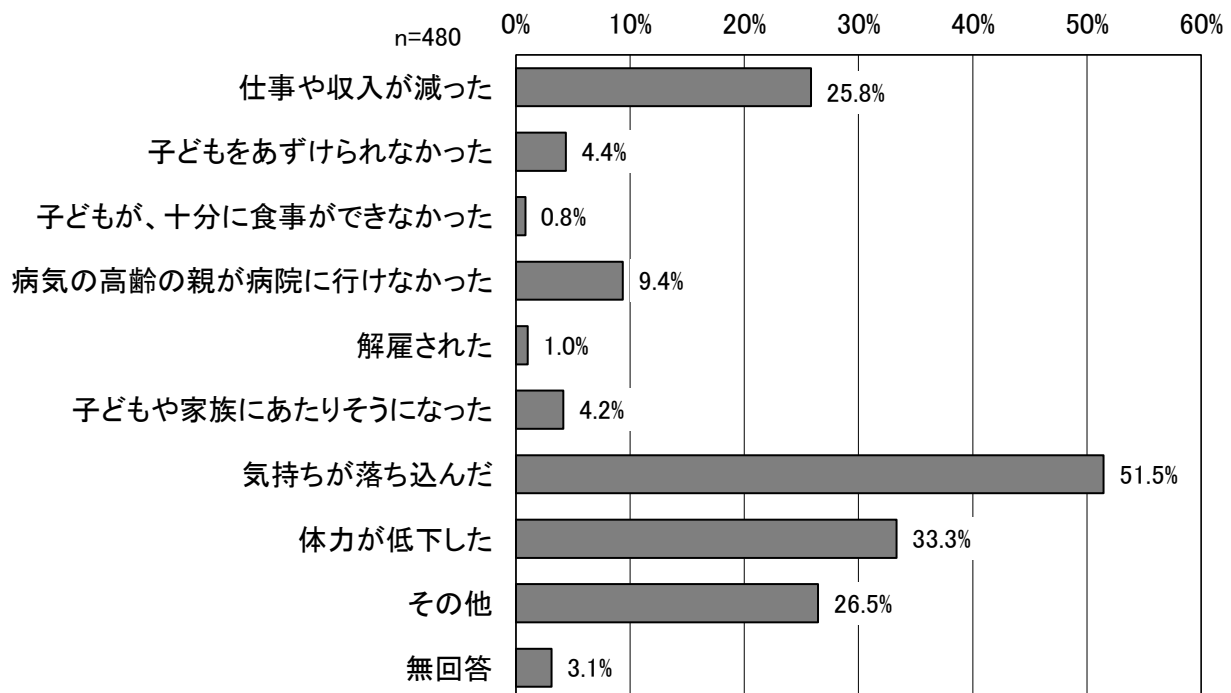
新型コロナウイルス問題に関連して困ったことがあったかについては、「はい」が 39.5%、「いいえ」が 58.0%となっています。



※問 43 で「1 はい (困ったことがあった)」を選んだ方にうかがいます

### 問 44 それはどんなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス問題に関連した困ったことについては、「気持ちが落ち込んだ」が 51.5%と最も高く、次いで「体力が低下した」が 33.3%、「仕事や収入が減った」が 25.8%となっています。



問 45 あなたは、新型コロナウイルス問題に関連して、心配事や気になることがありますか。ご自由にお書きください。

市民の皆さまからいただいた主なご意見・ご要望は以下のとおりです。

- いつどこで感染するか分からないので心配です。
- 家族がコロナにうつらないか心配です。
- 体調が悪い時に PCR 検査を近くの病院ですぐに受けられるようにしてほしい。
- 新型コロナウイルスが疑われる症状が起こった際の検査を受けるまでの体制が、すべて自分で確認しなければならないのが大変でした。私の場合、病院受診方法（Telにて事前に病院へ連絡する等）を保健所のようなところへ確認し、自分で受信可能な病院をさがし（Telで何件も確認）予約を入れました。症状が比較的軽いのでできたと思いますが、大変だと感じました。
- PCR 検査等無料でできるようにしてもらいたいです。
- ワクチンを 1 日も早く供給してほしい。
- 1 日も早く元の生活に戻りたい。それだけです。
- パートの収入が減って、勤め先の業績も悪いので、いつ解雇されるか心配です。
- コロナが終息したからといって、仕事や収入が増えるわけではない。生活が不安！
- 感染時の収入や費用。
- 会社への補助が社員、個人の補助につながらない場合がある。会社が支援金を得ても会社の存続や社員の雇用が継続される保証はないし、組織ではなく個人への支援をもっと充実させるべき。
- 私の地域のごみ置場に、若い男の人がごみの中から食べられるのを見つけている（探している）姿を見て、今のコロナが、経済的に困っている若い人がいる現実とみて、どうすることもできずショックをうけた。
- 冬のボーナスが出ないかもと言われた。医療従事者にしては月給が安く常に割に合わない中でさらにモチベーションが落ちるし、今後どう生活していこうか悩む。好きで子供がいないわけではないし、将来に対する不安は増す一方である。
- 今後の経済状況。
- 情報の提供、どこでどんな時誰がを公表すべき。
- 個人情報守秘義務はありますが、市内の感染状況をより細かい情報提供が必要である。何時もびくびくしながら生活するのは精神的にも不安である。感染者がどこに居るかわからない生活は怯えてしかない。
- 市民に対しての感染状況の現状や予防対策および対応医療機関について、常に最新の情報提供をきめ細かい展開にしていきたい。市の広報車による巡回広報も単調で同じことばかりを繰り返している。またネットによる周知、市の防災便りもきわめて単調で、最新状況や具体的な対応についてタイムリーに展開してほしい。
- 社会の変化についていけず、孤立化がすすむ。スマホ、コンピュータ、タブレットなど何もなく、情報不足が著しくなる。



- 新聞に毎日上尾市のコロナ感染者数(累計)が載っています。累計は注意喚起にはいいのですが、陰性となった感染者(快復者)が何人いるのか記載されていないため、現在の陽性者は何人なのか(感染実態)が分からず不安感だけが增大していきます。快復者数も発表すべきではないでしょうか。担当部署にお伝え頂ければと思います。
- この状態がいつまで続くのか先が読めず不安。人との交流がなくなった。
- 新しい生活様式がいつまで続くのか。
- コロナに万一なってしまった時の対応について、上尾市として受け入れ体制が十分なのか気になる。(保健所や病院など)
- 一人暮らしの人間が自宅隔離となったら食事も出来なくなる。行政が助けてくれるのだろうか。
- 独居なので感染した際、身の回りの事ができるかどうか心配。そうした際に市などが相談にのってくれるのか?そう相談先もよく分かっていない。
- 施設に入所している老人と会えないことが心配。
- 入院中の家族に自由に面会ができない。
- 夫婦で70代であるため、そして夫が持病を持っている為感染が心配で子や孫たちとも会えず、なるべく自粛せねばと思い早くワクチンや治療薬で治るような体制が整って欲しい。
- 買い物に行くのも怖い時がある。マスクをしていない人が結構いる。
- 東京で勤務してますが上尾を歩く方が怖いです。特に男性は上尾では上尾の駅の車内以外はマスクをしない人が多いです。最初は年配の男性だけでしたが若い人もそうですね。
- 母親が認知症のため、新型コロナウイルス問題を理解できないので当人の手洗い、うがい、マスク等徹底する(させる)事が難しい事。
- 高齢の父に若い世代の親族(孫やひ孫等)を合わせられなくなり、外出もできず結局決まった人(2人)としか会話等出来ない為、認知症が進んでいる。介護施設にいる母も面会が出来ない間にすっかりボケてしまった。父を支えているはずの私たち夫婦の間も孤独になりがちで、会話も無くなり毎日が暗い。とにかく外出して人に合うのが怖いのでどうしても籠りがちになっている。
- 今までジムに行っていたが、コロナ感染が心配で休会しているので体力が落ち運動不足になっている。子どもが在宅勤務になり、朝、昼、晩、食事の用意等大変。ストレスや心配事が多くなり、健康面でも耳鳴り等出て衰えを感じる。旅行や友達との交流も減り楽しみがない。
- 人と会う機会が減り、閉じこもる事が多くなる。病院入院、介護施設の面会が出来るようにした方が良いと思う。(マスク、アルコール消毒徹底はもちろんやる)
- 体調が悪くても、コロナが怖くて受診できません。受診しても薬物アレルギーがあり、薬を服用すると咳が出てしまうので受診するかしないか決心が付きません。
- もしもかかった場合の手順がわからない。病院か保健所どちらが先か、又、最寄りの保健所がどこなのか、場所、電話番号、周知されてない。
- 発熱時の受診の流れ、対処。自分が感染した時の家族の生活。(家事や保育を行う者がいない)
- どこに連絡をすればいいのかを誰でも分かるようにしてほしい。(感染した時)

- コロナウィルス問題の誹謗中傷が気になります。かかってしまった方は本当に大変なのに絶対にやってはいけないと思います。
- 自分や家族がコロナに感染した時、近所などの目が気になる。
- コロナに感染した際のイジメ。
- 差別を受けるのではないかと（地域で、職場で、保育所で）
- 今の所、自分で気を付ける事位しかできないので、やるべき事をやっっていこうと思っています。
- デイサービスに行かせるにも感染が気になるし介護している私や妻が感染していないか不安。
- 十分に注意はしていても外出時などは特に心配で消毒等、家に帰ってからの仕事が増えた。買い物自由が出来なくなった。
- 出掛けることに対して罪悪感、不安があって、なかなか大型施設、デパートなど、遠出ができない。
- 毎日、電車で通勤先へ通勤しており、電車内や駅など比較的人が集まりやすい場所を行き来するため感染しないか心配。
- 子がリモートワークが終わり電車通勤が始まりました（東京へ）。高齢者には恐怖です。予防対策はしておりますが心配です。
- 医療体制への不安、流行拡大期にきちんと対応できるのかPCR検査などがすぐに行われるか。
- 自分がなったら、病気になることより、他の人に迷惑をかけてしまう事の方が怖い。そう思うと、外出や遊びなど、中々前のように行けない。
- 犯罪の増加。
- この先まだまだ流行ると思う。これまでの経験を生かして守ること、改善すべきこと等なち学んだこともあると思う。マスクの件にしても、高値の物を買わされたり差別があったり、支援金詐欺が起きたり、想像は出来ても政治的な対策が遅れていると思う。早急な取り組みで老人、子供、未来の若い人たち、障害を持っている人たちを守ってほしい。
- 上尾のコロナ感染防止の具体的な政策を知りたい。
- 上尾市の予防、対策の指導の強化が必要と感じる。「上尾市社会福祉協議会」としての対応は？
- コロナが流行し始めの頃に熱があるので、かかりつけの病院（個人）に電話をしたら別の病院を紹介され診察してもらえず困りました。次の病院を紹介されるなどのたらいまわしされた。
- 個人が普段から（3密）気を付ければ良い。気にしすぎ。
- 具合が悪い場合に行きつけの医院の場合は駐車場で先生に判断してもらい、そのまま病院の紹介があるのだと聞きました。でも私の場合は自宅から病院にTELすると聞きました。車移動は出来ません。バスもタクシーもダメなら何をどのようにしたらよいか分かりません。他市はいつも自転車又は徒歩で生活しています。救急車で行くのでしょうか？一番の心配事です。
- コロナ感染を恐れ、交通手段を利用しての外出が心配で子育て支援にも行けず困りました。身内（子供夫婦）がコロナに感染した場合、小さな孫のお世話ができない不安。
- ワクチンの安全性

- 市立高校、大学の学費が通常通りなのはおかしいと思う。数か月、リモート授業、行事もなくなりそれで同じ学費がどうして必要でしょうか。
- 幼い子供のいる家庭への支援。
- 子供が思いきり遊べる場所が減ったり地域交流の場がなくなり、ストレスがたまっていく一方でした。むずかしい問題ですが禁止することばかりではなくその分新しい方法で違うことを行ってほしい。
- 医療従事者/介護従事者のバックアップ。善意だけでもたれかかるのでは従事者がつぶれる。
- 最近Withコロナという名のもとに、ゆるんできている。学校のPTAの集まり、活動は必要なのか？誰も「なくす」前提で考えている人がいない。あったらいいかもしれないが、なくしても困らないのでは？今までやってきた活動をコロナの中でもこう工夫して前年と同じようにやりました、ではなく必要最低限のものに絞るような動きをしてほしい。PTA活動でコロナに感染したら悔やんでも悔やみきれません。不参加の自由が与えられないような雰囲気なので欠席もできず辛いです。
- 必要以上に不安をあおるニュース等の情報。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

### ■地域福祉の意識づくりについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	18～29 歳	上尾地区	挨拶や感謝の言葉などをいうことが大切なのではないかと思えます。
女性	30～39 歳	上尾地区	仕事で医療、福祉に携わっています。自分の持てる知識や技術を生かして困っている人を助けたり、地域に貢献したいという思いがあります。（仕事や家庭もあるので制約もありますが）同じような気持ちを持つ人が集まったり、活動するための情報が手に入ればと思います。
女性	30～39 歳	上平地区	一人一人の意識が大切です。
女性	30～39 歳	大谷地区	私は今2児の母です。まだ2人とも未就学児でサークルなどで出会ったママ友しかいませんが同じ地区の人はゼロです。幼稚園に行けば増えるのだと思いますが、町会などでもっと行事があれば今の地点で近所に年の近い子がいるかなど知れて幼稚園選びや色々な相談が出来るなと思いました。私の実家の地域は町会の行事がいっぱいあり、とても楽しい思い出がいっぱいありました。週末スポーツ活動していない子や私立の学校へ行っている子供にとって大切な場だと思います。地区を広げてでも町会の運動会やそうじ運動、ラジオ体操、マラソン大会、かるた大会、お祭り、子供だけではなくお年寄りから子供までみんなが参加して楽しむ、そして地域の仲間づくりに反映出来たらうれしいです。
女性	30～39 歳	平方地区	自分自身が働いて今、自立して生活できているので、福祉サービス、どのようなものがあるかなど把握していない。離れて暮らす両親が高齢になった時、その地域のサービスを使うか、上尾に引き取るか分からないが、いずれにしても、「自分に関係ない」と思っている私のような世代への働きかけは重要に思う。子育ても介護にも関わってないと、「地域」という概念がそもそもないかもしれない。自分で言うのもあれですが。
女性	40～49 歳	原市地区	正直、人との関わる時の「姿勢、態度」に疑問。人を選びしていませんか？良い人、苦手な人と各お店でも他のところでも対応する人の表情は怖くて最悪。こんなじゃ地域のまちづくりなんて無理なように気がするのです。そうあってほしくない。外出先でされると悲しいです。みな平等に明るく目指すのならもっともっと笑顔で歩けるまち。差別のないまちを目指していきたいです。

女性	40～49 歳	大石地区	困った時に助け合えるよう、普段から地域の方との(ある程度の)コミュニケーションは必要かと思います。自治会の行事等に参加すると、たとえ顔見知り程度であっても、地域の方、地域の様子が分かり何も参加しないより、とても有意義に思います。いろいろな世代の方が気軽に参加できるような交流の場があると良いなと思います。まずはコロナ終息!!
男性	40～49 歳	-	見守り活動、独り世帯などへの声掛け。障害がある人でも住みやすい環境作り。
男性	40～49 歳	上平地区	誰もが住みやすい→多様な価値観があるのでそれを受け入れる環境づくりが、まちづくりと思います。ただ、平均的な取り組みでは何も変わらないので、ある特定のサービスとか支援とか特化した行動が求められると感じています。
男性	40～49 歳	西上尾第二 団地	子育て世代が正規就労者である割合が低下してきていることから、地域福祉の視点を広げて地域の中小企業や商工会との情報交換、連帯、アイデア出しを行い、安定して仕事が出来収入を得ることが出来る世代を増やしていくような大きな視点で地域福祉を進めてほしい。
女性	50～59 歳	上尾地区	相手の立場を考えた行動・言動をして思いやりを持って人と接する事が大切です。どんな場合でも威圧的な態度を取ってはいけません。市民全員が優しい人である事を願います。
女性	50～59 歳	上平地区	昭和の時代は終わり、若者には、今の社会、今の時代に合う地域作り、そして、昭和を生きてきた高齢者には、それに合った対応が必要。要するに、別々の対応でないといけない。
女性	50～59 歳	西上尾第一 団地	助け合いは、当たり前と解ってはいるのだが、後は、怯まぬ様に”互いに踏み込み過ぎない仕方”が無いものか…?
男性	50～59 歳	-	街灯の充実。市をあげて挨拶の励行推進”おはよう”運動。挨拶が出来ない様であれば明るく気持ちを許せる状況にならない、進まない。従って安全、福祉等の活動は結果が出ない。
男性	50～59 歳	上尾地区	隣近所の顔はわかる付き合いは必要。過剰にストレスとなるような付き合いは不要。いざというときに助け合える気構えは要教育。
女性	60～69 歳	上尾地区	地域の活動に関心が無い人達が多い。様々な行動やイベントにも参加する人は同じメンバーで新しい人々が増えない。地域のつながりは必要としていないのかと思う。(必要を感じていない?)

女性	60～69 歳	上尾地区	子育てするなら上尾！といわれてきたのは・・・遠い昔になってしまったのはなぜ？コロナ禍の今、それぞれの世代での生きづらさが表れていると思います。高齢者・障害児者に対する心のバリアフリーを取り除く取り組みに期待しています。（建物のバリアフリーは進んでいるので）それが地域共生社会の実現につながるのでは？
女性	60～69 歳	上尾地区	高齢や一人暮らしの世帯に声掛けや安否確認をしてもらえると住みやすく安心できると思います。
女性	60～69 歳	平方地区	「誰もが」むずかしいですね。
男性	60～69 歳	上尾地区	市と市民が協力し続けられるように小中学校から（子ども達へ）の教育を。
男性	60～69 歳	上尾地区	個人個人が常識を持って人と接するという基本的なことを実践することが大事。特に難しいことではないと思う。
女性	60～69 歳	上平地区	高齢者、障害者については地域での手助けは難しいと思います。その家族同士なら繋がっていきえるとは思いますが、経済的な支援ならありがたいですけど、今はお金を払ってケアを利用しています。同じ町に住んでいるのでトラブルや守秘義務などあらゆる問題が生じると思います。民生委員、ボランティア、包括センターなど守秘義務についての教育が必要だと思います。家族のことを他人に言われると住みにくくなります。認知症になったことなど面白がって噂を流す人は確かにいるので、手助けをしようとはしていない人が多いです。
男性	60～69 歳	西上尾第二団地	私の住む地域も高齢化が進み、社会の見守りの大切さを実感します。もっと若者の組織的な活動が活発になることを願います。
男性	60～69 歳	大石地区	他人事には干渉しないが相談に乗れる場が必要である。
女性	70～79 歳	原市地区	ここは災害の少ない地域で非常に住み良い町です。であるがゆえに、住民の危機感があまりにもないように思います。
女性	70～79 歳	上尾地区	自分 1 人が！の発想じゃなく、自他祝福の気持ちをお互いに持てる社会に！
女性	70～79 歳	上平地区	他人様に対して、自分に対してもプライベートに気をつけること。
女性	70～79 歳	大谷地区	住民全体に協力の意識がない限り無理だと思います。労り合いに欠ける。自分自身で精一杯で余裕がない人が多いから皆、他人の事まで考えられない。勝手な人が多い思いやりの精神が全くない。自分さえよければいいという人が多い。
男性	70～79 歳	上平地区	必要以上に個人の権利を主張しない。

男性	70～79 歳	上平地区	住みよいまちづくりのためには、挨拶ができる仲になることが大切である。挨拶ができる仲になれば大概のことはなんとかなると考える。そのためには、地域で行う各種催し物（夏祭り、体育祭、石尊講、防犯対策、高齢者支援、防災対策等々）に参加し、その活動を通じお互いに知り合うことが肝要である。各種催し物を適切、円滑にそして多くの人に参加しやすく開催するためには地域の努力はもちろんであるが、上尾市や社会福祉協議会の役割も大切である。地域へのきめ細かな指導、調整とともに財政面での補助の一層の拡大を要望するものです。
女性	80 歳以上	上尾地区	みんなで協力。
男性	80 歳以上	原市地区	このことについて、自分自身をどうするか、漠然としか考えていなかったので今後考えます。
男性	80 歳以上	上平地区	ネット社会で老人にはついて行けない部分も多くなりました。子どもや地域の方の支援に頼ることが必要とはいえ、なかなか頼みづらいものです。災害時などは地域の方の協力が不可欠と思いますが、いざその時になってみないと分からないことばかりで不安は否めません。
男性	80 歳以上	大石地区	地域での交流は大切だと思いますが高齢者になると行動が伴いません、ですが地元の発展は願っています。地域の皆様のご協力が大事です。

■ 地域の中での交流について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	40～49 歳	大谷地区	地域でのカラオケ大会等、様々なイベントを増やして欲しい。自然の多い美しい街づくりを重視して欲しい。公園周辺や住宅地の路上駐車が多く不安。公園での利用方法が乱雑で、度々ボールを車にぶつけられる。祭りや花火大会等も小さな規模のものでも良いのもっと回数が多いと嬉しい。
男性	50～59 歳	上尾地区	高齢者が気軽に集まる場所をもっと作ったり、一人で暮らす高齢者の見守りなど高齢者が住みやすいまちをつくってほしい。また二世帯住宅応援など子供や孫も一緒に住めるよう支援したらよいのではと思う。
女性	60～69 歳	上尾地区	住宅が密集した地域に住んでいますが、小さな子供たちが遊べる場所があったらいいなと思っています。現在 1 ヶ所もありません。遊具のある児童館で自由に遊べることや公園があったらいいなと思っています。高齢者が気軽に休める憩いの場所（建物）があったら少しでも認知症の予防につながるのかなと思っています。高齢者たちが歩いて立ち寄り交流をはかれる建物があったらいいなと思っています。

女性	70～79 歳	上平地区	地域での交流がなく、災害（地震等）があった際の避難場所とか、避難した場合どんな様子になり、どんな支援を受けられるのか全然わからず不安です。上平地区に住んでいます。避難場所は、平塚公園になっているが？上平公園の方が近く、平塚公園ではどんな支援を受けられるのか解らず、身体が不自由になっているので、いつも不安に思っています。家に家族が居ない時の避難が心配です。
女性	70～79 歳	大石地区	地域のイベントでもっと大勢の人が参加してほしい。
女性	70～79 歳	大石地区	（50年以上）長年生活をしていると、新しく（若い人達）（移り住んできた人）との交流がなくて近所付き合い出来なくなる。（あいさつ程度はします）
女性	70～79 歳	大谷地区	フラワーロードなど積極的に参加してきれいな地域になることと、みなさんとの交流もできるので一石二鳥になるのでは。
男性	70～79 歳	大石地区	世の中いろいろな人がいます。でも地域の集まり、イベントをやっていたら繋がれます。今、それが出来ません。集まりの重要性を感じます。
男性	70～79 歳	大石地区	昔からの上尾住民とまだ上尾市民暦の浅い新住民の混在する地域では、地域愛、地域感情等何かと隔たりがあるように見受けられます。
女性	80 歳以上	原市団地	団地5階まである階段なので知人との交流がしにくい。家にこもりがちになる。品川から今の団地に移り住み55年くらいエレベーター出来ると良いが。
女性	80 歳以上	上平地区	やはり近場の人達の交流だと思います。今コロナで人と会話もできず、必要な事だけで淋しいです。早くマスクのない日が欲しいです。何でも相談できるところ。漢方薬やサプリメント、病院の薬の相談できるところ。
男性	80 歳以上	上尾地区	高齢者が引き込まることがないように、地域毎に高齢者を対象としたサークル等、集まる催しがあれば良いと思った。
男性	80 歳以上	大谷地区	地域のイベント活動に参加が前提で福祉活動が動いている様感じます。これらに参加できない状況下の人間にとってどの様に地域の又は市の福祉活動に引き入れる手段が難しい様に感じますが。



■身近な人間関係づくりについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	40～49 歳	上尾地区	隣近所の付き合いが希薄。私が子供の頃は隣近所の人と話に来たりしていたが、今はその頃の世代が亡くなり、若い人が引っ越してきて殆ど付き合いがないです。高齢の人も生活が苦しいと昔は親しくしていたのに、今では昔のような付き合いはなくなりました。皆、人は人、自分は自分的な考えの人が多し。人は皆 1 人では生きていけないのに年をとったり病気になったりして困ったりしないと気付かないのでしょうか？ どうすれば私が子供の頃のような温かい付き合いが戻るのでしょうか？あと高齢者を敬うということを知らないのでしょうか？「自分さえ良ければいい」的な考え方の人が多いように感じます。
女性	40～49 歳	上平地区	高齢者のひとり暮らし、障害者（児）の親亡き後のこと、民生委員さんはじめ近隣住民で気付き手助けできる支援の輪を広げられるようにしてほしいです。
男性	40～49 歳	西上尾第二団地	高齢者が多いという事で、近所も、色々な事がある様です。トラブルや、いわゆる“キレる老人”という方もいらっしゃる様で、若い世帯や、ミドルの世帯あたりが、気をつかっている現状を見ると、行政が、しっかりと、事を行うと言う事に尽きると思います。関係無い事ですが、丸山公園の“かいぼり”について。それまでの、現状を、“つり人”にその責任を押し付けたのは、上尾行政の言い訳と考えています。外来種については、定期的に駆除し、保全するのが、望まれると考えます。
男性	60～69 歳	-	誰もが隣人（地域）を安心して信頼できるよう日々の生活に精進したい。
男性	60～69 歳	上尾地区	高齢者が気軽に行ける場所が少ない。高齢者は行くところが無いので結局同じような場所に集まってしまう。
女性	70～79 歳	上尾地区	ほどほどの付き合いがいいと思う。
女性	70～79 歳	平方地区	近所に病気で身体がなかなか思うように動かさず困っている人がいます。できれば、福祉施設に入るか援助を受けた方がいいと思うのですが、それ程親しい付き合いしてないので、こちらからどの程度声かけをしたらいいのかよく分かりません。一応ゴミ出しのお手伝いしますと申し出たら引き受けていただけたのですが、その他の事はどうしているのか分かりません。市の方に相談していればいいのですが…。
女性	80 歳以上	大石地区	特にご近所では、自分の家の周り等よく見守り、他に迷惑をかけぬよう見守ってほしいと思います。今は木々等の葉等が落ち片付けをした後、サッパリとした気持ちになります。こんな小さなことから気を付けて生活出来たらと思います。

男性	80 歳以上	原市地区	隣近所の身近な人との挨拶を実行する。市の清掃日には積極的に参加し、日頃思っていることを話し合う機会をもうける。「広報あげお」で福祉コーナーをもうけて PR をする。
男性	80 歳以上	平方地区	コミュニティ、人間関係が叫ばれてきたが逆の方向に進むことを危惧します。

#### ■地域における活動について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	18～29 歳	上尾地区	各町内会が活発に運営できると地域の人達の交流へつながるので、町内会への支援をお願いしたいと思います。
女性	18～29 歳	上尾地区	毛布などごみに出せないもののリサイクル活動を地域でやってくれると助かる。
女性	30～39 歳	大谷地区	町内会を再構築する必要あり。年寄りピラミッド（人口動態）とやっていることがあっていない。
女性	40～49 歳	-	適度な近所付き合いでいいのに強制的にボランティアに参加しなくてはならない地域があり住みにくくなる。PTA活動も同様。
女性	40～49 歳	原市地区	地域の中に生きる個人（自分）を意識して生活している人がどれだけいるのか疑問です。自分さえよければいいと考えている人ばかりなのではないでしょうか。お互いさまの精神の欠落している人が多く見られます。交通ルールの悪さにも自分さえよければと言う人の多さが表れていると思います。自治会にほぼ強制加入させられ、自治会費を徴収させられ、なのにコロナなのでイベントを無くす割に自治会費の返金も減額も無い。自治会など一部の人の暇つぶしで運営しているものと思えません。
男性	50～59 歳	大石地区	地域にある組織や団体に対して、整合性があるかどうかを抜き打ち監査し、指摘箇所があれば改善処置される。
男性	50～59 歳	原市地区	自治会に入っていますが、自治会と社協との連携や、その活動のアピール、広報を充実させる事が必要と思います。なかなか地域へのアピールの場などはないと思うが、夏まつりや様々なイベントの機会を利用することで、浸透させることが大事です。せっかく活動をしているのに、皆がそれを知らないのはもったいない。
男性	60～69 歳	平方地区	地域のサークル活動の推進。（趣味、特技を活かした規則の緩い集まりが多種多様であれば、多くの人と触れ合う機会を提供できる。外出する動機がなく家で孤立感のある人にいろいろなサークル活動を提示できれば、生活に潤いを与えることができる。トランプや将棋のようなものでもいい。卓球やバトミントンでもいい。気楽に参加できるサークル活動を恒常的に提供できないものか。精神的にも肉体的にも健康になり元気になれる。多くの雑多な緩いサークル活動は、市全体にも活力を与えるものだと思う。

女性	70～79 歳	大石地区	仕事に明け暮れて地域福祉活動の事をあまり知ってなく申し訳なく思います。考えがハッキリしないので適当に〇がつけられませんでした。
男性	70～79 歳	上尾地区	(団地に住んでいて思うこと)若い人達も居住しているが忙しいのか、福祉、自治に関しては長年わたって決まった人が決まった仲間とリーダーをしていて、仲良しクラブになっている状態に感じとれた。いざ何かあった時に70歳以上の老人同士で情報伝達ができるのか少々不安になった。
男性	70～79 歳	大石地区	自治会の役員になりますと、色々出席する機会が多く病人を持つ人にとっては大変負担になりますので、少しでも減らしてもらえたらと思います。特に大切なこと以外は電話連絡か又は郵便で済ませることが出来たら本当に助かります。

#### ■地域人材の育成・活用について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	50～59 歳	大谷地区	福祉の担い方は自治会→NPOへ。1.人材育成 2.情報管理 3.効率的な資源配分。

#### ■既存施設の活用やつながりづくりについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	30～39 歳	大谷地区	子どもと遊んでいると公園の老朽化目立ちます。また運動公園と水上公園を連動して活用すればもっと利用したくなる公園になると思います。
女性	40～49 歳	平方地区	インターネットを利用したオンラインでの相談窓口の充実。y o u t u b e を利用した情報発信(民間会社のウェザーニュースのような24時間ライブが理想→ツイッターもいいかもしれません。)お年寄りもインターネットを使えるようにタブレット等を配布。子供食堂を利用しやすくする。子供が遊べる公園や施設を増やす。小学校にあがる前までの子供たちの子育てをもっと支援してほしい。
男性	40～49 歳	-	水上公園プールの現状を放置するのではなく、修繕もしくは再建活動が必要ではないでしょうか。
男性	40～49 歳	大石地区	アリオ上尾の中の店(テナント)で働いているが10万円給付金や、国勢調査、健康のことで相談に来る高齢者がとても多い。(スマホの使い方なども)ケータイ屋ではないです。寂しさからおしゃべりで長居をする方も多い。(商品購入無し)地域で交流、相談し合える環境を作ってほしい。ベニバナウォークのようにSCの中に市役所の情報発信の場を作ってほしい。新しくハコモノを建てずに(不便なところに作らず)駅前やSCの中に図書館や投票所、相談窓口を作ってほしい。

女性	50～59 歳	原市地区	どの世代もコミュニティが大事だと思います。公民館等でのイベントの充実よろしくおねがいします。
女性	60～69 歳	上尾地区	図書館が充実していないのが残念です。文化都市に住むことは、人生の充実につながると思います。
男性	70～79 歳	上尾地区	家の近くに空き家を利用した「老人いこいの家」が欲しいです。「ぐるっとくん」の本数をもっと増やして欲しい。

#### ■地域での活動や福祉活動について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	60～69 歳	上尾地区	町内会の集まりが少ない。
女性	70～79 歳	上平地区	地域の民生委員の方にお世話になっています。助かります。
女性	70～79 歳	大谷地区	今年 4 月より町内会費が約 2 倍になり脱会する人が多くなったとか又、勝手に抜ける方もいて、ゴミ出しの場所は会費より支払われているのにその方に言うことも出来ず不公平感があります。班で話し合いをと言いますがそれは区長さんをお願いしないと気まずい気分になってしまいます。この地区は、ゴミ問題がポイントです。
男性	70～79 歳	大谷地区	福祉で働いている方は、個人情報に壁になっていて民生委員の方は大変だと思います。

#### ■ボランティア活動について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	50～59 歳	原市地区	不景気だと無償のボランティアは集まらないと思います。やりたい事、やってほしい人、やれる人を登録制にして、多少でも賃金を出して頂ければ空いている時間ならやっても良いと思う人もいるのではないのでしょうか。
-	60～69 歳	大石地区	近所の人から、子供食堂が井戸木 2 丁目で行っていると聞きました。自分自身パートで介護職に就いているため、あまり時間はないのですが、ボランティアとしてお手伝い出来たらと考えています。
女性	70～79 歳	原市地区	老人ホームでボランティアを 10 年させて頂いています。主にさいたま市です。上尾市のホームもあります。さいたま市住民にはボランティアの時にシールを貰い、1 年には結構集まります。そのシールは年 1 回のボランティア仲間の食事会に助かります。上尾住民には何も頂けません。気持ちだけボランティアの人々にもお礼を考えてほしい。

■地域で孤立している人への支援について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	50～59 歳	上平地区	しらこぼと団地に住んでいた友人が親の施設入所が決まり本人が居住することが出来ず転居せざるをえなかった。それとは別に空き室が増え老人が残り住みにくいと聞きました。独居老人の方が何かあった時の通報システムを考えて欲しい。空き地、空き家の有効活用。
女性	70～79 歳	大石地区	足が痛いときの買物。電球の交換 重い物の移動 娘二人が近くに居りませんので、又頼みたくても、コロナで気管支の悪い私の為、娘も来にくくなってしまいました。今は頑張っていますが、気軽に頼めたらと頭をかすめるときがあります。小さなことを頼めたら、うれしいのですが。良い意見が出せません。。。。。
男性	70～79 歳	上尾地区	身体の健康は突然におこって重病となり死の寸前まで行く。楽しく生きたのは半年前まで。とうとう一人になってみて、すぐそばに死が近づいているのが分かる。

■DV・虐待等の防止について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	50～59 歳	-	特別老人ホームの対応が非常識でも、結局、市、県の窓口は聞いてくれるが指導できる立場になく解決しない。泣き寝入りするしかないことがよく分かった。双方の見解の相違で老人ホームで話している内容ではなく、医師の指示があっても薬をあげない、救急車に施設から運ぶことになっても、保険証等を毎回忘れる施設。シャワー入る普通の生活で虐待に近い行動があり、相談しても指導できない立場に憤りを感じる。諦めるしかないシステムを無くし、困っている人に愛を!!思いやりを自分を含め全体で考え行動できると良いと思う。変わらない、変わらないとは思う。キレイ事で終わると思います。

■健康づくりについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	30～39 歳	上尾地区	インフルエンザ補助を全市民にしてほしかった。北上尾駅でも上尾駅の様な、イベント？（イベントスペースでの何かの販売）をしてほしい。ただ、引っ越した際、市役所の対応がよかったと思います。ていねいに教えて頂きました。ありがとうございました。大変な時期かと思いますが、これからも宜しくお願いします。程々にがんばってください！
男性	80 歳以上	西上尾第一団地	食事は 1 日 1 回半ぐらい、水分は 1 日 4 リットル、毎月 1 回は内科に行っている。目医者も行っている。

■福祉情報の入手について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	40～49 歳	上平地区	給付金、補助金など、対象市民がそれらを受ける際、市民が自 行動しなければ情報を得られない、役所から知らせが来ない等の 「言われぬから渡さない」といった不親切な仕組みは直らない のでしょうか？
女性	70～79 歳	上尾地区	今年 4 月頃から広報その他がポストインされるようになりました 。回覧とちがいポストインは配布されないお知らせが多くなり ました。福祉のことも全然お知らせがないのでわかりません。実 際自分達がおかしくなった時はどうしていいか周知されてない 様に思います。広報にもっと一緒にチラシ・パンフレットを入れ て下さい。広報に福祉の手続きマニュアルなども載せて欲しいで す。

■相談窓口について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	30～39 歳	上尾地区	自分や家族の身にもしものことが有った場合や災害に見舞われ てしまった場合などに、パッと見てすぐに連絡、相談ができる窓 口の一覧表のようなものがあるととても便利だと思う。
女性	70～79 歳	-	市の福祉課の対応がまず大事。困った時にどこに相談したらいい か分からず悲劇が起きる。
女性	70～79 歳	西上尾第一 団地	今まであまり感じたことがなく身近な相談窓口があれば安心で す。
男性	70～79 歳	上平地区	様々な立場から、問題や意見をすい上げる方法を工夫する。
女性	80 歳以上	上尾地区	人生百年時代を迎え、1 人暮らしの高齢化が進んでおりますので 終活支援活動等の充実した窓口を設けて頂き、一日も早く安全な 暮らしのできる上尾市になる様期待したいものです。最近、 特に高齢者をターゲットにした詐欺事件が多発しておりますが、 誰にも親があってこそ子どもでありますから良心を持って人 生を歩んで欲しいと切に願っております。
男性	80 歳以上	大石地区	いざという時の相談窓口の充実



■福祉サービスについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	30～39 歳	-	職業差別的な事を少し言われた。介護福祉士である事に不安を感じた。
女性	30～39 歳	原市地区	親を介護しながら子育てをしているのですが、なかなか同じ境遇の方と出会うことがなく、そういう方たちが集まれる場所があったらお話ししたいです。
女性	30～39 歳	上尾地区	子どもが気軽に遊べる場所の充実（公園など）。おむつ代無料などの子育てに対する支援。
女性	30～39 歳	上尾地区	仕事をしていて育児もしている。来年から保育園へ預けるつもりだが、駅などに預けて各保育園へ送迎してくれるとありがたい。そうすれば家の近くの保育園に預けられなくても選択の幅が広がる。
女性	30～39 歳	大谷地区	福祉の情報が入ってきづらい。子供が出来た時に初めて「上尾市では様々な福祉の取り組みがあるんだと」と知った。これは市役所で母子手帳を貰った時に教わったことだったけれど、生まれてからずっと上尾市に住んでいて初めて分かったことだった。もっと誰でもどんなことをしているか分かる、又は調べられる様情報提供をした方が良いと思う。子育てに関することはとても助かっているし、上尾市で子育て出来て良かったと思うので知らない人が沢山いる状況はもったいないと思う。
男性	30～39 歳	原市地区	障害のある子を育てています。学校を卒業した後、働く場があるか、親である私達が亡きあと、どう生活していくかがとても不安です。作業所やグループホームなど安心してお願いできる場が増えて欲しいなと思います。
男性	40～49 歳	-	問40にて“障害者が”ではなく“障害をもつ方”とか、言い方考えてもらえませんか？私も今年から障害者になりました。なりたくて、なる訳ではありません。以後、気をつけて記載する様に！！
女性	50～59 歳	大石地区	安心して子供を預けられるところが欲しい。学校で預かってもらっていましたが、時間が短く在宅では仕事ができない人間を助けて欲しい。保育園、学童、先生大変です。でも、働かなくてはいけない人間、頼る両親も居ない、どうにか乗り切りました。
男性	50～59 歳	-	上尾市の福祉は良くやっているといます。
男性	50～59 歳	-	人口の割に子育てに関する福祉が充実していない。オムツサービス券や産後のサポート体制を整えられたら良い。

男性	50～59 歳	原市地区	住民の多様化が進行していると感じます。子育て、介護で悩む方がいなくなるよう、福祉や医療の充実を期待します。地域交流といっても世代間格差や、観念の違いなど個性の違いとも尊重しなくてはならず、個人情報共有することも難しくなっていると思います。（紙ベースの国勢調査が続いていることにも疑問が残ります）マイナンバーカードを充実させ、住民の情報を行政が把握し適切な施策を打ち続けることに期待しております。
男性	50～59 歳	上尾地区	子育てとか、子供のいない私にとっては介護している我々を支援してほしい。頑固な親を見るのは精神的にも肉体的にも難しいし、特に金銭面でもひっ迫している。妻は仕事を休み時短にしたり身体的も精神的苦痛で身体をこわしている。福祉計画をするなら介護している人の事を一番先に考えてください。
男性	60～69 歳	大石地区	働けるのに働かないで生活保護を受けている人が多いように思われる。認定には厳しい審査をお願いしたい。
女性	70～79 歳	-	障害年金だけでは介護施設の入所費用は赤字です。障害年金に給付金が付くようになりましたが、国民年金、厚生年金でフォローできませんか？
女性	70～79 歳	上平地区	受けられる福祉サービスがよくわからない。何が受けられるか明確にしてほしい。（特に高齢）
女性	70～79 歳	西上尾第二団地	上尾市が行っている高額介護サービス費の支給は大変助かりますし、画期的だと思います。（老人ホームに入る人（介護保険サービス利用者）をどう世帯区分するのか、具体的に言うと住民票をおいている西上尾第二団地となり、息子と同一の世帯となるのかははっきりわかりません。→サービス費の上限額にかかわる？）景気が良いと思われない中、また高齢化（日本全体）が進む中、高齢者対応は今後ますます大変になると思います。私は若い頃のパート収入の貯金とわずかな年金で老人ホームに今入っていますが、お金がなくホームに入れられない人もいると聞きます。今後社会がどうすべきかはわかりませんし、大きな不安の中にいます。
女性	70～79 歳	大石地区	3 年前に 93 才の父を亡くしましたが、介護認定をなかなかしてもらえなくて本当に大変でした。何のために介護保険を払っているのか疑問に思いました。包括の方も来てくれたのですが助かったとは思いませんでした。介護認定 3 以上ではないとどこにも入れない、本当に辛い思いをしました。何のための介護保険、本心、払いたくない。高いお金を払っているのに何もしてくれない。※認定を少しでも低くしようとする意図を感じ、助けてもらえなかったという喪失感で一杯です。



女性	70～79 歳	大石地区	今は夫婦健在でそれ程不自由なく生活しておりますが数年後のことを考えるとご近所も大切ですが、安心して介護が受けられるよう、そして老人ホームも高額な施設ばかりでなく誰もが入居できるホームが必要だと思います。
男性	70～79 歳	大石地区	高齢者に対するケア体制の確立。高齢者が声を出せる体制づくりが必要。
男性	70～79 歳	大谷地区	高齢者が増加している状況について上尾市の受け入れ態勢が十分でないと思います。例えば災害時の緊急避難するときについて。避難する施設ではコロナ感染に対する施策、不十分だと思っています。3密を避けるためのスペースの確保、手洗い、清潔の維持、トイレの不足、マスクの準備などが出来ていないと思います。もっと積極的に上尾市で対策してほしい。
女性	80 歳以上	上尾地区	現在、介護施設に住んでいる為、地域全体の事について良く知らない。
女性	80 歳以上	平方地区	今はホームのお世話になるようにしていますがお金の心配が毎月アタマからはなれない
男性	80 歳以上	上尾地区	病人で動きが取れないので、ついででも良いから、ちょっとした買い物をしてもらえればいいかな（有料でも）。（例えばハンバーガー1 つでも）
男性	80 歳以上	大石地区	介護認定を受け利用している（在宅福祉サービス）人達は身近で見えても充実したサービスを受けていると思う。介護認定の仕方に大きな問題あり納得がいかない。サービスがあまり充実しすぎると近所付合いを遠ざける様だ。健康長寿で頑張っている老人達にも褒めみたいな制度があってもいいと思う。皆なの介護保険なのだから。

#### ■防犯・防災活動について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	30～39 歳	上平地区	まず、近年外国人居住者が増えてきている印象があります。その中でマナー違反が多く見受けられ、それを市役所や警察に相談しても全く相手にされない状況です。例えばモペットという電動バイクを乗り回していることや、言葉も通じない人が地域にいるのはとても不安です。特に最近は東南アジア系の外国人による犯罪も多くあるのできちんと市で管理していただきたい。また公園にはフィットネスジムにあるような運動器具を設置してほしい。ジムに通うとなると月5千円とかなり出費になります。公共施設である公園にそういう設備を設けるべきではないでしょうか。

女性	40～49 歳	上尾地区	防災面では、防火用品の備蓄が何処にどれくらいあるのか分かるようにしてほしい。ぐるっとくんのバスの本数が少ない。上尾市に住んでいることのメリットを感じない。魅力ある街づくりを期待します。
女性	40～49 歳	上尾地区	最近上尾でも犯罪が多くなっているのにもとない大変不安である。特に自宅にいる父親がまきこまれないようにといつも注意を払っていて父親にもしっかりと話をしている。今後警察官なども巡回などをしっかりと頻繁にしてほしいものです。
女性	40～49 歳	上平地区	街灯や防犯カメラなどが増えたら助かります。夜間など物騒な話を聞くので。防災冊子が欲しい。
女性	50～59 歳	上尾地区	とにかく、犯罪のない町にしてほしい。空巣も多いので、とにかく目立つ「パトロール」をして不審者が困る町づくりにしてほしい。
女性	50～59 歳	上平地区	1.防犯カメラの設置 2.道路灯のLED照明の設置、交換 3.警察と自治会による交通ルールの指導(歩道と自転車の区別が理解されていない。自転車は歩道では押して歩くべきである、自転車マナーが悪い、歩きスマホが多い、自転車の並列運転が多い(伊奈学の生徒)) 4.循環バスを30分毎に1本(朝・夕は3本/H)65才以上は無料にしてほしい。また、バスの運転手のマナー及び運転が悪い(荒い) 5.自転車の駐車が悪いため歩行者が歩きにくい(通勤駐車が多い) 6.タクシー利用券の配布(月1回利用・無料・基本料金内) 6.タクシー利用券の配布(月1回利用・無料・基本料金内) GO TAXI(市の負担)
女性	50～59 歳	大石地区	藤波に住んでいますが、避難場所に行くまでの道のりが困難です。小学校に行くには遠く、低い坂道を通らなければ行けません。なので自宅にとどまる地域の年配者も多いという話を聞きます。
男性	50～59 歳	上平地区	夜になると感じるが、街灯の少ない場所が多くあるのももう少し街灯の数を増やして欲しい。住宅地などのパトロールの強化(夜間など)も必要だと思います。
女性	60～69 歳	上平地区	アンケートが長い(沢山)ので疲れしました。昨年の台風の時、避難する予定でしたがタイミングが分かりませんでした。早過ぎても学校が閉じていそうで!!車運転できないので高齢の母を連れて避難するのに、雨・風が吹かない(強くなる)前に行きたいのですが…。
男性	60～69 歳	原市地区	街灯を増やしてほしい。指定ゴミ集積場をきれいにしてほしい。
男性	60～69 歳	上尾地区	上尾警察署は熱心にパトロールしていただいております、いつも感心(感謝)しています。
女性	70～79 歳	上平地区	ヘリによる「防災上尾」の声がこだましてほとんどわからない。遠くで言っているからなのか?「防災桶川」のヘリはよくわかる。(人探しなど)

女性	70～79 歳	大谷地区	夜になると感じるが、街灯の少ない場所が多くあるのでもう少し街灯の数を増やして欲しい。住宅地などのパトロールの強化（夜間など）も必要だと思います。大谷本郷地区は緑豊かで済みやすい所ですが、緑がどんどんなくなり宅地になり一抹の寂しさを感じます。道路の曲りが多く危険を感じます。道路整備がされることを願います。
男性	70～79 歳	上尾地区	自然災害時の対応（地震、台風等）夜間に灯が少ない（暗い）。
男性	70～79 歳	上尾地区	犯罪防止。常識ある人間の育成（日本全体の教育の問題）最近の親は子どもがそのまま大きくなったように感じる。自身の子どもに注意も出来ない、他人の事は全く考えない親が多いように見受けられます。
男性	70～79 歳	大谷地区	安心、安全のため該当（防犯灯）を増やして欲しい。

#### ■交通安全対策について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	18～29 歳	上尾地区	アンジェのところの横断歩道の所が交通量が多いのに、信号がなく危険なので信号機をつけて欲しいです。
男性	60～69 歳	上尾地区	上尾市役所前の横断歩道を渡る時が非常にこわい。特に朝早い時（歩行者が1人、2人で暗い時）右折車、左折車が歩行者がいるのに強引に走って来る時が多々あり、何度か危ない目があった事があります。防犯カメラの設置とか注意喚起の立て看板など何か対策をとってほしい。
女性	70～79 歳	-	車を運転する人たちへのマナー。
女性	70～79 歳	上平地区	毎日が（ニュースで事件、事故等々）家からは出られない。道路上も大変危険である。交通ルールを守るドライバーが少ないです。合図（右折、左折、進路変更等）が遅いのがほとんどです。交差点で出るのが30%くらい！！
女性	70～79 歳	西上尾第一団地	高齢者が多くなり外見では解らぬ体力のあり方は（後姿）判断しにくい。信号機のところは特に注意が必要だと思います。
男性	80 歳以上	原市地区	交通ルールを守り交通事故死亡者がゼロになるような警察としての指導が必要だと思います。

#### ■道路環境やユニバーサルデザインについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	18～29 歳	上尾地区	道路の整備（一方通行や路面の凹凸などの整備）
女性	18～29 歳	上尾地区	もう少し道路照明灯を付けて欲しいなと思います。とくに新築住宅周辺ではとても暗いです。
男性	18～29 歳	上尾地区	駅前の道路を広くしてほしい。可能であれば映画館があればもっと上尾市が活発になるのではと思った。

女性	30～39 歳	上尾地区	警察の見守り（夜）を増やして頂けると安心できます。陸橋を増やしてくれると助かります。市役所のところ（17号）、ひどすぎるので。自転車の道をつくってくれても守ってくれる人が少ない。危ない。
男性	30～39 歳	上尾地区	水上公園と運動公園を結ぶ歩道橋。※水上公園の歩道橋は自転車用のスロープしかない 車いす、ベビーカー上がれない 愛宕交差点。（17号と県道川越上尾線）の歩道橋。今の形状だと車いすやベビーカーの人が歩道橋を利用するのが困難（バリアフリー機能が無い）愛宕交差点に関しては、中途半端な歩道橋であるため東西南北すべてに橋をかけるべき。交通量が多いので横断歩道が非常に危険。足が悪い人は横断歩道渡るのがギリギリで危険。
男性	40～49 歳	原市地区	道路が悪く歩きにくい所が多いと思います。
男性	40～49 歳	上尾地区	上尾地区の道路はひび割れだらけで陥没していたりし、とても危険です。（市道、私道ともに）私道への補助金の要項も、厳しすぎるため、この先も、補修が進まず危ない都市になってしまうのではないのでしょうか。
男性	40～49 歳	上尾地区	点字ブロックをもっと増やして欲しい。
女性	50～59 歳	原市地区	体育館や公民館など特定の団体が抑えていて、時々使用したい個人団体または新規が使用することができない時が多い。上尾市は桶川市など市北部に接する市と提携をしてはいるが南部、東部の方と接している。さいたま市蓮田市伊奈町との提携がない。医療などで上尾中心部の駅までいくのは不便だし遠い。南東部の住人にとって利用頻度の高い地域との提携を希望したい。上尾駅までの公共交通の便利さの向上を希望。尾山台団地、原市団地周辺の道路は道幅の割に交通量が多い。歩道は狭く自転車道もない。歩行者、自転車、自動車がいつも接触しそうな距離で通行している。道路の改善。
女性	50～59 歳	上尾地区	歩道が狭くて歩きにくい所があるので、整備されるといいと思います。
女性	50～59 歳	上尾地区	狭い道に出ている電信柱が多く、自転車や歩行者が急に飛び出したりするので危ない。歩行のでこぼこでシルバーカーを押している老人の人が押しづらそうにしている。
女性	50～59 歳	上平地区	道路整備。
女性	50～59 歳	大谷地区	上尾駅西口線路沿いは狭く危険と感じます。車、自転車、徒歩でも通りづらさを感じながら通っています。
男性	50～59 歳	-	市内の幹線道路の歩道の『雑草が伸び放題で危ないと思う。又、舗装が古くガタガタで普通に歩くのが難しい。』
男性	50～59 歳	上尾地区	住んでいる地域が一方通行が多いのですが、度々逆走する車を見かけます。もう少し標識や表示を見やすくしたほうが良いのではないかと思います。通学路にもなっているので心配ですね。

男性	50～59 歳	大谷地区	自転車も通行可の歩道に、街路樹が植わっていてせまくなっていて危険な所が多い。安心して子供を自転車に乗せられない。(大谷中西側の歩道)木がじゃまで横断歩道をわたりたくても車が見えにくくなっている所がある。街路樹がある事で危険。雑草が歩道まで伸びていて通れない。街灯が少なく暗くなってからの時間通るのが怖い場所がある。ごみ出しマナーが守られておらず道路がきたない所がある。自治会を退会する人がおり、自治会の必要性が周知されていない。
男性	60～69 歳	上尾地区	歩道が狭くデコボコ危険な道路を整備してほしい。バス路線が増え、色々な所に行きたい。
男性	60～69 歳	西上尾第二団地	市内の道路の整備が不完全なところが多々ある。
女性	70～79 歳	原市地区	〇〇地区は、我家の前の道路が舗装道路になってなくて埃で自動シャッターが時折不具合を起こし困っています。いまどき砂利道は無いのではと思いますがどう思いますか。結構あります。47年住んでいます。
女性	70～79 歳	大石地区	私の住む地域は、道路が狭く右折や左折をする時、角の家や電柱に車がぶつかりそうで運転しづらい。新しい家を作る時には、敷地の隅切り等、協力して欲しい。また、電柱が道路の方に出っ張っているのも危ない。
女性	70～79 歳	平方地区	高齢者、障がい者、子育て中の人等の移動の場合の交通手段の援助があったらよいなあとと思います。歩行者、自転車に乗る人たちが安心して移動できる専用道路が欲しいです。
男性	70～79 歳	上尾地区	1. 主要道路に歩道の整備 2. 主要道路に自転車通路の整備 3. 主要道路に電線の地中埋設。
男性	70～79 歳	上尾地区	1、通学路について①道路が狭すぎ安全確保出来ていない。②車道、歩道の白線が消えている。③道路ミラーが少ない。④教育「人は右、車は左」の徹底指導。2、戸建て住宅及びアパート等について①植木、垣根が歩道にはみ出している。②住宅の前の歩道の除草の義務化。③上記を市条例を進めるべきである。※「きれいな町上尾」を皆で進めましょう。

男性	70～79 歳	上平地区	最近、歩行車使用しています。特に感じたのは、歩行中歩道から車道に移行時、段差につまずき、歩行車と共に車道に倒れる事態に。歩道と車道境をバリアフリーに出来ないだろうか？これは自助ですか。
男性	70～79 歳	西上尾第二団地	自分は団地住まいで、年金暮らしの1人住まいの男子ですが今年癌を患い体力がもどりません。団地内や道路にベンチがなくてリハビリに歩いています。休憩する場所がなく困っています。
男性	70～79 歳	大谷地区	上尾道路の側道を散歩しているが、自転車が併走し危険を感じている。上記道路にゴミが捨てられ、犬のフンが片付けられていない時がある。マナーの悪さが目に付く。ボランティアが高齢化し人数が少なくなり負担が大きくなった。
男性	70～79 歳	平方地区	上尾駅付近は歩道が整備されているがその他の地域では歩道が極端に狭くなっている所があり通学路になっていると思われるところもある。歩道の整備をお願いします。
女性	80 歳以上	上平地区	上平地区〇〇では道路が一方通行のみの所が多く袋小路も多過ぎる。災害が起きた時たおれた建物や電柱で人が歩く所も無いと思われる。災害時の避難場所も遠く役に立たない。選挙の投票所も同じ小学校で歩いて40分。途中で別地区(〇〇地区)を歩いてそれから30分。老人には無理です。〇〇は上尾市のはずれ。文化的な面においてけぼりです。図書館は桶川図書館を家族で利用しています。バスの利用が出来ず不便。おかげで歩いています。Pポイントでいいから病院迄、駅迄、役場迄、等。お願いします。※区画整理をして道路の確保をして下さい。
男性	80 歳以上	上平地区	道路が狭いのは日本全国共通の悩みですが、各々の家の生垣からはみ出している植栽のために歩行者の歩く場所がますます狭くなっています。その狭い場所がカマボコ舗装なので年寄りには辛い…。
男性	80 歳以上	上平地区	県道の歩道が狭く危ない。桶川から伊奈線。一種住専地区なのに。17号線は歩道がぼこぼこ。医院が少なく不便。医師が商売優先に感じる、患者優先でない

#### ■公共交通や移動手段について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	18～29 歳	西上尾第一団地	公共交通機関をもっと便利にしてほしい。バス、電車など。
男性	18～29 歳	大石地区	バスの本数が少ない。通勤、通学に使えない。
女性	30～39 歳	-	公共交通機関の整備(バスが自宅周辺に通っていない)。住宅が多い割には、買い物できる場所が少ない。
女性	30～39 歳	大石地区	小泉地区のバスを作ってください。(上尾駅まで)小泉地区の街灯を増やす。

女性	40～49 歳	西上尾第二 団地	電車が高崎線だけだと遅延した場合大変です。もっと増えませんか。
女性	40～49 歳	大石地区	西上尾車庫から桶川駅までバスがあったらいいな。日帰り旅行とか行くのに桶川駅発が殆どなので。パソコン、スマホ教室。安い料金で行けたらいいな。(行きたくても高いお金ばかりで行けない。使いこなせたら仕事、プライベートがもっと充実するのに)
女性	40～49 歳	大谷地区	ぐるっとくんの本数が少なく、始発のバスの時間(遅い)や、最終のバスの時間が早いので、不便です。雨の日は、車で駅まで迎えに行く時がありますが、駅で待っている車が多く、あぶない時があります。通勤・通学の時間にもう少し本数を増やしたり、時間を考えていただきたいです。
女性	50～59 歳	原市団地	市内循環バスを利用しやすく。バスの流れやすい道路整備を(駅のロータリーも含む)。日用品を身近に購入できるように。公園や緑地の整備を宜しくお願いします。
女性	50～59 歳	上尾地区	アリオオンもオープンするのでぐるっと君のルートを考えてほしい。ぐるっと君のバスの終わりを21時ラストにしてほしい。バスが少なく不便。今は車に乗れるけど将来が不安に。
女性	50～59 歳	上尾地区	高齢者が免許を返納した場合の交通手段の充実を望みます。県内の別町では1日〇〇〇円で、その日はタクシーを何度も乗れるようなことを聞きました(違っていただけません)。免許を返納したら交通手段に限度があり、行動範囲も狭まり孤立につながるのでは…と思います。市とタクシー会社が連携し、補助金が発生すると思いますが、高齢者のタクシー乗り放題、もしくは、チケット(例えば200円で乗れるなら200円チケット)などを強く望みます。バスではなく行きたい場所(病院など)ピンポイントで行ける方法が望ましいと思います。上尾市が他市の見本になれる様な市になれるといいと思います。
女性	50～59 歳	西上尾第二 団地	バスの本数増便。バス・電車の時間接続・連携充実希望。
女性	50～59 歳	大石地区	私の住んでいるところは自然がいっぱいいいところです。でも逆に言えば不便です。どうしても車の生活なので高齢化にともない免許返納などしたときに交通の足が欲しい。自分たちの歩ける距離にないと意味がない。バス停を近くに。車の移動販売もいいけれど、たまには自分でスーパー行っていっぱいの中から選んで買い物したいようです。私もそう思います、どうかよろしくおねがいします。
男性	50～59 歳	大石地区	バスの本数が少ない。(市の循環バス)

女性	60～69 歳	原市地区	車のない生活を考えたら、とても淋しくなります。家にこもってしまうのでは、ないかと想像します。ぐるっとくんなどもう少し本数があつたらと思います。夏は蚊や色々な虫がたくさんです。空地の草かりや整備をして欲しいです。
女性	60～69 歳	上尾地区	私はまだ仕事ができる状態であまり近所のことは考えておりませんでした。今は仕事や運動が出来なくなった状態になったときのことを考えてみたいと思います。もし、自分自身が車の運転が出来なくなった時、買い物、病院、外出がどうなるだろうと思います。できるならば、ぐるっとくんを利用しスーパー、病院、駅と生活に必要な所を回ってほしいと思います。親しい方と声掛けし、軽くお茶とか食事ができるような場所を確保してほしい。1日1回は家を出て会話ができるようにしたい。今現在のぐるっとくんはあまり人が乗っていないように思います。朝早くは必要でしょうか？6時半位は誰も乗っていません。
女性	70～79 歳	上平地区	上尾市内循環「ぐるっとくん」のバスの時間が30分間隔ぐらいに走ってくれると助かるのですが。(大型バスでなく乗り合いバスの小型)
女性	70～79 歳	大石地区	先日社会福祉協議会への参加呼びかけて封筒が回覧板でまわりました。提供先は地域の副会長とか？支所や身近なところで受け付けてくれると参加しやすいです。駅まで商店まで自由に行けるとよいです。路線バスもないので高齢になると出かける手段がなくなります。「ぐるっとくん」の増便「デマンドタクシー」などで年をとってもできるだけ、特に市内のいろんなところに行きたいです。そして元気に過ごしたいです。公園や地域に集まれる場所がもっともっと欲しいです。公園にはベンチや緑がもっとほしいです。
男性	70～79 歳	上尾地区	横浜市では65歳以上の老人に外に出やすいように年5千円で市内バス、地下鉄乗り放題の老人特別乗車券を発行している。この制度は評判が良かった。参考まで。バス会社も多少の利益になるのではないかな。
男性	70～79 歳	大石地区	高齢化により免許証の自主返納が増えると、益々、市内循環バスぐるっとくんの需要が増し、その役割は大きくなるものと思う。現在のダイヤ編成ではとても利用できる状態になく、早急に増便、ルートを含めて検討を開始して頂きたい。無料のパスや割引券などを高齢者に配布して乗合タクシーなどもいかがでしょうか。



女性	80 歳以上	上尾地区	高齢者が上尾の駅に行く交通の非常に不便なこと。市内循環バスの数の少ない、全く当てにならない。1 人暮らしには、ストレスになる。上尾じゃなくて友達の話ですが、バスが充実しております。別に無料でなくてもバスの回数どうにかありませんか。今までずっと疑問でした。
男性	80 歳以上	原市地区	グルットくんや朝日バス等の路線網の交差と運行本数の拡充。1 日に数回しか運航されていない路線が多く利用者のニーズにこたえていない。デマンドバスやデマンドタクシー等も含めて高齢者が買い物や通院を容易にできる交通機関の拡充をぜひとも実現していただきたい、少子高齢化が進展する中で児童幼児対策の公園等あまり利用させず放置されている所が増えている、高齢者向けの交流活動の場にするのを検討実現していただきたい。医療施設充実の為市民病院等の設立や特別養護老人ホームの拡充等（長期的計画として）を進めて頂きたい。

■生活困窮者等への支援について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	60～69 歳	上尾地区	貧困化が進んでいる現在において、働く環境、整備が最も大切。ベーシックインカムの導入。
男性	60～69 歳	大谷地区	貧困家庭がSOSを出しにくいと感じている。学校を欠席しがち。保育所に通っていないなどきちんと市で把握し、関係機関と連携してほしい。また、コロナで地域で集まる行事が減り高齢者の孤立が心配。リモート勉強会など。
男性	70～79 歳	大谷地区	貧困の撲滅。市内の中学生が高校進学について家計の心配をしている割合はどのくらいか。市内の子供食堂は何か所あって何人くらいが利用しているのか市としての援助体制はどうなっているか。

■ごみ問題や市民のマナーについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	30～39 歳	原市地区	ごみ捨てるのルールについて市からの市報などで周知するようお願いしたいです。上尾市では地域の集積所に収集車が回収に来る集団回収です。回収日前日に集積所に捨てる方等がいたりするので防犯上（放火等の）不安を感じます。集合住宅等の規約でいつでも捨てるのが可能なところもあると思いますが、一般的なゴミ出しルールの周知をお願いしたいです。
女性	30～39 歳	原市地区	交通ルールを守らない車が多い。近所に問題がある方、小さなことにも理不尽なクレームをつけてくる人が住んでいる。挨拶ができない方が多い。このような問題を解決していただけたら快適に暮らせると思います。どうぞよろしく。
女性	30～39 歳	上尾地区	自転車を利用している人の運転マナーが悪い。
男性	30～39 歳	上尾地区	道がきれいになったが、交通マナーが悪い輩が増えたと感じる。犯罪も増えているのかは不明だが、強盗や空き巣などが近くであり不安。上尾市は東側と西側で分断されている気がするのでうまく言えないが、フラットになった方が良いと思う。
女性	40～49 歳	上平地区	ゴミ集積所の面積当たりの軒数を条例で決めてほしいです。ゴミがあふれ、カラスにあらされ、軒数が多いからゴミ当番をしない人も多く、マナーの悪い捨て方をする人が多くなってしまからです。また、集収できないゴミにはステッカーを貼ってほしいです。デイサービスなどに行くのをいやがる方が多いですが、「行くのが当たり前」のような本人も納得する流れになってほしいです。認知症になっても大丈夫、と思える世間があると良いと思います。いろいろな事を忘れて、出来なくなっても、あたたかく接してくれるなら安心して年を重ねていけるのでは・・・？予防も大事ですが、認知症になったら終わり、とあってほしくないです。
女性	50～59 歳	上平地区	ゴミ出しについて、決められたごみ集積所とは別の集積所に出す人がいたり、桶川市の方が上尾市の集積所に出したり、集積所のカラスよけのネットの上にごみを置いたり、当たり前のマナーを守れない人がいるのが残念です。
男性	60～69 歳	上尾地区	近所のゴミ問題（外国人の多く住むマンションでオーナー、管理会社が度々変わる為市役所に相談に行き、親切に対応してもらっても中々解決にいたらなかった）ゴミ回収車（民間？）の態度やマナーがとても悪い。

女性	70～79 歳	上尾地区	①ゴミ出しのルールを守ってほしい。②野良猫が多く(4～8尾)フンで困っている。マンションの住民もエサを与えないでほしい。
女性	70～79 歳	大石地区	子ども達や高齢者が安心して遊べるように公園内の飲酒、喫煙は禁止にして欲しいです。
女性	80 歳以上	西上尾第一 団地	団地に住んでいますが最近外人さんが多く見受けられます。団地には階段の自分の場所の掃除と、生ごみの日のカラスシート当番や決まりが最低限あるので全く守られていません。これは管理者側の問題とは思いますが非常に腹が立ちます。私のように80歳を超えるとお手伝いなどできませんので非常不満です。

#### ■社会福祉協議会について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	50～59 歳	上尾地区	社会福祉協議会の会費募集方法について→町内会でまとめたの集会は近所の方の手を通る事に抵抗がある。近所で出資している人はいない。市役所や出張所でも受け付けてくれると出しやすい。その他の町内会縛りではない。ボランティアに関する研修会を受けボランティア技量を身につけた後地域に還元したい。
男性	60～69 歳	大谷地区	社会福祉協議会について、自治会に参加している時は情報が流れてきて、少し役割、活動も理解出来る。しかし自治会に参加していない人は殆ど情報もないと感じる。上尾広報等に記載はしてあるが、読んでいる人は少ないかも。社会福祉協議会の活動が、目で見て分かる身近な活動、必要性をもっと実感できる活動にすることが望ましい。(大変難しい課題かも)
女性	70～79 歳	西上尾第二 団地	社会福祉協議会?初めて耳にしました。あたり前のようにアンケートに入っていますが何のためのどんな、何をやっている協議会?満足も何も存在を知らないのに答えられません。役所で働いている方は、ご存じかもしれませんがこのアンケートどうなのでしょう?特に高齢の母にこんな長いアンケート無理です。
男性	80 歳以上	上尾地区	家内が認知症に成った事で、今まで感心の無かった社協の事も解る様になって来た。一般の病院に入院させると1日8,000位掛かり長期入院は無理。将来入院させると成ったら経済的に市で安く入院させる事が出来るのか?それだけが心配です。
男性	80 歳以上	上尾地区	社会福祉協議会、募金、集金が一時期に集まりすぎてお金をまとめることができづらい。

■上尾市の生活環境全般について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	-	上尾地区	4～5年前、朝散歩していたら「お早うございます」と元気な大きな声で挨拶されました。見知らぬ小学4、5年生の男の子からでした。こちらもお早うございますと大きな声で挨拶を返しました。このことで、その日は何か満ち足りた快い一日となりました。(いまでもその時の男の子の元気な姿が目に残ります)挨拶がこれほどまでに心に潤いをもたらすという事を実感しました。現在「挨拶運動」は行われているのでしょうか。近隣を見ても、その様子はないようです。「まずは挨拶から」が「住みやすい街づくりを進める」第一歩ではないかと思えます。「挨拶、みんな元気、上尾」など何らかのスローガンを公募し大々的に活動することを望みます。
女性	18～29歳	上平地区	平塚公園内のアスレチック周辺が暗いため、外灯や公園の整備をしてもらいたい。蚊や蜂が沢山いるため利用したいがなかなか行けない。
男性	18～29歳	原市地区	大宮駅等のターミナル駅発の深夜帯のバスの運行、花火大会の継続、自治体の情報や地域の防災情報を得やすくする。(地域の人全員があたり前に知っているwebサイトを作成する等)ボランティア情報の発信を活発にする。
女性	30～39歳	-	子どもが安心して遊べる場所が少なくなっていると思います。家の前などで遊ばせてもうるさいとクレームがきたりして理解も得られにくくなっていると感じます。
女性	30～39歳	上尾地区	福祉サービスなどについては実際にその時になってみないとわからない事なので意見できないけれど、子育て世代として、上尾は大きな公園はあるが、気軽に行ける小さな公園が近所に少なすぎる。子供たちが安心して遊べる場をもっと提供してほしい。(家の周辺で遊ぶと苦情がくる為。)
女性	30～39歳	上尾地区	キャッチボール、野球、サッカー等子供が遊べる場所がない。習い事は高いし、少年団だと母親の仕事が増えるのがつらい。外へ放す猫を止めてほしい。車に傷がつくので迷惑。高齢者世帯と一般世帯でペアを組んだらどうだろうか?助けが必要か判断できない。

女性	30～39 歳	原市地区	小さな子供がいる家庭や、介護が必要な人が家族内にいる家庭が安心して生活できる環境整備が必要と考えます。大型（中規模）の分譲された地域では、子供が道路で遊んでいるのをよく目にします。確かに住民と配達の方以外が進入して来る道路ではないので、親御さんからすると家から近く目の届くところに子供がいるので安心かと思いますが近隣住民としては車で道路に入っていくときに不安があります。トラブルが起こる前に子供たちが安心して遊べる場所を各地域毎に配置してほしいです。（学校校庭の開放をもっと充実させる等）また各学校の保護者会で道路で遊ぶことは避けるよう啓もうして頂きたいです。
男性	30～39 歳	上尾地区	インターネットアクセスポイントの提供。渋滞多発地点の解消。
男性	30～39 歳	上平地区	公園をたくさん作ってほしい、遊ぶ場所が少ない。
女性	40～49 歳	上尾地区	福祉とは直接関係ないのですが、町の緑を増やしてほしいです。最近、近所のふれあいの森がなくなりました。中学生の娘は夏、部活の帰りに森迄来ると涼しかったのにと残念がっていました。木を安全に整備するのは大変だと思いますが、温暖化対策のためにももっと木を増やしてほしいです。街路樹とか増やしてほしいです。北上尾のPAPAの所も前は街路樹があったと思いますが、切ってしまっています。緑丘に住んでいますが、緑がいっぱいの緑丘になってほしいです。ふれあいの森は 99 年はあると言われていたのに本当に残念です。あれだけの木が育つ。
女性	40～49 歳	大石地区	空き家が多くて困ります。
女性	40～49 歳	大谷地区	大谷地区は急速に家が増えている気がします。大谷小は、いっぱいです。どうにかして欲しい。夕方、夜間、暗い道が多い。街灯を増やして欲しい。子育て医療費は高校生まであって欲しい。上尾駅を利用する際、人が多いのでホームを広げて欲しい。
女性	40～49 歳	平方地区	平方地区に住んでいますが子供が遊べる公園を作ってほしいです。
男性	40～49 歳	上尾地区	子供の運動会の音量にはおどろかされました。クレームがあったことによると思いますが、それをクレームする人達を信用するのは難しいです。市がこまるクレームは受付しないと思いますが、市がこまらないクレームなら何でも受入るとするのは、仕事としてどうかと思います。幼稚園が住民のクレームで作れない等、ニュースでもあると思いますが、その町には住みたくないです。（住人が嫌ですね）そう思う人が多くいると思いますが、それはひとえに尊重すべき意見をまちがえる環境が嫌なのだと思います。
女性	50～59 歳	-	最近、買い物などをされていて閉店している店、空いているテナントなど多く見かけます。「この町大丈夫？」と感じます。

女性	50～59 歳	上平地区	【誰もが住みやすいまちづくり】嗜好品の喫煙所が公共場所にあるのはおかしい。喫煙しない者にとっては害でしかない。他人に迷惑をかけないでほしい。吸い殻は拾えばいいが煙はどうにもならないし防ぎようがない。喫煙は個人の嗜好なのでとにかく撤去してほしい。なぜ喫煙所があるのか教えて欲しい。撤去しない理由も知りたい。
女性	60～69 歳	上平地区	子供の働く場所（会社など）無職なので。
女性	60～69 歳	西上尾第二 団地	文化的施設が無い（例：博物館、美術館など）。映画館施設に関しての住民の理解不足、誤ったデータ、思い込みによる反対の解消。自転車の交通ルールの周知。自転車の走行について道路の整備を進める場合には、利用者にルールを周知する事が大切となる。ぐるっとくんの見直し（本数、路線）。民間路線バスと重なる地域、道は不要の可能性が高い。
女性	60～69 歳	平方地区	道路端のゴミが気になります。ポイ捨てがなくなれば防犯にもつながると思います。見えるところを特にきれいにする運動ができればと思っています。徒歩散歩の時に目につくのですが、ゴミ用の袋をもっていないため回収できずいつも気になってしまいます。一人一人が通常の時でもゴミ拾いが自然にできたらなと思っています。
男性	60～69 歳	上尾地区	緑がなく木一本ない。自然と調和した街づくりをお願いします。
男性	60～69 歳	上尾地区	弁財地区の建築基準（建ぺい率と容積率）の再見直し。※家を建てられる条件緩和で若い人もさらに集まるし、居住の定着にもつながる。
女性	70～79 歳	上尾地区	近隣で木が切られると、どなたかが亡くなったのだと思い至ります。木を切らず、自然を残す、林を守る方法を考えて下さい。荒れた空地を見かけます。そのような土地に木を植え、育て守り緑あふれる上尾市にして下さい。
女性	70～79 歳	上尾地区	自然や緑の多い公園をもっと増やして欲しい、子供の遊び場、特に小学生以下の公園が少ない。
女性	70～79 歳	上尾地区	先日回覧板で、高齢者用に駅前に駐輪場を作りたいとの請願書の署名が回ってきましたが私は反対です。せっかく放置自転車がなくなったのに高齢者用としても、なくすずに元に戻ったら大変です。路上駐輪は絶対認めないで下さい。
女性	70～79 歳	上平地区	上尾に来た時は林や緑などが沢山あり、空気も今みたいにあまり汚れていなかったけど、年数が経つにつれ、空気も汚染され住みにくくなりました。周りも畑がだんだんと少なくなって住宅が増えました。これからも緑を残していただければと思いますね。

女性	70～79 歳	上平地区	上尾市に50年近く住んでいますが、林や森や屋敷林などの緑地がどんどん切り開かれて宅地などになっていく。自宅近くの上平公園に隣接する林が現在私の最も大切な場所になっています。最初の頃は本当の自然でした。木も生い茂り下草も雑草で埋まり、ふるりの野山へ入るようなワクワク感がありました。整然と管理された美しい公園にはない自然が近くにいて味わえます。真夏の暑い日でもセミが鳴く緑の木々の下をウォーキングをして楽しむ人たちがたくさんおられます。小さな子供たちも虫かごを持って若いパパやママに遊んでもらっています。歩く道が出ていますが草刈りで広い範囲は必要ないと思います。みずみずしい緑の雑草もここでは貴重なのです。気持ちがリフレッシュできるからです。是非残して欲しいです。
女性	70～79 歳	西上尾第一団地	地域に参加することが難しい。長い間フルタイムで働いていたためです。上尾市にも市営住宅があるといいのにとおもいます。作ってほしいです。高齢になると年金だけで生活するのは大変です。
女性	70～79 歳	大石地区	我が家は道路ひとつ隔てると桶川市。買い物、バス、病院等全て桶川市を利用しています。選挙時は期日前投票へ上尾市役所へ電車で。いつまで行けるか心配です。（投票所へは自転車で行けませんので）
女性	70～79 歳	大石地区	第二団地の近くに住んでいる者ですが、防災無線の設置場所が少なくって何と言っているのか聞き取れません。現場に来て実情と向き合って欲しいと思います。市の特別検診で若い時は西上尾保健所に行って乳がん検診をしていましたが、高齢になりあまりに遠いので躊躇しています。現在は行っていません。民間のアリオとかエディオンとか団地の駐車場に来てくれたら有難いです。

男性	70～79 歳	原市地区	水上公園の室内プールなくなり久しい。わくわくランドは遠すぎます。新にできるかもということもききます。選手を育てるプールでなく25mプールがあれば(どこのジムにもある)民間のプールは年配者でいっぱいです。水上公園に作ってほしいです。〈県と共に〉図書館の本がすくなくいです。さいたま市から借りることも多いです。最近ようやく社内在庫本に限り電話予約もできるようになりました。たすかります。本館を移す等の話もありましたが、とんでもないことです。本館の皆様の対応もとてもいいです。コロナの今年特にそれを感じてきました。ポストが少ないです。不便、コンビニ前によくありましたものを！！
男性	70～79 歳	上平地区	近くに大きな病院が出来たらいいと思う。
男性	70～79 歳	上平地区	丸山公園の池の水がきれいになると期待していたが枝や、木などそのまま、逆に池の水は汚れ魚釣りも禁止され、がっかりである。年寄りの楽しみの一つである魚釣りが禁止では逆に住みにくくしているみたいである。
男性	70～79 歳	西上尾第一団地	上尾市に暮らして思うことは大きな病気になったときには東京に行かなければならないことです。大学病院を上尾市に作り上げてほしい。近くの市町ではこの件で安心できる形が整っていると感じます。市内で大学病院があることの安心感はとても大きいと思います。積極的な取り組みを希望いたします。
男性	70～79 歳	大谷地区	地区内の区画整備。地区内にスーパー等必要。
女性	80 歳以上	上尾地区	上尾はとても住みやすい町だと思っています。緑が多く災害が少なく道路も整備されて安心して歩けます。一人暮らしの老人が増えていますので、事件や事故に巻き込まれないよう、安心して住める町であってほしいと思います。
女性	80 歳以上	上尾地区	上平の図書館予定地も棚上げ状態ですが、早くコミュニティの場として楽しく使えるよう建設を急いでほしいと思います。
男性	80 歳以上	上尾地区	上尾市をゴミのない町にしたい。動ける高齢者町内にいる。期日を決めて、(ゴミ出し日?)やる。
男性	80 歳以上	上尾地区	1. 花のまちづくりの推進、その手段として、コンクールの実施 2. 道路公園等の花壇整備、花、種子の配布 3. 道路、公園等の草刈り(年に2回を3回へ)
男性	80 歳以上	大谷地区	IT・AI時代①今後、少子化、働き方など大きく変わるでしょう。学校の廃校、各種形態の養護施設の考えも変わることでしょう。②外食街の大きな変化も起こるでしょう。③マウンテンバイクの使用も拡大しませんか。以上の事柄が今後考えられるとしたら街づくりは慎重に。
男性	80 歳以上	大谷地区	上尾市は都心にも近く、大変住みやすい良い町です。特に要望はありません。



■上尾市の市政全般について

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	18～29 歳	原市地区	定額給付金が再び給付することになるのであれば、迅速な対応をお願いします。
男性	18～29 歳	平方地区	無駄に税金を使わず必要などころに必要なぶんだけ使ってください。
女性	30～39 歳	上尾地区	市役所の方は、様々な立場の人の立場で物事を考えなければいけないので大変だと思います。より良くするためには、「今まで」という枠を取り払って考えてもらえたら嬉しいです。
男性	30～39 歳	上尾地区	若い人が住みやすい町を作るまちづくりがいいと思います。雇用の整備などをしっかりした方がいいと思います。
女性	40～49 歳	-	上尾市の外れのため地域のサービスが受けにくいです。支所が近くにありますが保健センターや市役所に行かないと用事がすまない時もあり車がある人はいいですが難しい方の多く感じます。市の職員が市民の為にしっかり働いてほしいです。
女性	40～49 歳	-	他市に比較して税金が高い。福祉が全体的に他市より遅れていると思う。本当に暮らしぶらいです。(他市に住んでいたこともあるので)道のつくりが特殊、土地を持っている人が手放したからず道が整備できないとよく聞きます。正直今まで何をしてきたのかとったりします。市政に対して「パフォーマンスだけ」はいいりません。本当に市民に対して市民目線で出来る事を一緒に考えていただけたらと思います。
女性	40～49 歳	上平地区	各種申請のオンライン化。自治会、町内会の活動が負担になっている家庭が多いので見直しをしてほしいです。形だけのアンケートに終わらないようにお願いします。
女性	40～49 歳	大谷地区	少子高齢化社会における各種問題を少しでも解決できるようご努力お願いいたします。
男性	40～49 歳	上尾地区	上尾市独自の給付金や商品券。きれいごとではない、目に見える形の支援や上尾市ならではの魅力の構築。このアンケートに対するお礼が無いのは良くないと思います。時間の消費だし面倒だと用紙を捨てられるだけだと思います。

男性	40～49 歳	上尾地区	私の住んでいる地域では高齢者が良い意味でも悪い意味でも元 気すぎるので、あまり支援の重要性が分かりません。町内会費も 子供たちのことよりも高齢者のことへ支出が多いです。財源には 限りがあるので子供（不妊治療含む）と障害のある方への支援も 優先してほしいです。上尾市の未来の為に”子供”の環境を整 えて下さい。交通マナーも私の見える範囲では運転者も歩行者も 高齢者が荒い行動をしていて危ないです。公園内に車で乗り付け てゲートボール…ゲートボール中に大声で怒鳴り合い。
男性	40～49 歳	上平地区	地域のコミュニケーションの防犯、災害などの緊急時に対応する マニュアルについて周知徹底とマニュアル法の作成と配布など、 地域コミュニティの人々が安心して行動できる体制を整備頂き たい。
男性	40～49 歳	上平地区	そもそも上尾市として、どんな福祉に取り組んでいるかを知りま せん。興味関心がうすい私たちにも問題はありますが、市として興味 関心をもたせる工夫をして欲しいです。
女性	50～59 歳	原市地区	上尾市に隣接するさいたま市東大宮〇丁目の空き地が放置され 不法投棄や、やぶ蚊、雑草などの被害が大きい。さいたま市と連 携して対応してほしい。（環境改善）
女性	50～59 歳	大石地区	上尾は地域に頼り過ぎ。プライバシーがあるので地域の方が介入 する範囲は限られている。過疎地域は、近所の方が介入すると噂 になる。専門の方、市の方にやって欲しい。情報提供を分かりや すくする。
男性	50～59 歳	原市地区	改正社会福祉法の努力義務規定を含めた法の主旨に関し着実な 実施を望みます。
男性	50～59 歳	上尾地区	行政の方々のリーダーシップに期待しています。
男性	50～59 歳	西上尾第一 団地	上尾市のホームページがわかりづらい。調べたいことがあっても どこを見たら良いのかわからない。サイトマップ等でわかりやす くしてほしい。
男性	50～59 歳	大石地区	市政が箱モノにしか目が向いてない中で、福祉への力の入れ方が 不安でならない。
女性	60～69 歳	上尾地区	誰にでも開かれた行政が行われることを希望します。

女性	60～69 歳	上平地区	上尾市の市政は分かりづらい。市の行政情報を伝える広報の機能が全く発揮されていない。市がこれから市民のために何を考え、課題を解決するため、何をどうしようとしているのか、市民に分かるよう、情報提供をしてもらいたい。分かりやすい、市民と共に市民生活を構築する市政になってほしい。福祉をはじめ行政職員の努力をもっと伝えて下さい。
女性	60～69 歳	大谷地区	各自治会区長に意見を聞いたらどうですか？そして、市でどうするか良く考えて下さい。
女性	60～69 歳	平方地区	私は平方地区に住んでいますが、近くの公園に、市関係の草取りの人たちがたまに来ていますが、ほとんど草とりもせず、確認の写真をとって、帰ります。いつも草がぼうぼうで、たまに、私はそうじをしていますが、何の為の行いなのか？税金のムダ。
男性	60～69 歳	-	高齢者、障害者の方々の雇用の促進。働きたい方への職場提供。社会と繋がっていることで生きがいを感じ得た賃金を使うことにより経済を回す。納税することにより市も豊かになる。
男性	60～69 歳	上尾地区	地震や火災などの災害時に住民同士が協力し合えるための組織づくりや情報がよくわからないので、広報等を通じて住民に理解できるようにして頂けると有難いです。上尾地区は総じて住みやすい場所であると日頃から感じています。
男性	60～69 歳	上尾地区	現在の社会では限界も見えているのでは？高齢者像に対し 20 年後にはどうなっているのか、自分だけ上尾だけを考えれば核の最終地として市が名乗りを上げ、国の援助を最大限引き出すのも一案かと…。
男性	60～69 歳	上平地区	上尾市独自のコロナに対する現金支給支援。デマンドタクシーの創設。空き家対策の支援→固定資産税の支援、減額。売買情報、ネットワークの構築。
男性	60～69 歳	大石地区	上尾市議会、上尾市長が市民の立場で市民のことを考えてほしい。自分都合の仕事は排除してほしい。上尾市を誇る事が全くできない。
男性	60～69 歳	平方地区	情報提供。
女性	70～79 歳	原市地区	私たちの町内でも、高齢化で多くの人々が何を手伝っていかとまどっています。もし災害が起きたらと思うと不安です。広報紙にもっと多くの情報を知らせていただき公共施設での利用を広げてほしいです。

女性	70～79 歳	上尾地区	市議会議員の数を減らすのと、市の職員の給料上尾市は高すぎる。市民税を安くして欲しい。上尾市にはおいしい食べ物屋が少ないと奥様方とよく話します。美味しいお店があると活性化、幸せを感じます。繁華街がない。市の職員、社協、コネで入っていると良く聞きます。私の知り合いに数名居ます。改善していただきたい!
女性	70～79 歳	上平地区	福祉にしても市政にしてももっと宣伝を活発にした方が良いと思う。理解や認識が出来るように促すことも必要だと感じる。
男性	70～79 歳	-	市職員全員が報酬額に応じた働きをしているか?また、責任を持って活動しているか。真剣に取り組むべきであり強く要望する。
男性	70～79 歳	原市地区	誰もが住みやすい町づくりの為の意見、要望等を直接市役所(福祉総務課)へ提出できる「市民目安箱」を各支所に設置してほしい。
男性	70～79 歳	上平地区	市として取り組んでいる実態、行動をより市民へ知らせる活動が必要。
男性	70～79 歳	大谷地区	風通しのいい市政。
男性	70～79 歳	平方地区	町内区を生活の実態に合わせて再編されたい。近くに公民館があるにもかかわらず、幹線道路を渡った遠くの〇〇を使用(掃除有)しなければならないのか、一度も使用していないにもかかわらず掃除当番があることは納得できない。〇〇地区。顔が見える町内区の規模とされたい。先ずは、地域づくりはその範囲を明確にすることからである。区長の顔が見える範囲とすること!
女性	80 歳以上	-	便利で至りつくせりになるより思いありのある温かい町づくりをしてほしいです。
女性	80 歳以上	平方地区	行政の仕事も自治会等の地域住民に負担するような風潮を感じます。もう少し市の職員が積極的に関与するように。
男性	80 歳以上	原市地区	各重点福祉事業、行政は積極的に進めているが市民に浸透されていない残念に思う。市民が自分にも係る事として、広報、社協だよりに目を通してもらいたい。
男性	80 歳以上	上尾地区	このような取り組みが大切だと思います。
男性	80 歳以上	上尾地区	まず、上尾市は、増加する人口と社会も近代化に向けた都市計画に失敗し、かつ、財政規模が小さいので、取り戻すのは困難だと思う。幸い、他に比較して災害は少ないと思うので、市は、官民の旧態依然とした体質を改善しその上で、行政が行動的に作用しないと市民(住民に)いくら働きかけても実効性は期待できないと思う。隗より始めよ、です。

男性	80 歳以上	上平地区	9 年前に子どもの住んでいる上尾に東京から来ました。「終の棲家」です。色々と戸惑ったこともありましたが。公金の使い方が甘い。「図書館」の件で 2400 万→9600 万として支払った事。元市長のブロック塀の修理など、一部の有力者が市政を私物化している(いた)。市の職員がもっと積極的に市民の為に色々と工夫し、提案する事を求めたい。(朝日新聞の埼玉欄にほとんど上尾は登場しない)頑張りましょう。行政が大きいことが安心した老後が過ごせると思います。
男性	80 歳以上	西上尾第二団地	市政の刷新が急務ではないでしょうか。心ある人々が以前から声をあげているようですが改まっている様に思えません。現状で“力”のある方々に申し上げます。「市民の目線で全体を見てみて下さい。そして今やらなければならない事を始めて下さい。」

■このアンケートについて

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
女性	18~29 歳	-	アンケートは郵送ではなくネット回答を主流にすべきと思う。(紙代や郵送の手間が無駄な為)今後は郵送物は送らないでほしい。高い市県民税を払っていてもアンケートのお願いや手間がかかることばかりでメリットがない。アッピーはかわいいので大好きです!!!!!!
女性	30~39 歳	大谷地区	アンケートを記入したことで、地域福祉について考えるきっかけになりました。福祉組織や行政などのサポートを受けられるのは、とてもありがたいことですが、私自身も身の回りでサポートできることがあるのではと、感じたので、日々の生活の中でも周りの方々に気に掛けて過ごしてみたいと思いました。アンケートの集計も大変かと存じますが、少しでも関わることができて良かったと思っています。上尾市がより住みやすい町になることを楽しみにしています。よろしくお願いします。
男性	30~39 歳	尾山台団地	アンケートの項目が多い。
男性	40~49 歳	大石地区	アンケート用紙に対して返信用封筒が小さすぎるのでは？
女性	50~59 歳	-	アンケートをとってその結果は発表していますか？ただアンケートをとっているだけでしたらそちらの自己満足だと思えます。アンケートの必然性がわからない。

女性	60～69 歳	原市地区	高齢者がコロナウイルスにかかった場合、症状の程度にかかわらず、入院するのでしょうか。入院しなかった場合は自宅待機、食事の買物、日常生活の買物はどうなるのでしょうか。上尾市の市報他、ホームページ等に掲載されていますか。今回のアンケートについては、インターネットで回答できるようにはできなかったのでしょうか。インターネット、調査票どちらか選択できるのもいいと思います。今回、設問が多いのでインターネットでやる場合、途中までしかできなかった場合でも、翌日又は時間差に続き可にしてほしい。
男性	60～69 歳	上尾地区	パソコンからも入力できるようにしてください。集計する手作業に人がかかります。日本政府がペーパーレスを推進しているのですから、市も同様です。
-	70～79 歳	上尾地区	自分の体調が悪く、アンケートを提出するのに困った。
男性	70～79 歳	西上尾第一団地	認知症の域に突入。正確な回答が出来たか不安だ？
女性	80 歳以上	原市地区	アンケートのボリュームがありすぎ。文字数を見ただけで回答意欲が落ちると思います。（*母から聞き取り代理記入しました）
女性	80 歳以上	原市地区	コロナ禍の今、ちょっと変な設問もあった。
男性	80 歳以上	平方地区	このアンケートの趣旨は理解出来るが、計画にどのように生かされたのか、具体的に分かる方法を。どう市民に伝えるのか？アンケートの効果に疑問があります！！

#### ■その他

性別	年代	居住地区	ご意見・ご要望
男性	18～29 歳	-	小、中校の数の適正化。
女性	40～49 歳	上平地区	近くに住んでいるおじいさん。最近全く見かけないが、生きてるかもわからない。
男性	40～49 歳	上尾地区	いつもお世話になりありがとうございます。
男性	40～49 歳	上尾地区	ネットを活用すべき。
男性	40～49 歳	大石地区	2人暮らしの為、あまり役に立つ情報ではないかもしれませんが。よろしく願います。
女性	50～59 歳	原市地区	コロナと共存していく、これからの為に具体的に何が良くて、どこまで出来るのか、何をしてはいけないのか、細かな情報が見えて来たら、もう少し自身の行動範囲も広がり、不安、ストレスの解消になるのかなと思います。
女性	50～59 歳	大谷地区	現在、不満がありませんので特にありません。
男性	50～59 歳	-	〇〇〇〇を開業させることをゆるした自治体の信用をうたがう。以上！！
男性	50～59 歳	原市地区	今のままでいいと思う。

男性	50～59 歳	上尾地区	仕事の都合上あまり協力できませんが困っている人の為になるようがんばってください。
男性	50～59 歳	上平地区	全市民に検査の実施。
男性	50～59 歳	大谷地区	これからもがんばってください。
女性	60～69 歳	上尾地区	十分な手洗いはしているつもりですが、スーパーで買い物をしてきた物の扱いがよく分かりません。店内で色々な人々が自由にさわった物を冷蔵庫に入れることに抵抗があります。
男性	60～69 歳	原市地区	①風車のある国オランダでは、農家が風車を使って自家発電を行っています。上尾市は平地が多いので太陽光発電と農業に両立を検討する事も考えられます。安価な電気代が太陽電池（発電に必要な波長のみ吸収）植物に必要な波長②インターネット経済が発達する職場なら自然とコミュニティが形成されます。Youtubeコンテンツ作成サークルの充実等で収益を得る。1 回見ると0.3円程度、税金でコンテンツを作るのではなく、コンテンツ制作で収益を得るサークルを増やす事を考える→子供音楽会の発表チャンネル等多様な内容が自然発生します。③上尾市内の E コマース充実。（老人等の確認も自然とできる）
-	70～79 歳	西上尾第二団地	77歳、自分の年です。これまで元気で色々人生ありましたが本当にこの年になりました。コロナにもあわずリュウマチは持っていますが団地の方たちの静かに見守ってくれる姿勢、大変といえはていねいに教えてくれて外出するようになり趣味の踊りを始められるようになりました。私自身が元気で生きていく事が要望。これからも周りの方、市の方民生委員の方に感謝しながらです。
女性	70～79 歳	上尾地区	現在のところ不満はありません。
女性	70～79 歳	上尾地区	越してきて2年ぐらい、そもそも上尾市がよくわからない。
女性	70～79 歳	上尾地区	代理も無理で。自分の事でいっぱいです。法律出来ないと協力できない。
女性	70～79 歳	上平地区	難しい事ですが年を取りますと便利に買いもの、公園など行けるようになるといいなと思います。

女性	70～79 歳	-	近所の親しい人にお話をしても相談してもすぐ別の人にお話をしてしまう、おしゃべりな人が多いから秘密ごと、相談は出来ない。介護を必要とする人はそれなりの勉強をしてもらいたい。私は障害者ですがある会に参加していましたが終了したら私はほったらかしで他の良い人で話をして私は別の人が見つけてその人そのままにしておいたらそのまま落ちてしまい大変な事になると！とボランティアさんが注意されました。障害者を助けるためにはボランティアと言っても聞こえはいいですが内容がともなっていません。上記に書いたように他言は無用です。中にはおしゃべりをする人がいて気を付けたいものです。そのような人に教育したいです。デイサービスに行くと、年上のおばあさんの話を聞いて、すごく勉強になり良かったと思います。実習生の勉強になったと言われて私は話して良かったと思いました。
男性	70～79 歳	上尾地区	コロナウイルスがいつ終決するのか。
男性	70～79 歳	上平地区	怖い！
男性	70～79 歳	西上尾第一団地	上尾を選んでよかったと思います。川口市に 40 年、横浜に 4 年、大阪 7 年、上尾に住んでよかったと思います。
男性	70～79 歳	大石地区	今まで自由だったものが不自由になった。いちいち消毒、マスクなど。
女性	80 歳以上	原市団地	今でも十分です。
女性	80 歳以上	原市地区	外見等の容姿や噂話しを鵜呑みにしない社会、差別のない社会、尊重する社会、犯罪阻止する為に防犯を強化する社会、虐めを阻止する組織強化、ストレスを溜めない健康づくり。
女性	80 歳以上	上尾地区	よい町だと思います
女性	80 歳以上	上尾地区	途中まで記入は次男、本人4月に脳梗塞にて失語症、身体障害、痴呆にてコミュニケーションとれず。かつ現在施設入所中にてコロナ関連にて面会できず。本人の意志が重要なようなので無回答で返送します。
女性	80 歳以上	上尾地区	これは上尾市のことでは無いのですが（国のことです）三年前に夫が88才で亡くなりました。以前は亡夫の年金は妻が受取られたのに・・・私方では妻の私の方が厚生年金の加入期間が夫より2ヶ月ぐらい長かったようで・・・亡夫の年金がもらえません。私の年金は厚生25年国民25年で・・・受取り額1ヶ月7万円です。亡夫のなら12万円はもらえるのに！！ 7万で電気、水道、ガス、固定資産税、払って生活することは容易ではありません・・・実姉の遺産が少しもらったので、それを取りくずしながら今はなんとかその日その日を過ごしております。（今の住宅地は新潟長岡の自分の家、土地を売った代金で買ったものです。）
女性	80 歳以上	大石地区	祖母は、介護老人保健施設に入居しており、コロナの影響で面会が出来ない状態です。なので、孫が代筆致しました。



女性	80 歳以上	平方地区	娘の私が代筆していますが母は10年前より認知症のため意向はまったく書けません。
女性	80 歳以上	平方地区	今は介護施設で生活をしています。右半分が動きません。わかるなかで書きました。
男性	80 歳以上	原市地区	PCR検査の充実。ワクチンの早期開発。
男性	80 歳以上	原市地区	私は今まで自治会活動等でかなり積極的に行動してきましたが、いろんな意味で失望があったりわずらわしかったりで2年前に自治会を脱会してしまいました。妻は介護施設に入り今はひとり暮らしです。若いころからスポーツマンで現在も週4日ジム通いしてトレーニングして運動能力には自信があり化け物と言われるくらいです。地域との接触もほとんどなくなり自由気ままに生活をしている状態ですから意見や要望を書く資格はないと自覚しています。
男性	80 歳以上	西上尾第一団地	今や、大変なコロナ禍を被る中、困窮する経済社会において、況してや、その人々の時への対処が難しくもあります。疲弊困惑しました。そのエポック感としても、もう地域に限定ではなく日本社会に限れば、色々な分野から共同研究開発、その実用化に向けた核都市のネットワーク強化時代に入った様に思います。この際、インフラの新たなイノベーション体制を望みます。先ず、都心から上尾尾地域の利便性からも、光によるクリーンエネルギーの大規模な創設の拠点探しです。その土地は、ありそうです。上尾市政の後押しも楽しみです。同時に、増々の応用科学とR&D、そして人生社会を形作る本来の分別あるザ・ネイチャーとしての概念を忘れないAI科学、その開発におけるバランスです。これには、心理科学体制と様式化を計り、同じく生化学そして科学体系との充実度に関わることだと思えます。しかし、ある意味、突出した応用反応からの注意点として、人間の心理性の闇(劣化)や身体維持作りへの劣化の予防を考えます。大いなる再考は再興にして、そう、今にも、人間の性善説による感性を豊かにする為のメカニカル・ロボットの多様性化は、もう止まらないコロナ禍をきっかけに科学の進展、加速による次の答えを出すのでしょうかと勝手に想像します。しかし、常に時代には危惧は付き物、より良き物への希望にも自己だけではなく分別を示し他にプラスにと日本の未来を考えます。もうひとつとして、上尾には経済的生活圏において人気があります。その流れは楽しみに繋がります。



---

---

### Ⅲ. 福祉関係事業所調査結果

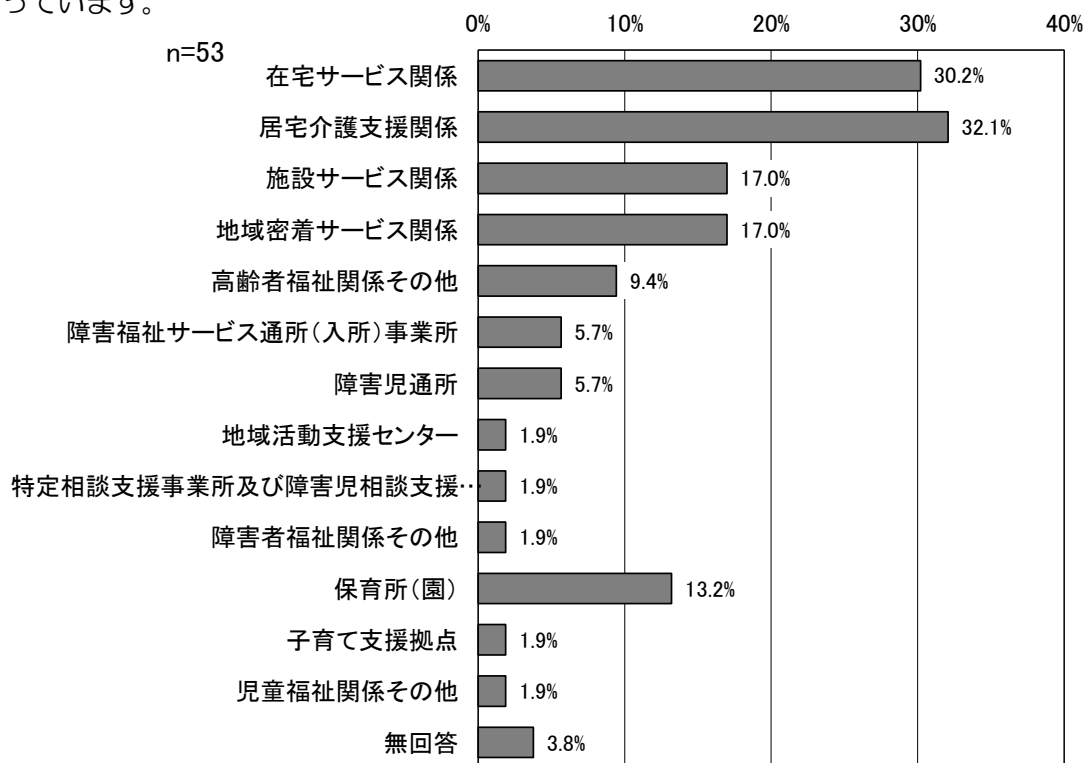
---

---

# 1. 貴事業者について

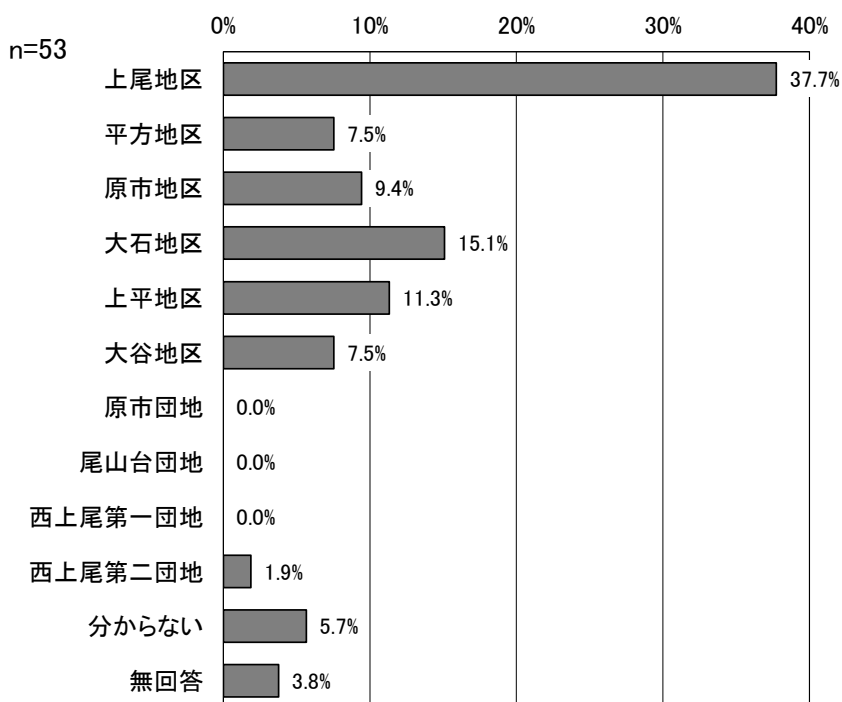
## 問1 貴事業者は、どの分野の業務を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

行っている業務の分野については、「居宅介護支援関係」が32.1%と最も高く、次いで「在宅サービス関係」が30.2%、「施設サービス関係」と「地域密着サービス関係」がそれぞれ17.0%となっています。



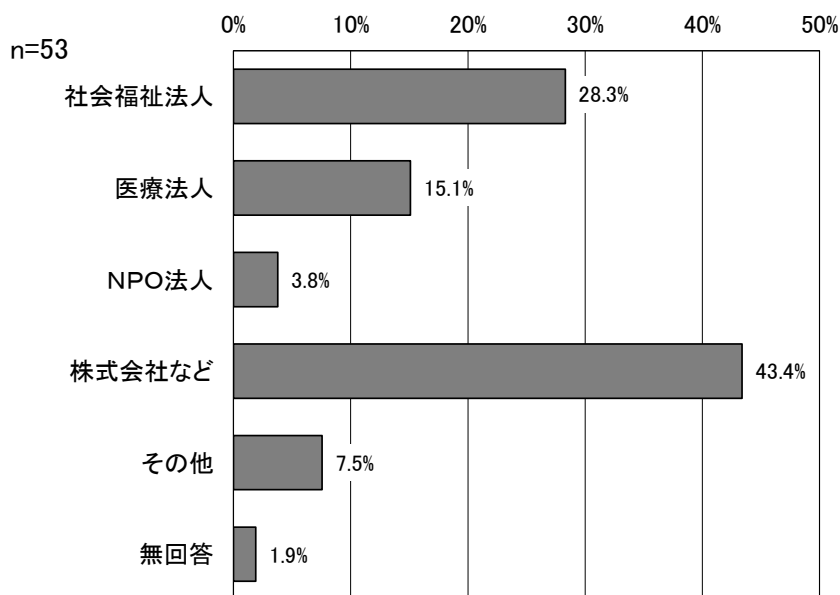
## 問2 貴事業者が所在する地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

事業者の所在地については、「上尾地区」が37.7%と最も高く、次いで「大石地区」が15.1%、「上平地区」が11.3%となっています。



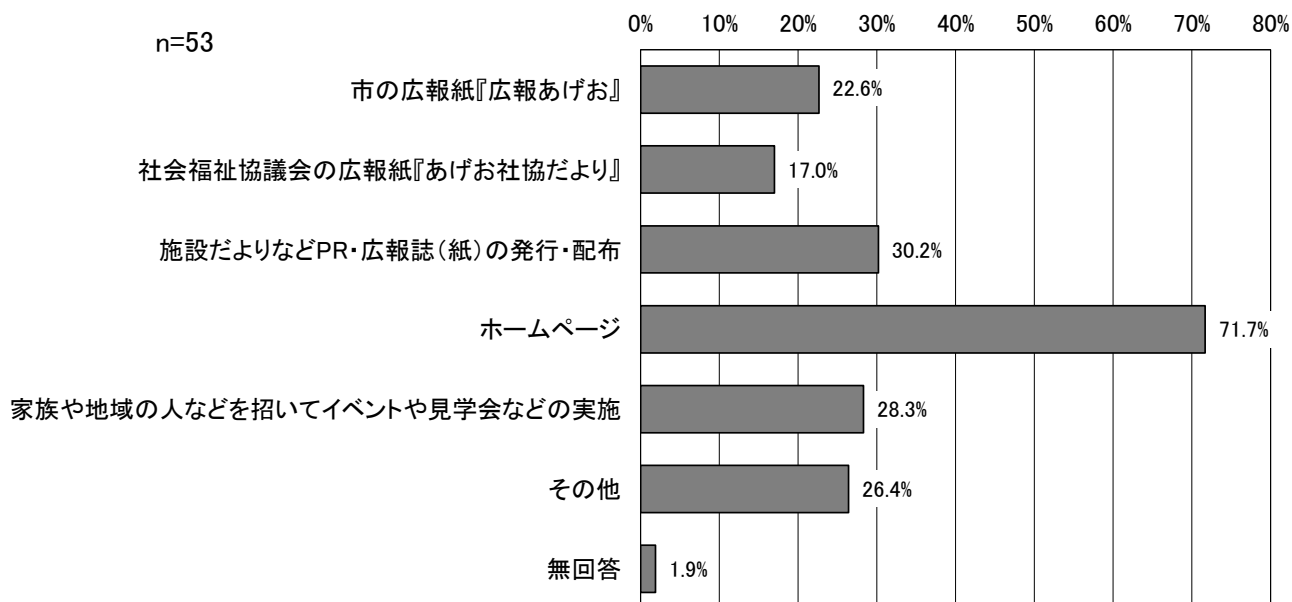
**問3 貴事業者の運営形態はどれですか。(ひとつだけ○)**

運営形態については、「株式会社など」が43.4%と最も高く、次いで「社会福祉法人」が28.3%、「医療法人」が15.1%となっています。



**問4 貴事業者では、情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)**

情報発信の方法については、「ホームページ」が71.7%と最も高く、次いで「施設だよりなどPR・広報誌（紙）の発行・配布」が30.2%、「家族や地域の人などを招いてイベントや見学会などの実施」が28.3%となっています。



## 2. 地域貢献、社会貢献や地域での活動について

問5 地域貢献、社会貢献や地域での活動で、現在実施している、実施予定である、今後必要だと思うことを具体的にご記入ください。(複数回答) 該当する項目について具体的にお書きください。

### 【子ども・子育て】

- 地域の子育て世代の育児や家庭に関する悩み等について、相談対応や援助を行っています。
- 子育て支援拠点、ベビーサロン
- 発達に障害のある、もしくは遅れがある子への支援
- ①地域の自治会館開放による子供たちの場作り
- 認知症についての教育
- 支援センターより、子育ての相談に応じている。
- 保育園との多世代交流
- 育児、就学児の悩み相談への対応
- 子育てに関する相談
- こども 110 番としての対応
- 経済的困窮家庭の子供を対象とした学習支援活動を行っている。
- 子供 110 番の家、登録済

### 【障がい（身体・知的・精神）】

- 地域におけるリハビリ訓練への対応（今後必要）
- 身体、知的障害者の雇用
- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 共生社会の実現に向けて取り組んでいきたい。
- 認知症＋精神の対応
- 障害者の就労の場
- 発達障害児等に係る保護者からの相談対応
- 知的、精神障がい者を社内に受け入れる施設の数及び質の向上。
- ②2地域の自治会館解放による障害者と親の会等の集まりの場を作る。
- 関係機関への連絡調整
- 発達支援
- 乳幼児の発達に関する支援
- 相談支援（現在の生活、保護者の高齢、など）

### 【高齢・介護（認知症、見守り）】

- 高齢者様へのリハビリ及び機能低下予防。オレンジカフェ等に参加講演。
- 高齢者の介護相談、認知症、生活困窮、虐待、権利擁護、医療相談
- 居宅介護支援、高齢者等への見守り、相談
- 高齢者同士が自主的に集まるきっかけづくり
- 併設しているサービス付高齢者向け住宅では上尾市見守りネットワーク構成機関に加入
- 認知症カフェ、みのりクラブ等

- 認知症の予防と啓発（地域の専門職と協力し実施）。民生委員様の協力を得て地域の高齢者の見守りや支援を行っている。
- ボランティア、通所の介助
- 定期開催される地域会議（市役所、包括支援センター参加）から、施設の情報公開と認知症研修等実施。
- 介護相談窓口設置
- メインである活動ではあるが、今より一層強化。
- デイサービス見学会・説明会への参加、RUN 伴への参加
- コロナの活動がなくなってしまうため生活が不活発になっている。
- 高齢者の独居や老々介護の世帯が増えている。見守りサービスは必要。又、コロナの影響で入院患者が在宅療養に移行する方が多くなっている。医療依存度が高い方の自宅での過ごし方を検討する必要がある。
- 介護相談。今後必要だと思うこと、地域の子どもや、高齢者が気軽に遊んだり話し相手として自由に来れること。
- 訪問介護の現場では劣悪な環境で暮らしている方も多く、今後単身世帯も増える事から孤立を防ぎ、早めに介護サービスをにつなげる取り組みが必要。
- 認知症サポート事業への参加、通院同行介助が必要。
- 認知症のひとを専門的に介護できる施設の数及び質の向上
- ③地域の自治会館解放による高齢者のサロン等の集まりの場を作る。
- 在宅介護におけるサービスの充実。保険外でのサービスの取り組み
- 市との委託業務の運営
- 認知症徘徊高齢者の見守り訓練
- 認知症の方の訴えによる対応
- 介護保険に関する相談への対応。健康や病気（認知症含）の相談への対応。単身高齢者、高齢世帯調査、見守り。
- オレンジカフェ
- 「介護相談る一む」を開き、「認知症高齢者の心に寄り添って」「認知症なんて怖くない」の講演を行った。後で、介護者の悩みを出し合った。
- ヘルパー数の減少を防ぐ取り組み
- ガン末期の方や難病の方の受入を行い、生活を支えている。

### 【人権・家庭内暴力】

- 高齢介護課の担当者と連携し対応している。
- 上尾市立畔吉集会所運営委員会委員
- 成年後見制度、日常生活自立支援事業、DV 相談先の紹介、つなぎ
- 高齢者の人権擁護に関する相談への対応。関係機関の紹介。
- 虐待の早期発見・報告。地域の見守り強化
- 人権保育
- 家庭支援、人権保育

### 【ゴミ・住環境】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 地域で行っている資源回収等には、毎月協力し参加している。
- 今年地区の役員で環境美化担当をやっていますが、アパート住人が自治会に入っていないく、ゴミの集積所が利用できない問題がありました。アパートの大家さんや5世帯以上の戸建ての造成地には、ゴミの集積所の設置を義務づける条例等あれば！！
- ふれあい収集の申請支援
- ふれあい収集の紹介、つなぎ
- 日常的にゴミ出しが困難な高齢者への相談への対応。

### 【地域活動・ボランティア活動】

- 元気アップに参加させて頂いてました。
- 体操教室、上尾市への体操映像協力
- 民生委員様の会議が開催される前に向き情報交換に努めるとともに顔の見える関係作りを行う。社協その他地域の会議に出席し、情報交換や顔の見える関係作りを努めている。
- 領家夏祭り実行委員会委員長から在園者と施設長招待（恵和園は子供みこし立ち寄り所）
- 毎月、地域の方々にボランティアにきていただき、開催していた。現在は、コロナ禍の影響で、園芸ボラのみになっている。
- 地域の中にある施設として、定着させていきたい。ボランティア活動に参加できる機会を持ちたい。
- ふれあいサロン（地域向けカルチャースクール）、コミュニティカフェの運営、地域のお祭りへの参加（どろいんきょ）
- 地域活動等への施設備品及び会場等の貸し出し
- リタイアして人がもっと積極的にボランティアへ参加できる環境
- 行政が担い手を集め、上記①②③を進めていく。
- 認知症高齢者の傾聴ボランティア（本人・家族）
- 高齢者に関わる事業のボランティア育成。コロナが落ち着いたらウェルカフェ（ウェルシアカフェ）開催
- 地域住民（65才以上）への介護予防や認知症予防の啓発活動。
- 老人介護施設への年長組による訪問（お楽しみ会での出し物を観ていただくために訪問）
- 高齢者・子供との交流の場
- 地域の子育て支援
- ウォーキング中にゴミ広い等を実施（予定）

### 【道路・公園・公共施設】

- 公園に向いて支援センターの活動を行っています。保健センターなどで行われる親子のつどいに参加しています。
- 地域活動等への施設設備及び備品の貸し出し



### 【健康・医療】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- 高齢・介護のランに記入しました。
- 健康相談
- 高齢者の健康増進のため、介護予防教室開催（コロナが落ち着いて高齢介護課の許可が下りた時）
- 健康や病気（認知症含）に関する相談への対応。

### 【就労・経済的な事項】

- 相談あれば必要な機関と連携し対応している。
- ハローワークにて開催される企業案内への参加、求人者に情報公開している。
- 就職説明会への開催（福祉施設向け）があると良いと思います。
- くらしサポートの紹介、つなぎ
- 生活困窮に関する相談対応。
- 低所得家庭（学生）の学習場所の提供（昨年まで。感染症予防のため今年は中止）

### 【防災・防犯・交通安全】

- 地震、火災を想定した避難訓練を実施しています。講座で応急手当講座の実施を消防署にお願いしています。
- 月1回交通安全アドバイス制度実施し、埼玉県県民生活部防犯交通安全課へ結果を報告している。
- 災害時相互援助協定
- 消費生活センターの啓蒙活動の協力
- 地域住民等に相談窓口として必要な情報提供を行う。
- 登下校時の地域全体での見守りの強化

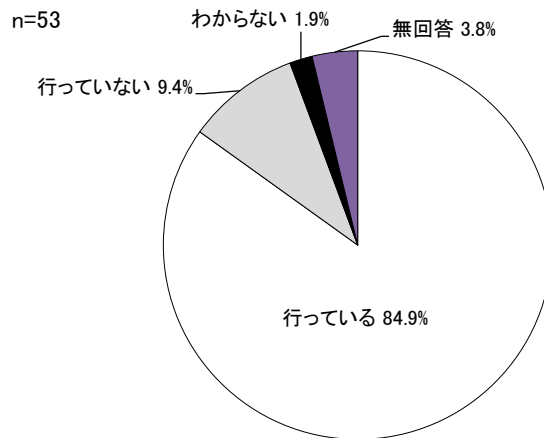
### 【福祉に関する情報提供】

- 介護者へのつどい
- 高齢者の方に介護サービス等の情報提供
- 行政やNPO等のチラシや配布物によって、他機関で利用できる福祉についての情報提供を行っております。
- わたしノートなどの活用を広める活動
- 相談あれば情報提供している。
- 地域に向けて情報の共有を計ること
- 施設来訪者への見学対応（必要に応じての福祉情報の提供）
- 関係機関との連絡調整
- 高齢者の福祉に関する情報提供は常時対応
- 65才以上の相談窓口として必要な情報提供を行う。
- NPO 法人福祉倶楽部ちゃのみの会員誌に情報提供している。ホームページも開いている。

### 3. 他の団体・組織及び地域との連携について

#### 問6 現在、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を行っていますか。(ひとつだけ)

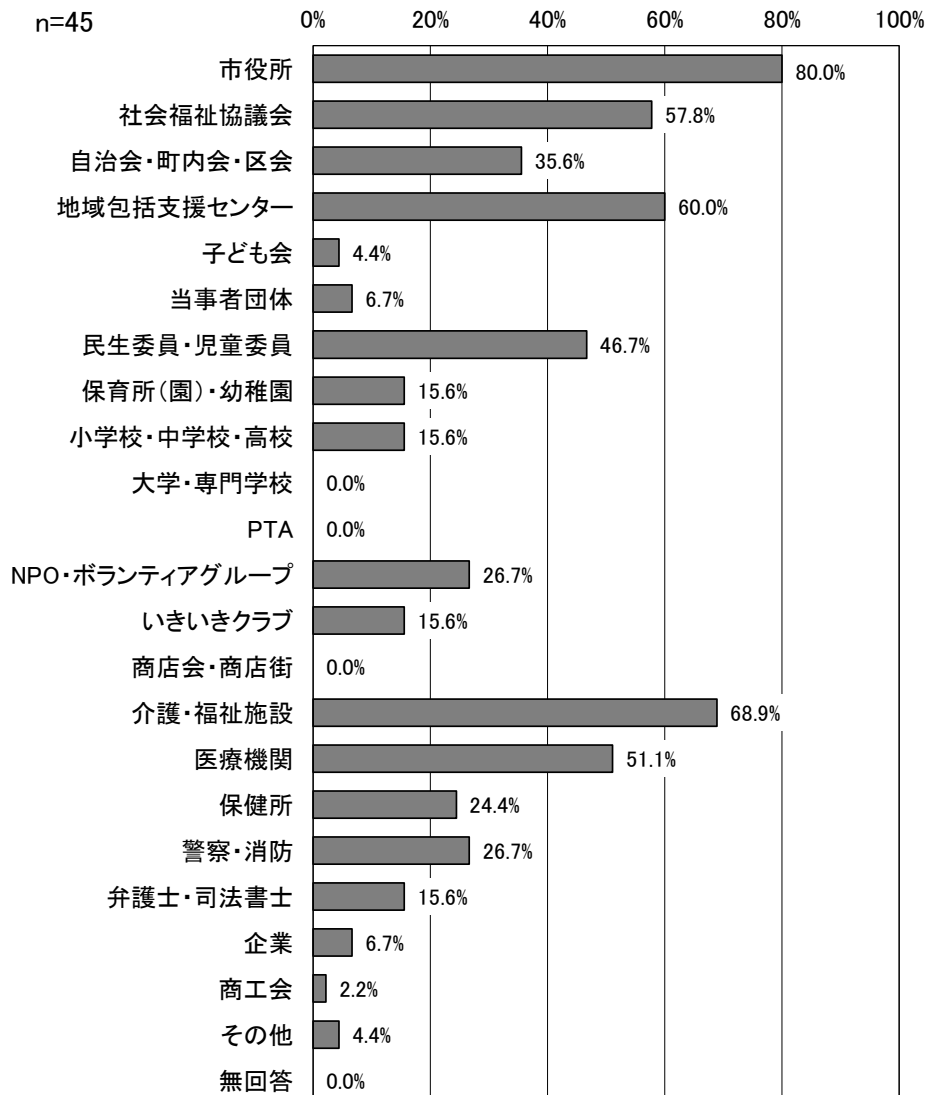
情報交換や連携の状況については、「行っている」が84.9%と最も高くなっています。



問6「1」に回答した事業者にかがいます

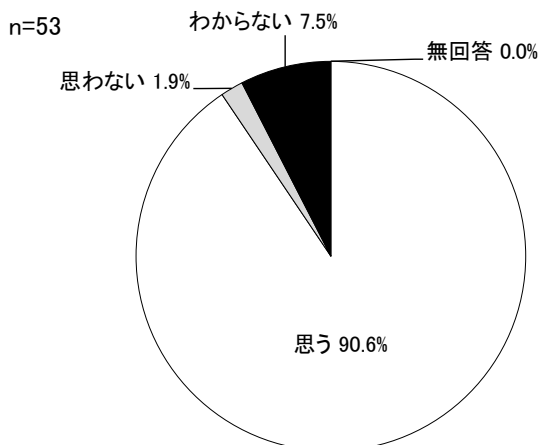
#### 問6-1 情報交換や連携を行っている団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

情報交換や連携を行っている団体・組織については、「市役所」が80.0%と最も高く、次いで「介護・福祉施設」が68.9%、「地域包括支援センター」が60.0%となっています。



**問7 今後、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を強めたいと思いますか。(ひとつだけ○)**

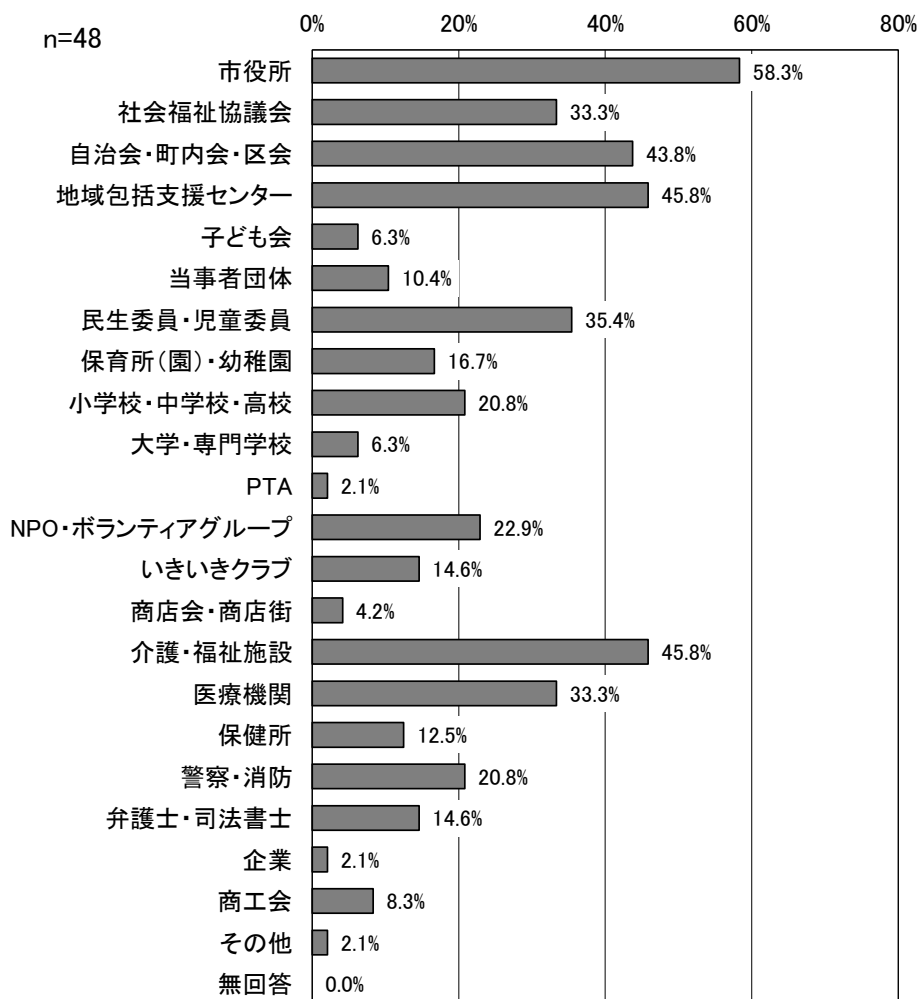
情報交換や連携強化の今後の意向については、「思う」が90.6%と最も高くなっています。



**問7で「1」に回答した事業者にかがいます**

**問7-1 特に情報交換や連携を強めたい団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)**

情報交換や連携を強めたい団体・組織については、「市役所」が58.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」と「介護・福祉施設」がそれぞれ45.8%、「自治会・町内会・区会」が43.8%となっています。



**問8 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例がありますか。(具体的に記入)**

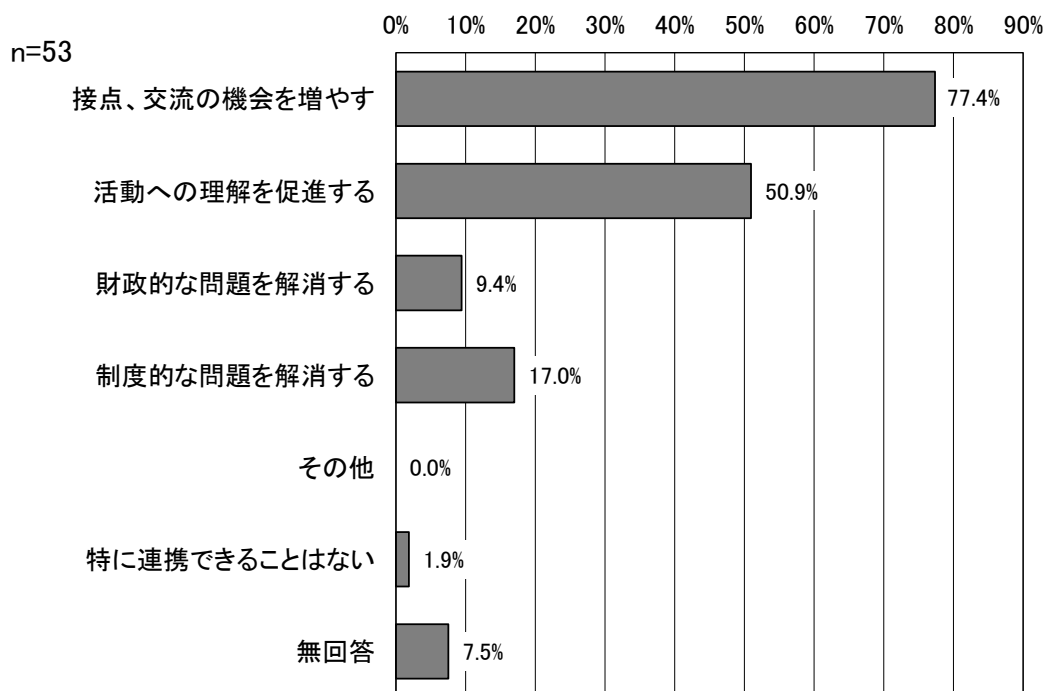
**問8-1 問8で書かれた問題・事例に対して、他で同様な問題がおこった場合に、貴事業者として協力できることがありましたらお書きください。(具体的に記入)**

- 80代の認知症の母親、60代の精神疾患の息子との2人暮らし。双方、サービス、専門病院への受診等すべて拒否。  
【8-1 協力できること】関わった関係機関の情報提供。
- 簡単なお金の管理、コロナにより外出控え、契約手続きなど…。  
【8-1 協力できること】家族との協力関係の構築、ボランティア。
- 身寄りのない方や近所に家族のいない方の入院時の受入。  
【8-1 協力できること】病院からケアマネケアマネの付添いや入院時のサインを求められるが、責任を持つことができないため困ってしまう。市役所として、具体的な対応方法を示してもらえれば、それに協力したい。
- 利用者さんが、他に使いたいサービスが利用出来ず、困っている(サービスの数が少ない)  
【8-1 協力できること】情報の提供。
- 通所リハや局所介護における卒業はなかなか難しい。卒業後の受け皿の拡充が、必要と考える。  
【8-1 協力できること】現在コロナ感染拡大防止の為休止はしているが、地域での体操教室を行っている。さらなる地域貢献を行いたい。
- 高齢者運転免許証の自主返納がすすめられているが、受診や買い物などの移動手段が課題になってくるのではないのでしょうか。  
【8-1 協力できること】送迎のある病院、医院や配食サービスなど、地域の社会資源についてご紹介する。
- 小規模多機能での支援には、ほかの通所介護、訪問介護、ショートステイの利用の様に、特に決まりが少ない中、本人の自立支援に向けてプラン作りを行っているが、ロングのショートになりすぎたり、訪問が一日がかりになったりと、人員が足りてない中、頭を痛める。  
【8-1 協力できること】人員の補填があれば、協力は可能。
- 移動手段が確保できず、能力がないのに車の運転をしている現実がある。免許を返納したが、結局ひきこもりになっている。  
■当人の拒否によってサービスが受けられないケースが多くあります。介護に対してマイナスなイメージを持っていることが多いです。  
【8-1 協力できること】当事業所では、個人のレベルに応じたサービスをご用意しています。11月オープンのソフトムハフルールでは、比較的自立度が高い方向けの施設で、若々しく明るい雰囲気、抵抗感がないように配慮されています。
- ペットの老犬を子どもと思ひ、認知介護の状態であるが、施設入所が出来ない。家族4人で暮らしているが、自宅の衛生面で問題がある(汚れ、虫、散らかり)。閉じこもり、何もしようとしなない。  
【8-1 協力できること】いずれも本人や家族の意思があり、制度があっても活用できないと思う。

- 自分の病状について理解が無く、支援者が車の運転を止めるように言ってもがんとして聞き入れなく、自分の足だからと言って、買物や銀行に車で行っている。病名として、糖尿病腎症、慢性腎不全で人工透析を受けている。  
【8-1 協力できること】運転を止めるように言っても、本人の意識が変わらないと限界があり難しい。
- 高齢者の病院受診方法。
- ゴミ屋敷と化したお家の片付け。介護保険サービスのヘルパーでは対応不可。業者に片付けを依頼しても、金額的に高く支払いが不安なケース。
- 認知症ではないが、金銭管理ができず、生活困窮している。周囲はさまざまな理由から心配しているが、本人が支援を希望しない。  
【8-1 協力できること】必要と思われる関係機関へつなげる。情報提供。
- 障害者サービス利用が65歳になり、介護保険制度に移行になった時、今までかかわっていた行政が、手を引いてしまったように感じられた。どこかがリードして、協力支援体制を築いていけたらよいのと思います。  
【8-1 協力できること】地域ケア会議の下部ケア会議等の参加はやっていきたい。(困難事例検討会など)
- 父親と1人暮らしの男性、本人は生活介護支援事業所を利用したいと思っているが、父親の体調不良により送迎が難しいため、現在は利用出来ていない。  
【8-1 協力できること】対応は難しい。(時間調整、職員及び公用車の数、万が一の場合のことなど)
- 上尾市役所(高齢介護課)(市民課)担当者様にご協力して頂きとても感謝しております。
- 昨年度、不明熱で長期間お休みいただいた行動障害の有る利用者がいました。通院先がなかなか見つからず、検査の実施が出来ず困ってしまうことがありました。  
【8-1 協力できること】保護者だけでは通院が難しい場合には、通院同行も状況によっては対応します。また病院の情報等を得るために併設している相談支援事業所につなぐことも可能です。
- 予防の方の受診同行。

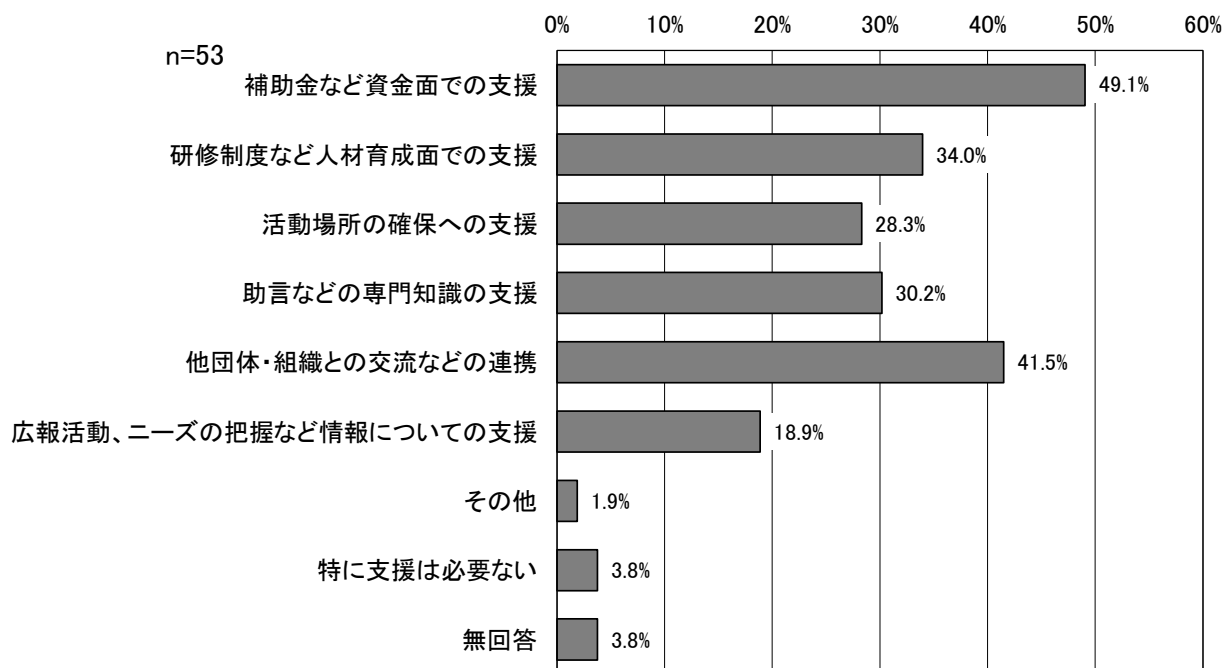
**問9 他の団体・組織と連携・協働関係を築く際、連携できることはありますか。(あてはまるものすべてに○)**

他の団体・組織と連携・協働関係を築く際、連携できることについては、「接点、交流の機会を増やす」が77.4%と最も高く、次いで「活動への理解を促進する」が50.9%、「制度的な問題を解消する」が17.0%となっています。



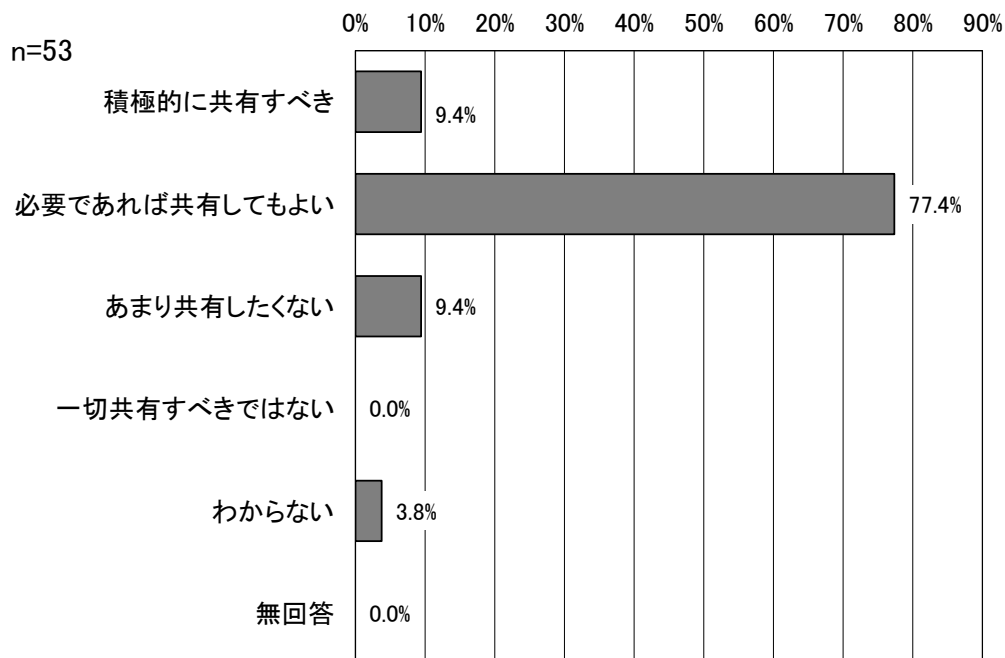
**問10 貴事業者が地域福祉活動を推進するうえで必要とする支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)**

地域福祉活動を推進するうえで必要とする支援については、「補助金など資金面での支援」が49.1%と最も高く、次いで「他団体・組織との交流などの連携」が41.5%、「研修制度など人材育成面での支援」が34.0%となっています。



**問 11 貴事業者は、地域での支え合い活動の推進のために、自治会などの支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(ひとつだけ〇)**

必要な個人情報を共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が77.4%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」と「あまり共有したくない」がそれぞれ9.4%となっています。



## 4. 新型コロナウイルス問題について

問 12 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴事業者の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 色々なニュースなどで、利用者様が不安感を増し、人との接点を少なくしている。DS 利用が減る。家にとじこもる。
- コロナ感染拡大防止に伴い、介護予防事業のあり方を検討しているが、色々な配慮が必要となり苦慮している。外出の自粛により、転倒、うつ傾向が顕著である。→介護保険申請が増えた。
- 新型コロナのため、新規受入のできるデイや訪問介護事業所が多く困っている。特に退院時は、サービス事業所が1～2週間の受入停止とするケースが多い。しかたがないと思う一方で、何らかの支援は絶対に必要なので対策してほしい。
- 物資の調達が困難でした。開所にあたり、必要な消毒液や使いすての手袋、非接触体温計を確保するのに苦労しました。開所する際の安全対策や対応について、答えのないなか、正しい情報を得ていくのも大変でした。
- 介護予防事業がストップしており、再開の目途が立たないことに対する対応策を、住民からせかされること。市が運営するものに対しては、謝罪しかできず心苦しい。
- 感染症対策として備品不足の問題（消毒液など）。休校により、長期間の支援をする為の人材確保や在宅支援等の新たな支援が加わった事による混乱。請求手続きでの追加作業。市町村により認識の違いが大きかった。
- 自粛ムードも高まる中、入居されている利用者のご家族様や他の来訪者様には、ご無理やご面倒をお掛けして居ります。医療機関同様、介護施設もそこで働くスタッフも、休む訳にはいかないのが現状です。幸いにして現時点で感染者は出ておりませんが、油断は出来ない状況は続いております。万が一、クラスターが発生した場合でも、それに対するリスク管理を見直し、落ち着いて適確な判断の基、スタッフ全員が行動出来る様に備える事が大きな課題と思われれます。
- 熱のある利用者様への対応。熱がある場合は受け入れしていないが、再開する場合のラインマニュアル整備をしたが、ご家族様の要望等による課題もあった。ご家族様に熱があった方がいたが施設は知らなかった等。
- アルコール、手袋、マスク購入不可。配布もできなかった。
- アップー元気体操中止の周知の際、参加者全員に電話で連絡をした。会場に貼り紙をし、当日サポーターさんや包括が立ち来場した方に中止である事をお知らせした。
- マスク、消毒液の配布を受けたので問題はない。
- 利用者がコロナ感染を心配して、来ないケースが見えるところ以外でもあり、利用者数を減らしていると思います。
- 現在入居している全お客様及び職員の体温測定、体調管理行い、必要に応じて、本社へ連絡している。各カ所の消毒、マスク徹底、リビング、相談室等に飛沫予防パーテーションの設置。
- 発熱の場合、会社はお客様の利用は休みと判断だが、家族はただのカゼですからなど、コロナでは無いと言われ、利用させてほしいと希望される。病院に電話しても、熱があるなら来ないでほしいとみてもらえないなど、みえないウイルスに怯えています。
- 職員や利用者さんではないが、その関係者が感染の場合の対応に苦慮。保健所に確認すると、明確な答えがなく、やむなく2週間自宅待機をしてもらったが、今後もあり得ること。検査を行ってもらえず、不安な日を過ごした。



- 施設入所者の家族面会の制限。(アクリル板など物品準備、段階的な面会制限解除) 地域活動への参加活動自粛。(カルチャースクール中止を余儀なくされた)
- 予防事業がストップしてしまった事により、楽しみとしていた活動、交流の場がなくなった。助け合いや見守りの団体が活動を中止したため、介護保険で対応したり対応が困難になっている人が多くいた。→訪問サービスが特に困った。
- 衛生用品の不足(使い捨てグローブ) ※以前マスクが不足しましたが、上尾市さんより定期的に配布していただき、とても助かっています。万が一、感染症が発生し営業停止(一時的な)となった際、その期間のご利用者様の受け皿の確保が課題です。特に独居(身内不在や遠方に住まれている方)世帯への対応。
- 緊急で訪問した際に、感染予防が困難だった。(マスクなど物品が不足)
- マスクや手袋の購入が、困難になった事が苦労した点です。
- イベントの中止によって、利用者さんの工賃維持施設内での行事の中止によって、利用者さんの楽しみが減ってしまった事。
- 4月~6月中旬迄完全休業。その間の補助金による人件費の支払い、稼働日数の確保はどうなるのか等心配だった。
- 防疫備品が手に入りづらかったこと。現在は、ディスボグローブが値上がりし、又、手に入りづらい。面会者によっては、事業所に入ってはいけないことを理解できていない方がいた。
- マスク、グローブ等の衛生用品の入手困難。価格高騰。
- マスクが着用出来ない利用者がいたり、建物内に多くの利用者がいたり、換気や消毒等対策は行っているが、3密の回避が難しい状況にある。また、感染拡大防止を図るために、事業所の主な行事を中止せざるを得なかった。企業の生産減少や各種イベント(外部)が中止となり、利用者へ支払っている工賃に大きな影響を受けている。
- 身近で起こった問題はありません。
- 発熱した場合(スタッフが)、人員の配置がむずかしいことがあった。マスクや手指用消毒など感染対策用の物資不足。
- 児童発達支援。代替サービスとして実施するオンライン、音声通話等での療育の限界→発達障害児等の場合、代替サービスの提供では双方向の理解が困難。ノンバーバルコミュニケーションの時間ができない。
- 利用者の減少に伴い、売り上げが減少し、経営が大変になって終息時期がみえるので、影響が長い。
- 利用者のサービス控えて、県の請求件数が下がった。
- 教室など人が集まったの開催が中止となっている。
- 集合型の介護予防教室やアッピー元気体操、その他、地域のサロン等が開催できない日々が長期化し、高齢者の体力低下、筋力低下、うつ傾向の高齢者が増加しているように思われる。包括に相談が入ってくるのは氷山の一角と思うが、具体的な人数は調査をしていないため、実際のところ不明。
- 入居者とご家族の面会が中止。外部のサービス利用、外部(業者)からの出入りの中止。
- 集合型での開催が困難なこと。
- マスク、消毒液、体温計の不足。家族から「(感染を恐れて)休みなさい」と言われたので、1か月の休みをとっていた。(3人ほど)

- コロナ濃厚接触者が職員の家族に出た場合、保育園では（偽陽性 30%だとしても）2 週間自宅での仕事となる。これが保育士であった場合、手薄になってしまうため、受け入れをつづけられるかが心配になった。
- 新しい生活様式、ソーシャルディスタンス等、コロナウイルス感染拡大防止に対する保護者の意識の差が大きく、対応に困ることがある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園での行事内容の見直し・検討が続いている状況です。収束が見通せず、仕方ないことですが子供たちの活動面での経験不足など、心配な点があります。
- 感染防止のために、異年齢の交流が出来ない。（保育内容の変更、行事の内容変更など）
- 短期入所が、利用出来ないことがあった。施設探し全般が難しかった。
- 感染への不安から、自主的にお休みなさる方が増えた。感染対策は行っているものの、何をどこまで行えば良いのか不安に思うことがある。
- 2020 年4月頃に発熱があったご利用者様に対して、画像診断をしないと何も出来ないと保健所よりありました。実際は車イスに長い時間座ることが出来ない方になり、対応に困った事があります。画像診断後もPCR検査を受ける事が出来ませんでした。
- 非接触の面会（オンライン面会）や研修（オンライン研修）を導入しているが、安定したネット環境の整備や職員への使用方法の周知等が難しい。マスクやビニールガウン等、感染対策商品が手に入りづらくなった。ストックは常にしているが、次何が品薄になるか予測が難しい。
- ①送迎バスの運行について→3 密を避ける措置（一時的に自主送迎の依頼等） ②昼食について→3 密を避ける措置（前後で喫食） ③コロナ対策のBCPを作成 ④年間計画の実施判断及び見直し。

**問 13 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。**

- 正確な情報発信、衛生管理に必要な備品の供給。安心して、健康管理の実施が行える環境整備。
- PCR 検査を受けられる場所を明確にし、数を増やしてほしい。また、費用を無料にしてほしい。
- 密をひかえながら、行政の活動を少しずつ再開してほしい。活動がない事により活動量、体力低下の方が本当に増えている。
- マスクや消毒液を配布する予算を、もっと困っているケースや制度改善に利用して欲しい。マスクや消毒液ももちろんありがたいが、より困っている所に予算を使って欲しい。
- コロナ対応の補助金をいただけただことは大変助かりましたが、物資が不足していた時には、購入が難しかったので、物品の補助も協力していただけたら助かったと思います。
- 前代未聞の事態ですが、その都度対応してくださいました。ありがとうございます。これからも一緒により良い地域社会を築いていきましょう。
- 突然の休校などにより、こちらの営業時間や利用者の利用状況が、大きく変更せざるを得なかった中での特別な措置はありがたいが、詳細の情報発信や事務手続きの簡素化など、事業者の負担を減らして欲しい。
- 新たなウイルスである為、未知な部分が多い事は理解出来ますが、大手メディアを筆頭に、あまりにも情報が錯綜し、危機を煽り過ぎているのではないか、と思える事もあります。先日のケア会議では、外に出るのが恐くてコロナノイローゼになった家族も居るという話題も出ました。現実的に毎年流行するインフルエンザ死亡者数より少なく、罹患者も当面は高齢者のリスクを大きく報道しておりましたが、20~40代が多い等々…。早く正しい予防法を広める対策を講じて頂けたらと思います。
- 市からのマスクの配布等、大変助かっております。行政におかれましても、大変忙しく難題ばかりだと思えます。お互いのできる事をやり協力関係、信頼関係をこれまで以上に密にできればと思います。
- 安全対策の為、感染予防の消耗品の提供して欲しい。
- 短時間利用としたが、行政の方から具体的に指導をして欲しい。
- 基本的には、利用者減は介護保険請求でうわのせ請求制度があり、景気のおち込みについては、緊急包括支援事業で補助金請求ができ、市からもアルコールやマスクの支給を頂いているので、もうこれ以上はと思うところです。※うわのせ請求＝コロナ特例措置のことです。
- 補助金申請し、各居室へ陰圧システムの導入を少しでも早く設置して欲しい。施設でのクラスター防止の為。
- 検査を直ぐに行える体制を整えてほしい。
- 正しい情報の発信。
- 現在は、検査体制もその頃よりは整ってきてはいるが、簡単に通院出来、より早く見つけることができる様に医療体制を整えてほしい。それが予防につながり、感染増をおさえることができるのではと考える。
- 訪問型サービス事業所への支援、ヘルパーの養成、ヘルパーの派遣の支援。
- 万が一発生した際に、ご利用様の一時的な受け皿の確保に、ご協力いただきたいです。
- 行政には、適宜相談しているので問題ありません。

- コロナウイルスが未だ収まらないので、追加で補助金など出して頂ければたすかります。PCR 検査もして頂きたいです。
- 保健・医療の知識が少ない。もう少し、保健センター保健師を通じてでも知識を深めて、ネット上の情報で知り得た情報、アルコール含有率などにしても良く知り得てから、情報の発信をしてほしい。
- マスクや消毒液の配布ありがとうございました。
- 新型コロナウイルスの罹患者が、発生した際の法人を超えての協力体制（主に後方支援になるとおもうが）の構築が、出来ると良いと思います。（特にグループホームの協力体制）
- 自宅待機などになった場合、一人居宅のため、他の利用者さんで関係する書類や手続きも出来なくなってしまう為、時間に猶予が欲しいです。
- 感染対策マニュアルの整合性。新型コロナウイルスの感染対策と「高齢者施設における感染対策マニュアル」の整合性。
- PCR 検査を定期的に受けたい。
- 迅速な対応指示等。
- アップー元気体操や予防教室開催をしてほしいと、高齢者からご意見を頂くように変化してきた。非集合型で現在は対応しているが、コロナ収束の目途が立たないため、条件をつけての集合型開催も検討して頂きたい。例）会場の広さに応じて参加人数を決定する。当日の検温・マスク着用等。
- 現場のスタッフへの支援。
- 新しい生活様式に合わせた事業内容の提案。
- コロナ対策の補助金がいただけたが、物品の選択が厳しく、対象にならない物があることが残念であるので、現場が必要としている事をみきわめ、許可して頂きたい。
- 新型コロナが、上尾市でどのくらい発生しているのか、情報が得られない。（クラスターがあるのかどうか等危険区域の情報の発信がほしい。）
- 消毒液を発注しても、なかなか購入できずにいた時に、課の方で注文先を調べてお知らせして頂き助かりました。今後も連携を取り、速やかに園の安全対策が出来るようにと願います。
- 今でも情報等、支援も沢山いただいています。
- 居宅、短期入所などの施設一覧に、現在の状況（空きあり・なし等）を毎月更新したり、リストを作成して情報共有してほしい。各相談支援事業所で上記を確認するのは大変。
- 消毒液の品切れが続いた際に消毒液を支給して頂いたことは大変助かりました。
- 感染対策に必要な物品確保のご協力。
- ①上尾市内で発生した事例について、発生場所のマップ（発生順が分かるように）代表的な感染経路の事例を公表して頂きたい。 ②国の対応手順が変わった場合、上尾市の場合に置き換えて提示してもらいたい。 ③福祉施設内でクラスター発生時に、どのような協力が得られるのか提示してもらいたい。
- ①緊急事態宣言中、行政はテレワーク等を取り入れていたが、委託業務である包括に対しての提示がなかった。 ②濃厚接触者の可能性がある時や判定された時の対応マニュアルがなく曖昧になっている。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 速やかな正確な情報の共有を出来る連携の構築を進めてほしい。
- 外出支援の充実。
- 防犯、防災に対しては大きな不安があります。いざという時に弱者である利用者さんをどうやって助けられるか…が課題です。親身になって相談が出来て、実際に手を貸してくれるマンパワーを必要としています。
- 発達障害（アスペルガーなど）は生まれつき脳の発達に障害があるため、対人関係やコミュニケーションに問題を抱えたり、仕事や家事をうまくこなせなかったり、それにより社会から孤立してしまい閉じこもりになってしまったり、犯罪を犯してしまう原因にもなっていると、テレビや新聞で紹介されていました。LGBT など、社会に理解されず悩んでいる人は多くあると思います。そういう方達が、理解され社会に受け入れられるように、周知して行ってほしいと思います。
- 今年2月からのコロナ禍の影響もあり、今後は、介護施設としても今までとは違うサービスの見直しや、体調管理の徹底がもとめられてくると思う。必要に応じて、コロナウイルスの情報を地域でも情報共有する必要があると思う。
- 施設向けにマスクや消毒液の提供とても助かっています。心強く感じています。ありがとうございます。
- 少子高齢化が一段と進む中、働く人の少なさに頭を痛めます。人生100年時代、60才を過ぎてもお元気で働ける方々も多い中、ともに支えあっていけるよう、活躍の場の提供が必須と思います。今までの経験、新しいスキルを身につけて働けるよう、共に支えあい、助けあって生きるまちづくり。
- 家族の形や町内会など、地域社会の結びつきが減っている中、新しい形での人と人のコミュニケーションが必要だと思います。コミュニティで支え合うことで、将来的な社会保障費の抑制にもつながるので、取り組む必要性は大きいと思います。
- 通常時間外の対応。
- コロナで混乱の中、マスクの配布など、ご対応いただきありがとうございました。とても助かりました。今後も、どうぞよろしくお願い致します。
- 当計画のみならず「上尾市障害者支援計画」「自立支援協議会」等の充実、実現を期待します。
- 地域自治会の活性化とサロン等の場づくりが出来て、隣り近所、顔馴染みになれば良いです。
- 上尾市、原市、瓦葺に住まいの利用者より。生活の場がほとんど東大宮となっているため、買い物をする場所が遠い。高齢者の一人暮らしも増えているため、歩くことが困難となっており、今回プレミアム券発行も利用したいが、上尾市内となっており、使うこと、買い物などができず不要となる。上尾駅前の病院に行くことも不便。東大宮駅までタクシーにてJR上尾まで行くため、一人では病院に行かれない。との事など、お話されていました。
- 防災あげおがいつも聞きとりやすく、非常時に情報が得られない。
- 「誰もが住みやすいまちづくり」について、話し合うシンポジウム等を、数多く開いてほしい。

- まずは町内会、隣近所での声かけ、助け合いをもっと推進してほしい。特に町内会に入会していないアパート等の単身者、子育て世帯、高齢者など。軽度障害者の1人暮らしは隣近所の方や、民生委員の方に日々気にかけて頂くなどし、ご本人が困り事を発信出来なくても早期発見、解決出来るようにしていく。
- 「誰もが住みやすいまちづくり」には、多くの課、関係機関と住民が協働しないと目指せないと思う。関わる場所が多いほど、情報が共有されにくく、実際は何がどうなっているのかがわからない。どの様な方法でも、情報の共有化が図れる仕組みが必要と思う。

---

---

## IV. 福祉関係団体調査結果

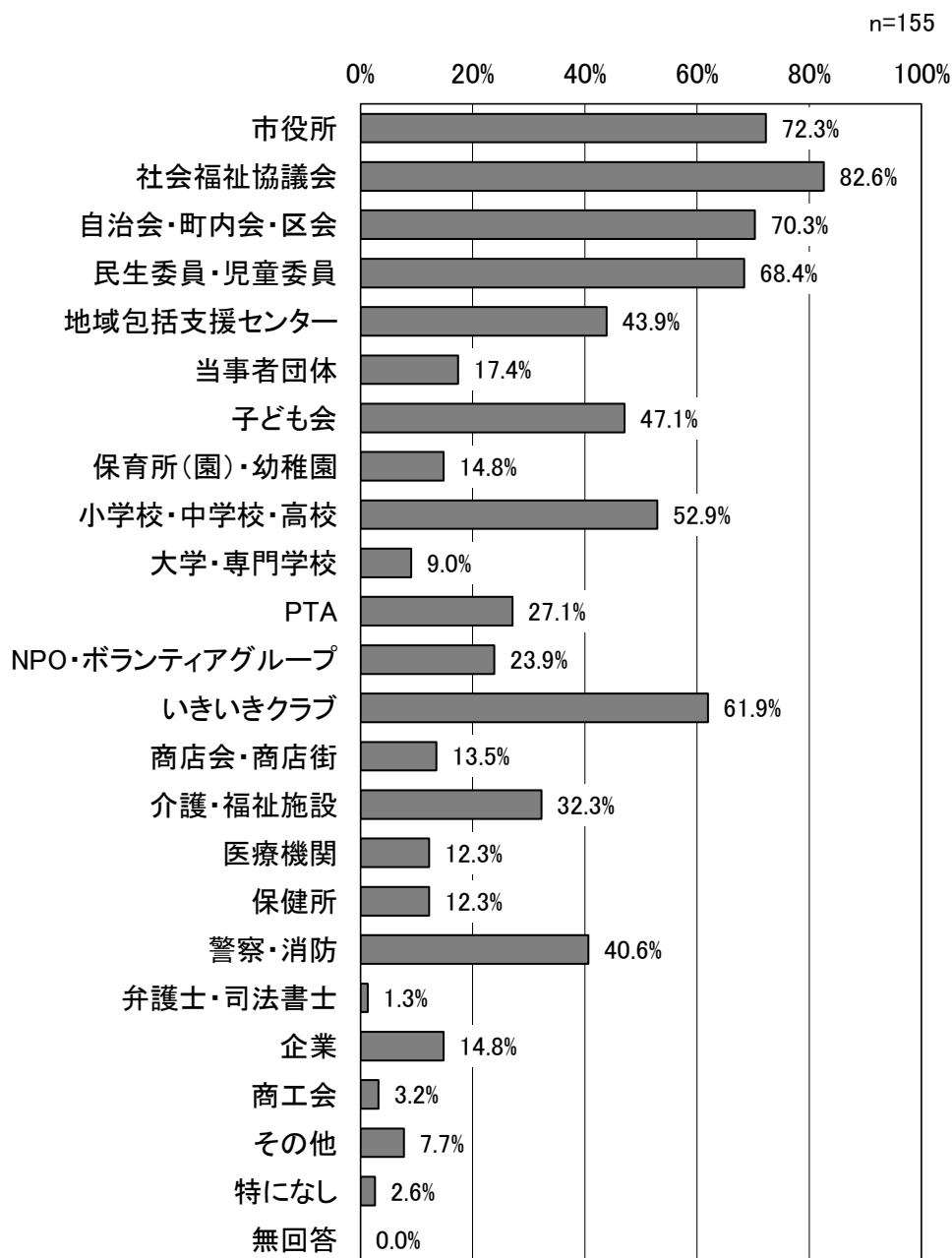
---

---

## 1. 貴団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関などとの交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

活動を行う上で交流や連携、協力関係がある他の団体・機関については、「社会福祉協議会」が82.6%と最も高く、次いで「市役所」が72.3%、「自治会・町内会・区会」が70.3%となっています。





※問1で「1」から「22」のいずれかを選んだ団体にかがいます

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関などどのような関係がありますか。(具体的に記入)

【市役所】

- 町内活動に助言、協力を仰いでいる。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成)
- 自治会連合会の開催：市役所、その他の団体からの情報、連絡。
- 各種案件の担当窓口などを案内してもらう。
- 高齢介護課(上尾市いきいきクラブの事務所)との連携、アドバイスを受ける。
- 報告、申請、要望、交付金、補助金等。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 市役所で月1回会議。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 高齢介護課(補助金、活動指導)
- 自治統括員を通じて、様々な事業活動の連絡を受けている。
- 勉強会、情報源。
- 地域の相談者の相談事項の解決策等で行政担当窓口課との連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報交換、活動支援。
- 地域の行政管理の活動事項への対策依頼、要望等の申し入れ、補助金、支援金等の支給要請申請等の連携。
- 情報交換と連絡。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 市から委託を受け運営、市役所職員実習受入、子ども子育て会議等会議出席、子ども若者相談センターとの連携等。
- 活動の担い手確保の為、ボランティア養成講座を実施したが、構成する講座の講師として、市の障害福祉課や支援事業所の職員さんに協力いただいた。
- 障がい者団体による駅での販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、地域サロン活動では、市役所、社協、地域包括支援センターなど、それぞれの事業実施のための連携協力をしている。
- 元気あっぴの時など、打ち合わせや協力をお願いしています。
- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 登録手続き。
- 「放課後子供教室」の教育活動サポーター。

- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校・市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- 子供の利用状況や請求に関すること。地域の情報や事情に関すること。
- 補助金、活動支援。
- 各種申請書類の協力。(助成金、アンケート、他)
- 主に市民生活部市民協働推進課。
- 相互協力(住民からの要望事項等の取り次ぎ)
- 市民活動協働推進課を中心に各課方針に沿って連携を取っています。
- 地区の自治会連合会を通じ、市の様々な情報を得て自治会会員に情報を提供することができる。
- 活動への参加及び、サポート。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化(夏祭り等)の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 活動資金などの補助金、ベスト、帽子などの資材の補助。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 上部団体(市のいきいきクラブ連合会)の理事会を開催し、上尾市の6地区(上尾、大石、平方、上平、原市、大谷)の17名が協議報告連絡する。市役所介護管理課が事務局となっている。
- 上尾地区自治会連合会。
- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治統括委員を経由に市と連携。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 市役所(支所)行政からの依頼等の協力。
- 敬老会の資金提供・防災行政無線による情報伝達訓練など。
- 情報伝達。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。

- 市役所、自治会長会議にての情報や回覧物の配布、各部署への陳情等。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 年1回の総会に参加をいただいています。
- 危機管理防災課、災害時の連携。（資材、家屋の片付け、等情報共有など、西貝塚環境センター、災害廃棄物処理等）
- ・新年会、定期総会のご案内をさせて頂いています。市長、障害福祉部。（部長、次長、課長）
  - ・障害福祉部…会員の相談をさせて頂きます。
  - ・みどり公園課…丸山公園売店
  - ・市、行事に参加。
- 補助金、助成金の交付を受けている。
- 子ども食堂を開きたく、相談ということで子ども支援課、生活支援課にうかがい、場所等の相談を含め、支援してもらえる内容をうかがいました。各課のチラシラックにチラシを置いてくれるということになりました。
- 立ち上げの時は保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。
- ハーモニーの事業、活動に協力をいただいています。場所の使用許可、活動の依頼、交流会、学習会、研修会への参加や訪問。
- シティマラソンでのあったか汁提供などをした。
- 「自治会運営マニュアル」により、関係部間と連携相談を行なっています。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会連合会で報告がある。
- 市研修会に参加。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するにあたり、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。自治会館使用日程の各種団体との調整。市及び地区大会開催日程の調整。
- 連携協定に基づく業務、市からの情報の会員への伝達。
- 情報の伝達、市の方針を決める事。
- 各種市行政等への協力。
- 上尾市自治会連合会に加入。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ、維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 募金運動の協力

## 【社会福祉協議会】

- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。（だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成）
- 見守りサロンなど、地域（特に高齢者）での対応。
- 各単位クラブが加入団体との協力、共同。
- 地域福祉に関する相談。
- 尾山台団地、自治会と連携し、老人クラブを財政的に支援している。（ゲートボール、グラウンドゴルフ、卓球、カラオケ）
- 自治会からの補助金支出団体との交流。自主防災（危機管理）、環境美化、女性部、寿楽会、消防団、スポーツ協子供会。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 活動交流。
- 分会長を通じて、敬老事業などの活動で協力。
- 募金等の原資の収集への連携、相談者の相談事項に関する相談解決等で連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支えあいの会の活動に助成。活動サポート。
- 社会福祉協議会よりの情報提供。
- 情報交換、活動支援。
- 募金等の原資の収集への連携、相談者の社会福祉に関する相談連携。
- 情報交換と連絡。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 団体登録し、バックアップして頂いております。
- 市社協からの依頼により、個人宅、病院等で傾聴活動。
- ファミリーサポートセンター。
- 市社協には、ボラ活動への指導をいただいている他、活動資金の援助も受けている。参加障害者の気になる変化などについて、手をつなぐ親の会を通して家庭と調整も回っている。
- 利用者の他の支援先との連携、専門職を目指す学生の実習機関、職員の福利厚生。
- 障がい者団体による駅での販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 多方面から直接当グループに集まった古切手を整理しております。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。地域サロン活動では、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 上尾市のボランティア連絡会に入っています。社協での市の行事の時などの手伝い、社協との共催の学習会、研修会、赤い羽根街頭募金（上尾駅）に協力、ふれあい広場、ヒューマンライフミーティング、福祉を考える集い。
- 毎月、ボランティアグループの人達と代表者会議をしています。共同募金活動に参加しています。
- 募金活動。
- 舞踊の練習、発表の場所。

- 評議員です。
- 社協南支部に依る助け合い、見守り活動に付、助言を頂く。
- 自治会町内会から助成金の援助。
- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 活動拠点として、ボランティアビューローの中に電話室を設置して頂き、現在は身障者センター和室を使用するにあたり、ご尽力をいただきました。対象者の相談事や緊急時、又電話が3カ月以上通じない時は、安否確認を依頼している。対象者を紹介して頂く。会員の研修、勉強会について講師の紹介、助言、ご指導を頂く。
- 助成金、ボラさんの確保、活動場所の提供、情報のお知らせ。
- 上尾市聴覚障害者協会と共に諸活動を実施。市・社協が主催する手話講習会の運営、及び講師の派遣。手話通訳者派遣事業に関する事。小中学校その他の団体から依頼のあった手話教室への協力。社協のボランティア活動に関する事。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校・市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- ボランティアや物品寄付等。
- 募金運動の協力。
- 社協上尾東支部（総会及各種行事）、敬老会。
- 相互協力。（住民からの要望事項等の取り次ぎ）
- サロン等活動を通して、高齢者の交流や見守りができている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化（夏祭り等）の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 社協南支部。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- 活動時のサポート依頼（または主催）。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 各自治会から情報提供を受ける。
- 社会福祉協議会の会員募集に協力している。
- 自治会活動を行う際の各種関係。

- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に、目的を達成するための事業を推進しています。
- サロン担当者や民生委員より聞いている。敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 上尾市社会福祉協議会原市支部支部長の為。上尾市～各地域の団体より委員選出して、原市地区全体の活動をしている。
- 地域包括支援センター、地域の活動や情報。子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 特に、上尾市社会福祉協議会や上尾市市民活動支援センターとは交流機会が多い。ボランティア活動に関する各種情報を頂いたり、当方からも活動状況を報告したりしている。
- 行事等のお知らせは、自治会を通して行っている。
- 上尾市ボランティア登録団体、災害時の連携、現地調査、リーダー、災害ボランティアセンター運営支援、災害ボランティア養成講座講師等。
- 社会福祉協議会・評議会。
- 補助金、助成金の交付を受けている。
- 上尾社協さんにはこれまで、車いすダンス、手話ダンスを毎月1～2回の定期的な練習を実施。（会場の利用をして）
- ボランティアの活動母体。活動の支援。
- 上尾市ふれあい広場、実行委員、ペットボトル工作、折り紙体験教室。上尾あゆみ会上平事業所及大石作業所の夏祭り支援。
- 資金的なもので、善意銀行の助成金、ボランティア基金、社協に集まる寄付金を寄付者の了解のもとで、なるべくまわしてもらうことを話し合いました。今でも協力してもらい、続いています。
- 市の公共施設を利用する為の申請書等提出。上尾市ボランティア基金助成金の申請。その他の情報をいただいております（活動に関する）。
- 立ち上げの時は、保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。活動資金は初年度市の助成をいただき、その後は社協を通し、企業から支援をいただいています。
- ハーモニーの事業、活動に協力をいただいています。場所の使用許可、活動の依頼、交流会・学習会・研修会への参加や訪問。
- ファミサポ（研修）調理実習の協力。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- 社会福祉協議会へ登録しているので、ボランティア活動のことを色々アドバイス頂いています。

- 募金活動や高齢者福祉が中心です。
- 社協各部会に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会長が役員になっている。
- 協働で自治会活動している。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 募金、会員募集等への協力。
- 各種福祉活動。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。
- 社会福祉協議会西上尾第一団地支部との係り。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ、維持出来る事を目指して関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。

#### 【区会・町内会・自治会】

- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。各自治会への補助金の支出。（地域福祉活動に活用）
- 尾山台団地、自治会と連携し、老人クラブを財政的に支援している。（ゲートボール、グランドゴルフ、卓球、カラオケ）
- 各種案件を相談し対処してもらう。
- 各自治の協力。
- 社協の寄付、見回り活動。（高齢者）
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 向原町内会と交流。
- 町内会との関係を重視してきました。又、役員もしています。下校ボランティアにも参加しております。民生委員との連絡も取っておりますが、町内の行事にも参加しております。個人情報の守秘義務等が前面にでてくるので、こちらから積極的に出られませんが、相談を受けることについては、返答し行動を起こせるものは、包括等と連携をとります。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 助成金受領、活動支援あり。
- 隣の自治会とは、消防団を共同で運営している。又、他自治会とは、防災情報などを共有。
- 他の自治会活動の状況を確認し、地域防災活動の進んでいる町内会の見学学習。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 自治会活動、防災活動、祭り等行事、体育祭、ゲートボール大会等。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。

- 情報交換、活動支援。
- いきいきクラブは各町内会 50 才以上で会員としている。各町会には代表者がおり、その集が上尾地区連合となっている。
- ほかの自治会活動の状況を確認し、地域防犯活動の進んでいる町内会の見学学習。
- 町内会役員と他町内会と定例会議等で情報交換している。
- 上記の関わりによる毎年 1～2 回の訪問活動。(例、あけぼの、ツクイ ect)
- 社協の認定団体として活動している。このため、介護福祉施設あるいは自治会などのいきいきクラブから公演要請を受けている。
- 障がい者団体による駅の販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、近隣自治会との共催事業。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- 補助金、活動支援。
- 戸崎地区各種行事に対する協力依頼。盆踊り、敬老会、まちづくり(ポピー祭り、戸崎公園)他。
- 民生委員を通じて、高齢者見守り。
- 小中学校校区での避難所開設運営事業での一体感。
- 活動への参加及びサポート。
- 中新井自治会活動。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化(夏祭り等)の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。又、納涼祭時は他町会の協力も得ている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 公民館の開放。
- 自治会として活動しています。
- 活動時のサポート依頼。(または主催)
- 協働で支え合い助け合い活動を運営。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 各自治会から情報提供を受ける。
- 原市地区の自治会と、合同で行事を行っている。
- 自治会(旧事務区)単位に、いきいきクラブの単位クラブが自主団体として有る。自治会の主催行事に協力関係にある。
- 他町内会との連携。
- 原市団地夏祭りに、社福事業団あげおの作品あゆみの会の製品販売協力をしています。



- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 自治会連合会での情報交換。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団村上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体と共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 自治会の運営上に連携を必要としている。
- 市役所、自治会長会議にての情報や回覧物の配布、各部署への陳情等。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 紙芝居や腹話術などの公演活動のため、上尾市及び近隣地区の各所を訪問する。その際に、イベント主催者や各施設の方々から地域コミュニティや現場の各種情報を伺うことが多い。又、そのことにより当団体の活動を知って頂き、次の新規の公演に繋がることもある。
- 行事等のお知らせは、自治会を通して行っている。
- 自治会、町内会、区会会場として、公民館を割安でお借りしています。調理は給湯室を使用することで、なかなか手間取りますが、半調理をもちこんで、調理することを続けています。
- 地区行事への協力。
- 上平支部の自治会連合会のメンバーとなり参画。
- 自治会を通じて地域行事に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 地区自治会、各種団体の事業に参加。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。自治会館使用日程の各種団体との調整。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 自治区内から助成金の援助。
- 三井区自治会⇒自治会活動の協力、公園の清掃等。

## 【民生委員・児童委員】

- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催。
- 地域福祉に関する相談。
- 見守りサロンなど、地域（特に高齢者）での対応、高齢者・児童の情報。
- 各単位クラブでの民生委員・児童委員の協力。（高齢者を中心とした見守り、学童の見守り活動）
- 地区の異常の有無。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 会員生活生存状況等、情報交換。
- 民生委員さんとは、高齢化が著しい当地区では、協力体制が欠かせません。
- 敬老会事業に於、民生委員の協力。
- 相談事の解決の協力、市や行政機関への連絡連携及び解決策への連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- サロン、交流会等の事業に対し積極的な協力。
- 情報交換、活動支援。
- 高齢者の見守り支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 相談事の解決の協力、市や行政機関への連絡連携及び解決対策会議への連携。
- 何か心配ごとがあったとき、その都度情報交換している。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 地域サロンなどへの出演要請など頂いております。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に各種団体との交流や連携、協力関係はある。敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体など、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 活動拠点として、ボランティアビューローの中に電話室を設置して頂き、現在は身障者センター和室を使用するにあたり、ご尽力をいただきました。対象者の相談事や緊急時、又、電話が3カ月以上通じない時は、安否確認を依頼している。対象者を紹介して頂く。会員の研修、勉強会について講師の紹介、助言、ご指導を頂く。
- 民生委員を通じて高齢者見守り。
- 民生委員を通じた問題解決等の相談。
- サロン開催など自治会活動に協力していただいている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 相談。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老

人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化（夏祭り等）の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。

- 大谷地区自治会のひとつとして、連携、協力関係があり、交流している団体であったり、町内の各種団体のひとつとして活動している団体である。
- 世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員、時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 地域福祉の担い手となり、中心となって活動。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 民生委員や子ども会役員の方に、町内会の行事に励んでもらっている。
- 町内事業との協力、連携。
- ふれあいサロンでは毎回ご協力をいただいております。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 民生委員・児童委員の選出。
- 敬老会、高齢者の安否確認、サロン活動。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。サロンや見守り活動では、民生委員やボランティアの協力を得ています。
- サロン担当者や民生委員より聞いている。敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 民生委員に対する交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 尾山台福祉ネットワークの協力団体には、問1で答えている様に幅広く協力を得ている団体が有り、行政とも連携を取りながら活動を続けています。異常発見時や通報があった時には、緊急連絡先を把握している民生委員につなぎ、状況確認しながら家族に連絡 - 警察 - 包括支援センター - URと言った形で対応をしてもらっています。
- サロン活動、他サロンの情報支援、あったか見守り、包括センターなどと連携。
- 会員の中に民生委員がいます。コロナ前は、年に数回の手芸作品の販売を行っていました。（他の当事者団体等と一緒に）現在は作品が作れなくなり、人数も少ないので参加できません。
- すべての行事について協力を願っている。
- 運営上、民生委員さんの協力を賜り、地域の小中学校でチラシを配布していただいています。活動資金は初年度市の助成をいただいています。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- 民生委員とは敬老事業を協力し合って行ないました。又、一人暮らしのお年寄りを訪問したり、情報交換をしています。

- 民生委員、児童委員は 3+1 名が上平支部でのメンバーとして活動。
- 自治会を通じて民生委員・児童委員に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会の役員になっている。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 高齢化を対象にいきいきとした生活を送れる様に助言を行なっています。
- 日常的に連携している。
- 民生委員、児童委員の選出。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年も、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支え合いの会活動への助成)

#### 【地域包括支援センター】

- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支え合いの会活動への助成)
- 高齢者で特に日常生活。
- 西包括センターに保健、健康体操、健康体操等講習依頼。
- 要支援者や独居高齢者が比較的多いので、協力体制が欠かせません。
- 地域の高齢者への介護予防運動勉強会の開催連携。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報の提供及び催しに対する協力斡旋。
- 地域の高齢者への介護予防運動の勉強会の開催連携。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に、各団体・機関と連携、協力頂いています。
- オレンジカフェなどへの出演要請などを頂いております。
- 地域サロン活動では、市役所、社協、地域包括支援センターなど、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 地域包括支援センターからの要請等。
- 介護関連説明会…自治会館にて包括支援センターさんからの説明等。
- 地域包括支援センターとの関係では、自治会内で高齢者の介護等の相談があった場合に、地域包括支援センターにつなぐことができる。
- 相談。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係です。
- 世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員、時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 通常の支援の他にも交流会の講師として健康についての講義等を受けている。

- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- アッピー体操時の冷暖房費の金額提示。
- 上尾南地域包括支援センターとは、見守り訪問活動や初期相談等で連携。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 地域包括支援センター、地域の活動や情報。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 尾山台福祉ネットワークの協力団体には、問1で答えている様に幅広く協力を得ている団体が有り、行政とも連携を取りながら活動を続けています。異常発見時や通報があった時には、緊急連絡先を把握している民生委員につなぎ、状況確認しながら家族に連絡 - 警察 - 包括支援センター - URと言った形で対応をしてもらっています。
- やさしい介護食の伝達。
- 地域包括支援センター及び当事者団体等も同様に上平支部での活動。
- アッピー元気体操を通じて。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会連合会で報告がある。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会・防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- アッピー元気体操。町内クリーンキャンペーン実施に依る見守り活動、助け合って行く。自治会に依るみんなの集まり・防災訓練実施等で、お互いの日常生活の中での困り事等を聞き、助け合う。
- 社協支部を通して高齢者対策への連携。
- 民生委員を通じて高齢者の見守り。
- 民生委員を通じた問題解決等の相談。

#### 【当事者団体】

- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 情報交換、活動支援。
- 参加募集やイベント。
- 放デイ連絡会や学童連絡会等。
- 埼玉県の障害者団体の集まりで、その主催する行事に参加している。

#### 【子ども会】

- 1. 町内各団体に金銭補助をしている。
- 2. 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 3. 合同で町内広場、防災倉庫等清掃を行っている。
- 助成金の支出、夏祭り。
- 小学生を対象に、地域コミュニケーションを計る催し物など。
- 子供会と夏休み。新学期中（春休み）中の交流。

- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- お互いに協力し合う。
- いきいきクラブと一緒に「みんなの集まり」を盛り上げている。
- 運動会に於、子供会の協力が多大である。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 活動支援。
- 事業に対する協力（夏祭り、盆踊り大会、レクリエーション大会）。
- 情報交換、活動支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 子ども会活動への補助金支援、行事活動（チアリーダー活動、かるた大会）への協力等の実施。
- 何か心配ごとがあったとき、その都度情報交換している。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に、各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 募金運動の協力。
- ハロウィンパーティー他各種団地行事に参加して貰う。
- 区区内子ども会との連携。（区内行事の手伝い）
- 活動への参加及び、サポート。
- 上部団体と連携を取りながら活動を開催。
- 子ども会行事についての協力。
- 納涼祭・敬老会・防災訓練時は子供会と協力し実施。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 民生委員や子ども会役員の方に、町内会の行事に励んでもらっている。
- 町内事業との協力。
- みんなの集いでは、協力いただいております。
- 自治会の子ども会への補助金交付。
- 市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- すべての行事について協力を願っている。
- 町谷子供会へ予算化し支出している。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会傘下の団体。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 活動への協力。（資金援助含む）
- 少子高齢化のため、入会する子供達が減り活動が縮小してしまう。

- 子ども会は自治会の一部署と位置づけている。

### 【保育所（園）・幼稚園】

- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 保護者支援全般を日常的に行っている。要支援家庭への相談、行政機関等との連携。
- 特別に支援が必要な児童についての連携。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 高齢者との交流。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 紙芝居や腹話術などの公演活動のため、上尾市及び近隣地区の各所を訪問する。その際にイベント主催者や各施設の方々から地域コミュニティや現場の各種情報を伺うことが多い。又、そのことにより当団体の活動を知って頂き、次の新規の公演に繋がることもある。
- すべての行事について協力を願っている。
- 幼稚園のバザー参加。（紙コップにお花を生ける）
- 夏まつりを地元の保育所を使い開催している。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。

### 【小学校・中学校・高校】

- 主要行事（入学式、運動会など）への参加。
- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- コミュニティスクールなど、学童（小学校）登下校の見守り。
- 小学校だより、中学校（ささら新聞）の観覧、青パト。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- お互いに協力し合う。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 情報交換、活動支援。
- 育成組織を通じて連携を図り、地域で子供たちの見守りや学校補助学習への協力参加。
- 小中学校の福祉授業への講師依頼。
- 児童についての小学校との連携。
- 利用者の他の支援先との連携、専門職を目指す学生の実習機関、職員の福利厚生。
- 様々な自治会活動を行ううえで当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 子供達の様子など情報共有、情報交換。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て、運営をしている。年に何度かの消防訓練等の行事や、企業からの受注作業を行っている。
- 募金運動の協力。
- 小学校：学校応援団。中学校：青パト。

- 中学生のボランティア依頼。(体育祭、夏まつり)
- 小中学校における福祉教育(介護実習)での連携、協力。
- 文化祭、アッピー元気体操、学校ボランティア。
- 児童、生徒の登下校における交通事故防止や防犯活動などの協力。
- 活動への参加及び、サポート。
- 小学校みまもり活動、PTA資源回収。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- 活動時のサポート依頼。(または主催)
- 高齢者との交流。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 夏祭りやあぜよし公園の除草時に小・中学校からボランティアあり。
- 小学校・中学校の行事に参加したり、学校便りを町内に回覧している。
- 小学校の校庭開放を利用させてもらっている(グランドゴルフ大会)。小学校の体育館を利用し、大会を開いている。(マグダーツ大会)
- 上尾市青少年育成連合会第一地区。
- 小中学校、防犯、登下校時の見守り、協力、あいさつ運動、青パト。
- 入学式、卒業式、運動会参加。
- あいさつ運動の参加、青色パトロールカーの協力。
- 上尾市立小学校10校で公演実績があるが、内5校はこの数年毎年公演を行っている。(3年生、6年生、全校生徒対象のスライド学習と上尾の民話等の紙芝居実演)公演後に各校の生徒たちから毎回感想文を頂いており、当方からもお礼状を送付するなど交流を図っている。
- 子供達の安全を守る為にケータイメールで情報交換をしています。
- スクールガード、青パトをボランティアとして行なっている。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 学校応援団や防犯パトロール。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 子供たちの安全、安心を守るため、あいさつ運動、登校下校時の見守り。
- あいさつ運動等日常的に学校と協力。

#### 【大学・専門学校】

- 看護学生実習受入。
- 専門職を目指す学生の実習機関。
- ボランティア募集のお知らせ。
- 実習生の受け入れ。
- 上尾看護専門学校の学生さんの原団単身高齢者訪問学習活動に協力。
- 大学に於いては自主防災会訓練、会議に参加。
- 聖学院大学にて避難訓練。



- すべての行事について協力を願っている。
- 自主防災における協力、訓練等。
- 聖学院ボランティア活動支援センターとの連携、災害時のボランティア活動協力や講座講師。

### 【PTA】

- PTA（大石小学校）のリサイクル。
- お互いに協力し合う。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 資源回収等への地域周知活動や学校 PTA 主催行事への参加協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 募金運動の協力。
- 団地定例会での意見交換。
- 文化祭、アッピー元気体操、学校ボランティア。
- PTA資源回収。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 回覧板の配布。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 回覧依頼、リサイクル活動。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 助成金を支出している。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- リサイクルへの協力

### 【NPO・ボランティアグループ】

- 町内各団体に金銭補助をしている。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- フードパントリーなどの相談。
- 子供食堂への開催場所の提供協力。子供無料学習塾への場所提供。
- 障がい者団体による駅の販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体など、敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体など、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 共同で作品展を開催している。いろいろな施設へ見学したり、お互いのコミュニティを計っている。

- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 1. いきがい大学伊奈学園（イナボイス）のボランティア団体登録による施設や小中学校による問題。
  2. 上尾福祉ボランティア登録団体による施設等から問合せ又は働きかけによる。
  3. 上記の関わりによる毎年1～2回の訪問活動。（例、あけぼの、ツクイ etc）
  4. 上尾社協さんにはこれまで車いすダンス、手話ダンスを毎月1～2回の定期的な練習を実施。（会場の利用をして）
- ボランティア募集のお知らせ。
- 社協のボランティア活動に関する事。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て、運営をしている。
- 募金運動の協力。
- リサイクル、防犯活動、高齢者見守り活動。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- ボランティアに対する情報を得る。ボランティアについての知識を学ぶ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 災害VC立上訓練や防災講座等でのコラボ。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会と社協支部で、NPOふれあいねっとを立ち上げ協力。

### 【いきいきクラブ】

- 1. 町内各団体に金銭補助をしている。
  2. 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
  3. 合同で町内広場、防災倉庫等清掃を行っている。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。（だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成）
- 助成金の支出、夏祭り。
- 高齢者とのコミュニケーション。
  1. 自治会行事 - 運動会、夏まつり、文化祭。参加する上での費用をいきいき負担。文化祭、いきいき合唱団を編成、参加。リサイクル年2回協力。
  2. 市のふれあい運動会。
  3. グランドゴルフ大会。
- お互いに協力し合う。

- 愛宕神社礼大祭に於、いきいきクラブ女性の方々に依る和踊りの奉納（商店街より多数の商品を頂く）
- 原市連合、活動支援あり。
- 高齢者を互いにつなぐ組織として協力が不可欠です。
- いきいきクラブと一緒に「みんなの集まり」を盛り上げている。
- 場所の協力と介護予防推進協力補助の支給で協力。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 単位クラブ（いきいきクラブ）が大谷いきいきクラブ連合会にクラブ有る。
- 高齢者の見守り、活動支援。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報交換、活動支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 場所の提供協力と補助金の支給で、活動支援。
- いきいきクラブ月/1回は交流会している。（その都度（例）不幸等の連絡等）
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 地域サロンなどへの出演要請など頂いております。
- 社協の認定団体として活動している。このため、介護福祉施設あるいは自治会などのいきいきクラブから公演要請を受けている。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 月2回の定例会。
- 原市団地いきいきクラブ亀楽会には、新年交流会に民謡の会に舞をお願いし、七夕交流会に短冊飾りつけを作成してもらっています。
- 奉仕活動の相互協力。
- 自治会活動への協力をさせていただいている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 上部団体と連携を取りながら活動を開催。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。
- 自治会を通して、いきいきクラブに補助金を出しています。行事の共催もあります。
- 活動時のサポート依頼。（または主催）
- お互いに活動を補完し合っている。
- いきいきクラブの活動を援助したり、町内会の行事に協力してもらっている。
- 上部団体（市のいきいきクラブ連合会）の理事会を開催し、上尾市の6地区（上尾、大石、平方、上平、原市、大谷）の17名が協議報告連絡する。市役所介護管理課が事務局となっている。自治会（旧事務区）単位に、いきいきクラブの単位クラブが自主団体として有る。自治会の主催行事に協力関係にある。単位クラブ（いきいきクラブ）が大谷いきいきクラブ連合会に7クラブ有る。

- 東寿会。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 色々なサークル活動。
- 連携しながら、独自活動として、グランドゴルフ、手芸を行っている。
- 子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- いきいきクラブとは、日頃よりコミュニティを大事にしています。例えば、3密対策をとりながら、お茶をのんだりしてます。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- アッピー元気体操原市九区会は、導入時からいきいきが主体で自治会が支援。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会傘下の団体。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 治動への協力。（資金援助含む）
- 高齢化が進み、入会する方が減り、活動の幅が少なくなってきました。
- いきいきクラブの各種行事を支援。
- いきいきクラブ、団地内居住者で組織。

#### 【商店会・商店街】

- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 盆おどりの協力関係。（ヤグラの組み立て等）
- 地域内の商店や企業、医療機関には、町内子どもみこし祭りや納涼大会において協力をいただいている。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 団地の運動会や夏祭りの際は、招待状を配布しご協力をいただいている。

#### 【介護・福祉施設】

- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 介護施設の入居等。
- 各施設とは施設運営会議に地域関係者として、地域から施設に対する意見協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 伊那の里、わくわくランド、ことぶき荘、県立ガンセンターで（3カ月毎更新）絵画・写真等展示。特養ホーム「椋の木」納涼祭手伝い。

- パストーン浅間台において月2回活動させていただいている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 地域の施設間の交流に参加。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 手芸を通して手芸の楽しさ、ものづくりの楽しさを共有しております。
- 参加募集やイベント。
- 介護福祉施設・見学（役員研修）。
- 老人ホーム施設へ行って、花のボランティアをします。（紙コップに、お花を生ける）
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 高齢者の安否確認等。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 地元の障害者施設での避難訓練には声を掛けていただき、見学させてもらえ利用者たちの行動は参考となった。施設からは今年2回の協力依頼があり、自治会として参加した。又、例年夏祭り開催の案内を頂き、他団体の参加もあり有意義な時間を一緒に過ごせた。

#### 【医療機関】

- 伊那の里、わくわくランド、ことぶき荘、県立ガンセンターで（3カ月毎更新）絵画・写真等展示。
- 事業の協力医療機関。
- 近隣の前田医院。
- 医療機関・精神科紹介、相談。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。市及び地区大会開催に当り、医療関係（看護師）との調整。
- 高齢者の安否確認等。

#### 【保健所】

- 各種健康診断、予防注射。
- すべての行事について協力を願っている。
- 保健所・丸山公園売店、営業許可証発行。
- 立ち上げの時は保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。
- 高齢者の安否確認等。

## 【警察・消防】

- 町内活動に助言、協力を仰いでいる。
- 防犯（警察）、防犯訓練（消防）
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- 特殊詐欺などの犯罪に巻き込まれない様に交番や生活安全課とは、協力しています。
- 夏祭りに付き、交通整理（車、自転車）のお願い（警察）。社協南支部に依る助け合い、見守り活動に付き、助言を頂く。防犯訓練の時、消防署の方々に指導を頂く。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 町内会の巡回回覧の協力（振り込み詐欺他一連の事件）、防災訓練の協力。
- 情報交換、活動支援。
- 警察のお知らせを町内に回覧している。（原市交番）
- 災害時の専門職としての協力依頼、講座協力等。
- 地域への防犯啓蒙広報紙の展開と防犯推進員の連携協力、青色パトロール活動への参加協力。自警消防活動の実施に対する資金支援と組織運営協力。施設運営に伴う臨時費用に対する支援協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 防犯活動の協力依頼…夜間パトロール（パトカーによる巡回、警察、消防）
- 救急車、AED講習。
- 夏まつりの道路許可、模擬店（ガス使用）の許可。
- 各々の活動内容に沿って関係する諸団体・組織との連携を取って居ります。例えば夏祭り等を行う場合、交通取締り、消防活動等にお問い合わせや取締等を行って居ります。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係です。
- 活動時のサポート依頼。（または主催）
- 東町防犯推進委員、東町自警消防団。
- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 夏祭り、防災訓練。
- 防犯防災等の情報、防災訓練の指導依頼。
- 防災訓練、起震車体験。
- 警察：交通安全母の会や地域防犯推進委員等でパトロール実施している。  
消防：防災活動で消火活動の講習等のお願いをしている。
- 防災訓練。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 防災訓練や防犯講座。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所・等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。地区祭りに於ける道路使用について交通関係の相談。

- 高齢者の安否確認等。

### 【弁護士・司法書士】

- 学童業務における諸問題について相談、法令順守研修での講話依頼、他。

### 【企業】

- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 情報交換、活動支援。
- 地域行事への参加協力をお願いし、CSR 活動の一環として協力いただいています。また企業の記念事業時、地域への寄付を頂いております。工場見学等により、相互信頼活動の連携を実施しております。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 戸崎地区賛助会員（企業）への助成金の依頼等。
- 町内賛助会員。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 賛助会費の協力。
- 建設業（建築士）との災害時連携、講座協力。
- 就労者、企業訪問。
- こども食堂のことを理解して下さり、継続して支援して下さる企業があり、年 1 回、ごあいさつさせていただき、こども食堂の様子をお知らせしています。
- 賛助会員としての協力。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 食材（野菜）については市内企業から分けていただいていた。市内の他の子ども食堂とも交流があり情報も得ています。参加者の紹介を兎相にお願いしています。行政とのやりとりについて市議さんにも支援をいただいています。

### 【商工会】

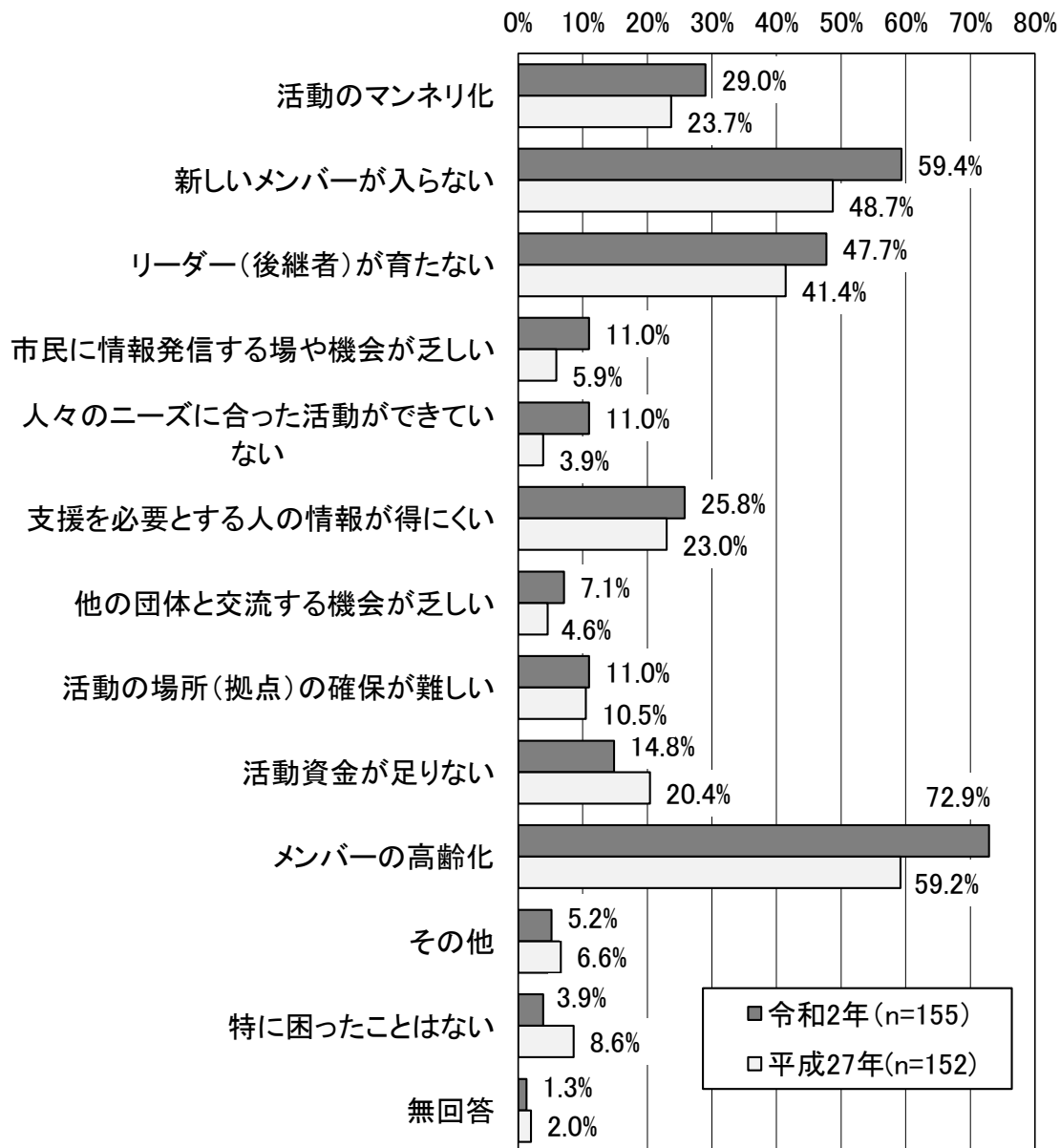
- 情報交換、活動支援。
- 運営に関する事務補助。
- 団地内一か所なので、できるだけ使用を呼びかけ。

### 【その他】

- 水害を受けた当地区では、いつも防災やタイムラインなどの実施が必要な為、防災士協議会には、協力いただいています。
- 保護司：福祉委員として地域の連携活動に協力いただいている。
- 団体登録し、イベント参加協力や施設訪問の要請など頂いております。
- 地区ごとの育成連合会に学童単位で協力。
- 多方面から直接当グループに集まった古切手を整理しております。
- 料理教室の協力、伝達。

**問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)**

活動を行う上で困っていることについては、「メンバーの高齢化」が72.9%と最も高く、次いで「新しいメンバーが入らない」が59.4%、「リーダー（後継者）が育たない」が47.7%となっています。





※問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にかがいます。

**問2-1 問2で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。(具体的に記入)**

**【活動のマンネリ化】**

- 活発にイベントをする。
- 他の地域活動の事例を見学することで、やり方の見直しや効率的方法も見つかるので、幅広い交流等が必要と思います。
- 参加している人たちが求めているものは何であるかの把握。
- 新しいメンバーが入ってこないため、活動がマンネリ化している。また新しいメンバーを積極的に入会してもらうような努力が足りない。仲良しクラブ的になっている。→自治会、役員がより積極的に活動団体、活動状況を周知し、気軽に参加できるように努めることが必要と思われる。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 若い仲間を増やし、新しい考えを取り入れた活動が出来れば、マンネリ化を少し変えられると思う。その為にはいろいろな考えを出し合い、話し合える、常に意見交換の出来る雰囲気を持つ必要があると思っています。
- 年間の行事が通年と変わらず、一般の会員の興味がわからないのではないか。

**【新しいメンバーが入らない】**

- だんらんやサロンでいえば、参加者の固定化が強い。回数を増やすか、そのためには世話役が必要だが、なかなかやる人がいない。支えあいの会では、支援を希望する人がなかなか手を挙げない。広報の工夫を考えたい。(経験談など)
- 1. 新規加入促進について、積極的面と工夫などが必要。未加入団体もあり。  
2. 高齢化はやむを得ないが、次世代を担う比較的若い層の人員増加をはかることが大切。
- 会員全てが旧公団(団地)住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均40才である為、老人クラブ加入適齢には今後20年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが、旧区制を撤廃してほしい。
- 町内の高齢化。
- 町内会役員(7名)と地域住民と対話を持つ機会がないので困っている。勿論新役員の入会があれば。
- 若い人が参加できる仕組みを作る。
- 組織の魅力を新しい人たちにあった方法で宣伝展開する必要があるのではと思います。SNSの活用も必要ではないかと思います。
- 町内会活動の情報・PR活動しているが、関心を持ってもらえない。よって、新しいメンバーが入らない。活動の盛り上がり欠けている。町内会活動の情報・PR活動又、社会福祉活動等の情報をしつこく浸透させていくしかないかも。
- 地区外よりメンバーの募集。
- 活動のPR。
- 傾聴ボランティア養成講座。

- メンバー不足。ボランティア的仕事になる事が多い（見守り等）ので、担当者に対しての報酬の問題が出てくるのでなかなか募集出来ない。
- その解決方法は難しく、ボランティア活動が出来なくなるかと。
- 活動を市民に知らせ、関心のある市民にボランティア養成講座などを実施して、参加を促すシステム化が必要。これまでも取り組んできたが、発信力が弱く実績が上がらない。散発的には、市社協から紹介もいただいている。
- ボランティアの募集は社協だよりをお願いしているが、申し込みがない。
- 講習会後の定着がよくない。上尾市に視覚障害者の団体が無い。
- 活動内容をより多くの人に知ってもらって、質問者を増やすようにする。
- 異世代交流が出来る機会があるといいと思う。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいので、メンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 役員の依頼については、最近は高齢になっても仕事を続けている方が多く「仕事をしている」との理由で断られる場合が多い。
- 組織、活動内容の見直し。
- 住民の意識改革、自治会員の増加、若い人達の無関心と少子化の対策。住民情報が個人情報の壁があり、支援手順等の確立が困難。
- 当町会はサラリーマン世帯がほとんど。町会執行部としては、定年後の60代が望ましいが、人数が少なく、人選に苦慮している。輪番制である班長、地域を3つに分けており、班長の長であるブロック長を3名任命。直ぐには難しいと思うが、ブロック長が次期執行部役員との組織作りを考えている。
- 60歳代への勧誘が必要。
- ふだん付き合いのある人が勧誘する。集まりがあった時に声をかける。
- 広報活動、対価の支払い（完全ボランティア精神の限界）。
- 人材を求めるだけでなく、形を変えた活動を考えていくことかな？
- 新しく町内に来た若い人たちに町内を知ってもらう必要がある。町内会に入ってもらい行事等に参加して地元の人たちと交流を図り、町内に関心をもってもらう。ボランティアに無関心の人が多い中、メンバーに入りやすい環境作りが必要と思う。
- みんなが興味を持ってくれそうな活動内容。
- 自治会としては①全員数の減少②自治会役員辞退の増加。将来的には先細り→特に対策が思い浮かばない。
- 地域に住む人々に活動を理解させる事。情報を発信する事。積極的に地域活動を実施し交流をする。
- コロナ禍で経済状況も悪化しており、自分の事で精一杯で自治会活動まで気が回らない。経済の回復。
- 地域の助け合い活動には、元気な高齢者だけでなく、幅広い地域住民の参加が必要。参加しやすい内容、曜日、時間等を検討し取り入れていく。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 町内会の意義のPR手段。
- 災害ボランティア（個人）との顔つなぎ。平時からの研修。災害時の専門知識の習得。

- 上尾あゆみ会入所時に、積極的に入会の勧誘をしているが、事業所への入所も減っているのに、特別支援学校との交流（事業所とともに）が必要だと感じている。
- 新しいメンバーの参入。
- 募集をしています。
- ボランティア養成のための講座の共催。
- 大切なボランティア活動だと思っているが、今後、団体での活動は難しいと思う。個人ボランティア希望の方もいます。個人ボランティアの充実化をお願いします。
- 「広報あげお」等でボランティア活動を紹介し、活動に参加するよう勧めてほしい。
- メンバーなどによる口コミの強化。
- 団地内ボランティアについては、その有償化（1000円/時）を積極的に進め、高校生も含めた若い世代の参加を期待するところとなっている。
- 趣力ある活動を考えて、若年層をとり込んでいけば、いいのではないか。
- ボランティア活動ですが、若い人が少ない。

### 【リーダー（後継者）が育たない】

- 職務が特定の人に集中してしまう。連合会の有り方を再検討。充て職（もどき含む）をやめる。
- 若い人材の発掘、育成。
- 会員全てが旧公団（団地）住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均40才である為、老人クラブ加入適齢には今後20年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが旧区制を撤廃してほしい。
- 問題点を分析し、改善案と実行に移すリーダーシップ。
- 積極的に人の為に取り組む人材が見当たらない。役員になりたくないから自治会を退会する人がいる。
- 活動の継続と会員への情報提供、班長会の活用。
- 代表者になる人がいない。
- 役割の活動については、任せて活動する事が育成に役立つが、すべての人が社長に適切と言えないのと同様に、組織のリーダーに適している人とそうでない人がいる様に、得手不得手が有るから難しい。自治会組織での自治会活動とは、基礎知識的な講座を行政主体で地域活性、活動推進のため、計画していただきたい。これは、地域福祉活動の推進活動にも言える内容であり、福祉活動でも検討していただきたい。
- 継続的な勧誘、活動項目の選択と集中、役員業務の軽減。
- ①後継者を募集する機会が必要。②後継者の育成。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいのでメンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 若い後継者を育成することです。  
課題：会合が多い、申請事項が多い、アンケート等（平日会合、18:00～）めんどろである。  
解決策：土日の会合を実施。役所に出向かずネットにて処理をできるように。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 魅力ある行事を企画し、会報で知らせる。パソコンを使える人を役員に起用する。→いきいきの仕事。市役所がデジタル化の先頭に立ってホームページを作ること。→市役所の仕事。
- 後継者が育つ社会的環境。

- 後継者不足は福祉活動にとどまらない。後継者が決まらず同じ人が止むを得ずやっている。この様な状態を見ていると誰も手を上げない。今後の活動で何をすれば解決するのか決まっていない。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 1. リーダーに適した人材は、個人の性格や能力による所が大きいので、今いる人材の中で養成するのはなかなか難しい。年齢的にも60代以下が望ましい。それには新しい人材を探すしかないが、簡単にはいかない。そのため下記対策を検討している。
  2. 会の組織と活動の規模を縮小し、時間に余裕があり活動に対する意欲の高いメンバーが、少人数で運営する組織に変えていくことが、現実的な解決策と思っている。
- 活動する為の教育と指導者が必要（教育）。
- 人が少ないので、入居者を増やす事。
- 問題点の共有化。
- 共働きや高齢者の就労で活動に参加する絶対数が不足しているので、これを増やすことが必要。
- ・リーダーになれる人材育成をしていく事。
  - ・サラリーマン時代により、定年後に65才後でないと時間的にむずかしくなってきた。
- 中、長期的な育成。
- 広くリーダーを探していますが、知識、経験がないという事で引き受けてもらえない。
- 高齢化が進む中で有り、若い人達の参加が少なく、リーダーをやる人が居ない。
- 若い人達に活動内容を理解してもらおうと、共に意見を言いやすい環境を作り、意見を取り入れていかないといけないと思います。

#### 【市民に情報発信する場や機会が乏しい】

- より添い相談に乗ってくれる人、話し相手等、一人では生きていけないという事を本当に自覚しているか不安です。地域世帯の情報の入手。
- 支部の福祉活動内容を新しい人達に合った方法で宣伝展開する必要があるのではと思います。専用情報提供アプリや SNS の積極的活用も必要だと思います。本体組織の情報提供だけでなく、支部情報も配信提供してらいたい。また、これらに接しられる様に勉強の口座実施もセット願いたい。
- 傾聴ボランティア養成講座。
- 高齢化、独居の世帯が増えており、社会から孤立している方、又は、ストレスを抱え精神的に落ち込んでいる方等に、傾聴のボランティアがあることを知っていただきたい。
- ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用（SNS）。地域の中で支え合うための「アプリ」の開発。災害時、広域指定避難所の開設状態と定員の達成状況を、マップに表示する。赤は満員、黄色は80%、みどりは受け入れ可能とか。（避難所アプリ）
- なないろ活動を沢山の人に知ってもらう為、障害児者の生活を知ってもらう為、反対に障害児・者当事者とその関係者の困り事、やってほしい事を知る為、参加者やスタッフ、ボランティアなどの募集をする為…等を発信する場を必要としています。もっと沢山の人とつながらないといけないと思っています。SNSなどネットを使っての情報発信も必要かと感じていますが、そこまでの労力がないので相談出来る場や人材（できれば無償で）が必要です。

- 障害福祉についてアピールする場や、魅力を伝えていくことが必要。根本的にそれには「障害者」という立場ではなく、社会の中で評価されることが大事と考える。働く場での対価や、施設に人材が集まるよう、運営がしやすくなるよう、社会全体の仕組みが検討されると有難い…と考える。
- 支援を提供する側と利用したい側のマッチング、情報提供の工夫。人材確保、人材育成のための機会（研修会や合同会等）。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいのでメンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 団地前の空畑をかりて花や野菜を植えて、団地社協の看板にしようとして現在とりくんだところです。
- 市からの情報発信をお願いしたい。
- 支部社協で行っている活動を、誰でも身近に感じられるような情報を定期的に伝えて行くことなど。
- 民生委員、ボランティア等活動に関わる人が限定されている。福祉委員になっている事も覚えがない人が多い。活動内容の周知が必要。福祉委員の目的PRが必要。
- 困っているという度合いが難しいですが、支援を必要とする子ども（家族）にこども食堂の存在をお知らせしたいです。充実した広報方法が必要かと思います。

#### 【人々のニーズに合った活動ができていない】

- 人々のニーズがどうなのか、どんな悩みがあるのかいまひとつ把握しきれていないと思う。アンケートなどでは出てこない、個人個人の悩みをどうやってみ上げるか？要介護3以上というほど重くない人が問題です。
- 老若男女それぞれ趣味が違い、ニーズに合わない。
- 手を挙げている人は、地域は率先して救済時は協力できるよう、地域内の情報共有は実施している。日常での支援活動は、対象者が見えていない状況であり、民生委員・児童委員からの支援要請時に対応する体制を築いておく程度が限界だと思います。もっと踏み込めと行政が望むのなら、日常時でも、緊急避難者支援リストの開示配布を地域団体に実施すべきであり、地域に負担させるべき内容項目ではないと思います。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 子どもからお年寄りまで、全ての年代の町民が参加できる行事が少ないので、何か適当な行事がないか考えている。個人情報保護法により、支援を必要とする人の情報が得にくい。

#### 【支援を必要とする人の情報が得にくい】

- 会員間の情報共有化、地域の住民とのコミュニケーション強化、地域民の行事への参加推進。
- 地域のあったか見守りサービスとの連携が望ましい。
- 避難行動要支援者名簿。情報提供同意書以外の要支援者名簿。
- 高齢者や障害者などの要援護者に対する支援の必要性は、自治会としても認識している。しかしながら現状では、個人情報保護の観点から十分な情報が得られないことのほか、自治会との関係が深い民生委員側にも守秘義務があり、お互いの情報の共有は難しいのが現状である。また一方で、仮に必要な情報の提供や民生委員との情報共有が図られたとしても、当該情報を管理、活用する自治会側の人員、人材が不足しており、直ちには十分な支援活動ができるかどうか不安である。

これらの課題解決ためには、①要援護者情報の適切な提供とそれに伴う活用のための民生委員、社協、地域包括支援センター等を含めたルールづくり、②自治会が地域のニーズに的確に対応した様々な事業を展開していくための自治会執行体制の強化（※）が必要である。

※自治会は、その前身である事務区制度の下で、地域の核としての役割を担ってきており、実に多種多様な業務を抱え余力がないのが実態である。また、地域コミュニティの希薄化、価値観の多様化等により特に若年層の未加入世帯の増加等により加入率が低下傾向にある。このため会員全体の高齢化や役員の高齢化により新たな事業になかなか踏み込めない事情がある。引き続き地域コミュニティ、地域福祉の一役を自治会が担っていくためには、自治会独自の取り組みも引き続き行っていく必要があるが、市役所においても、市横断的に自治会に依頼している様々な業務等について自治会負担の軽減を図る視点に立った見直しを行うことも一つの方策である。

- 自治会の情報発信力の向上を図る。（地域のことが分からない。）多様化する地域の役割を協力して担い合う。現実の課題を行政と自治会とが担う役割を議論する。また、協働できる地域組織を整えていく。
- 誰がどんな悩みを持っているかわからない。こちらから出向かないと面会できない高齢者が多く、そのきっかけが難しい。
- 情報収集の多様化。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 市内在住の視覚障がい者の情報（個人情報とはなるが）が得られない。
- ・コロナ禍における情報の入手が困難。
  - ・アナログからデジタルへの移行が具体的にわからない。
  - ・空き家情報を要望します。
- 情報の共有が難しい。（個人情報保護法が立ちはだかる。）特に問2の⑥メンバーの高齢化により活動が鈍化、活気が鈍る。
- 隣近所、交友等の日頃の日常活動の中から、身体的問題等について情報収集をすることが課題。各家庭における「困った事」を把握することが困難であるからであると推察されます。困っている事を積極的に発信する人は反対に自立心が高い。目に見えない人の情報を把握する感性が必要。

#### 【他の団体と交流する機会が乏しい】

- 各事業を行う時、班長（108名）に役割分担を行い、参加していただく。又、各種団の役員も積極的に交流の機会を作る。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 関係機関・団体との連携。
- 他の団体と交流が少ない。イベントの参加が少ない。
- マンションという立地上、他の自治会でやっている「祭り」等の沢山の人が参加する行事が行いづらい。子供（子供会）、老人（いきいきクラブ）の行事はあるが、会員の多くを占める勤労世帯、専業主婦を対象とした行事がない。他の自治会（団体）との交流等で参考になる行事があれば行っていきたい。新しいメンバーの獲得には会の魅力作りが必要。自治会からの情報を多く発信することと、会員の多様な意見をすい上げる体制作りを考えていく。

### 【活動の場所（拠点）の確保が難しい】

- まず活動拠点を確保したい。本町は1区2区3区とあり、3区に自治会館がある。2km以上離れているため、いきいき活動、子供会、町内会議に行きづらい。小さくても良い、プレハブでも良いので拠点が欲しい。新規事業を考えた場合、人材、金銭が必要になってくる。その為には若い新しいメンバーと町内会員増強が必要であるが、ボランティアと言っては新しいメンバーは集まらない。また町内会員になった為の大きなメリットが必要。募金等デメリットが多いので、新規会員が集まらない。
- 市の協力で広い常設拠点事務所が必要。会合や小規模ボランティアの活動拠点エリアとしても併設できる。
- コミセンの改修で活動する場所に困った。コロナの影響で人数制限などにしぼられダブルパンチだった。そのような時に良い活動場所のアドバイスが欲しかった。
- 活動拠点となる施設の拡充。活動する場所の利用料の減免。市民への周知、理解の促進。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- サロン活動を活発するためには、自由に使用できる場所が必要。空き家などを活用できるよう、市が積極的に環境を整備してほしい。
- 1番大きな課題は活動場所の確保です。活動を初めて3年たちますが未だに活動の場について安定した状況が作れていません。市への要望書もお出ししましたが、担当課を含め、さらなるご理解が必要と思います。
- 活動場所の確保（活動するグラウンドが無い）。

### 【活動資金が足りない】

- 活動資金が足りないので支援をお願いする。
- リーダーのなり手が無い。活動資金、会費徴収には限界があり、みんなでバスハイクができない。年1回くらいは、会員全体でバスハイクをしたい。
- 市より、地域の福祉活動に資金援助を投入していただきたい。やってほしい地域課題だけ提示するのではなく、活動に対する資金提供も適切にないと進まない。非正規世代が多くなっている現代のご時世には、無償ボランティア活動を基本に考えるのは合っていないのではと思います。ボランティア活動でも諸外国と同様、有償の活動も取り入れて、空いた時間、余った時間を奉仕活動やお助け活動に入っていけることが大切ではないでしょうか。ちょっとしたお助けシステム組織をSNSなどでできるマッチングアプリの提供協力などが必要。
- 助成金や支援金の充実。
- 会員も高齢で年金暮らしなので、活動費の自己負担が厳しい。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 自治会会員を増やす。
- 自治体からの補助金の増設、世帯数でやってほしい。

## 【メンバーの高齢化】

- 地域の高齢化が進み、具体的な対応策が見つからず、具体策が今後の課題である。現状では大きな問題はでない。
- 1. 新規加入促進について、積極的な面と工夫などが必要。未加入団体もあり。
  2. 少子高齢化はやむを得ないが、次世代を担う比較的若い層の人員増加をはかることが大切。
- 就業年齢の高齢化。(活動時間が合わない)
- 高齢化率現在 40%、5 年後 50%ないと思います。健康増進し長く活動に係わる。活動内容の絞り込みを行い、高齢に見合った行動を実践する。自助努力の限界はどこにあるか見極める。やれるもの、やれないものを分化する。不足するものを公助にたよる。
- 会員全てが旧公団(団地)住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均 40 才である為、老人クラブ加入適齢には今後 20 年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが、旧区制を撤廃してほしい。
  1. 特にメンバーの高齢化があり車の運転(相乗り)にて施設、学校様へ訪問するが、高齢ドライバー交通事故の危険があります。(免許証返納者も出てきてボランティア継続のネックとなる)
  2. その解決方法は難しくボランティア活動が出来なくなるかと。
  3. よって市からボランティア受入先(施設)から車の手配が出来るか?
- 調整区域が多く、住宅が建てられない為、既存住居に住み続けている市民の高齢化が急速に進行している。子供もほとんどいないので、他の自治会と合併するか、分割して他の自治会へ吸収してもらおうなど根本的な解決策が必要です。
- 会を脱会する。
- メンバーの若返りが必要。
- 第二産業道路の建設に伴い立ち退き世帯が多かった為、総合的に住民の数が減少し、かつ残った世帯は高齢化世帯が圧倒的に多く、若い世代の人材が必要であるが、若い人達は外部へ出ていき人材に乏しい。
- 全ての行事がパソコン仕様で作成されており、パソコンの出来ない人が役員になっている。引継ぎ等が出来ない。
- 今、町内会で活動している人の平均年齢は 70 歳を超えています。最優先で解決しなければいけない問題は若い人達にメンバーになって頂くことです。若い人に入って頂ければ、リーダーの育成や活動のマナー化も改善を図ることも容易になると思う。
- 雇用年齢の延長等で、益々高齢化と成っていく社会情勢からみれば、どうしようもないのではないかと。必然的状況であり、これの対策として若者を取り込む対策と言っても、非正規雇用が増加する雇用政策の中では、対応が無いのではないかと。せめてもは、会議とか行事とか活動を極力土、日、祝日に集約するようにして、参加協力いただける人が高齢者のみに偏らない様にする以外に手はないのではないかと。
- 活動開始時の年齢が高かった為、メンバー全体が 9 年経過した現在さらに高齢化しました。車の運転免許返納者などがあり、活動の範囲が限定されました。現状維持でいいのか?迷っています。
- 趣味を生かしてボランティア活動を続けているが、若い人には全くの手弁当というのが理解し難いようだ。多少の弁当を準備しなくてはならない時期にきているように思える。



- 当会は、いきがい大学伊奈学園の卒業生で、上尾市、伊奈町居住者を中心に会員構成しているが、2019年度末でいきがい大学が閉校された為、今後は減少のみとなる。
- 障害福祉と高齢者福祉が縦割りではなく、スムーズに高齢者福祉へ移行できるようなシステムづくり。
- ①高齢化は避けられない現実です。従って現実を踏まえて活動を推進します。  
②活動結果を回覧板等で報告し理解して頂く。  
③現在はコロナの感染予防の為活動を自粛中で、活動が停滞するのを恐れて居ります。スマホ、タブレット等の使い方教室等を開き、活路を探して居ります。
- 自治会会員の高齢化が進み、自治会活動の担い手の確保が難しい、また定年制の延長により、時間に余裕のある人が少ない。
- 若い人が参加出来るよう、行事を工夫する。
- 若い人の家庭では、個別に楽しむ傾向が強くなっており、自治会等（地域）との関係が薄くなっている。この流れは増々強くなっており止めるのはむずかしいでしょう。
- 近年少しの住宅地化で戸数も増えましたが、仕事と子育てで精一杯のようです。人口が少ないので、在住者が毎年一つの役持ちで自治会機能を維持しているのが現状です。私も18年ぶりの長ですが仕事は現役ですし、会計から3年目です。×2回。ここ3年間3人続いています。今後も続く予定です。高齢にて眼のかすみ、聞き直し、物忘れで努めています。
- 今年度、コロナ禍の影響で全ての行事がキャンセルせざるを得ません。しかしメンバー（全員）の高齢化が進んでいますので、声かけ等おこない60歳以上の会員拡大に向けてやっていきたい。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 地域の助け合い活動には、元気な高齢者だけでなく、幅広い地域住民の参加が必要、参加しやすい内容、曜日、時間等を検討し取り入れていく。
- 一番の課題は、高齢者（75歳以上）が主体の運営になっており、なかなか新しく入る人やリーダーになる人がいないので、啓発活動をしていく。
- 全ての項目の年齢が絡んでいる。仕事をしている人も多い上、高齢化が進み、できる人ができることを行っている状況。ボランティアを押しつけることは難しい。
- 県連でも地元でも高齢化がすすんでいます。現場で困っている人たちがいるはずなのに、全く姿が見えません。チラシ等を置いても効果が上がりません。若い新人（今、本当に困っている人の家族）に必要ですし、その人たちの役に立ちたいです。
- 運転免許の更新時期になると、引退する人が出てくる。バス代は活動の負担になる。「ぐるっとくん」を割引で利用できないか。バスの割引定期券があればと思います。「ぐるっとくん」が利用しやすいよう、コース、本数を増やして下さい。高齢化で自転車利用が出来なくなりつつある。駅や主要拠点から数人単位でタクシー利用の福祉乗車票があると良い。
- 若いメンバーの声かけ（団地外の人達にも同様に声かけを行っている）。
- 若い世代の参画。
- 活動内容の豊富さと若返り・役員の気力、そして資金。
- 1、いきいきクラブ（みどり会）の活動内容のPR。  
2、メンバーなどによる口コミの強化。
- 趣力ある活動を考えて、若年層をとり込んでいけばいいのではないか。

- 高齢化が進む中で有り、若い人達の参加が少なく、リーダーをやる人が居ない。
- 当地区は箕の木住宅と青葉台団地の2団地が主体ですが、結成から50年以上が経過、初期の方は大半が亡くなり、比較的遅くに来られた方も75歳以上が大半である。市街化調整区域であり、新規開発は無く、若い人が入る余地無し、問題解決の手段はありません。

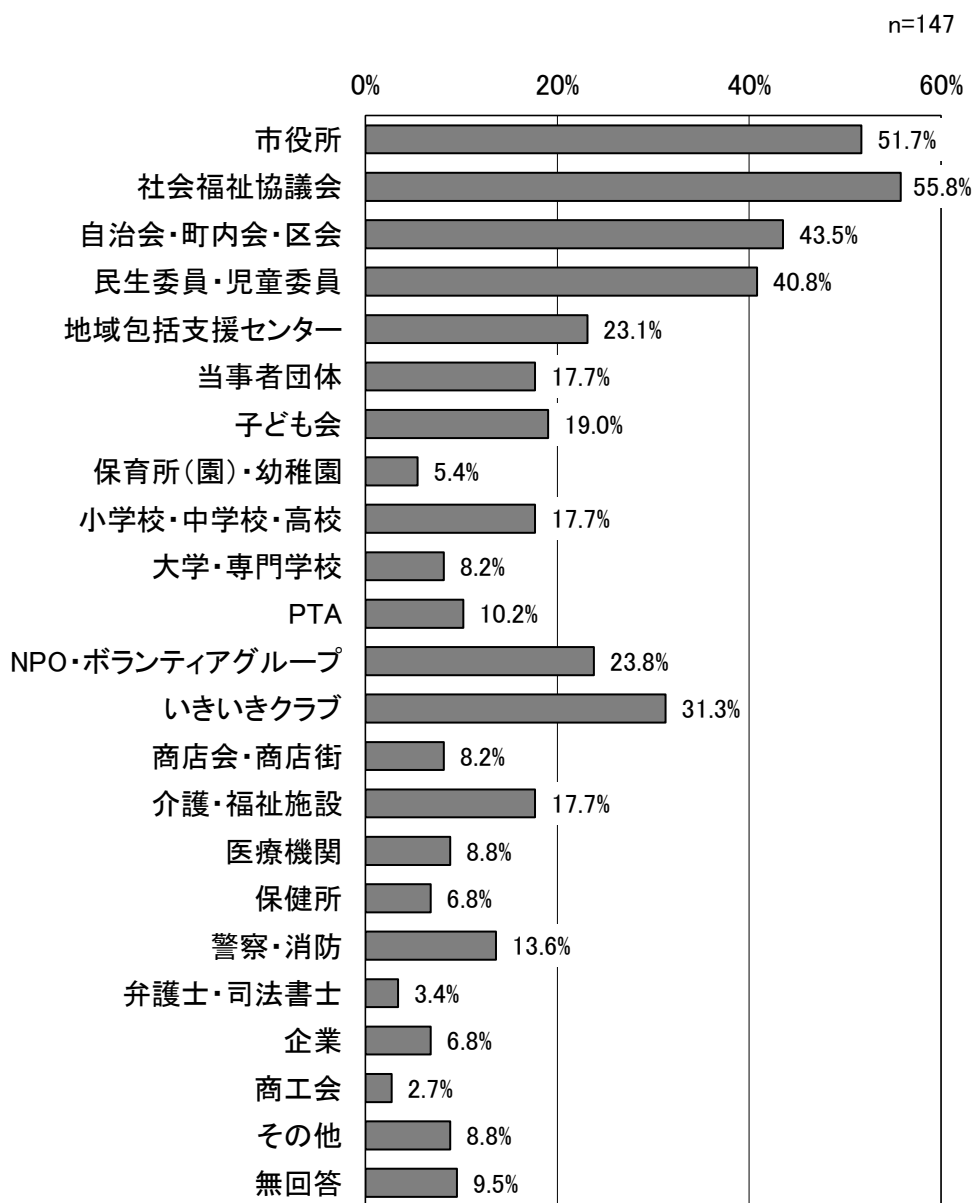
#### 【その他】

- 全体的に切手の使用が減っているのではかたないと思う。
- 現在の対象者も入院、施設への入所等で減少傾向にある。
- 転居してきた世帯には、町内会への入会案内をすすめ入会して頂くようにして入会して頂きますが、脱会する世帯も多い。今までは市の広報を配布していたこともあり、町内会に入会しているメリットのアピールもできたが、広報を町内会で配布することもなくなり、町内会の魅力や入会していることのメリットをアピールすることが難しくなってきた。また、企業の定年延長により町内会役員への勧誘機会が高齢になってからとなるので、人員集めにも支障をきたしている。町内会に入会していることのメリットをもう一度考え直したり、定年になった方などの時間に余裕のある人を探しだす情報手段が欲しい。

問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にかがいます。

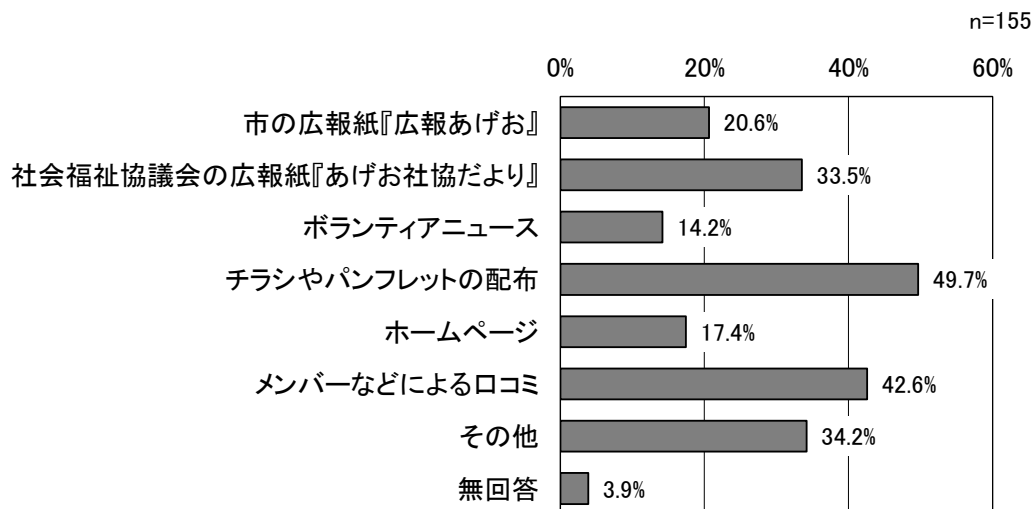
**問2-2 問2で挙げた課題解決のために、どのような機関・団体と連携したいですか。(あてはまるものすべてに○)**

課題解決のために、連携したい機関・団体については、「社会福祉協議会」が55.8%と最も高く、次いで「市役所」が51.7%、「自治会・町内会・区会」が43.5%となっています。



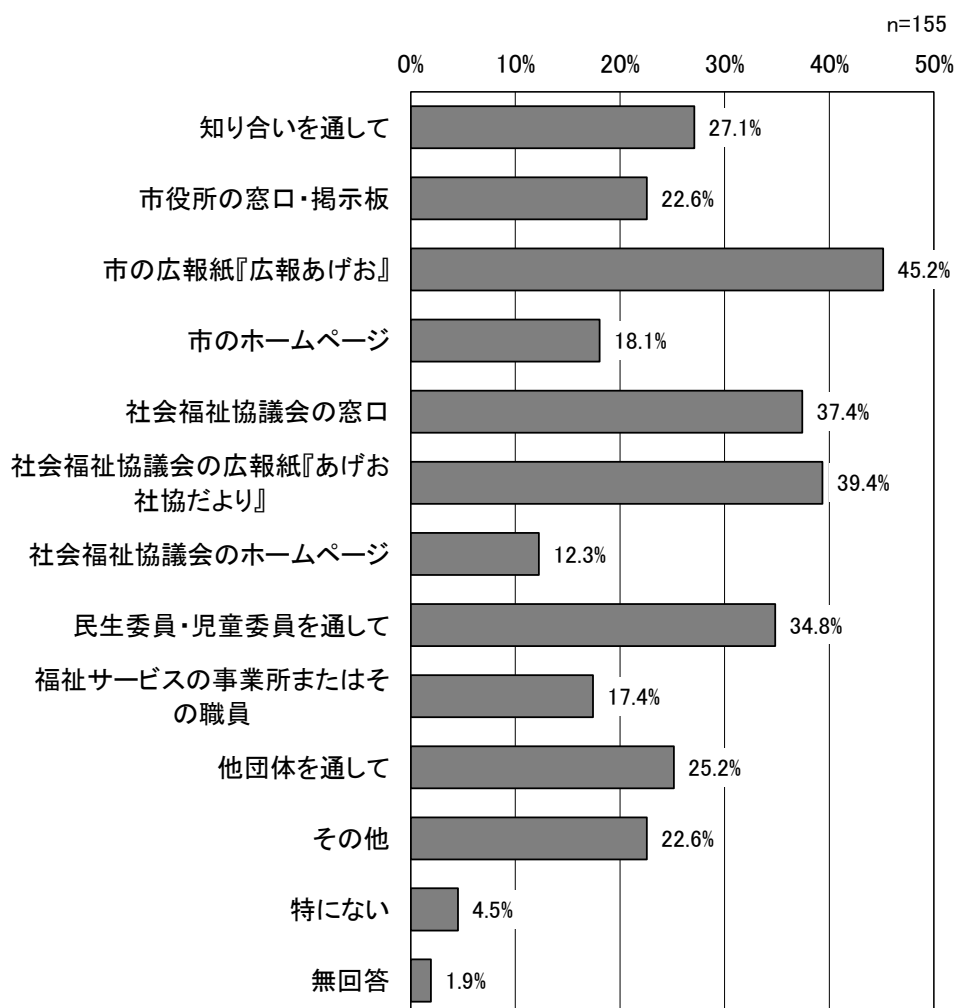
**問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)**

団体の活動情報の発信方法については、「チラシやパンフレットの配布」が49.7%と最も高く、次いで「メンバーなどによる口コミ」が42.6%、「社会福祉協議会の広報誌『あげお社協だより』」が33.5%となっています。また、「その他」が34.2%となっています。



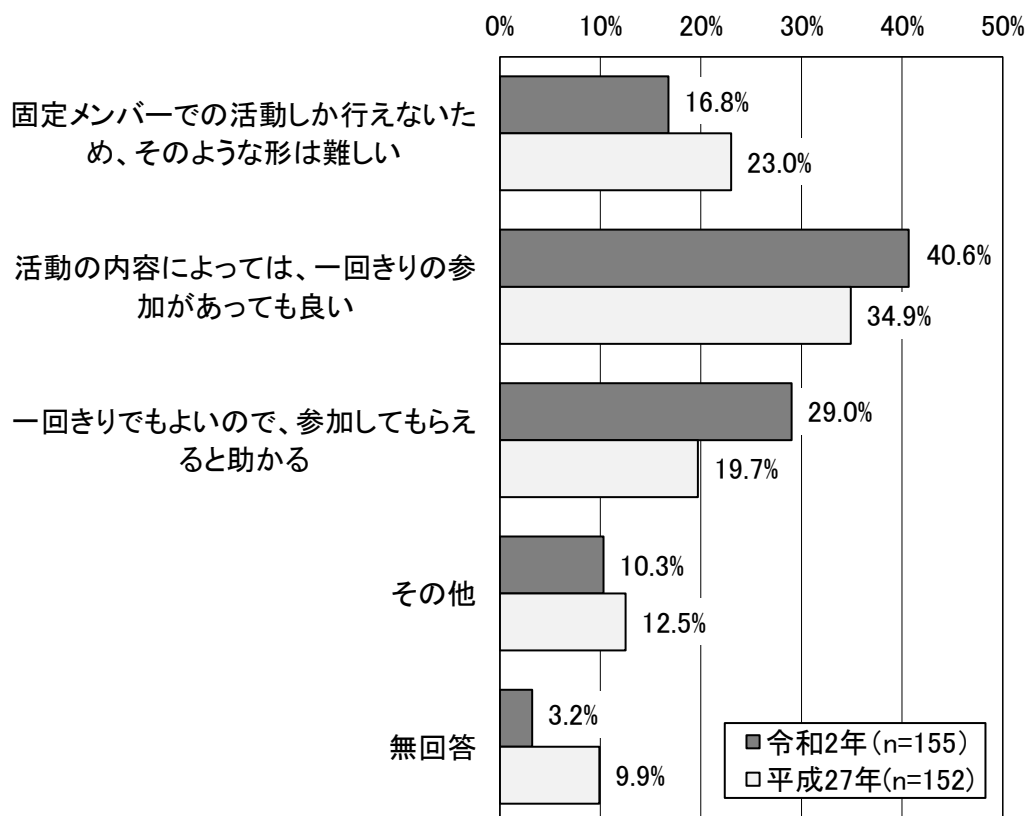
**問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)**

活動に必要な情報の入手源については、「市の広報紙『広報あげお』」が45.2%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の広報紙『あげお社協だより』」が39.4%、「社会福祉協議会の窓口」が37.4%となっています。



**問5 市民の方が貴団体の活動に一回だけでも気軽に参加してもらうことについて、どう考えますか。  
(ひとつだけ〇)**

活動に一回だけでも気軽に参加してもらうことについては、「活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い」が40.6%と最も高く、次いで「一回きりでもよいので、参加してもらえると助かる」が29.0%、「固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい」が16.8%となっています。

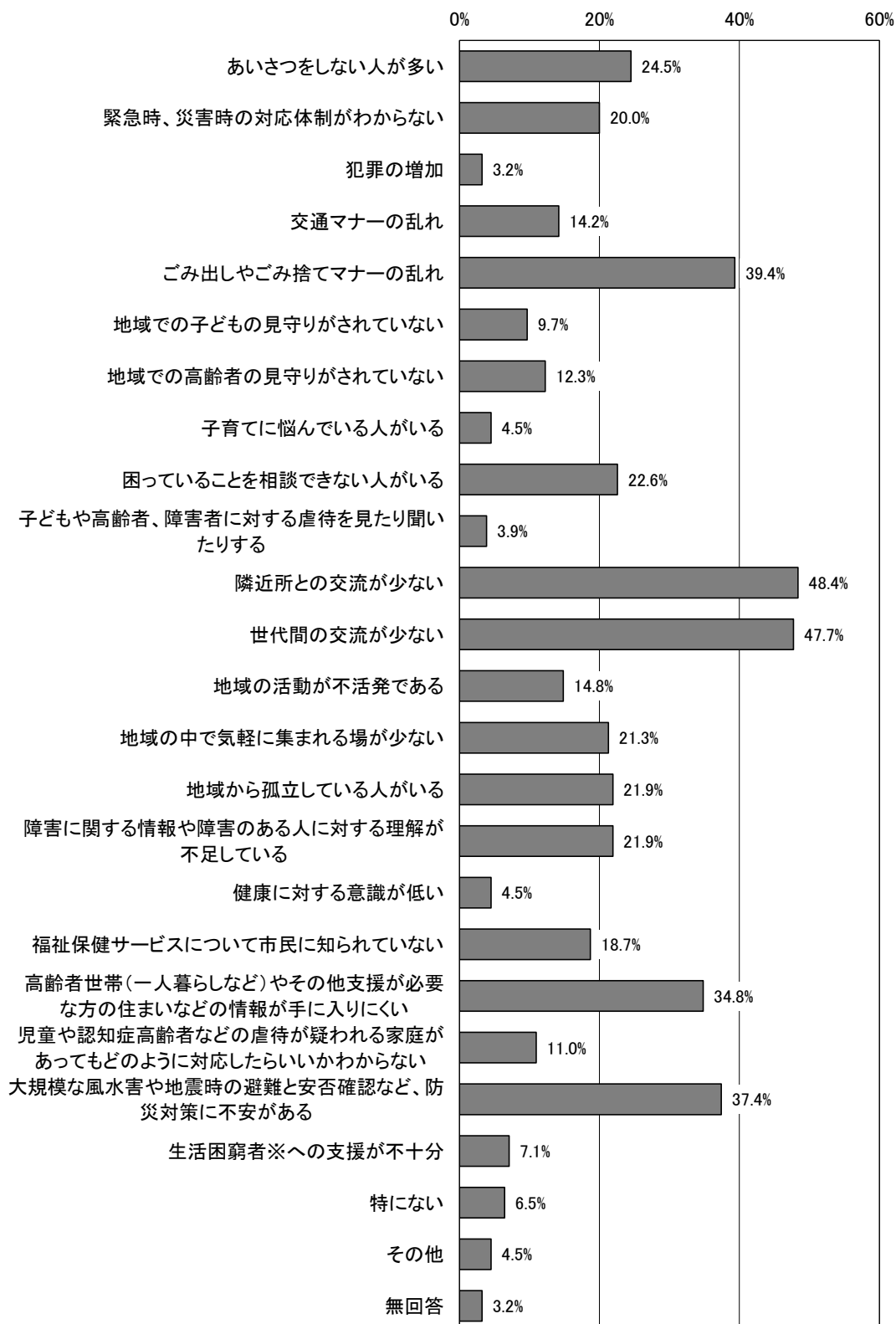


## 2. 地域について

問6 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

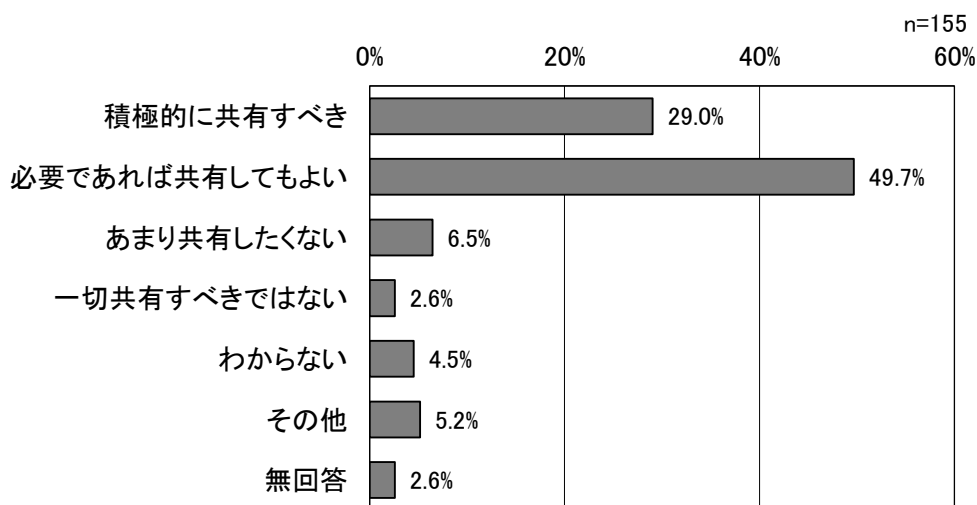
地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が48.4%と最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」が47.7%、「ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ」が39.4%となっています。

n=155



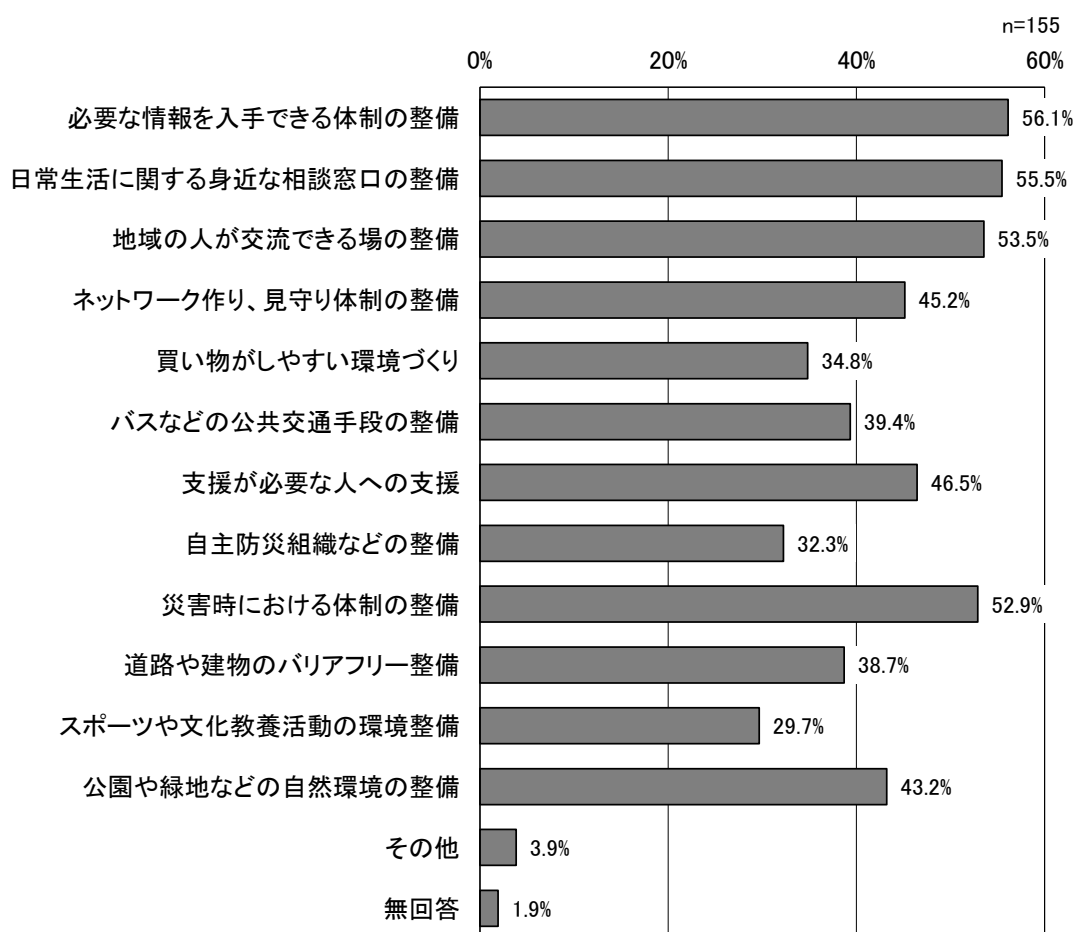
**問7 貴団体では、地域での支え合いのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を共有することについてどうあるべきだと思いますか。(ひとつだけ)**

必要な個人情報の共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が49.7%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が29.0%、「あまり共有したくない」が6.5%となっています。



**問8 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)**

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「必要な情報を入手できる体制の整備」が56.1%と最も高く、次いで「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が55.5%、「地域の人が交流できる場の整備」が53.5%となっています。

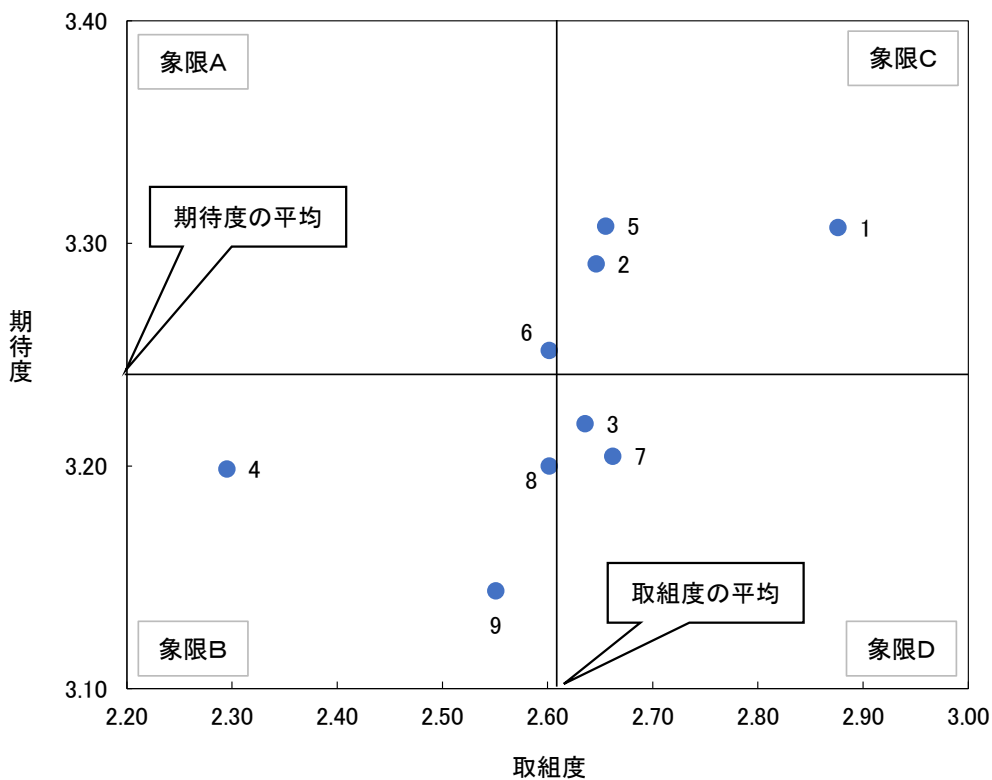


### 3. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて

問9 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれにあたりますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

各項目を点数化してみると、期待度・取組度ともに高い『象限C』に「1. 福祉サービスの利用支援」「5. 地域における防災機能の強化」「2. 支援をつなぐ仕組みづくり」が入っています。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 福祉サービスの利用支援             | 6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保   |
| 2. 支援をつなぐ仕組みづくり            | 7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり |
| 3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり | 8. 地域福祉活動の担い手の育成           |
| 4. 誰もが外出しやすい環境づくり          | 9. 活動団体への支援                |
| 5. 地域における防災機能の強化           |                            |



- 象限 A 期待度が高く、取組度が低いため、優先的に取り組みを進めるべき項目
- 象限 B 期待度、取組度ともに低いため、他の取り組み状況を考慮しながら、改善していくべき項目
- 象限 C 期待度、取組度ともに高いため、引き続き推進していくべき項目
- 象限 D 期待度が低く、取組度は高いため、取組度を維持しながら推進していくべき項目

※点数化について※

「期待している／取り組んでいる」を4点、「やや期待／まあまあ取り組んでいる」を3点、「あまり期待していない／あまり取り組んでいない」を2点、「期待していない／取り組んでいない」を1点とし、それぞれの回答者数に乘じ、合計した数値を実質の回答者数（全体の回答者より無回答数と「わからない」の回答数を引いた数値）で除した。



## 4. 今後の活動に向けて

問10 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、または、やりたいですか。また、他の団体に期待することはどんなことですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいこと、期待することをお答えください。（具体的に記入）

- 町内会では、何でも声をかけていただいたら、手助けする気持ちはありますが、現状は少ないです。声をかけやすい環境づくりをしたいです。
- 困りごとについて、対応できそうな組織に連絡をとる。包括的な窓口があれば。（包括支援センターは介護に寄っていて、それ以外は対応しにくそう。）
- ゴミ出しは、取り組んでみることを検討したい。
- 声かけ、民生委員へのつなぎ、高齢者の絆確保。
- 高齢者への支援として、軽作業（電球交換など）を行っているが、ゴミ出しなど日常作業への支援は回数も多く、誰が行うべきか、これからの大きな問題となってくる。
- ゴミ出し＝UR 関連会社が有料でゴミ出しサービス、週 1 回月額 500 円。子ども達の見守り活動（登校、下校）。
- 民生委員が声かけをしている他、その他種々困っている人には直接会って話を聞き、役所を通して各団体機関に対処をしている。
- 民生委員や自治会職員などと協力しながら、見守り活動の中で役割を果たして行きたい。具体的な内容については、単位クラブでの実態に合った活動を手助けする。
- 見守り活動（買い出し等）、ゴミ出し。
- 定期的に訪問し、話を聞く。共助の推進。
- 声かけ、車いすの人の外出時の手助け。身障者（視覚、聴覚等）への声かけ。
- 声かけぐらいはできるかも、いずれも互いに受け入れられてできること。
- 困っている内容により、必要な機関へ連絡をし、助言を求める。
- 平成 30 年社協（南支部）のテーマが「地域に見合った助け合いサービスの実現を」でして、1 年間基本的な勉強をして、令和元年 8 月末日を以って愛宕町内全域にアンケート調査した。その結果、安否確認の声かけ、見守り、ゴミ出しの順番でして、令和 3 年中には具体的解答が得られると思う。
- 心配事について、相談者があれば解決できるように、関係機関等につなげて解決に協力する。困っている内容にもよるが、まずは相談員や民生委員・児童委員を通じての把握をすることになる。相談事を整理して、本体組織と連携し、行政窓口へ繋ぎ、解決対策に繋げていく。緊急の介護運搬、買い物同伴、買い物依頼の受け入れ対応可能窓口等、実施受入の団体リスト等が相談窓口団体に提示されているのか不明である。相談事の実際行動の事例に即した対応関係機関団体のリストが必要だと思います。そうすれば遅滞ない対応が実施できるのではと思います。
- 困っている内容をヒアリングする。先ずは、町内会で解決できるか検討し、必要に応じて市の窓口等と相談する。
- 困っている人の情報（対象者、内容）を得る方法が無い、わからない。⇒対策が立てられない。
- 声かけ。
- 小さなおたすけ、買い物、ゴミ出し、植木の枝切り他。
- リサイクル品の収集、庭木の剪定、草取り、簡単な修理設置作業、ゴミの片づけ。

- 助け、支援を求めている人のニーズとそれにこたえられる人材の発掘と組織づくり。その2つをむすびつけていく部分を作れたらと思う。
- 草刈り、道路清掃。
- 私共の町内には後期高齢者が400人以上居ます。毎年40人位ずつ増えています。増々高齢化がすすむ中、ゴミ集積場の管理が（カラスの害やアミの管理）困難になって来ます。ゴミ集積場に置くゴミ箱（ケージ）をロータリーやライオンズに寄付していただきたい。
- 情報が入れば訪問している。
- 声かけと相談場所の案内。
- 情報が入れば訪問している。
- 心配事について、相談があれば解決できるように、関係機関等に繋げて解決に協力する。困っている内容によるもので、まずは、民生委員・児童委員を通じての把握をすることに成る。よほど親しくないと、個人個人の内容に踏み込むことはできないし、また踏み込んではいけないことである。
- 日常的に声かけ、ゴミ出し、買い出し、通院手伝い等。
- 独居高齢者の安否確認サービスの啓蒙。特に緊急連絡先の親族・知人の方々との連携。（但し、個人情報にネックで現在停滞中。）
- 現在、居宅介護支援事業している担当利用者については、出来るだけの事はしているが、地域（町内）では見守り等（買い物）を必要な高齢者が居るが、手が足りないので応援出来ない。
- 声かけ、話し相手程度。
- これまでのような親睦交流といったことが出来ない状態となった為、活動の継続が困難かと思えます。
- 近所に困っている人がいる場合、やはりご近所の人をかりるのが一番良いのではないかと。お互い知っている間柄であることが大切である。心も開いてくれる。個人情報保護の関係が一步踏み込めないのは私だけでしょうか。
- 団体としては、個別地域との関係は薄いので、ほぼやれることはない。個人的には高齢世帯の人をマイカーで移送するなどはしているが、そういうことですか？
- 話を聞いたうえで、専門機関を紹介する。
- 当事業所の活動に必要な受給者証をお持ちの方には支援は行えるが、あてはまらない方々への対応としては、しかるべき機関へのリファーをすることくらいしか責任は負えない。
- 声かけやごみの片付け等を通し地域を見守っている。
- 声かけや慶弔。
- 視覚障害者の方への情報提供。
- まず困っている方の話を聴いてあげること。毎週でも電話をかけてあげる。話の内容によって社協につなげる。
- 生活上の困りごとを整理し、必要な支援が受けられるよう公的な組織（団体）へ導いていく。
- ふくふくの活動範囲内での支援。
- 障害福祉に関する相談受付、サービスの紹介。
- 声かけや情報共有など他団体ともつながっていきたい。
- 現状、地区内においては困っている人が特にありませんが、先日、自治会役員さんに人や車が通りづらいと言われ、木の枝切り伐採を行いました。

■例えば、例に示されているような声掛け、ごみ出しの手助けなどの支援については、本来、地域コミュニティのなかで行われるべきものであり、昔から「向こう三軒両隣」というように、隣近所のコミュニティの下に見守り活動等が行われてきた。こうしたコミュニティの復活がなにより必要であるが、難しいのが現状である。自治会としても薄くなりつつある地域コミュニティを、なんとか活性化する手立てを考える必要があると感じる。一方で高齢化の進行は待たなしであり、様々な支援については、自治会としても取り組んでいく必要があると考えている。しかしながら、問 2-1 にも記したが、自治会では、それを担う人員、人材が不足しており、なかなかこれら全てに対応できる状況にないことが課題である。

※地域で活動する各種団体、ボランティアにこの役割を担っていただくことも一つの方法であるが、こうした団体は自治会と密接にかかわっており、結局のところ現状ではこれらの連携・協力を取り持つのは自治会となる。

- 会員が個人の判断で地域活動している方は多い。会として特にタッチはしない。
- 助け合いサービスが自治会と団地社協にあります。新入居者、退居者がわからない。
- あったか見守りサービス事業→見守り協力員（かわらばん）。話し相手・簡単な片付け・庭木の水やり・買い物・電球交換・玄関ポストから取り込み。地域ごとの見守り活動の展開。
- デマンド交通（タクシー等）の充実を図ること（高齢者の交通手段の充実）。買い物支援の取組み（高齢化対応）。道路・水路の通行を可とすること（フェンスで遮っているため通学路の要望）。
- 共助の精神を各会員持っていると思われるが、個別家庭の事情把握は難しい。
- 高齢者を対象とする事業には送迎を行っている。
- 日常の挨拶が出来る状態。皆で公園の清掃等を実施し情報の収集。（困っている人がわからない…それらの対策）買い物のお手伝い。
- 隣近所の声かけ。自治会の班長に考慮する。話し相手。サロンの開催回数を増やす。
- 見守り、声かけなど。
- ゴミ出し、買物の補助、軽作業の手伝い。
- 高齢者、障害者の方に対し、買物の手伝い。声かけ、見守り。
- 地域でのつながりを深め、一人ひとりの生活を支援する活動が関係機関のサポートを得ながら取り組むことができれば、「やすらぎサロン」のスタッフの方々が訪問・声かけを行っているが、今後拡大させる。
- いざという時のために、防災体制の整備と防災避難実地訓練。支援が必要な人の情報の共有化。
- 声かけゴミ出しの手助け等は現在行われているが、情報が十分とは言えず、近所の知り合いどうしでの場合が多い。
- 住民、民生委員等から個別の相談が都度ある。個別訪問をし、事情を聞き、出来る範囲でアドバイスを行い、時によっては外部機関への相談をしている。単身高齢者については声かけ、適時訪問も実施。
- 自治会やいきいきクラブのメンバーで話しを聴く状況を作る必要があると感じます。
- 本音を話してくれないので、声かけなどをまめにして、話やすい関係を作る。その中で手助けできるかは判断する。
- 声かけ、ゴミ出し、草取り、枝きりなど。
- 広く声かけて問題解決に協力します。
- 声かけ、挨拶運動を日常的におこなう。

- 班、組織での解決。出来ることは出来るだけやりたい。
- ゴミ出し等は友の会で手助けできますが、家で介護している家族に対する支援に期待したい。(精神的、経済的等)
- 宅地内や畑の除草作業、高齢者の話し相手。
- 高齢独居者への訪問。登校時の中学生の協力を得た、必要な家庭へのゴミ出しへの助力。
- 会員で困っている人がいれば、手助けしたいと思っているが、誰がどの様に困っているのかが不明、確認できず。困っている人を教えて欲しい。
- ゴミ出し、庭木の伐採、電球の交換など、小さな助け合いを行っている。火災などで自宅が使用できないとき、集会所を一時の避難場所として提供する。集会所を新築した後、アップピー体操やサロン活動を行いたい。
- 「いきいきクラブに入会したい」と市役所の高齢介護課に電話があり、私のところに回されてきたケース。その人の地区には、いきいきクラブがなく、近くの地区で引き受けてもらった。事務的にやらないことが大事。
- 町内で手助けを行うためには、ルール作りや情報の収集が必要である。個人情報、プライバシーの問題がある。
- 声かけ、買物、ゴミ出しの手助け。
- 何も出来ない、ただ行政との連絡。個人が求めない事が多い。
- リサイクル（ゴミ出し）など依頼があれば自宅まで引き取りに行く。
- 声かけ、ゴミだしの手助け。
- 必要な事をお手伝いできる人、団体等をつなげる。
- コーディネーターが初期相談を行い、市社協、包括支援センター、民生委員と連携して困りごとに対応している。安否確認、見守りは前記団体とボランティアの協力を得て実施。現在、地域の助け合い組織作りを進めているが、研修や講座開催の支援を市や社協に期待したい。
- 声かけ実施、散止をする方が多いので、お互いに声かけをする。困り事は何か把握し、できる事から実施、自治会で無理な事は行政に上げて行く。
- 声かけ、リサイクルの時など、リヤカー等で高齢者宅に受け取りに行っている。
- 原市地区11区全体で立ち上げた「ちいさなたすけあい運動」を積極的に推進したい（庭の枝きり、草取り、消毒、ゴミ出し等）。
- 「ちいさなたすけあい運動」75歳以上、体の不自由な人対象（お助け隊）。庭の枝切、庭の草取り、ゴミ出し等→昨年実績61件。ボランティアの人数25名。
- 既存の在宅サービスを利用。またそれ以外にも、隣近所同士で声かけ合ってゴミ捨てなどを行っている。
- 孤立感を無くす為に、話し相手になったり、NPOと連携事業である在宅事業で部屋のお掃除、買物、病院の付添等を行っている。期待する事としては、支援して下さる方が増える事。
- 声かけ、地域で集まる行事が少なくなっている中、単身者や日中一人暮らしの人の安否確認が大切と思っている。
- 事例により町内で解決できるか、関係機関を紹介する。
- あったか見守りで安否確認、手助け。

- 声掛け、ゴミ出しの手伝い、話し相手、本の読み聞かせ、紙芝居の実演。他の団体に期待する事、団体同士の情報を交換して協力して行かうか、又はそれぞれが必要な所へ訪問活動が出来たら良いと思う。そのためには市や社協の支援と情報提供が必要と思う。
- 私達は家族会です。当事者とのふれあいは多いですから、その人達の家族が見えません。家族の相談にのりたいです。当事者を無視せずに家族は在りたいと願っています。
- 声かけ、外で逢った時（おしゃべり）等、お話し相手になる等。助け合い友の会（在宅支援組織）の活用。
- 草刈り、大型ゴミの搬出などのお手伝い、空き家の敷地内の整備、草取りなど（団体として平時のお手伝いの気持ちはあるのですが、現社協の受入は個人（平日）のようなので…）。
- 障害者や高齢者など困っている人がいたら、声をかけていきたい。
- 夕ごはんを作りにくい、食べられないときに利用して欲しい。
- 高齢化も進み会員数も少ない為、現在の活動で手一杯です。
- 現在子ども食堂活動は新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、お借りしている集会所の利用条件がきびしくなり、活動ができなくなっています。コロナが収束し、集会所の利用条件が以前以上に使いやすくなったら活動を再開し、食の支援、学習支援、子育て支援をしていきたいです。
- 高齢者の低栄養の防止など地区伝達で紹介できる。
- 話を聞く、毎日連絡を取る、お花とコミュニケーションを取る、他の団体と共有する。
- 資源ゴミを出す事が困難の人への手助け、見回り巡回。
- 個人情報保護法の下に、町内会の家族構成や高齢者や障害者の情報がリアルタイムで入手出来ない。他団体組織と連携して、地元の情報を判断としている現況。市のもっている情報を階層的に公開してもらいたい。（町内会長には公開を）
- 声かけ→民生委員へのつなぎ役。
- いきいきクラブ会員に限って行っています。声かけは安全と健康です。
- 単身高齢者が安心して暮らせるお手伝い（週2回のゴミだしやリサイクル品の回収等）。
- 市や社会福祉協議会につなげること。
- 民生委員、包活センターの紹介。
- 諸行事になかなか参加できない高齢者もいる為、なるべく声かけをしていきたい。
- お助けボランティア団体を組織し、困っている人に対して手助けしている。
- 困っている事を他人に話をする事が少ないので、情報が入りにくいので、近隣の人とのコミュニケーション。
- 簡単な作業。家の中にいる人が多いため交流がとれない。
- “小さなたすけあい”運動の拡充を図る。運動活動の趣旨が周知されて居ない。PR不足が否めない為、町内会回覧等を通じPR活動を充実する。
- 1. 近隣での挨拶の励行をし、お互いの健康状態を知る。  
2. 不信な行動をする人を見かけたら、何かお捜しですかと声をかけて警戒をする。
- 「困っている人」の困っている内容と形は人各々多様で異なっている。従ってそれに対応するにも、そもそも手助けすべきことか否かも含め、「手助け」のあり方も多様で臨機応変に対応するとかいいようがない。
- 子育て中の親に対しての情報提供。

- マンションでは、個々の世帯は閉鎖空間になってしまう。高齢者、体に障害のある方が気楽に声をかけられる（手助け等で）体制、ネットワークを検討したい。
- 民生委員にて対応してもらう様にします。家族と一緒に住んでいれば、可能な限り手助けができます。
- 庭木の手入れ、草刈り手助け等が目立っている様ですので、困り事を良く聞いてあげる事が大切だと思うので、声掛けをしてあげる。
- できるだけ、どんな手助けでもしてあげたいです。声かけは常にやっていますが、ゴミ出しや買い物、病院の付き添いなどは、NPOふれあいねっと（お助けマン）に入ってもらって担当者が行っています。
- 日常のあいさつを通して顔見知り、笑顔が生まれる。コロナによる非接触により社会性の欠如、地域衰退等傾向にあるが、「あいさつ運動」はコロナ禍での対策と考える。
- これは平時の設問で、現在のコロナ感染拡大時には回答できません。

**問11 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。（具体的に記入）**

- 活動団体は継続が第一、焦らず活動すること。
- 社協が何をしているか、会員団体でもよくわかっていないケースがある。分かりやすい情報公開をしたい。
- 支援を希望する人が遠慮なく手を挙げるような雰囲気づくり。
- 連合会の仕事、行事を減らし、地域（小単位の自治会）の運動へと重点を移行。
- 活動のためには、ある程度の活動資金が必要と考える。
- 自治会の今後の改善取り組みは、自治会加入推進活動と並行しながら老人クラブの会員を増やしていく。人脈を通しながら会員を増やす。
- 親身になって貢献する事。活動する団体に対してもそれなりの支援が必要ではないか。
- リーダーの育成が重要。現団体の中で課題を明確にして実践すること。先進部隊の研修。
- 高齢者と若者が融和すること。地域の一体化。
- 若い人材の発掘、育成。地域住民の参加。
- 継続にはリーダーが必要です。それをどう育てるか。まとめ役。広報発行。発想する観点。
- 会員の増強。
- 勿論、新役員の加入が前提条件です。
- SNSの個人か、趣味的グループ化、価値観の同じ仲間化などで、任意団体での活動は活発化、積極化しても、地域組織の町内会などにもなかなか興味を示さない。ましてやPTAにも任意などで入らないという人が出てきている状況では、何故入らないのかを研究分析してその対策をする段階にきていると思います。
- 各種団体が存在しているが、設立の趣旨と現状の活動、他団体との関係を整理していかないと、活動のための活動になっている事がある。
- コロナウイルスの終息。
- リーダーの育成。
- 若い人の参加が大事。
- 人材の確保、資機材の確保。

- 顔出し（参加）…少しでも良い。
- 今、最も必要な事は若い人の参加です。
- 責任者の発掘。
- 自治会であるので、自治会活動の基本的ルールなり、組織的活動の基本的な骨組み案を任意団体と言えども、地域組織として、活動単位として、必要ならば活動模範の組織案を提示してほしい。SNS の個人化、趣味的グループ化、価値観の同じ仲間化などで、任意団体での活発化、積極化しても、地域組織の町内会などにはなかなか興味を示さない。ましてや PTA にも任意なので入らないと言う人が出てきている状況では、なぜ入らないのかを研究分析してその対策をする段階にきていると思います。
- 活動団体に手助け出来る人の育成が課題だが、協力して頂くよう福祉活動等の情報をしつこく浸透させていくしかないと思う。
- 後継者の育成。
- 新メンバーの入会。
- メンバーが健康でいること。
- 各自治体（町内会等）での、応援団体を立ち上げる（小回りが出来る）。
- ニーズの多様化に應えるため。
- 新しいスタイルが必要と思うが分からない。当会の場合、車いすの管理が自己管理となっており大変。（社協さんに預かってもらえると有難い）
- 上尾市との連携。
- 空き家活用を通じ、コミュニケーションの拠点づくりが必要。
- 支援を必要としている人、支援の内容、支援できる人を結び付けるシステムをつくること。
- 公的な機関がバックアップする（補助金、活動場所など）。
- 資金。
- 後継者が必要に思う。
- 地域福祉活動においては、社協などによる積極的な支援が行われているが、現状では、地域コミュニティや地域福祉活動の中心となっているのは自治会である。自治会は、その前身である事務区制度の下で、地域の核としての役割を担ってきており、実に多種多様な業務を抱えている。現状、自治会は様々な地域活動にかかわっており、こうした長年にわたり行われてきた枠組みについて受け入れられない、違和感を持つなどの意見を持った団体等も少なくないのではないか。今、自治会は、様々な（多種多様な）業務を抱え、新たな事業（分野）に踏み込む余裕がなくなっていることも事実であるが、自治会としては、こうした現状の中、試行錯誤しながら今後も引き続き充実した自治会活動を行っていくために取り組んでいる。昨今、ソーシャルメディアの普及により、生活に密着した情報交換が行われるなど、これまでの地域コミュニティによらない生活が広がりつつある。こうした社会背景を踏まえ、自治会を中心としていたこれまでの枠組み（仕組み）を今後も維持していくのか、新たな仕組みを考えていく時期に来ているのか、改めて検討する必要があるのではないか。
- 届出や報告書等の簡素化。
- ボランティアの参加者の確保。
- 視覚障害者の方への情報提供。

- 現在は、活動日が限定されておりますが、活動拠点の確保と会員が増えていけば、活動日を広げていけるのかなと思います。
- 活動場所、資金、情報発信などが先細りにならないように、行政での見守りや相談・援助が必要と考えます。
- 趣味のクラブ活動と中心にしていく。
- 拠点作りと支援（行政からの資金援助含む）体制。
- 様々な団体同士の繋がり、ネットワーク作りやアピールの場づくり。
- 情報共有、情報交換、交流。
- 特技がある人の発掘。啓蒙活動。
- 若い後継者の育成。たまには自治会会合時に出向いてもよいお話をさせていただくとか。回覧と常会による自治会員への浸透。
- 団地班（8戸を1班として40班）活動の内、毎月第1日曜日の芝生清掃日を班交流の為、より活性化する。
- 高齢化と80歳近くでも働かざるを得ない人が増えています。自治会加入者を増やさなければなりません。団地社協は団地前の空畑をかりて花や野菜をうえて宣伝することにしました。
- 高齢者・要支援者・生活弱者・未成年者に受け入れられる事業。顔の見える関係を作る。地域の中のつながりが支え合うための力となる。
- 経済的援助が基本。上尾市社会福祉基金活用事業助成金の助成期間が3年となっているが、福祉活動は3年で終わる由でなく、継続していくもの。助成期間の撤廃を切望。
- 自治会が行う事業の時に声かけをする。
- 人材の確保。安定した財源。
- 人材の確保。
- 新たなメンバーを増やしていくこと。
- 自治会で勉強会を開く。
- 社会福祉協議会等を中心に、「やすらぎサロン」のスタッフを増やし、近隣住民の協力を得ながら、声かけ、見守り、安否確認を行っていく。ゴミだし等は福祉サービスをする関係機関へ連絡か？
- 後継者の育成及び、町内会活動参加意識の醸成。企業の定年延長もあり町内会への参加機会が遅くなる傾向にある。定年となったと思われる年齢（65歳～70歳）の町内在住者情報が得られるようになれば、後継者の育成にも活かしていけると思います。
- 住民の意識向上をうながす活動の継続、活動の中心となる人の育成。
- 都度住民の要望、相談、依頼を聞き取る事が大事。
- コロナ禍でみんなが集まって話し合うことがむずかしい。
- 若い層の生活上の時間的余裕が必要。若い人の活動への参加促進。
- 日頃若い人と交流する。運動会、祭りなど若い人に参加してもらう。
- 中心になるリーダーづくりが必要。
- 人材のローテーション（新人の加入）。
- きちんとした（しっかりした）人材の発掘。
- 理解を求めて協力を呼び掛けていくことしか、今はわからない。
- 地域住民の意識改革を図る。広報、PRの充実。



- 会員への協力依頼（回覧文書）。
- 町内会で行っている活動を、より詳しく説明、宣伝する。活動のリーダーになって頂くように、心当たりの人、個人個人に声をかけて願います。
- 連合会の負担が大き過ぎるので、連合会の行事を減らす。パソコンを活用して、会報カラーで町会回覧。市のホームページの充実を期待。
- 町内の活動の中で、地区単位、班単位の組織を生かして、見守りを呼びかけていくことも必要と思う。
- 若い人たちの参入と協力。
- 地域が活動出来る拠点の整備（仮ではなく）。
- なるべく負担の少ない事からスタートし、個人負担が大きくなる様にする。
- 活動団体のPRや必要な情報。
- 個人の負担（責任）を軽くするよう Co が話を聞いてあげる。
- 地域の新しい団体は、相互に積極的に連携していく。
- 人材育成、活動資金、情報提供。
- 地域の中で活動する団体と交流を図り、それを区民に回覧等で伝えていく。
- 常に若い人にも声かけして、ボランティアに加入してもらおう。
- 「地域のたすけあい運動」設立して3年目。75歳以上の人対象にしているが、ボランティアの人達が75歳に近くなっている。募集はしているが、若い人達の加入方法等検討が必要。
- 人材がないので（高齢者しかいないので）みんながお互い様の意識をもつことが大切。
- 若い活動員を増やす事が事業継続にはとても必要だと思います。
- 地域に於いては特に世代間交流を活発に行うこと。
- 人材育成。
- 人材育成、ボランティア募集。
- 1. ボランティア団体の登録推進とネットワーク化。上尾市内を拠点とするボランティア団体のボランティアセンターへの登録が少なすぎる。これを組織化出来れば活動はもっと活発化し、必要としている人たちや施設への助けになると思う。
- 2. ボランティア団体のリーダーを講師にして、各分野におけるボランティア養成講座を開設する。
- 3. 夏休みだけでなく、年間を通してボランティア体験活動を実施して市民の関心を高める。
- 声かけが基本。老人施設関係への歌ボランティア活動なので、活動場所の復帰が望ましい。
- とにかく人数が必要です。当事者が大勢いるのに家族がいないのは不自然です。
- 会員を増やしていく必要有り。
- 気軽に体験でき興味を持って参加できる場（ワークショップなど）、NPO 活動紹介パネル展など。
- 会員の負担を軽減する。会員増加。
- 「子ども食堂」に限って言えば、行政の手が届きにくく、その現状で辛い思いをしている子ども達がいることを知った事からはじめました。行政の手が届いたら、なくてもよい活動なのかもしれません。現状では、開かなくては私達がつらいという思いからやっています。増えていく、継続していくため、という問いはちょっと考えにくいです。（現状が続くなら、行政からの支援（広報も含めて）は欲しいです。）
- 宣伝と情報収集。

- 子ども食堂（子どもの居場所）の活動場所として、公共施設（市の公民館、区の公民館）が使えるようにする。子どもの居場所活動のために公共施設を借りる時は、無料で借りられるようにする。
- メンバーが高齢化しているため、新メンバーの継続的な加入が必要。
- 市保健センターと連携していく。
- お互いに話しをし、心を1つにし、目的に向かう。ずれないようにする。継続するには、自分が楽しいことをする。
- 指導教育の場（市等からの指導）。
- 各自治体でのLINEやホームページの立ち上げを可能にする為のインフラやモデルを検討してもらいたい。
- 信頼関係。
- 地域にシッカリ管理される集会所。
- 活動できる人材を継続的に募集するために、上尾市の支援（広報活動）が必要。
- 誰もが参加出来るような社会環境作り。小さな組織でも活動出来る事業に限定していくこと。
- 若い世代の参画。
- 役員が若返りすることでの活性化。
- 活動団体の増加は望まない…役員を選定が困難。
- 相互理解とリスペクト。
- 1、新しいメンバーの入会。
- 2、活動リーダーの育成。
- 3、入会しても良いが役職につくのが「イヤ」と云う人達との解消方法。
- 「限界集落」化する当団地のそれ由の困難さは年々深刻化し、それに歯止めをかける、又は改善するための妙案は、自治会には思いつきようもない。
- 中若年層、勤労世帯が気楽に仲間に入っていける環境作りが必要。
- ボランティア活動に対して理解、協力をしていただける人を募集（インターネット、チラシ、公的媒体）していく様にする。
- 話し合いの場を設けて行く。（話し相手、相談相手）
- 尾山台団地は、高齢化率が高く、一人暮らしも多いので、それを支える体制をどう作っていくかが課題。若い高齢者の活動への参加が必要。
- 一人一人が人生100年時代を見たフレイル対策を取る事。その為に「ノルディックウォーキング」を導入すると良いです。歩幅、握力、疲れない体、背筋が伸びる等効能もあるからです。

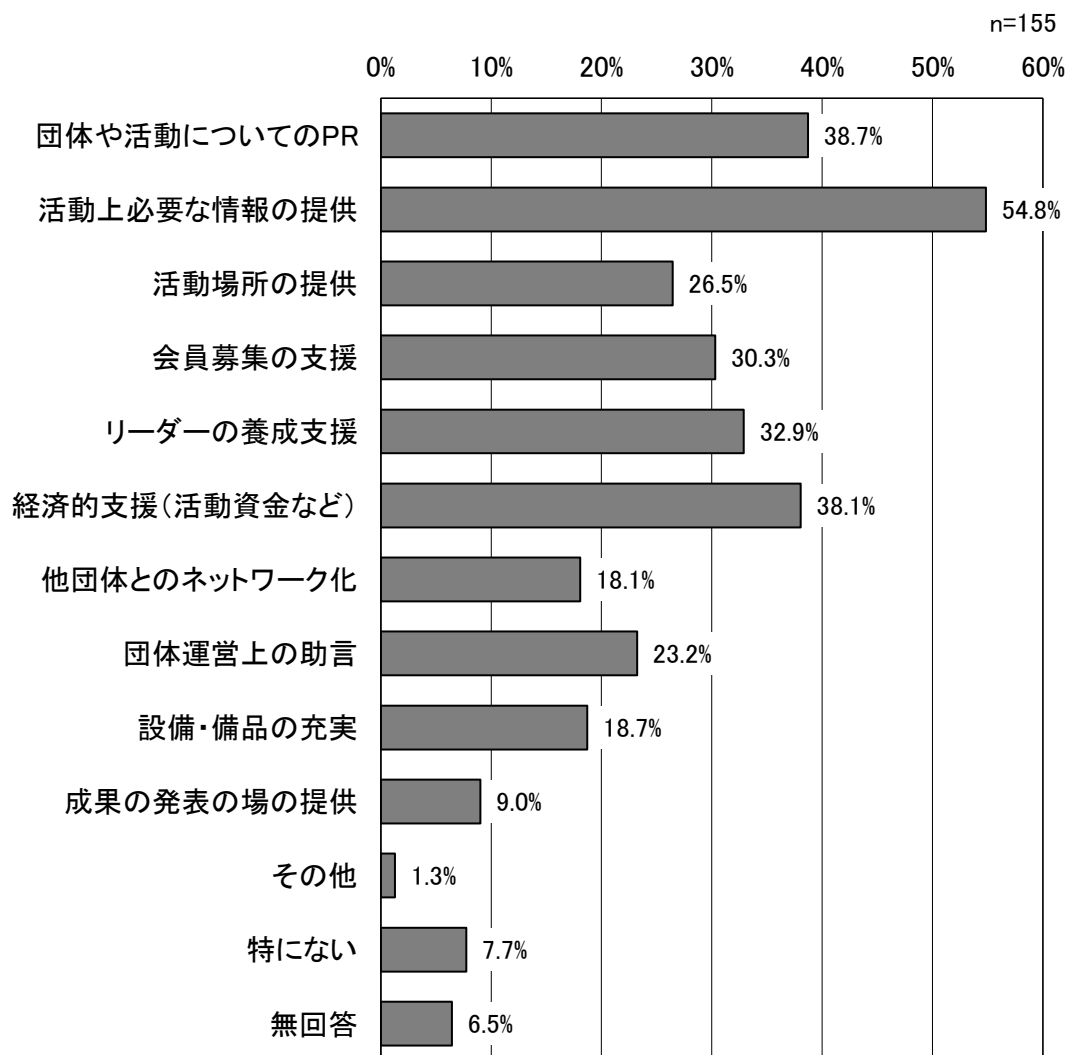
**問12 地域貢献活動に取り組んでいるボランティア団体やNPO法人で、地域や市民にPRしていくべきだと思う団体はありますか。貴団体が把握している範囲でお答えください。(具体的に記入)**

- NPO 法人ふれあいネットが設立され、在宅支援、食事会、ふれあい食堂の運営を行っている。地域福祉活動の発展を目的に自治会及び社協役員を中心に活動している。
- 問1 1に同じ(仲良しグループに融和出来る雰囲気が必要)。
- 当該団体は一切把握していない為、コメント不可。
- この件に付いて何も把握していない。
- オレンジカフェと同様の活動内容を展開してくれている介護施設があります。青空カフェとして開催しています。認知症の理解とその家族支援として活動しています。地域の自治会に、フードバンク活動に登録して開始した貧困対策としての食品配布活動があります。配布希望者は登録いただいている様ですが、開始したばかりの様ですので詳しくは、把握していません。その他、無償での塾活動や子供食堂を展開している団体があります。
- 現状良くわかりません。必要な時にすぐにわかる体制を整えてほしい。
- 地元の祭(神社の活動)…参加者が減少している。
- 寺子屋として、無報酬で地域の学習塾として活動している方々がおられます。学習塾に経済的等の問題で、通えない地域の児童に対し、学習の補助を実施してくださっています。小学校時代の遅れが、中学校の落ちこぼれに繋がり、学習機会を失うことにも成ります。この防止策としても大変良い事であると思います。また、こども食堂の活動があります。母子家庭や、何らかの事情で、子供一人での食事になりがちなお子様たちもため、週に一度、食堂を開いて楽しい食事の機会を提供している活動団体さんがいらっしゃいます。
- 多岐にわたり活動しているので良いかと思う。
- ご近所支援合い活動。高齢者家族が支援して欲しい事とボランティア団体がどこまでタッチしたらよいか、お互いに本音の話し合いが出来ていない。この壁をどう乗り越えるか?
- 地域サロン活動を主催するボランティアグループは、自治会区域を越えて高齢者へ積極的に個別のアプローチを行っており、自治会としても、回覧、広報誌などでそのPRに努め、その活動を支援している。他にも、団体によっては自治会に頼らず独自に様々な活動を行っている。こうした活動に対しては、自治会としても積極的にPRしていきたい。
- 輪太鼓虹の会(障害児者とその親で運営している和太鼓サークル)、上尾市内で福祉的な出演(演奏活動)をしています。
- 学校応援団、学童登下校見守り、青パト、いきいきクラブ。
- 上尾市原市北地域包括支援センター、コープみらい原市団地店、ツクイ上尾原市、芝浦工業、サテライトラボ上尾。
- 青少年育成連合会・自警消防団・環境美化推進員連合会・母子愛育班・交通安全協会・子ども会育成連合会・交通安全母の会・食生活改善推進委員協議会・身体障害者福祉会
- 地区内に「一般社団法人セーフティネット」があります。新型コロナ禍の中、活動が休止状態にあり、収入激減の状況。このような状況であっても納税負担が大きいのしかかり、存続が難しい状況。福祉関係団体に交付金のさらなる援助が必要。
- NPO法人すけっと
- 井戸木記念館で行っている会の紹介を広報で宣伝し、参加を呼びかける。
- 小学校登下校時の防犯パトロール。

- 「やすらぎサロン」のスタッフには、民生委員、元民生委員、見守りボランティア、母子愛育班の方々がいて、サロンに積極的に参加し、協力してくれます。
- 地域の自治会の協力が不可欠と思う。
- 社会福祉協議会、防災大会。
- 学校応援団
- 子ども食堂（トマト食堂）
- シルバー人材センター
- 市が養成している「認知症サポートセンター」、市社協が養成している「傾聴ボランティア」を地域の助け合い活動に繋げてほしい。
- どんなNPOがあるのか、わからない。（上尾市全体で…）
- 原市地区の「ちいさなたすけあい運動」
- 7区の「ちいきのたすけあい運動」ボランティア活動の推進を積極的にしたい。
- 尾山台小や瓦葺中のPTAのお父さん達で活動している「おやじの会」
- 朗読の会さざなみ…朗読と紙芝居の実演。あげお語り部の会…各地の民話の語り。
- 障害の内容、現状により、ボランティアでは不十分と思います。手助け、同情でなく、障害の中身を知らなければ、当事者を傷つける場面もありますから、気軽にボランティア等PRのやり方が問題と思います。さそわないで下さい。
- いきいきクラブ等
- 民間フードバンク団体
- ～美育ボランティア With you～（笑顔になって頂く）。春、秋、代表者の自宅を開放して12年老人ホームの方、障害者、地域の方が2日間イベントに来ます。2日間100名以上。  
内容：いけ花の展示、いけ花体験、お茶のおもてなし
- 各地域にある消防団を消防組織に限定せずに災害活動にも活躍する団体に組織変更をすべきと考える。
- フードパントリー「パプリカ」
- NPOふれあいねっとの活動をもっと団地内外に周知することが必要。

**問13 貴団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)**

市役所・社会福祉協議会に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が54.8%と最も高く、次いで「団体や活動についてのPR」が38.7%、「経済的支援（活動資金など）」が38.1%となっています。



## 5. 新型コロナウイルス問題について

問14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴団体の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 本年度活動中止でしたが、これから少しずつ活動したい。必ず反対意見がでるのが問題。
- ふれあいネットワークの訪問活動を前面休止。電話のみの対応としたが、会って話したいという要望が多数寄せられている。何とか工夫したいと思っても、市社協の方針で全く何もできない。
- 記念会館利用指針を策定（2020.10）し、館内での飲食を自粛することとした。人数制限も明記。（飲食を希望するケースがあったため）
- 高齢者の集まる機会（だんらんの家、いきいきクラブ）が減って、会員の動向がつかめない方がいる。
- 1. 年間行事がすべて中止になり対応におわれる。（会員からの問い合わせ）
  2. 年間行事、新年会、忘年会、夏の茶話会。
  3. 自治会の行事も中止、自宅から外に出られない事で足腰が痛いとか、外に出てもどこへ行っても団地内を散歩するだけでした。
  4. 3密にならないように会員に徹底している。
- 町内リサイクル活動や会議等、三密をさけ、飲食禁止等の対策をとりつつも、短時間で終了するようにしている。集会が出来ない事（サロン、だんらん、アッピー元気体操等）。
- 1. 問題点…どこでも同様だが、計画行事がほとんど中止となり、交流の場がなくなってしまった事。その事による運動不足などあり。
  2. 課題…8月頃から単位クラブでは、活動が再開されはじめている。その場合でも、ウイルス感染症予防には十分配慮している。
- 1. 地域の事業中止（特に室内での行事）
  2. コロナと冬場に備えて、インフルエンザとの同時流行を考えて、マスクを公民館に備蓄した。
- 発生当初はいろいろわからない事が多く、対応に苦慮した。
- 集会所の使用禁止が継続中で、市の交流行事が開催されていません。カラオケ、卓球、アッピー体操など、早く開催される事を願っています。
- 特になしですが、高齢者等は、家の中にばかりいると、足腰が弱り、歩けなくなる。人との会話がなくなり、認知症になりやすいのではないかと。
- 今年度の事業は90%中止、なにもできていません。会議でさえできていないのです。
- 集会が開けない。ソーシャルディスタンス確保（保持）できる集会場が無い。
- 全ての活動を自粛している為、コミュニケーション不足になっている。
- 私たちの日常は、多くの人に支えられています。芸能大会に向け練習に励んでいましたが、コロナウイルスで中止になり、発表の場がなくなった。
- 全ての件で今年度中、中止となっております。
- すべての行事活動が中止せざる、できなくなってしまった。見守り活動で、会って確認していた生活状況が電話での把握になり、各見守り相談員が心配にしている声が聞こえてきていた。
- 特にありません。計画した事業ができなかったこと。
- 現状の基準では自治会活動はほぼ不可能。今後の開催も出来ない可能性有り。夏祭り、地域運動会、ゲートボール大会等行事の中止。ソーシャルディスタンスが取れない。会場が手当てできない。

- ほとんど中止となっており問題なし。
- 1年間の事業が中止や延期になって、会議などが全員でできなくなっている。
- 地域福祉で最も大切なことは、人と人が話し合い、情報、対応、具体的とりくみ等を共存するためには、話し合いが必要不可欠なのにできないこと。
- 定例的に実施している会議等ができなく、班長を通じて各世帯に対する情報不足が大きい。
- 人の集まる活動がすべて中止となった。ふれあいサロン1回/月、夏祭り7月、運動会9月、ふれあい広場11月、他。忘年会、新年会等。
- 団体の活動中止中。
- 室内事業がすべて中止となり、公園利用が増える。しかし大人が専用しすぎ（ソフトボール、テニス）。土日に公園で活動するため、親子連れが遠慮してしまう。
- 高齢者のため活用中止中。
- 各行事がほとんど実施できなくなったこと。消毒剤が不足して、手に入らない状況（予備品）が発生し、対策に苦慮した。
- コロナウイルス関連により活動全般で中止が多かったため、次の活動の時に結び付けることが心配している。
- 会議の回数が少なくなった。
- 定例会の回数減。
- 活動を休止している為、問題は起きていませんが、予約の取り消しの連絡が先方から頂けず、全てこちらから連絡した。（10か所）
- 園児、保護者への感染防止対策を行っている（手指消毒、室内・遊具のアルコール消毒、マスク着用）。室内全体の清掃を徹底。換気等。職員の健康管理（マスク、消毒、検温ect）。園だよりで保護者家族への協力要請（送迎）。
- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、令和2年2月より活動休止中です。（来年3月まで）
- 1. 完全に活動休止（停止）状態となった。  
2. 当会も高齢化しており、これからの活動継続について検討中です。
- 団体関係者の陽性患者の情報が来るのが遅い。コロナ感染者の情報を公表するようにせまってくる一般市民への対応に苦慮した。
- コロナウイルス感染拡大後、全ての相撲甚句公演がキャンセルとなった。
- 月1回の活動をしてきたが、2020年2月を最後に、活動が中断している。9月に中間的なツナギの集いを感染防止を前提にして実施していたが、半数の参加にとどまった。団体行動への参加を見合わせる警戒感がまだ強いようだ。
- 自粛により、利用者が減少。予定していた行事がキャンセルになった。
- 学校（小・中・高）が休校となり、利用者はほとんど利用を継続したため、密の状態が続いた。職員は、マスクや消毒等、検温や体調管理などはしていたが、利用者は知的障害があるので、衛生管理をするのが大変だった。まさに綱渡りのような状況での運営だったので、職員のストレスは相当なものだったと思う。
- 問題ありません。手の消毒、マスクは常に注意をしています。早く終息する様常に努力しています（早くマスクをはずせる様）。
- 外出（外部）しにくい風潮。
- 施設ボランティアなので、受け入れが難しい。活動が出来なかった。

- 活動拠点が使用不可および使用制限となり、いままで通りとはいかなかった。集まって行う活動が中止となった。
- 活動拠点が閉鎖となり、全く活動できなくなった（外出自粛中）。自粛解除後も活動時間の制限があり、十分な活動はできなかった。事業計画の親睦会、新年交流会は中止とした。年度変わりの時期に重なったこともあり、打ち合わせの場所も三密を避けてとなると、会議室は使えず屋外で行った。
- 2月から活動は全て中止となりました。9月から少しずつ活動再開しましたが、以前と同様な形式での活動は行えていません。感染対策をとりながらの活動場所があまり無いので、探すのに苦労しています。
- 役員会以外はほとんどの活動を中止している為、特になし。
- 「集まる」ことが困難となったため、定期総会や会議、諸行事も中止となってしまった。学習会の開催も減少。支援金作りのための活動の場も制限されている。
- 感染防止の為、利用者の方々に協力してもらい、在宅支援というかたちをとらせてもらった。在宅支援中は利用者の方は、「通所したいが、行けない」というジレンマはあったと思う。運動不足や時間の過ごし方等、様々な課題があったと感じる。
- 物資の不足（マスク、消毒液、紙類）。利用者、職員の安全確保。学校の対応が変わる中での調整、連絡。実際に施設内で感染者が出た場合の対応が不安。
- 茶道ボランティアのため、活動を中止しています。
- 活動ができないため、交流がなく、楽しみが減っている。
- まずは人が集めにくいという事です（すべての面において）。  
具体例：自治会会合は、以前ですと50~60人集会に集っていましたが、現状は組長三役のみ出席で、10人程度で実施。周辺の清掃等に人数がたらない。年行事においても人数を制限し実施。又、盆踊り、ポピー祭り中止もあり。
- 地区行事（総会、委員会、夏祭、体育行事）等が全て縮小又は中止。
- 月~金曜の10時~14時迄開いていた団地社協の拠点は、2月より閉めていましたが、市社協の理解を得て、見守り助け合いサービスや年末に70歳以上単身者、身障者に配布するカレンダーの準備等をしています。
- 支部視察研修・地域福祉懇談会・サロン活動・あったか見守りサービス・助け合いサービス・ふれあい交流会等、接触を伴う事業の中止。サポートセンター閉所、週2日電話での見守り活動。ふれあい便りのお届けとつながるメッセージの発信。協力員の訪問による活動休止の為、「おおよからのお便り」を作成し郵送。つながりを切らない、モチベーションを保つため、協力員に対しても手紙や連絡の取り組みをしている。支部に所属している役員との情報共有が不足しているため、無駄な作業が多い。ネット環境をサポートセンターに整備すべき。メールで情報送信と返信が短期間で可能。
- 2年度の行事が全て中止。福祉活動（高齢者見守）活動も10月まで休止とした。
- 先の見通しについて確たる情報が発信できなかった。
- 全ての活動を自粛中で、集会所の使用頻度が減少し、集会所使用金額が減り困っています（収入が減少）。例えば、サロン活動等半年以上開催されず、メンバーの動向が把握出来にくくなった（いきいきクラブ等も同様）。
- 自治会活動を自粛のため、来年度、活動実施にあたり、人材確保など難しくなるのではないかと。



- 町内の諸行事の中止に伴う交流の場がなくなる。
- 長期間に渡り、公民館等が使用出来ない状況なので、だんらんの家など、いきいきクラブのメンバーの中の人達は少人数でも使用出来ないかなど多数あった。
- 地域での交流機会が減った。
- 三密をさける為、運営委員会を2班に分けて行った。
- 会議、行事が出来ない。
- 自治会における月1回の班長会議(20班)は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止の為、三密等をしないで(考えて)毎月開催しています。しかし、自粛中の自治会費の集金については、一部延期しましたが、募金等については問題なく行われました。
- 感染防止のため、上尾市の高齢者福祉事業についても活動の自粛が余儀なくされ、秋以降の事業再開をめざすとされていたが、9月になっても再開されなかった。逐次状況の説明もなかったため、町内会の方から状況の説明や再開の目途を市に問うことになった。早く活動を再開したいという町内の声もあるので、状況説明がもっと必要だと思う。
- 総会等人が集まる事が困難。自治会発足時、団地住人への声かけがスムーズに出来なかった。ゴミの選別仕分け作業が大変でした。捨てられたマスクや他のゴミによる感染の心配。
- 市、地区の行事中止に伴い、町会に於いてもほとんどの活動を中止にしている。各種同好会にも自粛を要請中。連携を保つ為、路上で会った時は声かけを積極的に行っている。
- コロナ禍で集まって話し合う状況に苦慮している。
- 高齢者を中心とする活動(集合型)ができないので、高齢者が元気をなくしている傾向が強くてている。
- コロナ問題が長引いているため、全般に危機意識がうすれてきている。
- 地区1本化の神社の夏祭り(神事のみ)でハヤシの伝統芸能継承、お神輿の渡御の跡切が心配される。
- 会員がなかなか集まらない現実の中で、どう情報交換、コミュニティを全体で図っていくか悩んでいます。
- 全ての行事が中止となっている事。見守り(下校時の)は実行していますが、高齢者についての催物は全く出来ていなく、ボランティアの訪問のみ。町内会に加入意義(意識)の減少が問題です。
- 新しい生活様式の移行に対して理解できない人もいて、これからの課題かな…と思います。
- 訪問しても家の中まで入りにくく、玄関前で短時間の会話程度しかできないこともあった。
- 活動するためには、人が集まることが必要だが、密になる可能性があるため、実施することができなかった。
- サロン事業の中止、それに伴う希望者への活動を断念。事業活動の中止、コミュニケーションが不足。孤立防止を図れなかった。あぜよし公園の除草の問題。今までは年3回40~50名で行っていたが、コロナ禍で執行部が対応(3~5名)、このままコロナが収束(終息)しなければ…。
- 集会所内で行う会議や活動を中止した。屋外で行う活動でも、密になったりする活動や、飲食を伴う活動を中止した。
- 全て活動が中止になりました。それを中止にしたのは市(市役所)の連合会の会議でした。コロナ感染拡大防止のため。コロナがなくなれば全て解決することですか?一時的な問題や課題でしょうか?2~3年いや5~6年かかりそうで、大問題で諸課題多く不安。パソコン活用、ホーム

ページと会報のデジタル化急務。

- 各団体において会館を使用して活動しているが、3密を避けて実施している。問題が起きた事は聞いていない。
- すべてに行事が中止になりました。人と人とのふれあいがなくなりました。
- マスク、手洗い（消毒）、3密回避、公民館の会議は窓を開ける、参加人数の圧縮などにより対応中。
- 今後の健康問題。
- いかに3密を避けるか。
- 人と会えなくなった。
- 当団体の活動は、見守り訪問やサロンなど、交流活動や相談事業など、密に接触するものであるため、中止を余儀なくされている。電話訪問や安否確認、お便りをポストイングするなど工夫しているが、会って話をしたり様子を確認することができない。「淋しい、早く会いたい」と言う声が多い。
- 月々の理事会、班長会も会議もできない状態です。敬老会も今年はできなかった。記念品を配って終わりになった。今後コロナ対策ガイドラインに沿って行ったとして、万一、感染者が出た場合、誰が責任を取るのか。会議、行事等を計画すれば、市に通報された事も度々有り。
- 感染拡大防止のため、4月からの事業計画がすべて中止になったこと。総会も中止になり、口頭で伝えていた議事の説明を文章にして伝えていくことが大変でした。
- 活動がほとんど中止になってしまった。今後は「3密防止を守り」各自自治会の判断にて活動を推進出来るようにして欲しい。毎月11月に実施している、原市地区地域福祉懇談会はコロナウイルス対策の為、各11地区の自治会館で別々に懇談会実施した。
- 会議、各団体の7区会館利用中止。5月より10月まで、7区会館の利用がほとんど中止になった。一部会議等は実施している。10月より一部の団体での活動がスタートしてきた。アルコール消毒、手洗い、検温器、7区会館設置、3密にならないようにしている。コロナ期間中でも7区のラジオ体操（月～金）毎朝むじなや公園、セキスイ公園で実施している。また、「ちいさなたすけあい運動」も4月からも休みなしで実施、本日まで48件実施。
- たくさん行っていたイベント、活動などの自粛。コロナと共に生きる、今後の生活についての課題。カラオケの活動も十分に気をつけながら行っているが、それを見ている人の不安など課題になってくるかと思う。
- 自粛要請が長く続いている為、楽しみにしてもらっている、ふれあい喫茶やお食事会と言った支部事業を行う事が出来ない。
- コロナ感染対策を取りながら、少人数での会議は少しずつ行って来てはいるが、全体が見えない状態。
- 一旦は中止しているが、今後再開時期、手段、3密回避のハード面の具体例。
- 各サロン活動中止による高齢者の認知進行、運動不足、体調面の情報が入らない。見守り対象者が介護施設入居等で対象外になり、在宅見守対象者が減少してしまった。
- 1. 今年の3月から9月まで予定していた40公演が中止となった。その間、4月の総会は資料の郵送と委任状の回収により対応。毎月の定例会も2回のみ実施。  
2. 9月に行った北本市文化センター「子ども劇場」の公演では、主催者側が入場制限、換気、消毒、座席の間隔、職員立ち合い、その他万全のコロナ対策を取って頂いた。10月から再開し

た上尾市児童館（アップーランド・こどもの城）の定期公演も同様の対応をとって頂くこととした。

3. 新型コロナ問題発生以前から、無料動画配信サイト YouTube に紙芝居作品をアップしていたが、この問題が発生してから更に閲覧数が増加、世界 36 か国の人たちに観て頂いている。今後も暫くイベントでの公演が難しいと思われるため、ネット配信や DVD 制作等を検討して行きたいと考えている。

- 活動中止（令和2年1月1日、3日…新年で休み。7日活動、9日活動、10日活動、以降休みとなった）。
- 発生中は StayHome でしたのでわかりません。ですが、当事者にとっては本来毎日の居場所であるべき事業所が閉鎖されたのですから、高齢でありながら現在健康な家族会の会員は、他の家族の見えない当事者たちのことを大変に気にかけて過ごしていました。居場所を奪ったのはコロナウイルスですが…。
- ・オレンジカフェ、アコーディオンで歌おう…3月より中止が続き、現在に至っています。お話をする機会がほしいとのことです。
  - ・ふれあい食堂…3月、4月、5月と休業していましたが、6月より開業しました。衛生面に気をつけて行っています。喜ばれています。
- 会議等、気軽に集まることができなくなった。会員間のコロナに対する温度差による気持ちの分離。感染拡大防止による被災地の受入制限で、今までのようにお手伝いに行けない。→地元が被災した場合どう判断するか課題。
- 会員（親）が高齢で、障害ある子どもが通う施設が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自宅待機（自粛）になり、数日間休んだ後、事業所に行くことを、嫌がった。
- 活動が制限されて、一層低調となった。
- 3月から9月まで開催できませんでした。10月から開催しましたが、感染防止のため受付に飛沫防止の透明の窓口付のついたてを置いたり、テーブルに一方を向いて座れるよう、そして間隔をおいてテーブルを置いたり等を心がけていますが、これで充分なのか不安があります。
- 公共施設を利用して月一回会議を開催していましたが、会館閉鎖の為半年 1 回活動休止状態となってしまったこと。
- 新型コロナウイルス拡大防止策のため、集会所の利用条件がきびしくなり、現在でん虫は活動ができず休止中です。
- ・視覚障がい者の外出介助、交流を行なうためには、身体的接触がさけられない。現在のコロナ下では、活動自粛、休止とならざるをえない。
  - ・会員全員での打合せを行う場所が確保できない。（コミセンが改修中および人数制限のため）
- ・定例会場所がコロナ対策のため使用できず、いまだに定例会が行なえず、情報共有など、話し合いができない。
  - ・高齢のため活動はしたいが、怖くて参加できない。
- コロナに対する意識が違う場合があり、なかなか難しい。
- お花教室、老人ホーム施設、イベント中止しています。
- 消毒液、マスク、体温計（非接触型）の購入業者の紹介。
- 集会場の再開を検討している。市役所の窓口が、市民協働推進課、高齢介護課での再開に対する統一した方針が必要と思います。

- 私たちは独自に活動を行っていて、コロナについては会員も評価はしています。  
“コロナに負けるな”シリーズ…①九区いきいきクラブ便り②九区いきいきクラブ情報③自治会  
掲示板。必要であればコピーします。
- 各種イベントを中止したため、会員間のコミュニティがとれず。また、防災訓練もできず災害が  
起きた場合不安。
- 役員等の会議が開けないので、事業が進められない。また、回覧が出来ないと会員への情報伝達  
が出来ない。
- イベントの中止。
- 会議と行事などが中止になってしまった事。
- 感染の拡大防止をするため、人が多く集まる事を避けなければならないので、必要性がある場合  
を除き中止している。
- 公民館利用者に対して一時利用停止。
- 外出自粛要請により、様々な活動が停滞してしまった。一度停滞した活動を再開するには、メン  
バーの気持ちをコロナウイルス感染拡大前にするには、大きなエネルギーが必要である。活動を再  
開は、時間と気力が鍵となる。
- 新型コロナウイルスの発生、感染拡大により、すべての活動が中止となり、会員全員が体力作り、  
笑い、おしゃべりの時間、活動場所が無くなり、足、腰が弱り健康不安が出て来ております。
- 自治会総会、棟長会（班長会）が開けず、自治会本部からの連絡、告知等が極めて限定された方  
法（回覧、会報）しかない為に、多くの困難があった。
- 自治会及び自治会内の組織（子供会、いきいきクラブ、だんらんの家他）の活動がほとんど中止。  
人とのつながり（特に高齢者）が希薄になっていくことを懸念。
- 各種団体が新型コロナウイルス感染拡大予防のため行事が中止になり、人数を制限し、換気をと  
り、密とならないように会議を行って来ました。
- 集まり事が出来なく（減り）、情報交換が減少している。
- マスクをしましょう。三密は避けましょう。換気をしましょう。ソーシャルディスタンスを守り  
ましょう。等他決まりごとが多いため、ふれあい食堂と尾山台みんなのひろばの開放しかできて  
いませんが、市の方が行事を自粛されてしまうと地域は見習うしかありません。
- 声かけにより、子供のストレスが多い事。新生児の親は会話が少ない（第一子の場合）。
- カラオケを行っていた団体に対して、マスク及びソーシャルディスタンスを行う旨、指摘した。  
その後中止している様です。
- 活動を全て中止しており、ありません。

問15 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴団体の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたか。それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。

- コロナ禍にあって、事業中止についての執行部のプレッシャー（開催か中止か迷うところ）。
- 会話が少ないので（集会所使用禁止）認知症になった人がいます。女性。
- 社協活動では、ふれあいサービスを受けていた人が、市の指示で受けられなかったので、とても  
困った、又は困っている。
- みんなで集まって話すこともできない。お年寄りはお出かけの機会も少なくなりました。
- 困った人を見たり聞いていません。

- 見守りの相談員が直接の確認ができず、対象者の心配をしている状況でした。
- 新型コロナウイルスに対する感受性が各々の生活環境によって異なるので、会合とか交流が難しかった。
- コロナウイルス中での開催基準が厳しい為、自治会として対応出来ない。
- 各団体の会員さんの集まりがなくて、かわいそうな人も見る。
- 現在はないが、4月～7月の間で消毒用のアルコール洗剤（ハンド用）が、持ち出された。8～10本。
- あまりにも過剰な警戒の為、活動自体が委縮してしまい、活動の再開が困難になるのではないかと思う人が多く見受けられる。市の防災放送やマスクによる煽りが原因です。
- 有りません。各団体の活動行事がなく、残念とのお言葉はありました。
- 高齢のための活動自粛。
- デイサービスなど、出掛けることに心配する人が増えている。このため、自宅から出ることもなく、精神的肉体的にも課題を残すとし、家族から心配の声を耳にする。
- グループホーム利用者が外出を足止めされることが目立った。当事者が不満を感じているわけではないが。
- アッピー体操、みのりクラブ、オレンジカフェなどが中止になり外出できなくなり、生活に不安を感じている方が多い。
- 保護者の方が感染を心配して一切外出することをやめた利用者さんが、卒業後の進路が未定なまま、在宅になった。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や、高齢者を対象とした各種事業が中止され、コミュニケーションの場を絶たれた高齢者の運動機能や認知機能の低下・認知症の進行が懸念される。思った以上に深刻な問題と考える。
- 外出したいのに外に出られない等。
- 活動が出来ませんでした。
- 活動中止により、対象者の方も電話がかかってこない事に不安を感じ、社協宛に問い合わせをする方もいた。会員の中でも感染の不安を感じ、活動したい気持ちと出掛けていけない気持ちで悩む方もいた。
- 障害者さん（当事者）は、定着した日常の生活から在宅など生活に変化があり、戸惑い不安定になり、家族や支援者が困惑していた。休校に伴い障害児さんもパニックになっていた。放課後デイやヘルパーさん等も急な仕事が増加して、人手不足や長時間労働等で疲弊していた。
- 聴覚障害者のコミュニケーションである手話は、手の動きだけではなく、口の動き（形）も大切になりますが、マスクの着用により支障が出ている。また、情報が入りにくい状況も続いています。
- 咳やのどの痛みがあった際、風邪か？コロナか？と過剰に心配して、活動の制限を考え行動ができなくなってしまう方がいた。
- 学校の臨時休業中、医療従事者、スーパー等従業員、精神疾患を抱える保護者の家庭でも学校に預けるのをためらう、又は「本当に必要か」問われ、辛い思いをした、あきらめた。マスクをつけていないことで問題が生じたというニュースを見て不安になった。上記のような声を聞いています。
- アッピー元気体操参加者。

- 情報不足か団地内では聞いておりません。
- 三井ホールの使用中止、制限について利用団体からの緩和要請が多かった。
- サロンがなくなり、出かける所がなくなった。
- 別にありません。（自治会の大きなイベントや高齢者を対象にした行事等は中止にした。）
- 何が安全か、何が絶対か分からず、困惑している方が多く見られた。
- 高齢者への見守り活動や話し相手になる状況ができないので、把握できない。
- 自宅から一歩も出なくなる…あきらめが出てしまった。「自宅から一歩も出たくない」状態が続き、足腰が弱くなり歩けなくなった。
- 持病を持った高齢者は、ほとんど顔をみなくなりました。
- マスクを着用しない（特に認知症と思われる人）に対する声かけ。
- ラジオ体操をやりたいと言う会員がいたが…。
- 今まで見守り部会で、会えていた会員に会えなくなった高齢者（特に単身者）。
- 高齢一人暮らしの方が見守り訪問の”ちょこっとお手伝い”を利用して。中止となり、かさばる買物ができず困っている。サロンやアッピー体操がなくなり、出掛けておしゃべりをする楽しみや体を動かす機会が無くなってしまった。高齢者は情報が少なく、外に出ることも怖く、孤立感を深めている。
- 当自治会の中から感染者が出たとは確認していない。
- 高齢者福祉活動も中止になり、参加を楽しみにしていた会員等にストレスが増えてきたこと。
- 見守りサービスの中止→個別訪問月2回位のサービスも中止にしたが、そのまま活動続けても良かったと思う。
- 「土曜サロン」「おしゃべりカフェ」「お茶のみ広場」7区の会館で毎月実施していた活動ができなくなり、交流ができずさびしい、残念との声が聞こえてきます。10月に7区ウォーキング大会実施、11月防災訓練、グランドゴルフ大会は実施予定です。10月は老人会もペタンク競技を実施した。
- 在宅サービスの縮小、休止に伴い、ニーズに corres 応することができなかった。
- 自粛生活で引きこもりがちになり、認知症の進行やうつ状態等、健康を害していると思われる人が見受けられる。
- 特に単身者の方、必要外の人との接触がなく（会話）孤独感が強くなったと聞きます。認知症が進んだとも。
- 高齢者サロン中止の再開を望む声が多い。
- 3月以降まだ3公演しか行っていないが、困った人を見たり聞いたりしたことは無い。
- 外出しませんでしたので、その機会がありませんでした。
- グループの参加が出来なくなり、おしゃべりの機会が少なくなった人が沢山います。
- 障がい等によりマスクの着用が困難な人への中傷。
- 障害者のほとんどは、マスクを嫌がる。
- 「聞いてくれて、ほんとによかった」という声はいただきました。それが、コロナウイルス関連で困っていて言ってくれたのかは、不明です。また、開催できなかったため、調味料や賞味期限の迫った干物等を心あたりの人にお声がけしておわけしたところ、とても喜ばれたようです。多くはシングルマザー家族と思われます。
- 子供達と関係している為、学校が休校となり施設の先生方の大変さを少しかがったこと。

- でんでん虫を利用していた家族で、保護者が会社を年内でクビにされそうという人がいる。
- ・視覚障がい者が利用するヘルパーに関して、コロナ前に可能であった日常の生活が難しい場合がある。（買物、医療における距離、時間の制約など）
  - ・視覚障がい者のニーズに対応できるだけのヘルパーが不足している。
- 現在活動は休止しています。（活動場所改築のため）
- 3密の中で健康に関する声はある。個別に対応できる問題ではありません。
- 単身高齢者で認知症になられる方が増えた。
- 各イベント等中止のため人々の交友がとれない。
- 問14で申した通り、高齢者各人が自分の趣味を生かし、進んで活動が出来ず疲弊しております。特に屋内での活動する会員（卓球・大正琴・お踊り・カラオケ）等。
- 自治会が認知しただけでも5～6世帯において、コロナ禍による収入減に見まわられているところが見られた。
- 高齢者で必要な買物以外ほとんど外出しない人が増えた。体力及び精神面のダメージが心配。
- コロナ禍においては、自粛生活をしていましたので、特別ありませんでした。
- 高齢者関係は外出感染を恐れ、中々話が見えない（機会が少ない）。日常会話が減少しているのでは？※訪問もむずかしく、困っている人が分りづらい。
- 仕事がなくなり家賃や自治会費が払えなくなったと相談に来られた方がいました。
- 特になし。表面的には気付かない状況が多い

**問16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。**

- ワクチンができたならば早く、無料で市民に接種してほしい。
- ふれあいネットワーク、アッピー体操、だんらんの家など、訪問・集合型を一律中止とせず、実施できる方策を出してほしい。
- もう遅いが、非接触体温計を自治会に1つ配布してもよかった。（もう皆買っている）だんらんの家、アッピー体操すべて中止ではなく、少人数でやる方向など検討してほしい。
- 住んでいる周辺の状況が知りたい。これにより、諸活動をどのようにすべきか対応が違ってくる。
- 新聞では上尾市の感染者数が記載されていますが、もう少し具体的（年齢別、現在治療中、完治退院等）に報道してもらいたい。
- 1. 行政からコロナについて書類で判断基準が示されてくるので十分だ。  
2. メディアで情報を入手できている。
- 各々の団体に応じた、きめ細かい、ガイドラインの作成。非接触体温計の支給。
- 他の町内会では交流等集会所、公民館等で開催されています。不公平だと言ってくる人がいます。上尾市の通達を守っているのに？
- どのような社会情勢になっても、生活上、健康上などでふれあいサービス（全般的）を受けていた人が、市などの指導で受けられなくなるというのは、その人にとって死活問題につながるのではないか。生きていく上で最低限必要なサービスは、どのような情勢下にあっても、支援できる体制を作るべきではないか。上からの命令には従わないで、見守り活動ができるよう市の体制、地域の体制を作っていただきたい。
- PCRの検査の充実・発熱外来の充実。

- 様々な事業が中止となっているので、今後の継続性に不安を感じています。耐コロナに対策を講じて、分散化や規模縮小、短縮などの方策を程して、行事はある程度実施してほしい。
- 体温の測定が集会等では必須になってきています。非接触の体温計を配布していただけるとありがたい。また、市役所の入り口には、画像で心拍数、酸素濃度指数を画像データから計測し、コロナ感染の可能性について判別できるシステムを導入検討していただけるとよいのではと思います。このシステムの判断信頼度は疑問の点もありますが、画像から読み取るだけで、危険度リスクを判断できるのは良いと思います。
- ウィズコロナのガイドラインをタイムリーに出してほしい。
- 正確な情報発信。
- マスク、消毒薬、非接触体温計の配布等。
- わかりやすい情報を早く知らせてほしい。
- 早く終息になればと思います。
- 地区活動でコロナ用として予算は今年度取ってない。必要品を購入する際、金の出す所が無い。地区活動にも、援助金がほしい。
- 防災放送でのコロナ放送にて感染注意ばかり呼びかけるのではなく、「正しい情報を伝え」市民に注意と安心を与える内容にしていきたい。（上尾市に新型コロナによる死者は0）
- 市広報、回覧PR、ホームページ等で通知しているので良いかと思う。
- 上尾市のどの地域で発生したのか？公表してほしい。対応がしやすい為。
- かかりつけ医等で簡単にPCR検査ができるように
- 1. コロナ下での活動は難しいと思います。  
2. 当会もそしてボランティア先も高齢者なので…。(自動車運転等も問題。)
- 関係各所への速やかな情報提供。情報の共有。
- マスク着用、手指消毒の徹底などを条件に「だんらんの家」など早く再開して欲しい。
- 消毒液の配布、体温計の配布、何でも中止するのではなく、どうしたら開催できるか考えてほしい。現場の声を聞いてほしい。
- 感染対策のグッズリストを作成して各団体が必要そうなものを選べるような助成の仕方をして欲しい。ひとつひとつ調べるのが大変。
- 全員無料で検査をしてほしい。早く終息する様にして。
- コロナ禍において、様々な事業や会議の中止が相次ぎ、問15のような実態が課題となっている中、自治会では、不足しがちなコミュニティを何らかの形で補完できないか、種々事業を模索・検討している。クラスター発生のような事態になっては本末転倒であるが、何とか高齢者のための事業を検討している自治会に対し、市としても中止、延期の要請だけでなく、何らかの形で実施する方法はないかという視点に立ち、自治会の意見を聞きながらスピード感を持って協議や助言、支援をしていただきたい。
- 規制に関する一元化。
- 窓のない室内の換気対策。
- 現在は、集会室や会議室が定員の半数での使用となっており、予約できる部屋が限定されています。今まで開放されていない部屋などあれば、是非増やして頂ければと思います。
- 障害児・者とその家族に対して、もっと親身に関わって欲しい。サービス制限などの緩和もお願いしたいです。



- 感染が発生したと思われた時にどう行動したらよいのか（例えば、相談機関はまずどこなのか、どれだけの医療機関、どこの病院にかかればよいのか）等わかりやすい形で知らせてほしい。
- 障害児一人一人に対し、家庭・学校・放課後等支援施設で相互に協力できる体制づくりをお願いしたいと考えています。学校の臨時休業中、家庭で過ごすことが困難な場合、学校預かりや支援施設の利用で居場所づくり、生活サポートができればと思っています。その際、3密緩和のための工夫（場所の提供や日数・時間調整等）、職員の安全確保、人材確保、負担軽減、これらの観点からも、情報共有や必要に応じて一定程度の統一性を示していただき、各方面から支援、協力していければと思っています。日常生活において、マスクをつけられない等、困難を抱えている子の理解を広めていただければと思っています。
- with コロナでの活動指針の明確化。
- 行政も大変だと思いますが、個人個人で油断せず、ウイルス対策を常日頃実施することしかないと思います。特に提案はありません！
- 自治会加入のアドバイス指導。
- 活動にあたって「安心」「安全」を担保するために、PCR検査の補助金をお願いしたい。
- 現在は解決しているが、当初は非接触型温度計や消毒液は手に入らなかった。自治会館等に設置する分程度は、行政側で取りまとめて配布することぐらいの事は行って欲しかった。（避難所となっている学校等の備蓄品として配布していたが、これに含めての対応で手間はかからず可能と考える。…これから始める政府の指針。行政の横割り（？）を進めることが重要。）
- ほとんどの活動を取り止めはいかがなものかと考えます。工夫すれば出来るものがあると思います。是非ご検討を。
- 市内の感染情報、区域の表示。
- 情報提供、どのような事がおこり、どのように対応をしたかなど。
- 「新しい生活様式」の生活を送ることになり、感染症対策（手洗い、マスク着用等）は徹底して行うことになり、今後、活動の目安のガイドライン等の説明が関係機関から実施されますが、高齢者の多くいる行事等の開催は、自治会として自粛する方向で？
- 新型コロナウイルス問題を考慮し、今年の敬老会事業については敬老会開催の自粛を求める案内を担当部署より発信されたので、事業を主催する町内会としては開催の是非について悩むこともなく、事業を行ううえではやりやすかった。しかし、担当部署によっては、事業開催の是非を町内会に一任するので、町内会としては開催の是非について悩むところだった。同じ事業（例えば防災訓練）を実施する地区があったり、実施しない地区があったりするのもおかしいと思うので、担当部署から統一的に見解を示して欲しかった。
- 感染対策を十分に行えば、ある程度の活動は規制せずとも良いと思いますが、必要な活動は緩和の方向で良いと思います。
- 市のホームページに「新型コロナウイルスに感染した？と思ったら（相談窓口）」が掲載されている。記憶は定かではないが、紙ベースでの案内はされていないと思う。全ての家庭でPC操作が可能では無い為、保存版として内容を要約したパンフレットがあれば安心出来ると思う。感染が心配な状況になった時、相談手順の助けになると思う。
- 可能な環境は、どのような形があるのか情報提供が欲しい。
- マスク及び消毒液などの市民への配布。
- 情報が入ってこない→家から出ない状況が続く、一人で悩む。声かけ運動と分散した集まる場所

でのコミュニケーションの場所づくり。

- 災害時用のマスク、消毒液、段ボール（仕切り用、床用）の支給をしていただけると助かります。
- 活動するにあたり、できる範囲内ですみやかに慎重に情報の提供と対応の仕方を知らせてほしい。
- 活動するにあたって注意すべきことなどの情報。
- 活動するための方法等を具体的に示してほしい。
- 防災無線で「コロナに注意」「マスク着用」放送してくれて良かった。
- 終息が見えなくなり、コロナですが、来年度もこの状況が続くのか判断できません。市としても分からないと思いますが、これからもご指導をお願いします。
- 上尾市内の地域別感染者数を公表してもらいたい。それにより住民はより敏感に対策を行える。
- サロン、老人いきいきクラブなど、老人が多々参加する場合（飲食、ソーシャルディスタンス）などの、ガイドラインがあれば助かります。
- 情報はホームページなどで得ている。
- コロナ禍に於いて、活動的に行動する人、又防衛的に行動を控える人、色々と思うので、都度様々な情報を発信して欲しい。
- メディア等でも情報が伝わっているので特でない。
- GoTo キャンペーンはスタートしている。上尾市も「3密防止を守り」各自治会の判断にまかせて、活動出来るようにして欲しい。
- コロナウイルスで行政はほとんどの事業が中止になっているが、GoTo キャンペーンもスタートしています。早く開催できるように推進して欲しい。
- PCRの検査を安価で受けられる様にしてほしいです。
- 終息の見えない今、行事等に何でも取り止めの現状ですが、防止対策を充分にした上での実行が必要と思います。
- 活動再開の具体例。
- 情報開示、今後の展望、指標など。
- 心無い誹謗、中傷もあるので難しいとは思いますが、クラスターが発生した場所などは出来るだけ発表して頂けたら有難い。最近、上尾市の感染者がジワジワ増えているので不安である。市をあげて、感染者や医療従事者及びその家族への無責任な噂や誹謗中傷を止めるような取り組みをして頂きたい。私たちのボランティア活動もリスクを背負っての活動なので、公演時は緊張するが、児童館などでの親子連れの笑顔を見ると、出来るだけやっけて上げたいと思っている。
- 我が身にふりかかっておりませんので、TVのニュースや新聞の記事で今のところ充分です。
- 行事の中止を指導するだけでなく、どうしたら高齢者の活動の再開ができるか検討、指導して欲しい。また再開に際し、必要な器具（仕切り板や検温器等）を支給して欲しかった。
- 新型コロナウイルスによる差別、誹謗中傷や差別防止のとりのくみを市全体でPRしてほしい。（シトラスリボンプロジェクト IN さいたま、やっています。）
- ボランティア団体で、ほんとに支援したい、支援をうけたいと思っている人に直に広報することはなかなか難しいです。これはコロナ関連時だけではなく、常々も含まれますが、行政のちょっとした広報「こんなところもありますよ」とか、チラシを手渡しして下さるだけでもかなりききめがあるのかなと思っています。
- 現在使用中の施設が再び使用不可になった場合、使用できる施設の情報提供をお願いしたいです。
- コロナ対策はもちろん必要だが、それによって子どもたちの生活の場が制限されるのはこまる。

今の時期こそ学校において少人数学級を実施してほしい。

- 公園などの公衆トイレにはハンドソープ（石けん）、手洗ポスターを設置してほしい。（たとえば上平公園のトイレにはハンドソープはおかれていない）
- 免疫力を高めること！日本文化、芸術、音楽をやる機会をふやしてほしい。地域の人達もかわる機会をふやしてほしい。
- 問 14、入手困難時の情報の提供が必要。
- 1. 危機管理に対する一般的な災害でなく、テロや伝染病等々の危機を総合的に管理指導する部門の設置が望まれる。
  2. キッチンカーやトイレ専用車等、移動可能な車両の導入も検討してはどうか。
  3. 民間企業との災害時の協力の覚書を結ぶ事も必要。避難場所（コロナによりスペースが減少）の確保他。
- 上尾市の発生状況など知らせて欲しい（数字、グラフのこと）。役所が捉えているだけでは、役立たない。
- 集会所（公民館）の管理方法やクラスター発生時の対処法などの指針を提示してほしい。
- 正しく感染を防ぐための知識やそれに必要な物資など。発生した当時はマスクが買えず、また消毒液も買えなかった。
- 新型コロナウイルスが感染拡大して居る現状で、自分が感染して居るのではないか？他人に感染させて居るのではないか？不安でならない。誰もが“PCR検査”が受けられる環境、体制を整えて欲しい。安全・安心が享受出来る環境を望む。
- 屋外での活動はコロナ感染予防対策を充分に行い、気をつけて徐々に活動開始をしておりますが、屋内での活動は未だに開放されず、自粛状態で有ります。会員が疲弊しておりますので、早く屋内での統一した規程を作って開放して頂きたい。
- 行事を全て中止させるのではなく、どういった方法で行ったらリスクが少ないかを指導していくべき。特にコロナウイルスへの対応、理解が深まってきた9月以降は、行事再開を検討（ガイドラインを作って）しても良かったのではないか。
- 自分たちの生活の中で、手洗い、うがいの励行を行ない、感染にかからない様な生活をする事が大切であると思います。PCR検査が誰でも受けられ、安価に受けられる様に提案したいと思います。
- 多くの情報提供。
- 尾山台団地では、新型コロナウイルスに感染した方はお聞きませんが、できるだけPCR検査を安く受けやすくしてほしいです。
- すべて活動を中止とせず、どの様にしたら活動出来るか？
- 新型コロナウイルスの影響により、外出機会の減少、在宅時間が増えたが、「会話の減少」により社会的日常生活が欠落する傾向を感じます。筋力の低下と人とのつながりが希薄になるフレイル化を危惧しています。コロナ禍におけるフレイル対策により、要介護等高齢者対策を要望します。ノルディックウォーキングの推奨は良いと思います。
- 行政自身で出来る事は限られており、大半が自治会に振り向けられる。現在、最も重要な事はコロナ感染第3波で、この冬をどう乗り切るかです。感染防止は人との接触を避ける事で、高齢者は外出を控えるのが一番で、全ての活動を来年春まで自粛すべきと考えます。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 町づくりでは、最大の問題はごみ処理。それから、自治会加入問題。アパートはなかなか入ってくれない。新しいアパートはゴミ置き場があるからいいが、古い所は特に問題である。困りごとのある人が会員ならいいが、非会員だと扱いが難しい。区会ではなく、自治会制度に変わったので特に問題である。
- 難しい。このアンケートで何が役立ったのか、計画を策定することで何が進むのかも良くわからない。
- どのような活動でも、そのための経費が必要となっている。このための支援をもっとして欲しい。
- 年々高齢化が進み、若い人が会に入っていない。役員の手が足りない状況で、将来的に不安をかけて種々活動している。
- 地域コミュニケーションの大切さについての講演を小分割（20世帯位）に全世帯が参加することを半強制的に行う。大変時間がかかるかもしれないが、教育をしないとイケない。地域のことは地域で解決してゆくことは大切であるが、行政（社協も）サイド独自で専門職を設け、当面、高齢者世帯の実態、及び家族の本音を各世帯より直接情報収集したらと考える。町内会等では限界があり、地域の弱者の情報は今後も把握し難く、行政（社協も含む）、地域が欲する情報、対応は困難。民生委員の現状では無理。社協の見守り活動等に重要であり、地域福祉活動の争点ではないかと考えます。
- 1. 役員の短期交代が多く、継続的活動の積重ねが困難と思う。その解決には非常に難しいが、なんとかしたいものである。
  2. 見守り活動隊の活動、防犯活動隊など継続的活動が重要。
  3. 地域でのあいさつ運動は展開することになっているが、まだまだ不足と思う。役員を中心にもっと積極的に展開していくことが大切と考えます。
- 1. 地域をまとめる事の難しさを痛感した。
  2. 3月までの任期だが、地区内を風通しの良い自治会を目指したい。
  3. 特に農家と非農家の一体化。
  4. 若いリーダーの養成（助言）。
  5. 最後に自治会長の多忙さを思い知らされた。
- 当団地では、1年位で車の騒音が問題になっています。車のマフラー改造車両、夜の騒音で子供が泣く、イライラすると報告があります。管理会社の対応が良くないので、良い方法を探しています。市で防音対策の考えは！
- 若い人達もたくさんいます。高齢化社会に向け、若い人達が手をさしのべられる体制を作ってほしい。高齢者等が入れる食堂、車椅子で入れる食堂、店の改造など、一定の市の支援を検討することも大きな課題ではないか。
- 高齢者がキャリーバッグを引きながら買い物に出かける状況を見るにつけ、道路にはすべて歩道エリアを設けるようにしてもらいたい。歩道がなく、交通量の多い道路では危ない状況です。また、多くのみなし道路に対しても、本格的アスファルト舗装を実施してもらいたい。特に地域の生活道路として買い物に多くの人々が往来する部分に対しては、境界後退してはなく私有地部分があったとしても、住民の安全確保のためにアスファルト舗装工事を実施していただきたい。

一時期流行った、抜け道地図のルートに対する抜け道防止措置の地域作戦での対策をお願いしたい。今でも細い道から幅広道路を横断して、細い道に入るルートで通行している箇所が数か所みられる。これらは、生活圏道路内に、他地域の抜け道ルートとして危ない通行されているだけであると思われる。

上尾市はスクールゾーンに対する教育指導、啓蒙が何一つされていないと思う。ただ、交通規制標識を付ければそれで良いというものではないと思います。付けた規制すべき内容が遵守されるように、指導と啓蒙 PR することも大切であると思います。聞くところによると、スクールゾーンの代わりに、簡単に広い規制ができる 30 km 規制ゾーンで、スクールゾーンをしない方向であるとの方針の声も聞こえてきます。各生活圏の実情に合った対策を実施していただき、市民の安全な暮らしを確保していただきたい。

高齢世帯のみや単身世帯の増加がますます進む状況では、互助、共助と言っても、基礎の部分となる自助の確立（子、親族、後見人、緊急時連絡先等との連携確保）をしていただくことが大切となります。緊急キットとの関係もありますが、連絡先体制の事前記録も設定してもらえよう啓蒙していただきたい。エンディングノートとまでもとは言わないが、せめても子、親族、後見人、緊急連絡先等との関係確保の日頃からの啓蒙が今後必須になると思われます。早期の行政からの啓蒙活動をよろしく申し上げます。

- 何か問題が発生したときに、どこに相談していいのか誰かが分かるような仕組みづくり。
- 公民館等々樹木が植えられている。樹木は年々大きくなります。小さい時は、役員で手入れができますが、大木になると、手におえません。枝、落ち葉も大量になります。市で考えていただけませんか。
- 上尾の東側区域に都市計画道市道の南北方向の軸が無く、不便である。国道 17 号線と県道大宮曹蒲線の間ほしい。（街づくりは道路下水から）
- 町内会で対応するには、限度がある。個人情報で中々入りにくい点がある。NPO のようにしっかりした組織化した体制が必要では。活動内容に理解不足が多い。又、他人は他人、自分は自分と身勝手な人が多いように感じる。  
アパート関係に入居している人は、管理会社・大家さんがしっかり管理し、市がキッチンと管理すべきだ（住民票がないと入居できないとか）。アパートの管理 No. だけでは、誰がいるかわからない。  
アパート関係の集合帯のごみ収集場所について、旧のアパート関係のごみ置き場を管理会社・大家さんにゴミ置場所を設置させる指導は出来ないものか。（町内会、お願いしているが設置してもらえない）
- アンケートの調査も良いですが、市の職員の皆さんが現場に出て、実際に体験することが必要だと思います。
- 森林や田畑が少なくなって宅地が増えているが、緑や自然の豊かな環境の維持が必要。
- 今後一番の課題は、高齢化対策だと思います。何より各家族の認識が大切だと思います。自分の老後はどうしたいか、その時に考えるのではなく前もって考えながら少しでも実行できる様な準備をしておく必要があります。（人によっては難しい場合もあると思いますが…）マンパワーや経済がひっ迫している今、老人にお金や時間を費やすより、次世代を担う若者や子供たちに目を向けて頂きたいと思います。高齢者は長年の知恵と経験を生かし、自分の場合はどうしたいか決定し、知らせる体制強化を望みます。元気な老人を活用し、生きがいにもつながる活動の場が増

える事を望みます。(遊びもあり)

- 難しい問題ですが、道路等のバリアフリー化(車イス対応)は、大部進んでいるようですが、まだまだ不十分なので細かく現場を見直す必要があると思う。人とも交流場所(町内会等各地域)が少ない。場所もそうだが、時間、テーマ等を立案し、各地域で実施する方法を考えないといけないと思う。災害時の安否確認等でも隣近所、町内会が大事になる。個人情報の問題で、一人暮らし等の情報を町内会が持てないのは困る。
- 子育てしやすいまちづくり。特に若い世代が上尾市に住んでいてよかった、楽しい、希望が持てる、という実感が得られる街づくりを期待したい。→乳幼児があそぶ場、広場、自然が豊かな公園などの整備をしていただきたい。行政には、市民の声(高齢者、若い世代、子育て世代)をよく聞いて施策を遂行していただきたいと思います。具体的には、子供たちが日中遊べる公園の整備をスピード感もっての実現を期待している。(市民の要望を取り入れていただきたいです。)宅地化で、林、畑、緑がどんどん少なくなっていて淋しいと思う昨今です。
- 現在、当会の定例会場であったコミセンが改修中で使用できず、新型コロナ問題もあり、活動休止をよぎなくされていますが、要望として、上平地区旧市図書館本館予定地あたりに、上尾市東拠点として、市民、ボランティアグループ、高齢者、障害者(第2プチトマトがあるが、一般市民は入りにくい)等々、お茶を飲みながら交流できるサロン、喫茶店(安価を売りの軽食、自販機でもよい)。現在の上尾図書館本館入口脇のコーナーは、高齢者の暇つぶしの茶のみ場所を造っていただきたい。多目的に使える施設が良い。防災の避難場所としても使えるものがよい。
- 1. (前述しましたが) 高齢化と自動車(免許)運転の問題がある。
  2. 又、車いすの管理が大変です。当番制にして回り持ちで自己管理している。
  3. 車いすを社協さんで預かってもらえると有難いと思います。(スペースの確保)
  4. 但しこれから活動の継続が問題となっている…。以上。
- 人の世話にはできるだけなりたくないとする老人世帯が多い。これは生き方としては立派であると思う。しかし、高齢化に伴い人の世話にならざるを得ない人も多い。ご近所とコミュニケーションを深め、他人の世話も受けることは良いことだと思える社会にしたい。買い物代行、病院送迎、イベント(老人会)参加援助、その他困ったこと相談(庭の草とりなど)。独居老人、超高齢化家族に対するボランティア活動がスムーズに行える体制づくりが望まれる。
- 誰もが外向きの生活を志向することが、それを阻害するものを見やすくすることになり、何が問題か明らかになり易いと思う。コロナなどは、強引に内向きにさせるので、他人の問題など目につかなくなってしまう。
- もっと地域に高齢者のデイケアサービスの場合、施設があったらと思う。
- 市民から見ると市役所も社協も一緒である。市役所や社協といった枠組みを超えたワンストップ窓口を設置するとともに、市民の身近な支所に定期的にワンストップ相談員を巡回させて、市役所まで行けない方々が相談できるような体制も必要ではないか。また、市民の身近な窓口である支所、公民館、地区社協は、その多くが別々の場所に立地している。それぞれの使命、役割、設置根拠は異なり、また施設の面積的な面からも同一施設に設置することが難しいことは理解している。しかしながら市民からすれば、同一施設にあることが利便性の面からも必要なことで、ワンストップ窓口にもつながるものとする。今後の施設再編等のなかで検討していくべきと考える。※ソフト面での対応として現状の支所においても、例えば、市役所で福祉の経験があるOBを相談員として配置し、ワンストップ相談窓口としての機能を持たせることも一案である。

- もっともっと透明感のある上尾にして下さい。今のままでは上尾市には何も期待出来ないし信頼出来ないの…。
- 戸崎地区におきましては、まちづくり憲章があります。鴨川や斜面林などの恵まれた自然と、動植物が生息するみどりと豊かな地域があり、農業と住民生活が共存できるうるおいのあるまちづくりをめざしております。神社などの歴史と文化を大切に、陽当りや景観に配慮したゆとりある住環境を後世に引継ぎます。人々に迷惑をかけないようにルールを守り災害や犯罪のない安全なまちづくりをめざします。又、お互いコミュニケーションに心がけ、子供、お年寄り、障害をもつ人などにも暮らしやすいまちづくりをめざします。  
※上記の為の助成金制度はないのでしょうか！！
- 私見としての住みやすい街とは、①地価が安い②治安が安定し、犯罪発生率が低い③繁華街がない④東京の駅に出やすい⑤スーパーマーケット（遅くまで営業している店舗もある）が適度にある⑥大音響の施設がない⑦歩道が整備されている⑧災害が少ない⑨街灯が多く明るい⑩子育て支援制度が整っている⑪待機児童がない⑫公園・児童館が多い⑬子育て世代の流入が多い⑭夜間対応の病院が整っている。ポイントとしては、「高齢者」「要支援者」「子ども」等、弱者に住みやすい条件が揃っていれば、多少の不便は許されると思う。
- これから世の中、少子高齢化に進んでいくものと考えられることから、これらの世代に一層の厚い福祉予算、事業を真剣に取り組んでいくことが必要。
- 行政の対応水準は高く感謝しておりますが、次の点について苦慮しています。高齢者の個別問題につき、自治会がどこまで関与できるのか、民生委員との連携も難しい。公園の清掃、樹木管理が高齢化と共に負担となっている。
- コロナ禍で、自治会では今までにない経験をし、感染防止に向けた取り組みや、新しい生活様式等、色々な課題に直面し、従来の地域活動さえ維持できなくなっている。コロナ禍でも、自治会活動を停滞させるのではなく、安心安全で住み良い地域づくりを進めなくてはいけないと思う。また、下組自治会でも例外なく、高齢者の割合が増加しており、地域活動の担い手は不足し、隣近所の交流も少なくなってきた。そして、自治会では、今までの活動に加え、地域の安全管理や自主防災、独居老人等に対する住民同士の見守りと助け合い等、共助コミュニティを担う地域活動の在り方等、地域的課題の対応が必要となっているのでは？まとまりませんが以上です。
- ①治安がよいこと②隣近所のコミュニケーションがとれていること③災害に備えた地域の防災機能が働いていること④地域における見守りや声かけによる安全が確保されていること⑤駅やショッピングセンターに近いなど立地条件がよいこと、以上私の思いつく住みやすいまちの条件かと思えます。「立地条件」については変えられないもので仕方ないと思えますが、その他のものについては、地域住民同士の協力や行政などの連携により変えられるものだと思います。その中心となるのが町内会だと思いますが、町内会の魅力をアピールすることが難しい。なんらかの形で町内会に係わったことがあれば、魅力やメリット・デメリットをわかってもらえると思えますが、係ったこともないと定年後も町内会というものを知らないこともありうると思えます。もっと誰もが自由に町内会を知ってもらうにはどうしたらよいのか、そして誰もが楽しいと思えるような町内会をつくるにはどうしたらよいのか、住みやすいまちづくりを進めるにあたり考えるところであります。
- 住民の情報で必要な物で市が掌握している物、例えば生活保護を受けている方の病気の情報などが分かれば、支援方法や援助方法の確立に役立ちます。

- ①昨年の台風 19 号では、平方地区をはじめ、市内各所で床上、床下浸水、道路冠水が起きた。防災無線等で警戒レベル放送が流れるが、レベル数字だけではなく、住民が取るべき行動も同時に案内して欲しい。
- ②道路反射鏡、照明灯設置については、年 1 回市への要請により、受諾してもらっているが、予算の都合もあるので必ずしも設置とはならない。各地区からの要望は交通事故防止の為の現状を鑑みての申請である為、予算増を望む。
- 1 日中、家の中ですごしている高齢者が多くいると思うので、散歩したり話ができる環境を作っていきたい。アドバイスがあれば聞いて参考にしたい。
- ぐるっとくんのバスの便数をふやし、老人などがより多く使用できるようにする。
- 新型コロナウイルス問題がこれからも続くと思いますが、その中でも一人一人が笑顔で明るい日常生活が送れる様、特に高齢者、子供達、弱者に寄り添う取り組みが必要ではないでしょうか。高齢者と子供達のふれあいの場づくりは困難と思いますが、感染対策をおこなってから実現していけばいいかなあと考えています。
- このアンケートがどの単位で配布されたのか明確にさせていただいたら、違った回答が出来たのではと思います。例えば、町内会、町内会の社会福祉協議会、民生委員、それぞれにアンケートが出ているのか？いないのか？で回答の具体性が違ってきます。Ⅲのアンケートについて①取り組み内容と具体的なイメージと 1～5 のポイント付けがおかしく感じました。②地域の実現の内容が複数あるのに、回答が 1 か所のためどう回答すべきか曖昧さが大きく思います。
- 今後とも、行政と地域が協働していける態勢を維持してほしい。
- 住宅地の再生化。循環型社会（地域）の構築。
- 市に寄せられた町内会活動に対する苦情を町内会に連絡するだけでなく、市民を説得するなり、解決できる手助けをしてほしい。1 人が苦情を言うと、町内会の行事を中止しなければならない。
- 住みやすいかどうかは場所によるので、住みにくいところ、例えば事故の起こる交差点など、工事をしてもらいたい。私の住んでいる地域（東今泉地区）の場合、スーパーも多いし、道路も広いし、学校も近いし、静かだし、災害が無いし、事件（盗難とか）聞かないし、充分住みやすい。
- 高齢化社会の中、町内においても事業や行事の活動で問題がでてくると思われる。今後も市、社協と連携し、協力しながら行っていきたいと思います。
- 最近小学生でもあいさつしない子が多い。大人でもそうですが、日頃からあいさつする家庭環境が大事ではないかな。又、地域との密接も。
- アンケートは手書きではなく、キーボード入力にしてもらいたい。
- 高齢化社会の対応について。
  - ①町内会活動における、役員の高齢化など、人材不足対策が必要。
  - ②町内会会員の高齢者が多く、やむを得ないことだが退会者が目立つ。子供世代への物心両面の充実・拡大が将来のメンバー維持に必要である。
  - ③学童見守り活動メンバーの高齢化にもかかわらず、見守りメンバーに丸投げ状態。保護者、学校、見守り活動メンバーの協力出動が必要。（東平塚見守り会と年 1 回交流会を開催しているが、年寄りの人ばかりで感心します！！）
  - ④民生委員の活動について、無給活動が基本だが、高齢化社会への対応策として、委員への物心両面の配慮が必要。口先、理論だけでは上手く現実が改善されることは難しいのではないかな…。
- 地域共生社会、多様化する価値観を尊重することが実現できることが理想だが、まだまだ、日本



の社会がそこまで成熟していないように思います。地域社会の中でつながって、伝えていく活動を社会福祉協議会でもっと知ってもらいたい。最近、運転免許証を返納する方が多くなったとか。「ぐるっとくん」も1時間に1本運行程度では困る。送迎サービスなどの充実も必要。

- 駅近の保育施設。歩道、自転車通行帯の増設。
- 地域の中で世代間が交流できる機会をもちたい。「あいさつ」が基本、大人が率先して行っていく。
- 自分が困ったら「助けて下さい」というSOSを勇気をもって発信してほしい。必ず手を貸してくれる人、飛んできてくれる人がいるはず。
- 個人情報保護法により、緊急時の連携が取れない時が多々ある。特にURからは居住者の転入、転出、連絡先を知らせてもらう事が出来ない。尾山台福祉ネットワークの協力団体のはずが、緊急時には生かされていない様に感じてしまう。私達居住者には1番の協力団体であってほしい所です。地域での情報共有の範囲を明確にして、スムーズな連携が必要で有ると思っている。URへの最小限の情報開示をしてくれる様、お話をしてもらえないものかと思っております。
- 地域での交流を密に、顔の見える関係が大切だと思います。困っている人が声を発しやすい環境づくり。声をかけやすい状態であること（隣の近所は特に）。
- 質問内容が当てはまらない所があり、回答に困りました。行政にもエキスパート的な存在がほしいと思います。個人情報が入りにくく、会員サービスが行き届かない。
- アンケート内容に回答が難しい。具体例が具体化していない。段階を経て、又、社会環境、人口推移、年齢構成などで変化に対応していくのは大変と思います。色々な情報を共有してより良い活動にしてほしいと思います。
- 1. 上尾市のまちづくりについて。
  - (1) 若い世代が魅力を感じる上尾のまちづくりを行うため、20代~30代の人たちを公募で募り、具体的なテーマでプロジェクトチームを立ち上げたらどうか?企業や聖学院大学などとの共同事業も行われているのかどうか?
  - (2) 人口の規模が同じ位の他の都市と比べて、文化的な施設やイベントが少ないように感じる。上尾市文化センターが駅から遠いのもネックのひとつか?桶川市の「響きの森」と比べても立地や設備などで見劣りする。
- 2. 本アンケートに対する意見。
  - (1) このアンケートは記述する箇所も多く、真剣に書こうとすると作成にかなりの手間と時間を要する。もっと簡潔にして頂けたら有難い。
  - (2) Ⅲの「上尾市と上尾市社協の取り組みについて」の項目の内、「期待度」というのは余り意味が無いように思える。目的が何なのか分からない。項目全てについて、現状出来ていなければ今後「期待する」ということになるのではないかと思う。
  - (3) 5年前にも同様のアンケートに回答したが、何らかの形で市民にフィードバックして頂けたのか?「余り取り組んでいない」と評価された項目についての改善状況なども含めて。
- コロナ禍が続く今日この頃、高齢者の老人施設向けの歌のボランティア活動はどうなるのでしょうか。自分の高齢化ボケ防止のために、奉仕出来る奉仕をしたいがためにボランティア活動をしているのです。老人施設の参加者と一緒に10人程のボランティアで昭和の歌謡曲や童謡を45~60分間楽しんでいるのです。コロナ禍防止のため、当局の指導で老人施設でのボランティア活動が休止されているので、われ

われ高齢者のボランティア仲間は、奉仕と楽しみが休止されています。歌う事の楽しみを持つ仲間はガッカリ続きで、ほかの趣味活動を模索していますが、集まる会場も開放が休止され、コミセンも工事のため、幹事が数人で喫茶店にて打合せ程度がやっとです。マスクをして 15 分位、皆で歌う程度の楽しみを、老人施設などで認めて戴けたら幸甚です。70 歳以上の老人のボランティア仲間です。楽しみを失った趣味の少ない老後老人を今後どう救ったら良いのか考えてしまいます。よろしく対策をお願い致します。

ボランティアも皆さん段々と高齢化になって来ました。老人施設でボランティアをやっていると、今後出来るだけ施設のお世話にならない様に頑張らなくてはと思います。若い中は相手をどうやったら楽しくさせられるかを考えていましたが、最近は、何時まで続けられるか考えざるを得ません。自分が施設の参加者となった場合、これで良いのかと、出来るだけの努力をしながらボラをしています。参加者を楽しませるには、自分を楽しませなければ、ボランティア活動は続かないと考えています。

今やっているボラは、歌のサークルのハーモニカ伴奏を 3 グループに協力していますが、各々違った楽しみ方をしています。また別の趣味活動も交えて、やっております。悩みは施設まで辿り着く交通手段です。7~8kg の道具は、自転車か同施設に行く友人の自家用車かタクシーになります。歩きやバスの乗り継ぎは、身障者 1 級と介護支援 1 の身では無理です。やめれば良いと言う人も居ますが、そうもいきません。

ボランティアは報酬や交通費は無く、自己努力でボラの場所まで行かなくてはなりません。高齢化になると、ボラの場所に行く手段に悩みます。車を運転している人は天候に左右される事なく行けませんが、75 歳を過ぎるとどうなるか。雨の日には自転車利用者は行けなくなります。バス利用の人や徒歩の人は傘さしでどうにか可能です。同方向に行く車を頼める人でも、運転者も高齢者。ボラ保険に入っている筈ですが、万一の事を考えると、お互い考えてしまいます。悩みの種でしょう。若いボランティアの参加を期待します。

今やっているボラは、段々マンネリ化してきたので、歌のサークル毎にハーモニカ伴奏の方法を変えて、協力しています。各々違った楽しみ方をしています。また別の趣味活動も交えて、気分転換をしております。

介護保険支援 1、身障 1 級の身で、機能訓練や元気 UP 体操や他のボラ活動で、午前・午後と続いた場合は、どちらかを休んで、半日のみの活動にしています。

2025 年問題も考えておかねばならないと思います。戦後生まれの団塊の世代が老年期になり、老人施設の参加者の戦前教育を受けた人達が少なくなります。歌のボランティアについては、歌の好みが全く変わってきます。今の我々は昭和 30~40 年代の歌が多いのですが、団塊の世代は昭和末期から平成時代の歌になって来ます。ボランティアの方もその時代の者に替わらないと、現在のメンバーでは続きません。歌詞集の編集替えも必要です。スマホでプロジェクターかな？自転車紙芝居がパソコン、プロジェクターに変化してきた様に。以上。

- 10 年前よりは、ずっと多くの人々に知られるようになったとは思いますが。その過程で当事者の家族として、たくさんの心ない言葉に腹を立て、傷ついたりしてきました。私は精神障害をもつ者の母親としてのみ、アンケートに答えてきました。県の施策推進協議会に参加した事実もありますし、やはり、計画倒れが多いと感じています。

上尾市におかれましても、アンケートを実施し、答えを集計することで施策としては OK かもしれませんが、人生の基本の部分に差別、偏見を受けていると常々感じている身としては、この

アンケートで心やすまるということはありません。弱者と呼ばれる立場にある者達は、どのようにしたら自分が生きていられるかを、自分自身で見つけ出しています。

- 「まちづくり」と限定されてしまうと、ちょっと筋ちがいかもしれませんが、子ども食堂に関しては、この10月から市側の助成があり、お米、調味料、干物、野菜等の支援をうけています。とても助かっています。保管場所等の問題や寄付の野菜と重なったりすることもあり、とまどうこともありますが、概ね助かっています。そして、届く野菜もとても上質なもので、私達は常々、安くて季節の物とかを心がけているのですが、ひと味アップの料理の仕上がりとは喜んでいきます。また調味料に関しても、スーパーの特売品を買いあつめていたのですが、マルヒ口の私達にとっては「お高い品」が届いています。ありがたいです。これが、来年3月までとなると、4月から、私達だけの力で賄うことになる、ちょっと落差がでるかもと話しています。給食関連の業者さんへの支援の形もっているこの助成とうかがいましたが、市民がみんなでもりあげていく（支援を受けとらせたい子ども達の救済を含めて）ことができればいいなと思います。
- 市は、地域のために活動している団体の声をきちんと聞いてほしい。アンケートは初めて書くが、直接聞いてほしい。活動団体の実態を知ってほしい。子どもの居場所活動が増えることは、教育とともに子どもたちを大切に育て、将来の社会をつくる作業です。その活動を保障するための施策を惜しまないでほしい。自分たちの仕事として考えていただきたい。
- ・横断歩道などの白線点検、補修（うすくなると弱視の人には極めて見えづらい）。
  - ・点字ブロック未設置道路への設置拡大。
  - ・市民が視覚障がい者に気軽に声かけできるよう講習会の実施。
- 上尾駅～市役所通り、雑草を取りましょう（きれいにしてほしい）。芸術の上尾市になってほしい⇒心もいやされ（心の栄養になる）、犯罪者も減る。笑顔が、増える。楽しい町になる。病人も減る。
- （広報あげお）月刊誌に市役所及び外郭団体が印刷発行物を集約し、一冊にまとめてもらいたい。コストの削減や配布者の時間短縮や情報のスピードが早まる。
- このような計画により、様々な新しい施策が展開されることは誰の目にも良いことと見えるが、実施するのは末端の衰退して行く自治会です。担い手が増えない自治会の役員の負担が増し、いっそう役員のなり手がなくなり、自治会は衰退の一途です。これからは、市民一人一人が直接参加することで成り立つような計画にしてほしいと思います。
- 生活スタイルがどんどん変化して、休日もばらばらなため、皆が一同に集まる機会が少なくなっている。やる気が出るカンフル剤が欲しい。
- 当地区においては、町づくり協議会を行なっています。
- コロナウイルスが一日でも早く終息（収束）してほしい。
- 下平塚区民は、今迄、屋外活動の処点は平塚サッカー場で行っておりましたが、本年早々、全面人工芝に張り替えし、施設使用料が大幅に値上がりしました。その為、地区住民のグラウンド、ゴルフ、ゲートボール大会、他のスポーツ活動がほとんど出来ず困っております。活動する場所が無くなりました。上平公園迄に行くには交通手段を考えなければなりません。苦慮しております。下平塚地区には広い公園、近くに学校もなく活動場所がありません。どうか平塚サッカー場使用料金を低廉して頂きたいのです。例として（3時間1,000円として年間試算してみますと）、毎週（月・水・金）月間4週12回、1,000円×12回＝12,000円、年間10ヶ月として12,000円×10ヶ月＝120,000円の費用がかかってしまいます。我々、いきいきクラブと

しては、クラブに莫大な金額を支出することは出来ません。どうか、下平塚地区はいかに活動場所がない所かを実状見聞して頂き、行政に御検討をお願いする次第で有ります。

- 「誰もが住みやすいまちづくり」の意味がよくわからないので意見はない。但一つ「多文化協生社会」を積極的に推進しようという政策は自治会としても、一市民としても迷惑でしかない。
- 「自転車の町」という割には、自転車が走りにくい。自転車専用道は西口の一部を除き、使いにくい。駅前から自転車が一扫されたことは、市の素晴らしい活動。但し、駅前の買物等で自転車が使用できなくなった高齢者への対策（公共交通機関の充実、一定の無料タクシーチケット）が必要ではないか。
- ・高齢者増加に依り、誰でも気楽に話し合える場作り、環境作りを進めて行きたい。
  - ・他地区との交流が深められる場作りで更に明るく、生きがいを感じる環境作りをして行きたい。
- 民生委員さんが担当している訪問先を訪ねた所、もぬけの殻状態。団地の管理事務所（UR尾山台管理センター）に聞いても「空き家」としか答えられません、と言われました。個人情報保護法のため、回答ができないようですが、民生委員が何度も何度も安否確認に行っているのだから、せめて引っ越したのか、高齢者の施設にはいったのか、くらいは教えていただきたいです。そのように、市の方からUR浦和住まいセンターの方に申し入れをよろしくお願いします。
- 1. 一人一人が健康で豊かな人生を送るという主体的な自助努力、創意工夫が必要です。健康生活を維持継続する為の自己管理（例：規則正しい生活、自分の健康状態をチェックする等）の意識を高めることです。
  - 2. ライフステージ（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、壮年期、高年期等）人生の節目によって変わるライフスタイルに着目した健康対策に取り組むことも大切です。
  - 3. 生産年齢人口の減少、法人市民税等の減少、介護医療ニーズの増大等に対して常に市民ファーストの市政を推進して戴くことが大切。

---

---

## V. 民生委員・児童委員調査結果

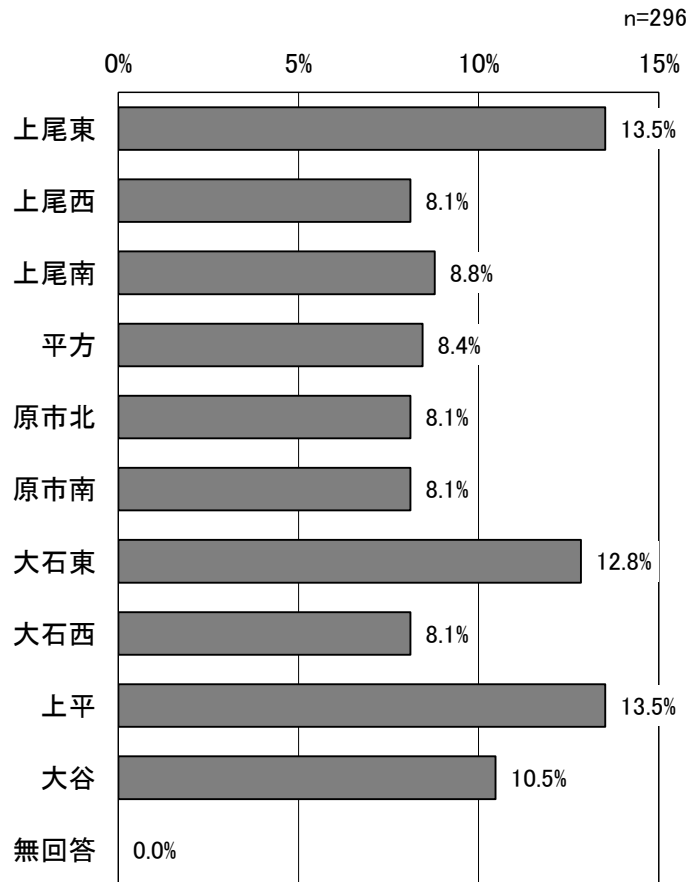
---

---

## 1. 担当地区について

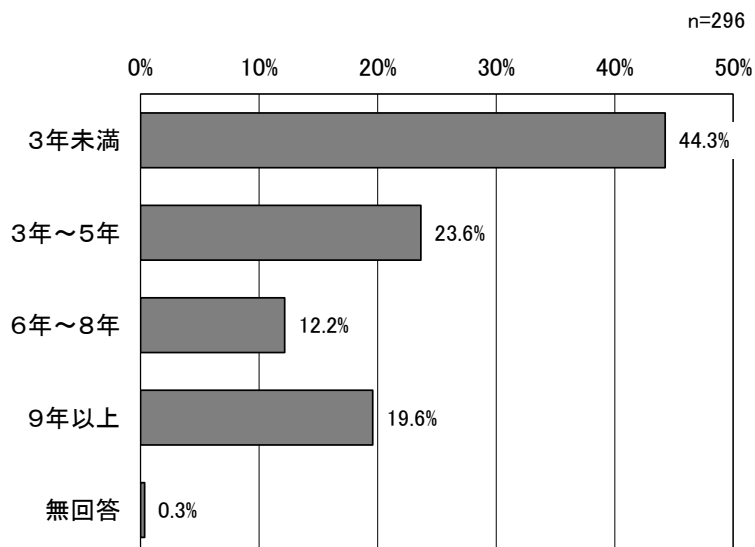
問1 あなたが民生委員・児童委員として担当している地区は次のうちどこに含まれますか。(ひとつだけ〇)

民生委員・児童委員として担当している地区については、「上尾東」「上平」が13.5%と最も高く、次いで「大石東」が12.8%、「大谷」が10.5%となっています。



問2 あなたの民生委員・児童委員としての在任・経験年数はどれくらいですか。(ひとつだけ〇)

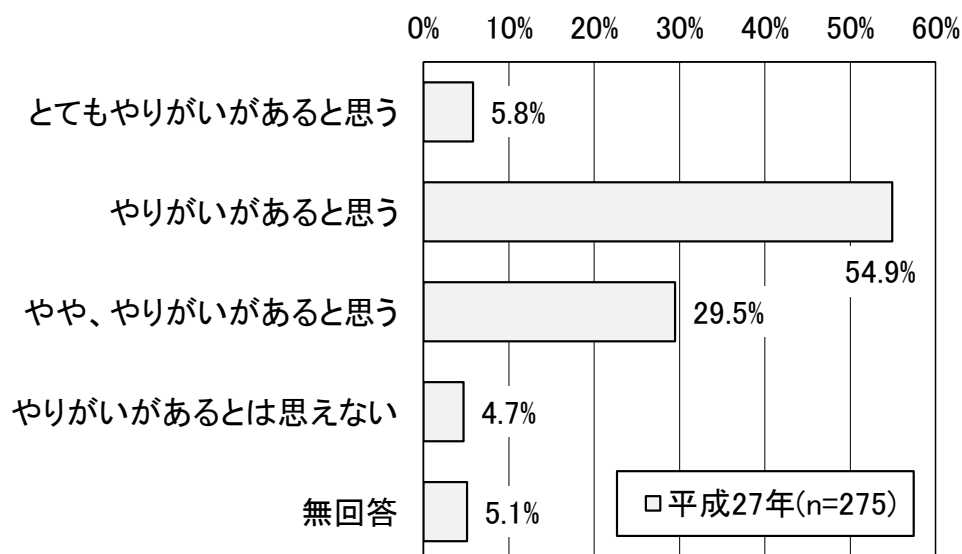
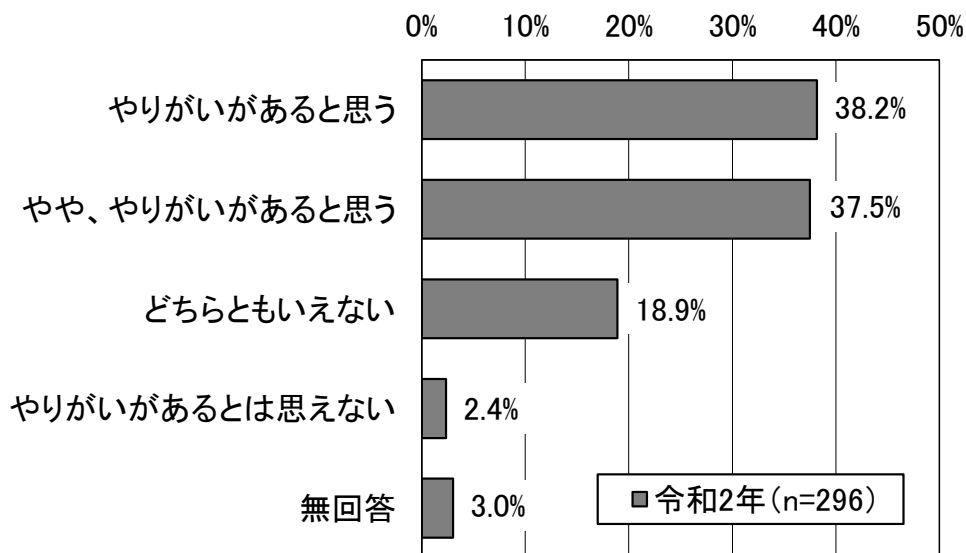
民生委員・児童委員としての在任・経験年数については、「3年未満」が44.3%と最も高く、次いで「3年～5年」が23.6%、「9年以上」が19.6%となっています。



## 2. 民生委員・児童委員の活動について

問3 あなたは民生委員・児童委員の活動のやりがいについてどう思いますか。また、どのようなときにやりがいを感ずりますか。(ひとつだけ〇)

民生委員・児童委員の活動のやりがいについては、「やりがいがあると思う」が38.2%と最も高く、次いで「やや、やりがいがあると思う」が37.5%、「どちらともいえない」が18.9%となっています。



※平成27年の調査時に対し、選択項目の語句が若干変わっています。

(問3 民生委員・児童委員の活動について) やりがいを感じる事 (具体的にご記入ください)

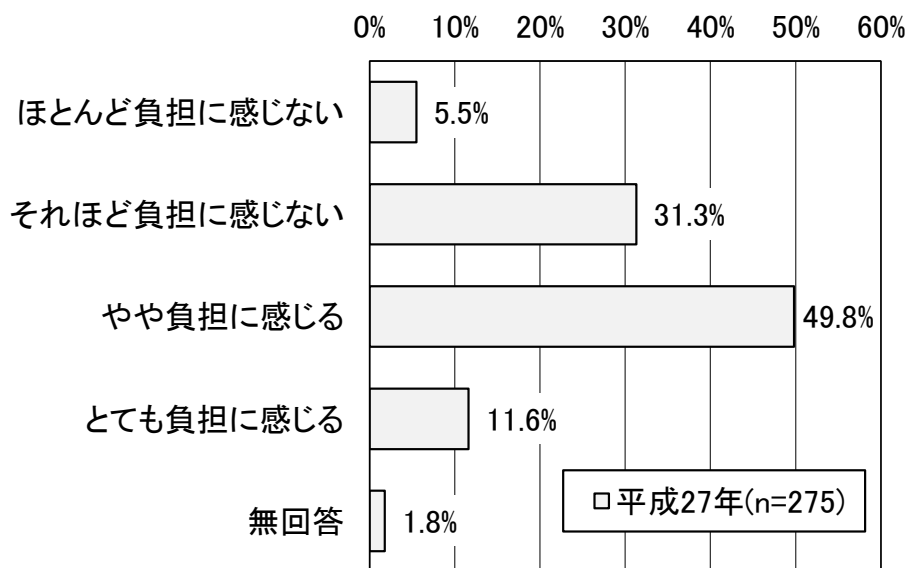
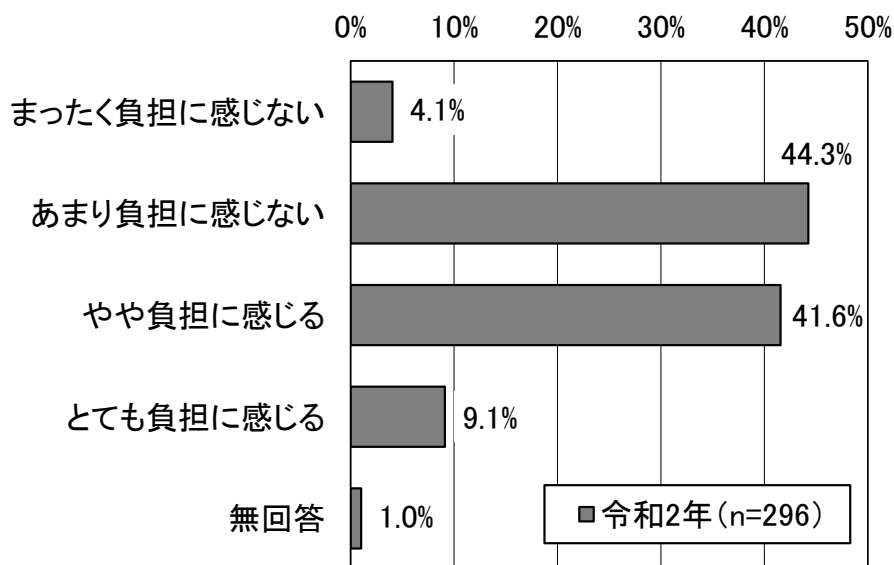
いただいた主なご意見は以下のとおりです。

- 困り事や問題を抱えている方の役に立つことに関わった時。
- 相談事に対して適切な案内が出来、介護認定を受けてもらいデイサービスに行くようになって元気になった(リハビリにより移動が苦にならなくなった)と、喜ばれた時にやりがいを感じました。
- 支援が必要な方の負担が少しでも軽減された時には活動していて良かったと思います。
- 包括センターに行ったり、内科に行ったり大変なこともあるが、その都度連絡をもらい頼られていることを感じた。
- 問題を抱えた人たちと今を共に学び合えてると思えた時。
- 手助けしたいというこちらの思いが伝わり、徐々に心を開いて話しだして下さるようになった時、信頼関係が築けたかなと感じやりがいに繋がる。
- 相手の人(ひとり暮らし)の話を聞いている時、イキイキしている表情を見た時。
- 訪問した際、介護認定の仕方、話し相手がないので話を聞いてもらって嬉しいとか言われたりした時、やっけて良かったと思う。相談事を尋ねられた時です。
- 身近に新しい情報を届けることが出来ると思うから、より高齢者に寄り添える地域の味方という立場だから。
- 地域の人とのふれあいが深くなる事。
- 道路等であった時に以前より元気に手を振ってもらえたりする。
- 一人暮らしの方の所へ行き、色々な人生の先輩として教えて頂く事もあり、親と同じ世代の方と会いとても心温かい時間を過ごす事が出来、私自身感謝しています。
- 待ってたよー！いつもありがとう！と声をかけて頂く事も多くなり嬉しいです。
- 担当の方々から「いつもありがとう」等言われると役に立っていることを実感する。
- 訪問を喜んでいただけたとき。嬉しそうにご自身のお話を聞かせて頂けたとき。高齢者サロンの報告(毎月初出しているもの)を読んでいると言っていたとき。
- 在任中の色々な経験がまわりまわって自分のためになると感じる。
- 地域での活動(子育てサロンなど)で、直接母子と触れ合い、話を伺う機会があり、様子の変化や子供たちの成長を実感出来ること。
- 言葉が遅く発育の心配されるお母さんと子供と仲良くなれた時。
- 当地に生れ育った訳ではない。会社生活時代は家と東京都心の往復の毎日で、地域の方との接点は全くなく、交流も皆無。リタイア後は生活は、会社から地域にシフトし、今迄全く知らなかった多くの人(高齢者)と接点が出来、また違った活動の日々で充実。
- 今まで会社を家としてグループ、仲間しか目に入らなかったが、町内のことや委員活動の仕組みも少々知ることが出来ました。
- 現役で仕事を持っている時は、地域活動に関わる事が皆無だったから年金生活の今、民生委員活動が自分の居場所になっている。



**問4 あなたにとって、民生委員・児童委員の活動の負担はどの程度だと思いますか。(ひとつだけ○)**

民生委員・児童委員の活動の負担については、「あまり負担に感じない」が44.3%と最も高く、次いで「やや負担に感じる」が41.6%、「とても負担に感じる」が9.1%となっています。

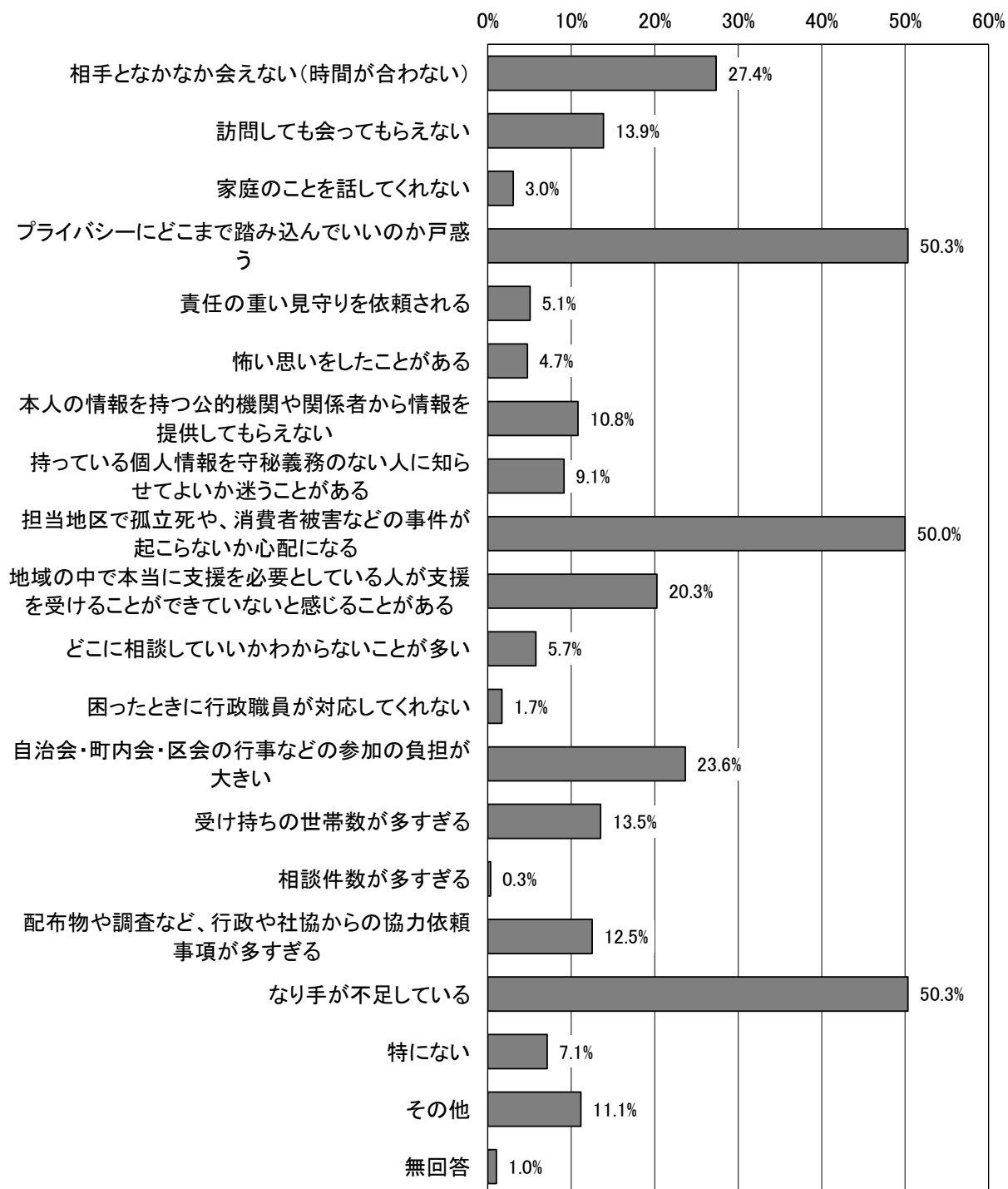


※平成27年の調査時に対し、選択項目の語句が若干変わっています。

問5 民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることは、どんなことですか。(5つまで○)

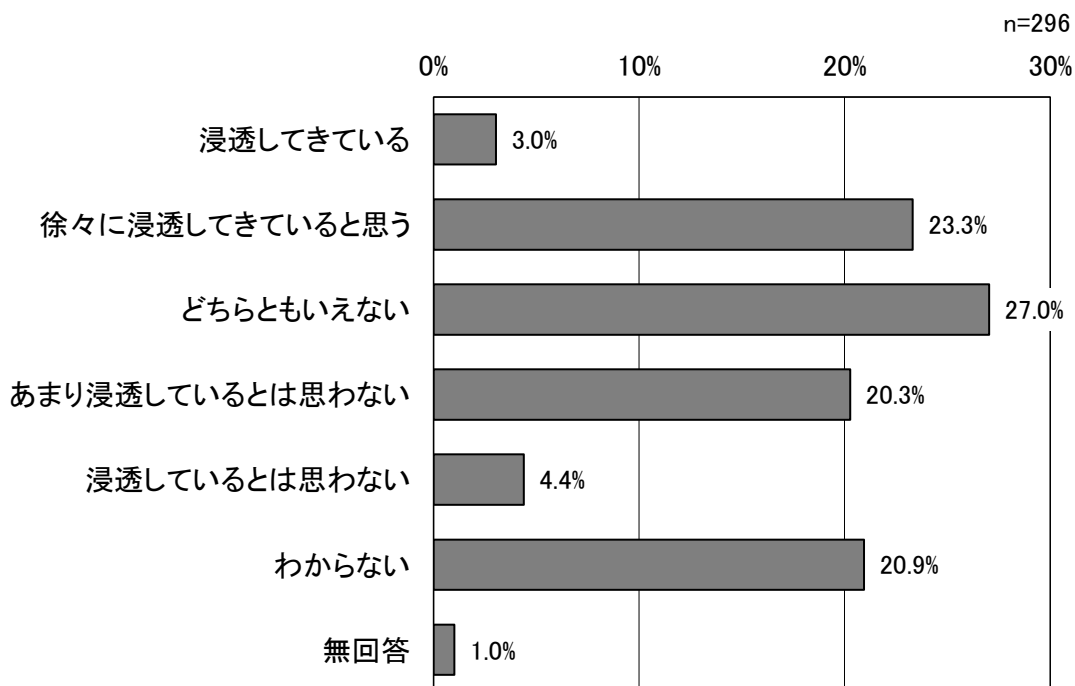
民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることについては、「プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか戸惑う」「なり手が不足している」が50.3%と最も高く、次いで「担当地区で孤立死や、消費者被害などの事件が起こらないか心配になる」が50.0%となっています。

n=296



**問6 上尾市社会福祉協議会の13支部で実施している「あったか見守りサービス事業」は、地域の中で浸透してきていると思いますか。(ひとつだけ〇)**

「あったか見守りサービス事業」については、「どちらともいえない」が27.0%と最も高く、次いで「徐々に浸透してきていると思う」が23.3%、「わからない」が20.9%となっています。



問6で「4」または「5」を選んだ方にうかがいます

**問7 十分浸透していないと思う理由は何ですか。また、どのようにしていけば浸透すると思いますか。(具体的にご記入ください)**

**【周知について】**

- チラシなどでもう少し知らせる。
- 知らないのだ。
- そのサービス事業を知らない。
- 民生委員になるまでこのサービス事業を知りませんでした。
- あったか見守りサービス事業そのものを知らない。周知していく必要がある。コロナもある時なので、チラシや広報などにのせる。
- 正直あったか見守りサービスを知りませんでした。一部の方々だけ浸透していると考えます。
- 各自地区でのPRをより多くする必要を感じます。
- あったか見守りサービス事業がある事を知りませんでした。お年寄りにならないとわからない事が多い。民生委員を嫌う人もいる。国勢調査で伺ったとき「あんた民生委員じゃないよね」って言われました。担当外だったので良かった。
- 社協を知らない人が未だ多いのでは。
- 社会福祉協議会が何をしているのか地域にわかっていない。地域の支え合い活動もあるので選んでくれるのは良いと思うけれど、違い、情報共有ができていない。
- 担当地区に対象者がいるのかわからない。および地域に見守り協力員がいるのかもわからない。この事業のアピールが少ない社協そのものが何なのかわからないのではないかと。

- 恥ずかしい事ですが私自身知識がありません。勉強不足です。訪問して歩いていても耳には届きません。
- サービスを受けている人がいない。チラシなどでお知らせを広くする。
- PR 不足もあるかもしれませんが、配布物をいくら配っても目を通さない人が多い事が大きな要因。社協が民生委員の会議や集会で、見守りのプレゼントをする。民生委員から対象者にすめる。
- 守秘義務を重要して、他人に話さないのが広まらず、見守りサービスはほとんどの人が知りません。
- 対象者より質問されたことが無い。私も案内をしたことが無い。介護認定を受けた方で、①支援、②非該当の方へ、通知文を入れる。
- 市の広報活動が市民全般に伝わってこない。
- 「あったか見守りサービス事業」があるという事をPRしていない。PRしていけば浸透すると思います。
- 知らない人が多いのではという感じ。
- 皆さんよく分かっていない。アピール不足では？地道にお知らせすることでは。
- ①活動を周知されていない。説明不足。高齢になってきているので理解されにくい。  
②町内の回覧で回すとか、1回だけでなく。単身者調査等でチラシを配布するなど。
- 広報誌、回覧物などに「見守り訪問」の紹介などがあっても見ていないことが実情だと思います。また、高齢者の方は人に頼むことに対して申し訳ないという気持ちがあるように思います。私たち民生委員が地道に情報を提供していくことではないでしょうか。
- 見守りサービスについての説明が不足しているためか、サービスを受ける人が少ないような気がする。
- 民生委員になって初めて知りました。他の住民も知っている人は少ないと思います。
- ①高齢者本人及び家族がこのことを知らない。②知ってもらうための工夫が必要。
- 関係者から（例えば包括さん）情報がいただけない。
- 「見守りサービス」という言葉が住人の間に浸透していない。
- 利用する側はこの制度を周知しているのか知りたい。サロン、団欒等に参加される方は情報が入りやすいが、人と群れるのが好きでない人たちもいるので、そういう方たちにも折に触れて伝えてほしいと思う。色々なサービス事業があることが分かれば、日常生活をしていく上で安心材料の一つとなると思います。普段から選択肢があることを知ってほしい。自発的に選べればと思います。集まる顔ぶれが同じ。
- 私の知っている方で利用している方がいないので。広報だけではなく、別にチラシで配布する。
- 知らない高齢者が多いです。
- ①協力員との交流がない。  
②見守りサービスの実態が分からない。（限られた人だけのサービス？）  
③協力員が少ないのでは？呼びかけしているのかも分からない。
- 各種高齢者団体に広報活動をする。（民生委員、児童委員にも）
- 特に日常の生活に困窮していないか、又は活動が認識されていないか。（自治会活動に加入されていない方）

- 地域においては具体的な活動がまだされていない様に思います。遠くから見守るにとどまっている。もっと支え合える事柄を具体的に考えて取り組んでいき、地区の人々にもっと周知されるように努力することが必要だと思う。
- 一般の人には知られていないので。

#### 【事業の需要について】

- 利用した人を会ったことがない。
- サービス事業をうけているという話をあまり聞かない。
- 地区自治会内で必要とする意識が低い。地区住民内で社協に対する認識が薄い。地区中心部で、家族意識が強く、外部に頼るニーズが少ない。地区新住民区域は比較的若い家族が多く、必要としない。もう少し先に目標をおいて、地道に広報の協力者を増やす。
- 担当している高齢者は、近くに子供たちが住んでいるか同居しているので、今のところ必要を感じていないのではないかと思う。
- ①本人が見守りを希望しない場合が多い。  
②他人との信頼関係を作るのが難しいようであります。
- コロナの影響のせいか参加したからない人が多い。

#### 【事業対象の把握方法について】

- 地区という大きなくくりで活動しているので、市境になっている担当地区は遠すぎて利用しにくい。
- 地域の見守りがあり、社協のボラの見守りはどこを担うか？

#### 【地域や他の組織・団体との連携について】

- 自分の地域ではないが、民生委員と自治会とのコミュニケーションが悪い為、一歩先に進まないのではないか？
- ①民生委員と見守り協力員の連携が悪い。組織的でないように思われる。  
②地区会長とは連携しても地区長（社協）との連携がない。
- 利用している地域と全く利用していない地域があり、見守りサービスと民生委員の連携もよく分からない所がある。

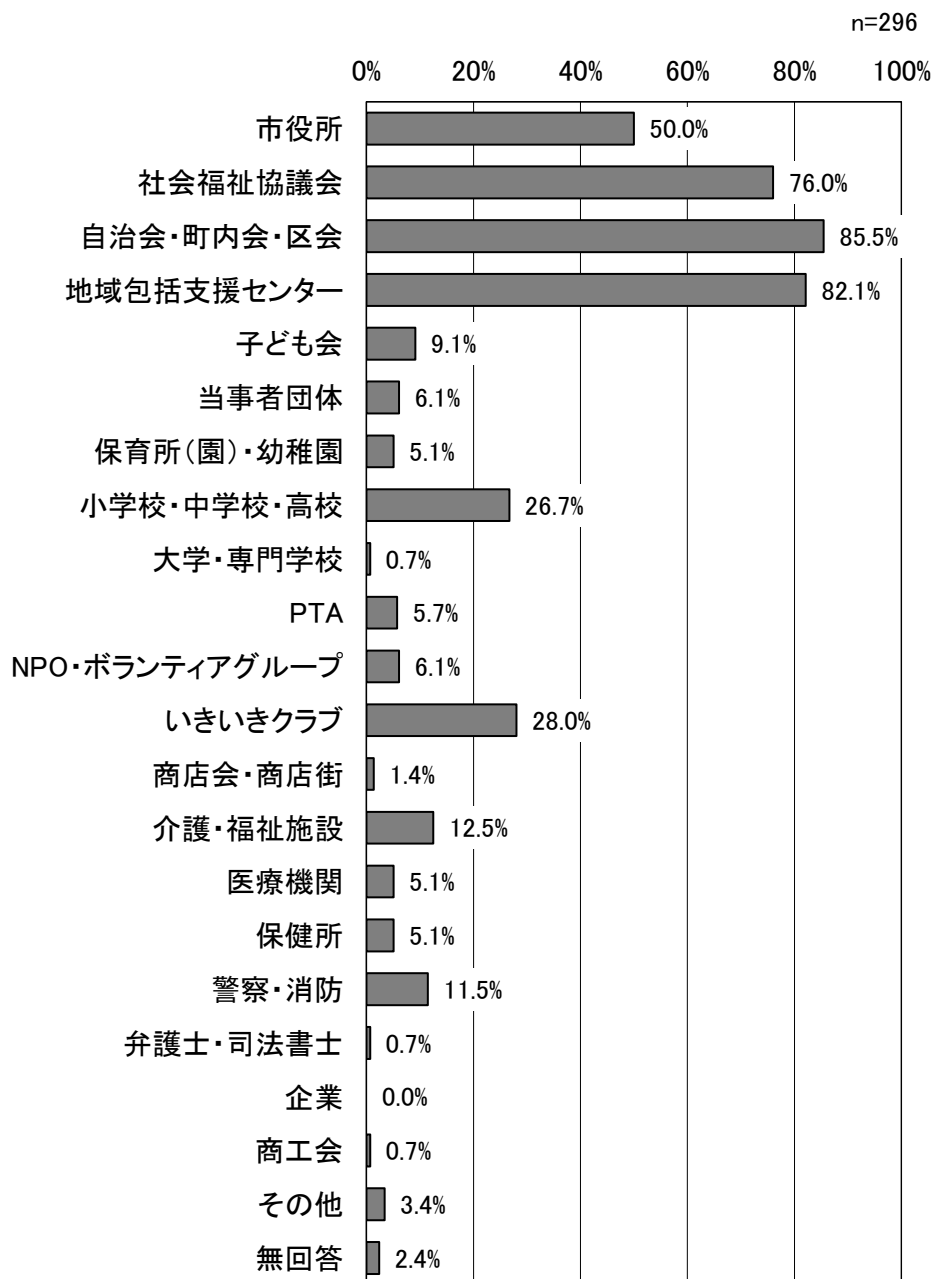
#### 【その他】

- 地域の関連する事にあまり興味がない。無関心、他人事と思っている。
- 世帯数が多すぎて見守りの人数が少ない。
- 社協の担当者の高齢化を解消し、活動をもっと活発にする必要があると思う。
- 誰から見て浸透しているのか？対象者からみてですか？
- この様な事業があると言っても不安げな態度をとられる。あてにしないとと言われてしまう事も。
- 高齢者の自由とプライドと事業の関係はなかなか難しい。手を挙げた人には十分対応するだけでいいのではないか。
- そもそも私自身が理解出来ていない。

- 必要としている人との日時が合わせづらい。
- 町内役員が積極的でない。誰かやるだろう、態度に見える！相談してもダメです。
- 町内のことにあまり興味を持っていない方たちが多い。
- まず興味を持ってもらうことだと思うが、関心がない。もっと町内会、子供会が仲良く活動し、お父さんお母さん世代と接点を持った方が良い。
- 趣旨がよくわかりません。
- ①サービスについて説明がしにくい。②包括さんがいるので、そこに相談する方が多い。
- これは担当区域に限っての印象です。民生委員制度が認知されているので、殆どの方が受け入れて下さっていますが、例えば申込制だったら希望者が少ないだろうと想像します。自宅をたずねてもらおうという事に抵抗がありそうな気がします。
- 民生委員や周りの人が心配しているわりに、本人は大丈夫、他人に迷惑をかけたくないという思いがあり、かみ合わないのではないかと。
- 地区ごとに支援する人がいればもっと浸透すると思うのですが、プライバシーや相性もあると思うので…。
- 町内会の加入しない方が比較的興味がないようで、いざとなった時、見守りサービスを聞かれたことがある。
- 今年はコロナ禍で会って話すことが出来ない状態だった。ひとり暮らしの方で訪問を拒否したり、一人暮らしの方が施設に入所した場合、さらに「はっきり」させるには、民生委員では無理がある。そこで市から、民生委員に伝えて（把握できているのか）もらうことは出来ないのか、活動がはっきり見えない。
- 私自身がよく理解出来ていない（意義（必要性）を理解していない）ので積極的に協力していないかもしれません！！区民の関心が薄い。訪問による安否確認は難しい。今年度初めて民生委員を受け、コロナで訪問を控えるようにと言われているのでほとんど訪問していません。

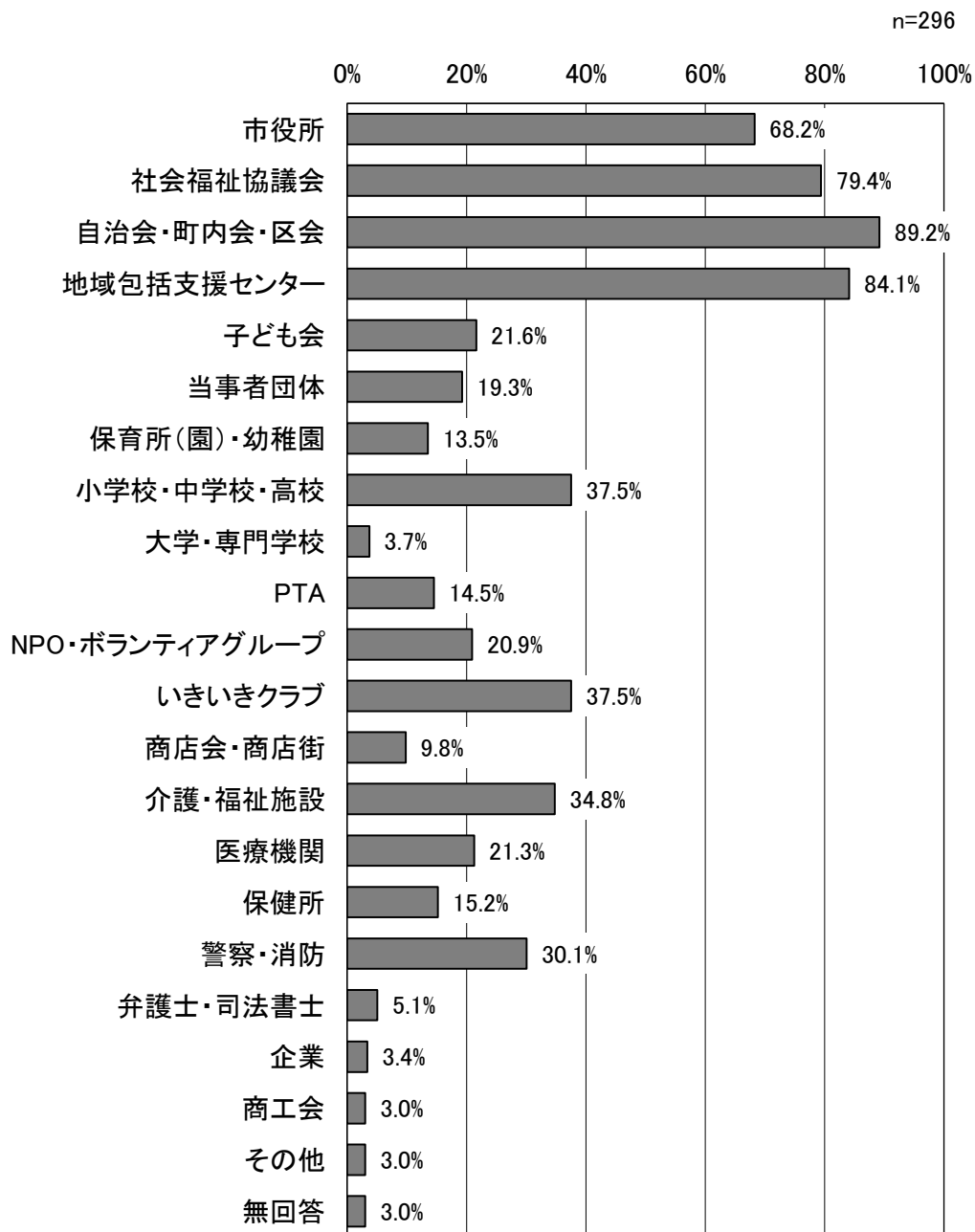
**問8 現在、担当地区で見守り活動を展開していく上で、お互いに協力・連携している団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)**

担当地区で見守り活動を展開していく上で、協力・連携している団体・組織については、「自治会・町内会・区会」が85.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が82.1%、「社会福祉協議会」が76.0%となっています。



問9 今後、担当地区において、お互いに協力・連携して地域の見守り活動を進めた方がよいと思う団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※すでに協力・連携している団体・組織にも○をつけてください。

担当地区において、お互いに協力・連携して地域の見守り活動を進めた方がよいと思う団体・組織については、「自治会・町内会・区会」が89.2%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が84.1%、「社会福祉協議会」が79.4%となっています。

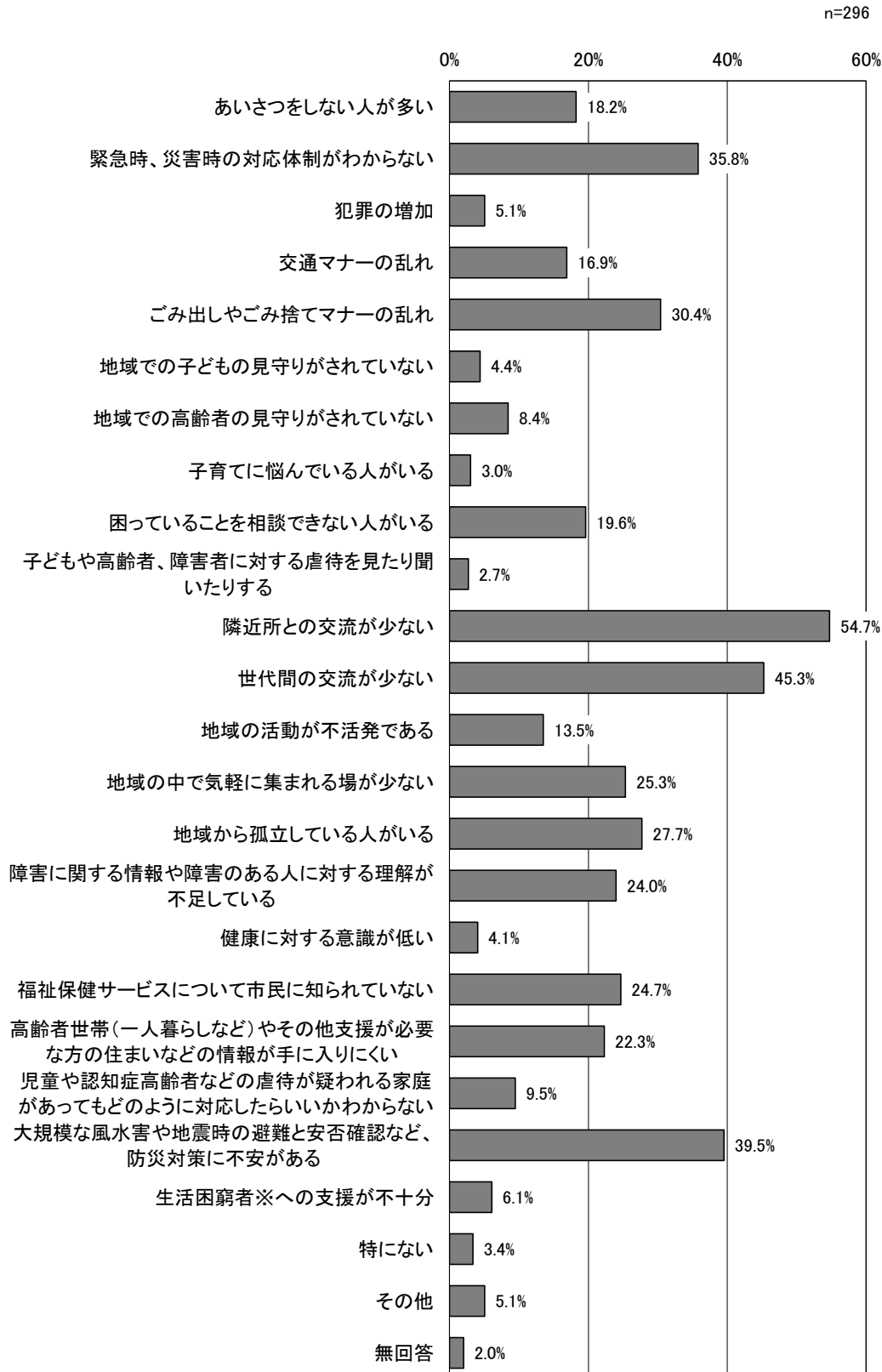




### 3. 地域の課題について

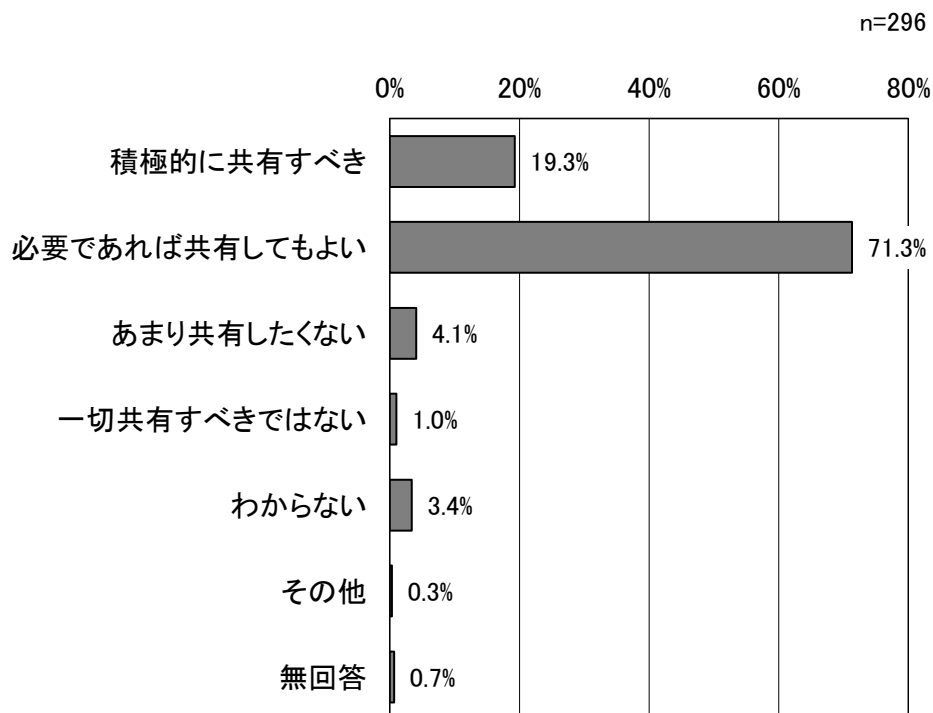
問 10 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が54.7%と最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」が45.3%、「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認など、防災対策に不安がある」が39.5%となっています。



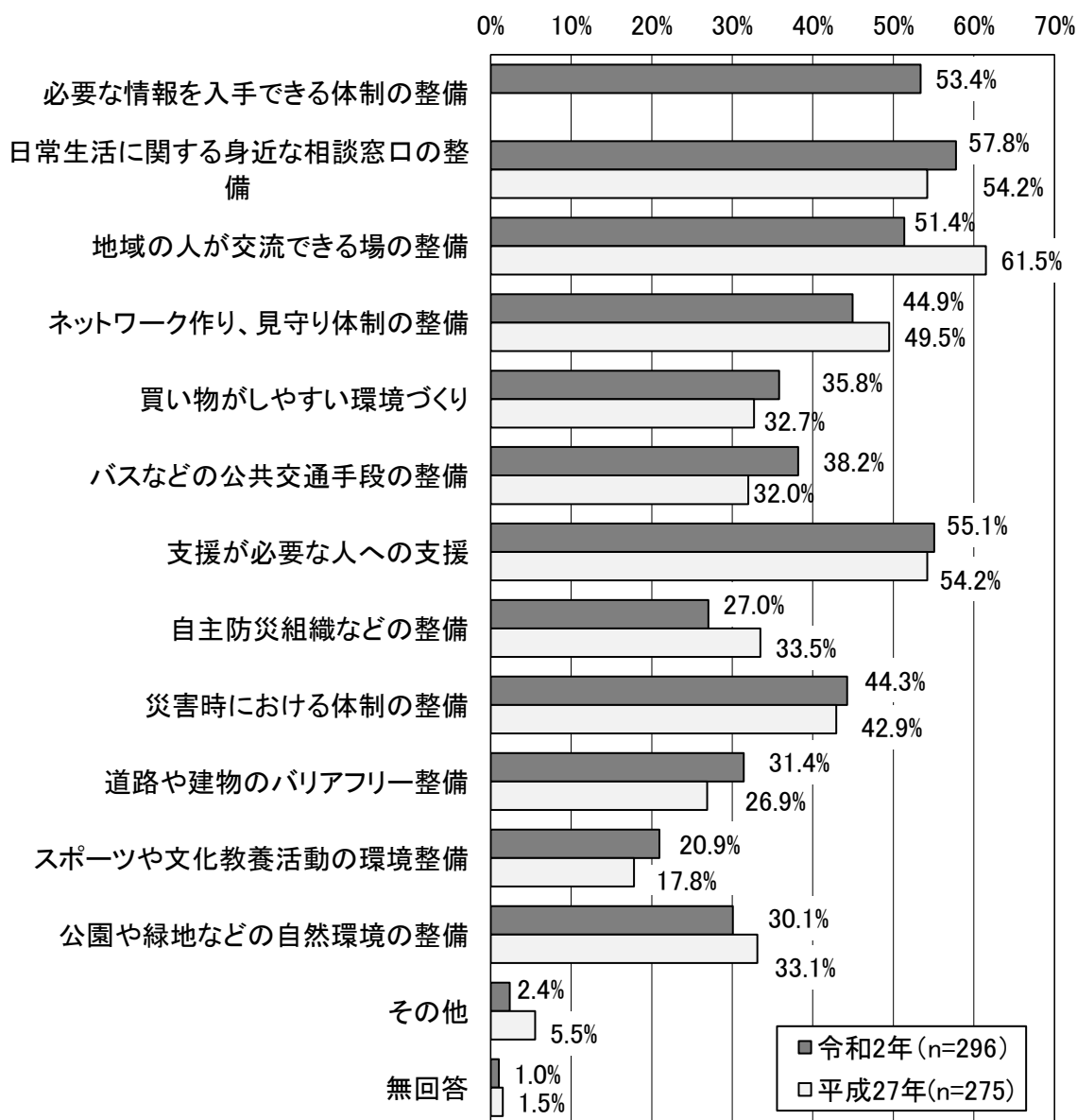
**問 11 あなたは、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止などのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を活用する方法をどのように考えますか。(ひとつだけ〇)**

必要な個人情報の共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が71.3%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が19.3%、「あまり共有したくない」が4.1%となっています。



**問 12 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)**

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が57.8%と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が55.1%、「必要な情報を入手できる体制の整備」が53.4%となっています。



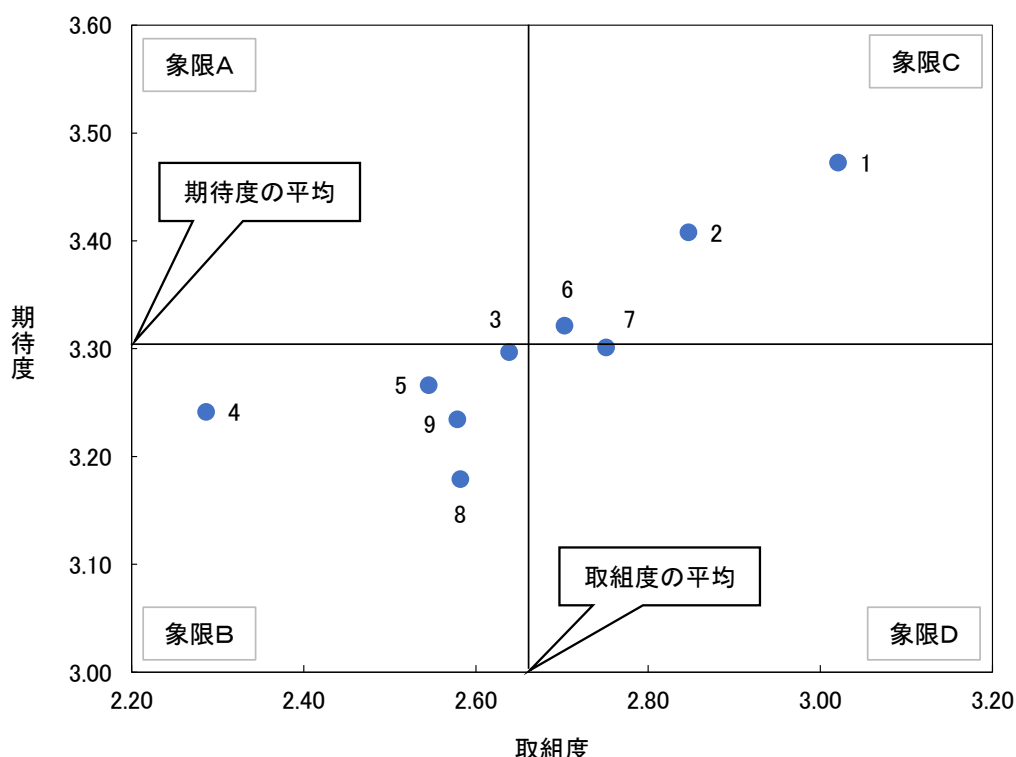
※平成27年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。

## 4. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて

問 13 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれにあたりますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

各項目を点数化してみると、期待度・取組度ともに高い『象限 C』に「1. 福祉サービスの利用支援」「2. 支援をつなぐ仕組みづくり」が入っています。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 福祉サービスの利用支援             | 6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保   |
| 2. 支援をつなぐ仕組みづくり            | 7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり |
| 3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり | 8. 地域福祉活動の担い手の育成           |
| 4. 誰もが外出しやすい環境づくり          | 9. 活動団体への支援                |
| 5. 地域における防災機能の強化           |                            |



- 象限 A 期待度が高く、取組度が低いため、優先的に取り組みを進めるべき項目
- 象限 B 期待度、取組度ともに低いため、他の取り組み状況を考慮しながら改善していくべき項目
- 象限 C 期待度、取組度ともに高いため、引き続き推進していくべき項目
- 象限 D 期待度が低く、取組度は高いため、取組度を維持しながら推進していくべき項目

※点数化について※

「期待している／取り組んでいる」を4点、「やや期待／まあまあ取り組んでいる」を3点、「あまり期待していない／あまり取り組んでいない」を2点、「期待していない／取り組んでいない」を1点とし、それぞれの回答者数に乘じ、合計した数値を実質の回答者数（全体の回答者より無回答数と「わからない」の回答数を引いた数値）で除した。

## 5. 新型コロナウイルス問題について

問 14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 定例会の実施に関して行政側の判断にあいまいな部分があった。
- 定期的に伺っていた家で、来ないでほしいと言われた事。
- 今迄の活動の様子が分からないので、それがコロナの影響かわからない。
- サロン等の場がなくなり、家での時間が多くなり体力等が弱ってきている。
- 訪問時の相手への配慮。
- ウイルスが見えないので、相手にどのように対応してよいか不安である。
- 最近救急車が近所によく来る。一人暮らしのお年寄りの家が多く、一日ずっと家にコロナで籠る事が多いからかもしれない。
- 原則家庭訪問はしないという中で、電話などにも出ない方も多く、どのようにすればいいのか、外部からの確認位で良いのか、精神的な負担感だけ大きい。
- 見守りでお宅へ伺う事があるのですが、ほとんどの家で、出てくる方はマスクをしないで出てこられます。あいさつ程度～30分くらい、外で会話をするのですが、みなさんマスクなしなので、対応に困っています。
- 地域のイベントやサロン、お祭り等が軒並み中止に、声かけやコミュニケーションを取る事が出来ず、これでいいのだろうか…と考えます。孤立している方が増えているだろうに、何もできずにいます。昨年までは、地域の行事はとても活発に行われていたのにとても残念です。
- 昨年12月から初めて民生委員になったため、調査、訪問ができず、地域の高齢者の方々と顔合わせが一部の人しか出来なかった。活動が余り出来なかったので、迷うことが多かったが、前民生委員さんや自治会長さんに聞いて助けてもらった。
- サロン活動が休止になり、高齢者の情報がつかみにくくなっている。外でもあまりお会いしないので体調が気になります。それでも徐々にランドゴルフや室内での身体を馴らすことをさせている方もいらっしゃいます。不安な気持ちもありますが、コロナに負けないように頑張りたいと思います。
- 65歳以上単身高齢者で、ご家族も来ることが出来なくなりました。ご本人が寂しい思いをされてきました。地区での話し合いにより、本当に安否確認や心のケアが必要な方には、コロナ対応をしながらお会いしていました。コロナで担当している方が亡くなったのを知らなかった。
- 3、4月は自分自身も状況が分からず、地域の事が考えられずにいた。
- 高齢者の方で人間関係が遠くなってしまったと言っていた。
- 訪問自粛による活動の不活発化。
- 外出の不足で運動不足になった→アッピー体操の提案→実行してもらっている。
- コロナで家族から外出やデイサービス等を禁じられて、日常生活に張り合いがないと話さ方がいます。
- 初めはTEL対応でよかったが、長引くとやはり直接会って、会話する事が大切だと感じる。短くとも距離を保って接する方向に行くべき。行事も少しずつ再開させる勇気も大事で、何でも中止はやめ、三密を避けて少しずつ行う方向に向かってほしい。

- 昨年 12 月から民生委員をさせて頂いています。〇〇〇を前人者と回り、今年 1 月から地域をわからないながらも回りましたが、コロナのおかげで、訪問できずにお祝金を届けに回った時はすっかり忘れられていました。
- 私が見守っている中では別に問題等はありません。
- 自治会の一人暮らし対象の茶活会が出来ない。見守り訪問の自粛。子育てサロンの自粛（最近、小人数出始めている）。
- 訪問して顔を見て話を聞くことが出来にくいので、特に 1 人暮らしの健康状態が心配です。
- 調査も中止になり、訪問も控えているので様子を伺う事出来ずにいます。問題は特にありません。
- 幸いコロナによる問題はおきていないが、訪問が出来ないため心配はある。
- コロナ感染予防のため民生委員として単身者、高齢者世帯の見守りに行かない民生委員がたくさんいました。遠くから声をかけたら、電話をかけたりして不安な生活をしない様にする方が良いと思いました。
- マスクの着用が出来てない事。
- 相手の様子が全くわからない。
- こまめに会えない、様子が分からない、コロナの時期はお互い気を使う。返信ハガキを個人で書いて、お便りが返ってきたらつながりが出来るかとも思いましたが、人数分を配布するのは難しいでしょうか？
- 新任の上、コロナの問題で活動していないので課題は無。
- あったか見守りサービス事業、コロナ感染拡大防止の為、家庭訪問しなくてもいい、不要不急の家庭訪問はしないでくださいとのこと。どう見守りサービスをしたらいいのか、チラシのポスティング、電話、どう対応したらいいのか迷ってしまいます。
- コロナ禍の中、活動は対面接触を避ける観点からなるべく活動（対面、訪問、etc）の自粛をしているが、これでは高齢者（特に単身者、足腰の弱い人 etc）にとってみれば逆に不安要素が多いと思う。こういう時こそ声かけを多くするべきではないかと思うが。
- お店からマスクがなくなった時、地域の方から「マスクが高齢者に渡よう市役所に言ってほしい」と言われた。テレビなどで不安が増大されているようで、自分の持っているマスクを少し渡した。
- 調査も中止になったことで新規の対象者の方の顔が分からない。（新任の方は特に困っているようだ。）
- 訪問活動が出来ない状況で情報が得にくい。
- 対面訪問ができない事。
- 訪問が中止になったため、お会いできない状況が続く中で、亡くなった方がいた。家の中での生活が長く、足が弱まり歩行困難になった人。会話がスムーズに出来ない（電話での）。体調を崩し緊急搬送された。
- 国の指示には誠実に従って、自粛、マスクの着用、外出をひかえる等、協力的で活動中に困ったことはない。日本人の規律に従う姿勢に感動しました。
- 見守り活動など対面して顔を見て確認できない事が困った。
- 訪問を控えなければならず、新人なのですが情報がなかなか得られない。
- 感染拡大防止の為、訪問が出来ず顔を合わせてない人も多い。

- 新米の民生委員の為、コロナの影響下で受け持ち区域の方々に顔を覚えて頂く機会も少なく、いかに良好な関係を築く事が出来るかとても心配です。気掛かりに感じている人にも電話で様子を伺うのも考え物ですし、悩んでいます。散歩を兼ねて見回りを取り入れています。朝、昼、夕方と時間を変えて一日に一時間位歩きます（週に3～4回）。偶然気にかけていた人にお会いできたときは達成感を感じます。
- 世帯訪問が早く行う事ができる状況を期待しています。
- 身体を壊されて支援が必要になった方と電話のみでの対応となった。伺ってお話を聞ければよかったのと思う。精神的な悩みを相談された方も、電話だけだと様子が分からないのでお会いして聞きたかった。
- コロナウイルス感染を恐れて訪問を自粛している為、電話連絡をしたいが、オレオレ詐欺を警戒する為に電話に出てもらえない。
- 新型コロナウイルスの発生で、子育てサロンの人数が決められ、たくさんの人に参加してもらえないので、今後どのようにして楽しんでもらえるか、みんなで思案している。
- 対面での対応が中止され、担当地区の皆様と親しく話す機会が減り、担当地区の皆様の様子が把握できないまま、現在に至っています。最近ではマスクをつけた状態でお声がけしつつ、近況を伺っています。
- 昨年12月に委嘱を受けて年明けに前任者と挨拶回りに行ったきり、コロナ流行の為、訪問が出来なかったのも、一度もお会いしていない人もいたり、お会いした方でも名前と顔が一致していません。
- 民生委員が最近来ないと市などに苦情があるとの事。行政側から接触を避け慎重な行動を、と指導されている。見守りの訪問を減らしている人もいれば、変わらない人もいます。具体的に活動方法を指示してほしい。例えば三密を避けマスクをつけて外で対応するとか。
- 単身高齢者世帯の調査が出来ず、実態把握が困難。活動するにあたり、感染防止策。
- マスクをし、間隔を取り、話をする時、高齢の方など聞こえていない時が多く、声を大きくしたり近くで話さないといけないので困る。
- 自粛要請によってすべての活動が停滞し、対象者との接点が無くなり、直接訪問活動の可否に迷いました。自粛期間が長引くにつれ、感染予防に留意しつつ、訪問活動を再開し、皆さん喜んでくださいました。直接訪問してお話しをする以上の安否確認はないと改めて思いました。
- 見守り活動が制約されたので、見守り世帯の情報収集が出来にくかった。
- 個別訪問で待っていて下さる方が多いのですが、迷惑がられた方も数人いました。ショックでした。
- 問題はなかったのですが、3月～6月解除にあたり少しずつ訪問を始めました。訪問先のお相手の方も外出を控えていて、友人とも会えず、一気におしゃべりが始まり、電話ではなく人と人の絆、顔と顔、目と目、見つめ合っておしゃべりをするのが失われていたことを感じました。
- 新しく担当になった人となかなか会えず、電話した時顔を見ていないから安心できないと言われた。コロナで訪問も出来ない時だった。やはり高齢者の方は顔を見せないと駄目なのだと思います。

- 恐くて外出できない方も多くいました。最低限の食品の買い物のみの方も（週1回程度）いました。足腰が弱まってきており、自宅での体操もあまりしていなく、歩けなくなるのではという方もいました。又、1日中誰とも話をする事がなく、訪問時何日かぶりに話をしたという方もいました。せめて話し相手にとっています。数人程度で話が出来場所でもあればと思っています。
- 外出の機会が減り、人との会話の場も少なく家に閉じこもる傾向が続いている。老人施設への入所、数名の方が亡くなるなど今年ほど強く感じた事はありません。地域で集まる事もなくサロン等も中止。訪問活動も自粛、安否確認がなかなかしづらい状態にある。
- 家族が東京へ週2、3回仕事で行くため、担当のお家へ行くときにマスクをしていても心配でした。
- 対面が難しい。私が遠慮してしまう。
- 高齢者は外出を自身で控えていて、3カ月も外に出ていないと話されていた。買物等は、子供が送ってくれていた。しかし子供等がいなく、自分で行かなくてはならず、行く回数を減らしたり、一度にたくさんの買物をしたりする方もいて、暑い中大変だったとの事。
- 毎年3月に高齢介護課から単身高齢者調査を依頼されているが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまったことにより、2年もの間、状況を把握する大切（大事）な訪問の機会を失った事はとても痛手であった。新任の民生委員にとっても勉強、経験の場として大切な調査であり、非常に残念に思いました。
- 1 問題：委員同士が簡単に話し合う事が出来ず、電話連絡となり回数が減りました。  
2 訪問：訪問する為に行くと、コロナになりたくない話し合うのをきらった人が居ました。
- コミュニケーションが減った。
- 活動全体が進まないのので気力が落ちる。民生定例会に市職員や社協担当者が不在の為、全体の活動を進めていくための話し合いがない。
- やはりチラシ等の配布時に声かけをしようと（しても）思っても出てこない人が多い。オレオレ詐欺の問題もあるので、子供からでないように言われていると思うので余計に感じる。
- 活動自粛するようと言うだけでは具体性に欠ける。これでよいのかと思いつつ必要とする人は訪問し、面談このような時だけに活動すべき。意識は医療従事者と共通するものがあると思う。
- 敬老祝い金や敬老祝品の届について、訪問されることを快く思われない方が複数居られ、他の方法が検討されたのかどうかの質問がなされた。
- 集まりが出来ないため、一人一人の顔を見て元気がどうかの様子を伺う事ができない事。
- 感染防止の為、対面訪問が出来ない中、担当地区の状況把握が難しいです。大人数で集まる事が難しい状況で、これからのサロン活動をどのようにしていくのが課題になります。
- 高齢者の方々と話をする機会が行事等中止により減ってしまい、状況がよく伝わりません。
- マスク等十分な感染対策をしていても、手でシッシとされたことがある。
- 対象世帯への訪問が出来なく、活動休止が続いている。
- 個別の訪問をどの程度、行ったら良いか迷っている。
- コロナ禍の中、対面は無理かもしれませんが、ちょっとしたお手紙を配布（手書き）したところ、「とても嬉しい、元気が出る」とお電話やSMSをいただく。ある人は丁寧に暑中見舞いのハガキを頂く。
- 気がかりな方がいても、訪問が難しかった。



- 訪問活動、調査などが出来てなかったため、単身の高齢者の方々が、今どのような状況にあるのか分からず困る。
- 最低でも月に1~2回程度の訪問を実施していましたが、コロナ感染防止のため訪問、面会が出来ず心配です。チラシの配布時に紙面の端に必ず「民生委員〇〇」と書いてポスティングを実施しています。これを行うことで誰がチラシを入れたのか不安になられる方がいるようなので、自分は実施していません（部数によっては大変な手間です）。
- 民生委員1年目でコロナ問題が発生したため、活動の内容も分からないまま今に至っている状況です。特に担当地域が離れているため、各戸を訪ねるのに必死でなかなか難しいことが多いです。
- 独居高齢老人が会話の機会が少なくなり認知症気味になった。
- 上尾市は陽性の方が少なくても良いのですが、敬老祝い金、記念品を持って行ったとき、8割の高齢者がマスクをしていない。近所の方、友達とどう接しているのかまだまだ心配。
- 訪問接触の機会が殆ど出来なくなったため情報不足となっている（特に今年度から新任となったため）。
- 活動を自粛しているため、問題や課題はない。
- 新型コロナウイルス対策として、接触を保つことが困難になり自粛したこと。
- 積極的な活動は控えるという方針の中でも、待たなしの事態は起こり、雨戸が開かない。呼び鈴、電話にも応答なしの高齢の方の事例などもひとつではなく、電話連絡だけでは済まないことも多くあった。
- この期間中、今のところ相談事の問い合わせ等は何もありません。熱中症のチラシ、悪質詐欺に気を付けましょうのチラシを主に一人暮らしや気になる人優先的にメモ（訪問活動は自粛していますが、気になる事、困ったことがありましたらご遠慮なく連絡ください）を添付して配布しました。4、5人の方から元気になっています、と電話頂きました。
- 単身高齢者調査も高齢者世帯調査も中止になり、民生委員になってから一度もお会いできていない方が殆どです。本当はこのような時期でひきこもりがちになっている高齢者が多いと思われるのに、お会いできないのがとても残念です。
- サロン中止になり残念という声を聞く。
- 認知が進んでしまったかと思われる方がいます。家にこもってばかりでは問題があるのかもしれない。
- 訪問して玄関チャイム（インターホン）の対応で生活状況が見えない分、心配することがあります。
- 訪問が出来ないため、面会しての話が出来ない。
- 問題は発生していないが、スーパーなどでお見掛けしても気軽に声をかけてよいか迷う。
- ①訪問することが出来ないため、電話で安否確認をしましたが、日頃電話に出ないようにしている方が多く、相手の方が出るまで呼び鳴らし続けることが多かった。
  - ②電話で話が出来ない人には手紙をポストに入れた。
  - ③急ぎの時、電話連絡は難しいのではと感じた。
  - ④自分自身がコロナストレスから体調を崩してしまい、活動が出来なくなり辛く苦しかった。

- 孤立しているお年寄りが多い。コロナウイルス発生後も、月1回の訪問をしていますが、堰を切ったように話をする方が多いです。行政が主導していた体操、その他が全部ストップしてしまい、行き場のない方々のストレスの為だと思います。
- 訪問をためらう。回っていても回って良いのか不安。
- 町内のサークルに入っているのですが、全部中止で困りました。活動も訪問が出来ません。心配しているだけ！
- 会って話をするのが民生委員活動の基本だと思うが、それが出来ない。
- サロン等集まれる場所の提供が出来ない。
- 春からずっと単身高齢者への訪問を控えるように、とのことで顔を合わせていないことが心配です。今年の名簿を貰っても調査をしていないので、このままでいいのか気になっています。
- 集まる自由がなくなった。家から出られない不自由な生活をしている人が多い。
- 外出を控える高齢者は足腰が弱くなったり、筋力の低下が起こっている。体力が落ちているのが心配。
- コロナに対する意識の差が大きく、マスク無しで外でお話されている方も…家にひきこもって全く姿を見ない方もいる。
- 昨年の12月に就任したばかりで、コロナで活動が出来なかったため、民生委員が代わったことや、ご挨拶も全て自分で行ったが、顔を覚えてもらえず不安だった。もう少し行政からの高齢者への伝達がほしかった。
- 戸口訪問が出来ないので新高齢者の方の顔が分からない。
- コロナで家にいたり今まで外出してスポーツジムに行っていた方が、行かなくなり運動不足になりヒザを傷めたりしている方がいたりで、一人暮らしの方は話す相手がいないので元気がない気がする。
- コロナの関係で、今年3月から訪問はしなくて良いとの事。今まで最低1ヶ月に1度位はお会いしていたので変化が分からず困りました。
- 外で交流できないため、体力が落ちている方が多い。特に足が弱っている。話し相手が出来ないため、家にこもりがちである。
- 高齢者の集まり（アッピー体操、サロン等）が急に中止になったこと。
- ①訪問活動が出来ない。②サロン活動等、人が集まる活動が出来なかった。
- ①地区民、児協で計画した行事、社協支部行事も殆ど中止となり、情報交換は定例会のみとなり、相互協力体制が構築できない。
  - ②対象高齢者世帯への訪問も制限され、皆さんはストレスも溜まり、体調を崩す人が多い。
  - ③巣ごもり気味で家の中で転倒したりする事例が増えている。
  - ④話す機会が極端に減り、認知症が進んでいるような感じを受ける。
- 普段仕事で交通機関を利用しているのでうつしてしまうかもしれないと思うと、活動がなかなか出来ない。
- 訪問出来ないこと。単身者がどのような生活をしているのか電話で時々話をしている。ポストに定例会の配りものを入れる。サロンの情報をポストに入れる。時々脳トレみたいなものを一緒にいれる。
- 外出制限が続くなか、認知症が出てきたようだ、と家族の人に言われた。サロン、いきいき等、積極的に参加されていたので、その場がないことの影響が大きいのかな。

- 話がしたいと呼ばれたお身体の悪い方のお宅へ伺った時、立ち話が出来ないため部屋に上がり大きい声も出ないので、近い距離でお話することになったことがあります。私はマスクをしていましたが、先方は自宅内ですのでされていませんでした。もしどちらかがコロナにかかっていたら、と少し不安になりました。
- コロナ禍の中、活動出来なかったので特にありません。
- 隣近所は何も変わっていません。
- 5月頃は高齢者のひきこもりが多く、運動不足。会話も少なく心配してしまいました。やっとグラウンドゴルフ等、外出する機会が増えて良かったと思っています。
- 今年初めて民生委員になりましたが、活動が自粛されたため、地域の方との接触する機会がなかったです。まだ、色々な問題が見えてきていない状況です。
- 地域の方のご自宅に伺う時に、「三密」状態になる可能性があること。
- 三密を避けての行動が難しく、中止となった行事が多かったが、今後は with コロナの生活の中でも、対策や工夫をしながら少しでも以前の活動に戻していきたい（サロンの活動など）。
- 気軽に訪問出来ず、電話やメモによる対応でゆっくりとお話を聞くことが出来なかった。
- ①「自粛」しなさい…と言われても、孤独死の心配な人には TEL または手紙を入れて対応したが、最近では訪問して見守っています。
- ②消毒、マスク、近寄らないなど感染予防はしています。
- ①家庭への訪問に気を遣っている。
- ②夏は戸外で話を聞くようにしていたが、熱中症になりそうだったので殆ど活動出来なかった。秋になってから訪問している。
- ③小学生の授業について不安定な気持ちのお子さんが出てきているように思う。家庭への見守りも大切である。
- 単身調査、高齢者世帯調査が、コロナ禍のなか、思うように活動出来なかった。新規でリストアップされてきた方々に対し、家族（65才以下）との同居であるかどうか、悩みを抱えていないかどうか確認出来なかった。
- 活動の自粛によって訪問中止。
- ①訪問出来ないこと。②電話しても出てくれないことが多く不安になる。
- 三密回避問題で面接が出来ない。
- 地域の色々な活動が中止となり、交流がなくなり外出を控える状況。①カラオケ教室②お茶会、コーヒーサロン③お祭り、ラジオ体操、盆踊り、運動会、餅つき大会 etc 人々との関りがなくなり、体力の低下や認知症が進行しているかも…
- 毎月お手紙を渡していますが、直接会えなくて寂しいという声もあります。個人情報の手入が大変である。
- 民生委員さんお金を貸してくれないかという問い合わせあり、いきなり電話にてあったものでビックリしました。社会福祉協議会を紹介し、だめであったら市の福祉課に相談されることを勧める。
- チラシ（熱中症等）のポスティングで入れないでくださいと言われてたこと。
- ①直接会うことが出来なかったため、ひとり暮らしの方で不安を感じた方がいらした。
- ②配布物の用紙に訪問出来づらい状況を知らせたり、困った時は連絡ください等の一言を付け加えてポスティングした。

- 本来の活動が出来ないことです（直接お話ししたり等…）ただ自分は個人的に多忙なためポストイングだけで終わる仕事はとても助かります。
- 訪問が出来なかったこと。
- 昨年の12月から民生委員をさせていただいているのですが、担当地区の皆さんの顔など覚える前にコロナの自粛期間に入ってしまった、あまり地域の皆さんに関わることが出来ませんでした。
- 家庭訪問をしたり、対面での話が出来ないことに関して不満を持っている方がいました。その方からは遠くからの見守りだけでなく直接来てほしいと強い口調で言われました。
- 現在の所、問題はありません。コロナの終息を望んでいます。
- 初めて民生委員となり、訪問回数が1~2回程度しかしていないなかでコロナ問題があり、全く思ったように活動が出来ないでいます。困っていることや相談など支援が出来なく、このままで良いのか？私たちに何を求めているのか分からないでいます。
- 訪問をなるべく控えるようになって、なかなか担当区域の方々のお顔とお名前が覚えられない。
- 訪問する場合、気を遣う。
- コロナ禍で訪問原則禁止の中、紙ベースもコロナ菌が生きているという情報が流れる中、ポストイングもためらわれたが、今はポストイング位しか出来る活動がないということで定例協議会毎に多くの紙資料が配布されているがどんなものか？実際はインフルエンザ無料接種資料が足りなく、市庁舎まで30枚ほど貰いに行った。でも心配はある。
- 直接ご本人とお会いすることが極端に減っているため、現在の様子を知ることが難しい。
- 直接伺って色々とお話が出来なくなり、心配に思う時があります。
- 感染防止のため、個別訪問が出来ず、お元気かどうかの確認が出来なかったので外から見守ることしか出来なかったこと。
- 見守り対象者に直接会えないこと。

**問 15 新型コロナウイルスの問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたか。それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。**

- 外出するのにマスクを忘れてりする。
- 母子家庭で、息子は働かず母がパートで家計を支えているのが、コロナでパート収入が減り困っている。この先が大変心配である。
- 自粛でいろいろな催しが全て中止になり家に籠っていて、体力、特に脚力がすごく落ちた。ずっと家にいて気持ちが沈んだり、意欲が無くなったという方もいた。（知人の高齢の方で、担当地区の方ではありません。）
- アッピー体操やサロンが行えず、運動不足だったり、1日中誰とも会わずしゃべらない高齢の方がいると聞きました。子供も、休校だった授業数の穴埋めで暑い8月中旬に登校したり、行事が中止になったりしていて、ストレスが多くなっていると聞きました。
- 新しい生活様式の取入れを出来る人と出来ない人（例：マスクをしない方もいる）
- マスクや消毒がないと困っていた。今は解消している。
- 熱が出ても診てくれる病院がない。かかりつけ医といっても6ヶ月、1年くらい病院に行かないと、かかりつけ医ではなくなり、断られる。救急車で運ばれるほど重篤になるまで「様子を見て下さい」と言われる。←かつて、孫が熱が出て、その様子を心配し話をしてくれました。

- 単身高齢者が他県に住む家族に会えなかったり、一人である時間が増え精神的に辛いとの事。夫婦で高齢の場合はまだ相手がいるので安らぐが…。色々な対策はまず単身高齢者を第一に考えて、集まれる機会、方法を考えてほしいとの事。
- 地域の活動を聞かれても、やっと定例会の事や預かった書類がとても大切である事が分かりました。コロナのおかげでほとんどシステムが分からないまま1年間が過ぎます。
- 外出しなくなった方が多くいた。
- 施設入所者の家族と自由に会えないので、又単身者には特に認知症が進んだ様子だと聞いています。
- 一人暮らしでコロナに無関心。散歩して自宅に帰っても、手洗いうがいをせずに生活している。
- 全くありませんでした。
- 一人暮らしの人が何か具合が悪くなった時に本当に困る。他の市では家庭に話出来るラジオを配布して、それで何人かと様子が話し合えるとか、そんな何か見守りになる物を設置しないと発見まで手遅れになるケースが出てくると思う。
- デイサービスの休み、各イベント、行事も中止で高齢者は以前に比して家の中に居る機会も増えた事も有り、困ったことは聞いていない。
- マスクや消毒液がなくなるなかで80代の高齢者が外出するとコロナウイルスがうつるのでは、と不安感がいっぱい「うつったら、すぐ死んじゃうから」とほとんど外出しなくなり、「体力が落ちてしまう」と心配していた。
- 多くの方が新しい生活様式にならないマナーを守って生活されていた。
- 不登校、集団生活に慣れるのに困った。
- 相談したい事があるが、コロナで来て頂いても良いのか迷っている方がいました。
- 単身者の方でベランダの手すりに寄り掛かろうとし、転倒しけがをした。通院中。
- 国の指示には誠実に従って、自粛、マスクの着用、外出をひかえる等、協力的で活動中に困ったことはない。日本人の規律に従う姿勢に感動しました。
- 通常は病院へ通院するのに、コロナの影響で移ってしまう事が恐くて通院できないと聞いた。
- 外出控えのせいなのかわかりませんが、トラブル（ゴミ出し、家庭内）が多くなったように感じます。
- 新聞によりますと、夏場から自殺者急増しているとのこと。私の担当区域にも70才後半以降の単身者の方が多いのでとても心配です。今のところ、具体的には、心配な人は、運動する機会も少なくなり、転んで怪我をした方が2人ほどいました。「コロナうつ」のことがとても心配で、今私の一番の気がかりです。
- 月に一度のサロンも出来ず、もちろん訪問も出来ず情報自体が入ってきません。たまたま国勢調査の調査員をした時に、訪問した見守り対象者の方の認知症がひどくなり、身体的にも弱ってしまったのを見かけてとてもショックでした。
- 病院への通院を心配していた方。外出できず、運動不足、足が弱くなってしまうと心配していた方。施設への面会や病院へのお見舞いに行けず困っていた方。
- ある婦人が自宅ですと外に出せずに、体調をくずし病院に行きたいけど、木曜日で近くの病院は休みでした。どこかないかと連絡をもらい調べたが、どこも休みで結局翌朝かかりつけの病院へ行った。熱中症も心配したのですが、原因はコロナで家に籠りきりからのストレスだったようです。救急車は呼びたくない。木曜は午前中だけの病院も多いようで困ったようでした。

- ケアハウス入所希望者がコロナの影響により、受け入れの準備が進まず、入所に時間が（約2ヶ月）かかってしまった。
- 年齢が高く、マスクがどこに売っているかわからず、買えないので外へ出なかった。
- 人との交流が少なくなったので、ストレスを感じる人が増えた。
- 外出する人が少ないので声掛けもできない。（困った人なのか何で困っているのか把握できない）
- 具体的に話したり、相談を受けることはない。
- 担当区域では全く感染者、接触者はなかったので困った事はない。聞いたりしたこともない。
- 収入減少により生活が大変になった人がいた。
- 病院へ行くのをためらっているうちに、病状が悪化してしまった。
- 必ずマスクをして対応すべき時は備えていますが、訪問先の方がマスクをされていなかったり、長時間の在宅の為に会話が長くなってしまふことがあります。敬老の訪問時にはやや困りました。
- 家族間の往来が制限され、単身の高齢者に家族の見守りや支援が及ばないこと。
- 高齢者で国民年金だけに低所得者で生活されていて生活保護を進めてみましたが、自分でもう少し出来るところまで頑張ってみると話されていました。
- 圧迫骨折となり介護保険を受けたいという連絡があり、包括に連絡、1日見学に行ったが、コロナになったらと不安になり行ってない。
- 外出が出来ないため、孤立してしまいがちである。
- 真夏の暑い最中でもマスクをつけ続けなければならず、顔に湿疹が出来てしまった人がいた。
- 地域でのコミュニケーションの場がなくなり、またデイサービス等も控えめになり、意欲、体力が低下し家に引きこもりになり、日常生活に人の手を借りるようになってしまった。
- マスク着用をしない。（強制は出来ないが、自分は大丈夫だと言って、大きな声でしゃべったりしている）買い物や通院も。
- マスクが無くて困っている人がいました。
- 感染予防の為、対面しての訪問を控えているので、精神的に不安を抱えている方から夜遅く電話があり困った。1時間経ってもお話が止まらないので、また後日お話を聞くことにして、やっと受話器を置くことが出来た。（コロナ期間中3回程あった）
- 困った人がいたかもしれないが、民生委員まで届かない。届く前に解決してくれれば幸いだが、何も知らないのも不安だった。
- コロナ禍で上尾市の行事が取りやめになり、外出機会が減り気力が沈んでいると話されています。
- 何かあると電話をいただいたり、少しは訪問もしましたが、おひとり暮らしの方は一日中誰とも話さず大変だとの事。やはり人と人とのつながりが大事だと思いました。
- 足腰が弱ったという声を良く聞きます。買い物にも自転車で行けなくなり交通手段がなくなっている。
- 以前、よく散歩していた人を見かけなくなった。コロナが恐くて外出をしない。筋肉が落ちてきた。頭の中に幕があるみたいで、認知症になりそうで心配。
- ①マスクが購入出来なかった。②消毒液が購入出来なかった。③家にこもりがちになり運動不足。
- ①体調を崩す人が多く、感染を気にして病院へも控え気味となり、更に悪化させるケースが見られる。  
②サロン、アッピー体操、オレンヂカフェ等が中止、延期となり、運動不足やストレスをどのように解消すれば良いか分からない高齢者が多い。

- 一人住まいの高齢の方は話す機会が少なく、精神的に不安がある。
- ①体調がおかしい、認知症がある（単身者）。②外に出ないで家にいる。
- スーパーで買い物する時もマスク着用は当たり前です。対面で注文したい商品を言い、お金のやり取りをするお店でもマスクをしないで買い物する高齢の人がいた時はビックリしました。マスク必須、気配りしてほしいですね！
- 入院中の家族を見舞うことが出来ない、施設にいる家族と会うことが出来ないなど、感染予防対策により、不便さや寂しさを味わっている人がいた。
- 人によってコロナに対する考えが違うので、人と接するのが難しい。
- 感染を恐れて閉じこもり、精神的にも体力的にも弱くなった人が数人おられたので、時々TEL や場合によっては訪問して、心と体のケアを心掛けました。
- ①地域の活動が全部中止になったので家に閉じこもっていることが多い。買い物に行くにも心配している。
  - ②医療機関への受診も控えていることがある。
- 新型コロナウイルス禍の間に「あったか見守りサービス」の依頼をしたが、見守り隊活動の自粛中であり、なかなか訪問に至らなかった。
- ①高血圧の単身高齢者。②認知症を隠す人。
- 特に衛生用品の入手が出来ず、外出もままならなくなっていった。マスク、体温計、アルコール消毒剤など。
- 認知症のひとり暮らしの方が、夏場外からしか見られないようだが、暑いのにエアコンを使用していなかった様子で、介護施設へ行っている時は良いが、行っていない日とか夜が気になって何度も何度も見に行ったりし、とても気にかかった。ケアマネージャーには電話を入れたりもした。
- 妻が施設に入所したために妻に会えないとのこと。
- 母親の介護のことで相談を受け、包括支援センターに連絡し、二回程話し合った。また家庭を訪問して生活について話し合った。
- 人との接点が少なく孤立している人が多い。
- 委員としての役割が出来ていないので、困った人や相談に乗る様な人には出会っていません。
- 高齢の方の外出の機会が減って、色々なことに少しずつ興味を失っていらっしゃるような気がする。
- コロナの為、外出出来なくなり、体力が落ちたという方がいらっしゃいました。また、サークルなどに参加出来ず、外の方と繋がれず刺激が少なくなったという方もいらっしゃいました。
- 上尾市より、高齢者インフルエンザ予防接種のお知らせを配るよう依頼があり（10月中旬）配ったところ、お医者に予約の連絡をしたところ12月になってしまったとのこと。10月1日から接種は始まっているのでもっと早くに知らせてほしかったとお電話を頂きました。

**問 16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。**

- やむを得ないことではあるが、諸活動が止まっている。何か新しい施策を、と思うが具体的に思いつかない。
- 民生委員の活動が制限されている分、行政側が調査活動等、直接実施しても良いのではないか。
- 毎月定例会が開かれるが、コロナ時には行政から定例会の開催をやめるよう一斉に各支部に伝えてほしい。各支部での対応が違っていると聞いている。
- 早くコロナのワクチンや薬が出来てほしい。
- 経済の援助。
- 一人住まいの方々は対話が必要と思う。
- 高齢の方は、自分はあまり出歩かないから大丈夫と思っている節があるような気がします。お店などの入口にある消毒もサッと通り過ぎたりする方や、マスクをしても耳が遠いので仕方がないのかもしれませんが、お店の中で大声で話していたり、手袋であちこち触って、スーパー等の食品なども手袋のまま触って選んだりします。身を守る為に、何が有効で何が有効ではないのか、よくわかってないような気がします。それが、だんだん格差が激しくなっていると思います。病院から帰ったらシャワーを浴びるのは大変でも、きちんと手を洗ってうがいして顔を洗って着替えましょう、くらい、個人的に薦めても無視をされるので、行政が動いて下さると、身を守る意識の格差が少しはなくなると思います。
- PCR 検査を気軽に受けられる様にしてほしい。助成金を出してほしい。クリニック等で受けられる様、整備してほしい。
- 陽性になった場合、分かりやすく早急に対応してほしい。一日でも早く無償でコロナワクチンを供給して頂きたいと思います。このまま感染者が増え続けていった場合、早めに自粛体制に戻った方がいいのではないかと思います。
- 民生委員、児童委員定例会では、コロナ対応で担当する方達にお会いしないでと伝えられたが、本当に会うことが必要な方たちにどのような接し方をすべきかを示して欲しかった。(お手紙のポスティング、電話はしていましたが) 長引けば心は病んでいくと思います。
- まだまだ分からない事が多い中、民生委員の活動も個々の判断によるところが多いです。きちんとしていた指針があればいいと思う。こんな時だから、これからいろんなことが少しずつ分かり、対処できる事も解ってくると思う。行政の指針等に期待しています。
- 感染拡大防止の為、濃厚接触者だけでなく、誰でも PCR 検査が無料で受けられるようになってほしいです。
- PCR 検査を受けるための情報、市内のコロナ患者(入院者、自宅待機者)の現状情報の発表。
- 誰にとっても、人生初の感染予防の毎日を過ごさなければならない日々が続いている。家の中に引きこもる事は仕方がないが、会話のない生活は認知機能の低下につながるので、近くのサロンを再開してみるのもそろそろいいのではないか? 三密は避け、マスク、消毒は必須が新日常と言う事で、徐々に慣れてゆく方向でどうでしょう。
- コロナウイルスの感染拡大の啓発は多々あるが、熱が出た時の受け入れ病院が不明。ホームページのセンターに相談しても「様子を見てくれ」の一点張り、病院を案内する所ではないとまで言われるらしい。熱が高い時、病院の案内をする。PCR 検査の案内をする。病気を診てくれる病院の案内をする。この一番不安で大事な問題を行政は確立してほしい。



- 三密にならない所、日常生活で少し安心な場所、高齢者の方でも行くことが出来る方法や、ちょっとしたアイデアを広報等でお知らせ下さればと思います。
- 第 3 派のコロナ発生がこの秋以降起きた時、ウイルスに感染した人の家族に対する予防対策をどのように行うか示してほしい。ウイルス検査だけをおこなう医療機関を作ってほしいし、ホテルではなく病院もしてほしい。
- 高齢者の外出自粛が長引く中、何か楽しく毎日過ごせるもの（事）があれば。
- コロナウイルス感染拡大防止を図るうえ、何もかも中止となる事が多い中ですが、最大限の対策を取ったうえで、困っている人達の話し相手、活動（調査）はこのコロナ禍だからこそ私達はすべきだと思っています。まして新委員が多い今年度は感じています。
- イベントや会議、行事等、中止になる場合は早めに連絡がほしい。もっと医療機関でPCR検査ができればよい。
- 行政も大変だと思いますので、協力は無理かと思います。
- 生活がっぱいの老人一人暮らし、クーラーもなく家も古いとか、布団の中で寝てばかりです。買物で足の運動をしているとか、夏は暑さで外にでて木陰で涼むらしい。熱中症の心配、これからは寒くなるので風邪が心配。そんな人にはどう提案したら良いのか？
- コロナが発生して困ったことは、マスク、消毒液等がなかなか手に入らず、高齢者等に対策が出来なかった。
- 情報はTV等に入ってくる。行政側は心配な点は理解できるが、過度な自粛要請はかえって不安が増す。高齢者は自分の事は良く分かっている。
- コロナウイルスに関する、正しい情報が地域に伝わってこず、上尾市として、今どうしようとしていることがわからず、より不安になった。情報発信の方法をHP、SNS、広報（内容に緊迫感がなかった）だけでは、伝わらないので、より丁寧な対応をお願いしたい。
- 調査について通常の方法ではなく別の方法で実施しても良かったのではないかと。ポスティングさえ接触を嫌う方も見受けられたが、郵便という手段で時期をずらしても実施する必要があると考えます。
- 全ての人にPCR検査が出来るようにしてほしい。
- コロナウイルスの状況、推移、重症者、軽症者などインターネットを調べずとも情報が得られるように、公民館・支所などに数字掲示出来れば、インターネットを使用しない方にも情報が行き渡り、予防対策の意識向上につながるかも。
- コロナの影響で商売や会社が上手くいけなくなり、生活が苦しくなっている人がいると思います。何らかの助けをお願いしたいと思います。
- 定例会にて行政からの配布物がありますが、枚数がいつも不足しています。対象者（単身者、高齢者夫婦）全員に行き渡る枚数を増やして欲しい。
- 感染防止の為、安否確認、リーフレットの配布等、電話等で済ませて訪問しないという行政からの指示でしたが、民生委員は地域の皆さんに寄り添った活動を望まれていますので、急に顔をださないという事に不安があると思います。電話が来て多忙です。行政として、イラスト入りのコロナ対策とか、症状に不安のある場合どこへ相談して下さい等のアドバイスの、リーフレット等配布できるものを作成して頂くと有り難いです。埼玉県で出したリーフレットにコロナの心配、不安のある方は〇〇へTELして下さいというのがありました。とても親切だなと思いました。（でもTELが混んでいてつながりませんでした）

- 民生委員も高齢者との接触が多いので、高齢者を見守る点から PCR 検査をする対象としてほしかった。
- 感染者数が新聞で発表され毎日のように増加しているが、完治した人数が発表されないので不安をあおるばかりである。PCR 検査もどこで行われているのか、どのくらいの日数で判明するのかなど市民が知りたい事が、伏せられているように思う。
- 行政、指導で進めて下さい。
- 福祉活動に関わる皆様のご苦勞は大変なものとお察しいたします。要望はございません。皆様お体に気を付けて頂き、行政と私たち市民と力を合わせてコロナウイルスに勝たねばなりません。民生委員も気持ちを引き締めて、協力をしたいと改めてお約束をします。
- 感染拡大を防ぐために、アッピー元気体操やサロン活動ができなくなり、高齢者が参加する場所が無くなりました。それにかわる事を考え、実行してもらいたい。
- 昨年末新任の民生委員です。災害時要援護者の方がかなり多いです。9年前の東日本大震災時、前任者の方は一日で見守られたそうですが、その当時に比べて高齢者の数（単身者も）は増えていると思います。コロナ禍の中、安否確認、諸対応できるか悩みます。
- コロナウイルス感染疑いのある人は早めに PCR 検査を受けさせて、感染が拡大しない様に隔離する事を優先させてほしい。
- 金銭的に困った状態になってしまった方がいらっしゃるのではないかと思います。ご本人たちからは（誰からも）相談はありません。かといって、困っていませんか？と聞いて歩くわけにもいかず、心配しています。行政の側で納税の関係から困った状況に陥った方を見つける事は出来ないでしょうか？リストを頂ければ、最近どうですか？と訪問してお話を伺うとか、いろいろな案内を教えて差し上げるきっかけが作れるように思います。
- 正確な情報の提供。
- 皆で頑張りましょう。
- 感染拡大を予防するという事はとても大切な事だと思います。この時、命を守るという言葉がとても効果的であったと思います。ただ、自粛という事をどの程度に考えるかを私達一人一人に任せられたようで、その範囲の判断に迷いました。それに伴って責任も負わされたような気がしました。もう少し明確な指針があっても良かったと思います。
- 大勢の方に PCR 検査を実施してください。
- 行政からの自粛解除を望む。地域での集まり、サロン等は①除菌体制②マスク着用③ソーシャルディスタンス④換気など、最低限度の配慮したうえで実施する事を条件に。地域の見守り体制は民生委員だけでは限界に近いものがあると感じている。
- コロナ禍のもとでも出来る事を行政からどんどん発信してほしい。
- 活動に必要な情報は的確に速やかに伝えて（知らせて）欲しいと思っています。
- コロナ対策でなんでも中止でなく、出来る事はしてほしい！
- 高齢者の皆さんはお友達にお会いしたい。会えなくて寂しいとのお声を聞きました。
- 新しい人と人とのふれ合い。
- ①民生委員の定例会議に行政の担当者（市、社協等）の情報がほしい。（他地域の情報、市の施策等）
  - ②コロナウイルスの陽性者数等は発表があるが、陽性になった人の分析結果（主要因、男女別）などがあれば、公開してもらいたい。…特に高齢者の生活上の注意点など。

- 各地区のいきいきクラブで積極的にグラウンドゴルフ等の集まりを行っておりますが、高齢者ですので自粛するように通達してもらいたい。コロナを軽く考えているようです。
- 国、県の方針が優先。市、行政、独自の事は難しいのでは、感染（陽性）らしいと判断された時の受診できる医療機関、保健所等の紹介がスムーズに、家族や近親者が差別を受けたりすることが無いように。
- コロナ禍、面談や訪問、集会活動等を極力避けて各事業を進めて頂いておりますが、その対応に一貫性を欠く場面も時折見かけます。是非、横の連携を密に取りながら行政指導をすすめ、同一場面では同一歩調で関係機関が対応出来るようお取り計らい願います。
- マスクの配布など。
- 道路にマスクが落ちている事が多いが、感染してしまうか心配でそのままにしてしまう。どうしたら？
- 新型コロナウイルス問題の長期化により、これからの展望をはっきりと示してほしい。
- 私の担当地域に関して、マスク、三密、うがい、手洗いを徹底された人々が多かったので助かりました。市長のテレビの影響が効果的だった。
- 啓発チラシ等は最低一人30枚以上欲しい。直接面談できないので、せめてチラシのポスティングで民生委員の存在をお知らせしたい。
- 対象先へのコンタクトをとるグッズなど考えてほしい。
- 発生状況や発生場所等についての情報をもっと発信してほしい。
- アッピー元気体操も長い間中止になっている。こんな時だからこそ違う形で高齢者をフレイルから守る活動があってもよいのでは。すべてのイベント（公共的）を中止するのは簡単であるが。
- 問14で記したことでの協力提案なのですが、行政からのチラシは担当者との世帯数分希望します。（自分は不足分をコピーしています）（連絡すればよいとのことのようですが、その間はないです）更に手書きしている「民生・児童委員」の文字を紙面の端に印刷して頂けませんか。氏名は各々担当者が書くか、押印すれば良いと思います。（民・児委員経由で配布するもの）ゴム印でも可能ですね！
- 発生地域の情報の開示して頂くことにより、二次感染が予防出来るのではないかと。
- 発生情報を知りたいです。（私は上尾市コロナで検索しています）
- 新型コロナウイルス発生場所。プライバシー保護が必要であるのは分かりますが、発生エリアが分かると活動がしやすいと思う。
- 会議や活動のスタイルが様々変化したが、それによって改善されたことや問題点も明らかになった。改善すべき点はこれを機会に勇気を持って変革してほしい。例えば日帰り、一泊研修などは、別の研修の形がこれからの民生委員の活動にはふさわしいのではないだろうか。
- マスク着用の徹底強化。（アリオ、コンビニでマスクをしてない人を見かける）
- アッピー体操のテレビ放映が再開されました。前向きに利用されている人が多くおられることと思います。手軽に栄養とれるレシピ（サバの缶詰を使ったレシピ等）脳トレ、読本のようなのを配付してはどうでしょうか。
- ①政府から配布されたガーゼマスクを上尾市に寄付したところ丁寧なお礼状とシールが送られてきました。その手間と費用を本当に必要な方のために使っていただきたいと思います。  
②PCR検査を無料又は安価で受けられる様、努力して頂きたいと思います。
- 上尾市がさいたま市を除く近隣の市の中で比較的感染率が高いのをどう考え対策しているのか。

- ①見守り活動が出来ない（単身調査含む）…緩和してほしい。
- ②自分の担当地区の人の様子が分からない。
- ③ご近所の方が気付いて連絡くれた…確認後急速に悪化し入院中。役所は実態調査もせず私に TEL 確認のみ。要介護の認定も「えっ」と思われる程、机上の処理でなく実態を把握しに出向いてほしいです。
- 民生委員より行政の方々と訪問していただけたら本人への説得力は十分を思います。是非安心出来るよう、訪問してほしい。また本人が感染してしまったと苦しんでいる人への対応を考えてほしい。うつ病になっているからと言うだけでなく、自費でも受けられたら 2~3 ヶ月も苦しまないで済むと思います。
- 一人暮らしの高齢者が孤立してしないようにしてほしい。
- PCR検査の無料化。
- ワクチンが開発された折には、誰もが受けられるように援助をお願い致します。
- 今まで行政主導で行われていたことは、工夫をしてまた再開して頂きたい。難しいことだが、年寄りの方々は家から出て、他の皆さんを会うことによって元気が出ている方も多いです。密を避けて出来る方法を考えて頂きたい。
- 各関連部署との連携は以前からするととても良くなり、相談者との問題解決は良くなったと思いますが、反面、民生委員の手から離れて関連部署の方の方に移ると、情報は一切頂けません。（施設入所、入院、死亡のこと等）個人情報という事でしょうが、見回りを続けてきた方の最期等を噂話で聞いたりすると寂しさやむなしさを感じます（コロナとは関係ありませんが）。
- マスク、うがい薬、消毒液等、早く出してほしいです。
- 今のところ、担当している方は気を付けて生活されているようです。今年は無料で 65 才以上のインフルエンザワクチン接種、とてもいいことだと思います。訪問しながらお勧めしていきます。
- マスクや消毒液等の衛生用品を介護、福祉施設に充実させてほしい。
- 情報共有のあり方。老若男女でも分かりやすい行政からの発信。
- 問 14 の続きで、この度民生委員が代わりました等、高齢者宅へのお手紙とかがあってもいいかな？と思った。
- 手軽に簡単に早く手頃な金額で PCR 検査の充実。明確な検査場所の周知。
- 感染防止のため外に出づらくなっているの、工夫して公園や大きな施設を開放して交流できるといいなと思います。
- 今まで通りにやってほしい。
- 問 14 に関してサロン等を 3 密を避けながらどのように行ったら良いか指導してほしい。
- ①新規感染者は 7 月 23 人、8 月 33 人、9 月 6 人に対し、10 月は 17 日現在で 23 名と増加傾向にある。
- ②新聞や市の HP でもどの辺で増えているか全く不明で注意のしようがない。大きなくくりでの地域を示すことは出来ないか。
- ③対策本部も設置されているが、議事録を読んでも単に報告会になっている気がします。また 8 月 31 日以降開催されていませんが、何故でしょうか。
- ④HP を見られない高齢者はどのようにして不安を解消するのでしょうか。
- 近くの病院や保健所でも単身者や高齢者が近い所（地域）を教えてください。もしかかかってしまったら。

- コロナの渦中にある今、自分自身の行動自粛することが社会貢献の一つと思っています。リスクは自分持ちですから、協力や提案は全体を見渡す余裕がなく思い浮かびません。
- 広報に〇〇調査が今年では中止になりました、という掲載は見かけますが、例年のように民生委員が訪問出来ないことももう少し書いていただけると有難いです。
- 新型コロナウイルスに感染してしまった時の対処の方法等、具体的に教えてほしい。
- 今まで通り定例会で色々教えてもらいたいです。
- SNS を利用している人に届く、日々のコロナ情報が、SNS を利用していない人たちにも届くような対策をしてほしい（情報格差が大きすぎると感じる人が多いので）。
- 民生委員として必要かつ適切な情報の提供。
- 公民館活動が復活できる様、体温計の配布など地区単位に送ってほしい。
- コロナ禍で民生委員としての訪問活動が出来ない状況の中、感染防止の注意喚起を手紙にしてポスティングしてきた。今後第3波ともいえる感染拡大が懸念される昨今、行動、環境、生活の仕方、感染が疑われる場合の対処など高齢者にも分かりやすいパンフレット等を作成して頂き、民生委員活動がよりスムーズにいくように協力をお願いしたい！
- マスク、消毒液の備蓄。
- 薬やワクチンに期待しておりますが、委員さん自身も模索しながらの活動です。止むを得ず、しなくてはならない行事でも、万一のことを考えると責任の取りようがありません。せめて上尾市からの指針を示していただき、文書でいただけたら嬉しいです。
- 拡散防止と予防(衛生)用品備蓄を図る。冬季に発生するインフルエンザとのダブルが予測され、その情報に素人には疑問となり不安が多くなる。
- 必要な情報の提供をお願いしたい。見守る上で大変重要です。特に災害の時に誰から助けに行くかなど、防災上もやっているのだから常に考えています。
- 一人暮らしの認知症の方や何かの連絡(例:介護施設へ入所している方)に連絡しようとしても、連絡が取れないので包括に聞いても教えてくれないので、個人情報も大切ですが、見守りとして何かあった際に連絡が出来ないので。
- PCR検査の充実。世帯1人無償で検査。
- 感染の注意と民生委員としての役割の見守りの難しさがあることを痛感した。
- 高齢者のお祝金をお届けした際、大変感謝されました。行政の協力はこれからもしていきたいです。
- 先日、コロナ対策として、消毒液やマスク等購入金をいただき助かりました。(ポスティング等の時に持参させていただいています)★具体的な「訪問マニュアル」を示していただくと参考になります。いつまで「訪問しないでください。ピンポンしないでください。」というのですか？外から見てその家の人の様子など分かりません。
- ①しっかりいつでも無料でPCR検査等受けられる様！行政の責任です。  
②民生委員も安心して活動できるためにも。
- コロナ禍での特別給付金は振り込み出来て、敬老祝い金1万円が手渡しというのはどんなものか。考慮願いたい。
- アッピー体操やサロン活動等が長い間中止になっていますが、コロナ禍でも再開出来るような方法を検討して頂きたいと思います。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 上尾市内は災害が少ないので、災害時の避難マップ作成が遅れている（無い所も）。早くマップの作成を指導してほしい。該当者にも周知してほしい。
- 地域の役員以外の方でも良いので、地域のリーダー的存在の人の育成が必要なのでは。
- 地域が活性化するには、何か魅力ないとだめだと思います。地域でのお祭り、納涼祭等、一つの場所に集えるものが必要と考える。最初は大変かもしれないが。
- 地域包括支援センターの活動に感謝します。
- それぞれの分野で相談したい項目ごとに相談窓口と電話番号の図表を作ってもらえると、地域の方々も民生委員もわかりやすい。
- だんだん感染者数が増えています。外出したら、どうして手洗いうがいが必要なのかわかっているはずですが、今まで平気だったから以前の生活様式を繰り返している方は多いです。集会所のイスや机を使ってもふかないで片づけるなんて普通に行われるので、私は騒ぎながら一人で消毒液でふいています。そのままの人ばかりだと、希望があっても、集まって何かするという楽しみは、いつまでたっても企画できません。自分の担当の方がコロナになったら、それが自分で企画した何らかの催しだったとしたらと考えると、私は責任を取れないのでサロン会などは再開が難しいと考えます。個人個人がきちんとしていないなあと感じる現在、まずは個人の意識を高める事が一番大切だと思います。何らかの集まりを再開するには、それをクリアしないと責任を取らなければいけなくなると強く、強く思っています。又、コロナの人を出してしまったら、住み続けることが難しくなって、転居をしないといけないかもしれません。私が住んでいるところはそういう地区なので、再開、再開と焦らないで欲しいです。
- 民生委員活動とは関係ありませんが、家族に病気から障害者になったものがおり、いろいろな手続きで市役所へ何度か足を運びました。思っていたより色々な支援があり、医療費などの面でも助かっています。手続きでも職員の方がすぐ調べて下さり、対応して頂きました。ありがとうございました。福祉関係は多くの問題があり、新たにコロナ対応等、お仕事が増え、大変かと思いますが、市役所・社協には頑張ってもらいたいと思います。私も地域から見守りを頑張ります。
- 誰もが住みやすい町づくり地域にするには、一人一人の意識が大切。お互いさま、助け合いという気持ちがないと難しい。道路や公園にゴミが捨てられていたり、特にコンビニ周辺道路はゴミが捨てられていることが多い。皆が協力して、誰もが住みやすい町づくりにしていこうと色々な角度、方面から住民に働きかけ、色々な人の関わりづくりが大切だと思う。自分さえよければという自己中わがままな大人にならないように、小さい子供の時の教育も大事。誰もが住みやすい安全安心なまちを願います。
- 商業施設が家より離れた所に出来ている。車でないと不便なので交通網をもう少し多くしてほしい。近くにはドラッグストアばかりで食品の入手が難しい。
- 行政がいくら方針を出し、地域におろして来ても、地域の日常が「隣近所」のお付き合いが出来ていないと難しい。「昔ながら」を現代社会でどう取り入れていくかが問題だと思う。一番簡単な挨拶、立ち話が一番難しい時代です。
- 市の防災、お知らせの音が割れてしまいよく聞き取れない。
- 民生委員活動と自治会活動の一体化。

- 学童（小学生）の通学路、生活道路での車のスピード→道路にスピードを落とす工夫をしてほしい。
- この先 30 年の間に大きな地震が発生すると言われています。防止体制、地図、近所の助け合いが必要ですので、一刻も早く取り掛かって備えてほしいです。高齢者、乳幼児を抱えた家庭が、どのように行動すればいいか、行政としてどのような策を講じているのか示してほしいです。電気、水道、下水道、道路の問題など多岐に渡ります。
- 毎日の生活が精いっぱい、他人の事は構ってられない時代で寂しく思います。町会の役員も毎年同じで活性化されません。もっと魅力ある地域になる方法を知りたいです。
- 上尾全般を見た場合、〇〇地区の遅れが目立つ（全てに）。早急な開発を望む（地域の協力を得て）。
- 情報を沢山発信して、お付き合いが活発にできる日常になればいいかと思います。
- 人の人格の向上にあると思います。→愛
- 地域全体で高齢化が進み、今後長いスパンでの展望が描けない。自治会役員の担い手も不足し、活動規模を縮小せざるを得ない。
- 自治会での見守り活動が全く進んでいません。会長の力により各自治会の差があるように思います。
- 世帯数が多い所には、民生委員の数も増やすこともやってほしいと思います。高齢化が進むばかりですから、少し見直しも考えてはくれないですか？一人暮らしの人は、本当に不安を考える時があると思います。そんな時どう対処したら連絡が出来るかを考えた時に、個世帯につながりがある、お互いに話が聞ける、相手の様子も解るような器具を考えて設置できれば良いのではと思います。
- 子育てしやすい、そして高齢者が安心して暮らせることが。単身者が増えている感じも受けるので、やはり不安が？これから東北大震災のような災害が発生した時、対応できる施設等の整備があれば安心。
- 益々高齢化が進む中、住みやすい街づくりは①福祉②防災（いつ、なんどき）に尽きる。→誰が誰をどんな方法で避難させるか決めておく様な地域風土の醸成が不可欠。→お互い様の精神→誰しもがいずれ行く道で自分事と考える→このことを一歩ずつ詰めて行く事だと思う。
- 誰のところに常に視点が置かれて考えるように、意見を聞く努力をしてほしい。「住みやすいまち」にするためには大元で何が大切なのかをおさえて、考えていく必要があると思いました。
- グルット君がもっと頻回に動いてくれるといい。車の運転をしなくなると行動が出来なくなる。福祉タクシーの充実も検討してほしい。
- コロナが早く終息する様願うばかりです。
- 住人同士の絆が薄れ、あるいはなくなってきていると思います。家族そのものも絆が失われている事が多いようです。そして、それが特別な事ではなく、お互いに無干渉しているのは普通の様です。心痛む由々しき状態です。家の中でさえそうなのですから、世間一般、それこそ隣は何をする人ぞで、お互い無関心になっていると思います。そこを何とかしなくては、と思います。
- 対象者自身も困っていることがある時連絡してほしい。ふれあう機会が失われている今、声を上げてほしい。受け付ける窓口を作り、誰もが利用できる事を周知してほしい。

- 県内で100万ドルのコスモス畑とか、向日葵の迷路とか、芝桜等で集客している市町村があります。又、足利学校の近くの古印最中は足利学校についてという事もあるのですが、銘菓になっていて多くの人知っているのではないかと思います。上尾にはこれというものがないですね。美術館なんてお金のかかる事は申しません。上記の様なアイデア次第で、可能な事で集客できる事業はないものではないでしょうか。
- 住んでいる地域の自治会活動を充実させる。住んでいる家の隣家（両）との関係がよくなれば、お互いに見守り等、助け合いが出来る。
- ・ごみの集積時間、場所のルールが守られず、カラスにより散らかり汚れている所もある。軒数が多すぎてあふれていたり、高齢の為に前日の日中に出したりしているところもある。
  - ・地区の人々が懇親を深めたり、地域の一員としての自覚を高めたりするための地域の行事（盆踊りや公園での運動会など）が、苦情などを理由に実施できなくなっているのを嘆く声を多数耳にする。
  - ・地域のお助け隊として区長を始め、何人もの人がボランティアで地域の困りごと（木の剪定）を解決しているが、要請は少ない。
- 挨拶のある明るい社会。
- 高齢者がボランティア活動に参加し、高齢者を支えている事は有り難いことですが、今後は若い方にも積極的に支えてもらえる仕組みを作っていくて頂きたい。
- これから寒くなり、外出散歩も少なくなり、孤立が多くなると思います。その対策に力を、考えを、是非協力お願いします。
- 隣近所が孤立しないでお互いに見守りしながら暮らしていければと思う。助けが必要な人がいたら温かく手を差し伸べてほしい。
- たまに広報に載せるとか、回覧を回す等ではなく、一家に一枚（又は一冊）置いておけるような「困った時の問合せ先リスト」のようなものを配ってはどうでしょうか？厚手の行政に関するものはあっても、ページがたくさんあり、自分の思う所にたどり着くのが大変なのでは？と思うので。ピンポイントで例えば今なら「コロナで困ったら」で、身体編、お金編、とか生活の中で「父が離職した時は？」「給料が下がってしまったとき」などの項目で、Q&A みたいに問合せ先をお知らせしてみるのはいかがでしょうか？もちろん全ての事に行政が保障できないでしょうし、する必要もない事もあるとは思いますが、せめて問合せの道しるべだけでも知ることが出来れば、住民としてはとても心強いと思います。
- 防災では被害の規模、頻度から水害対策が一番重要。ハザードマップの周知徹底がなされていないと思う。特に危険地域に住んでいる人々には。
- 各地区の図書館の充実をお願い致します。
- 原市全区において「小さな助け合い運動」を実施。少しずつであるが実績へとつながってきている。しかしまだまだ地域への認知度が低く、今後の工夫が必要であろう。小さな助け合い運動と重ねて地域の見守り体制の確立も急がねばならないと思います。11/7の地域福祉懇談会は貴重な時間である。地域の事は地域で取組む、住んでいる人が一番何が必要なのかわかっていると思う。



- 高齢者に達していない60歳の人の相談（かなりシビア）を市役所にしたら、電話の係の人が違うとたらい回し。アンケートで相談できるように確立してほしい。児相も近所からの通報で子供の相談をしたら全くやる気なし。絶望的対応。誰もが住みやすいまちづくりは、あまりにきれいごとのキャッチ。
- 敬老会について、コロナで中止となり品物だけになりました。友達同士で会う事も出来ず、残念だったと思います。せめて敬老の人の名前でも出してくれたら、嬉しく思うのではないのでしょうか？
- ①高齢者は買物、病院に通う足が困難になってくる。これをなんとか希望に添えたらと思います。  
②公民館、集落センターは遠くて歩いていけない。小集団で近い場所で月一回くらい集まってお茶飲みができればいいと思います。  
③共助 - ご近所の方が一番お隣の生活の様子がわかるので、仲良く助け合って生活が出来たらと思います。
- 町全体が公園の様な都市。緑 - 水 - 健康。自然との調和を大切にした都市を基調とした都市に、長いスパンで考えていく。
- 住みやすいまちづくりを進める為に、誰でもどこでも挨拶が出来るまち。（特に若い人や、学校の生徒（中学生以上）が挨拶しない）  
※学校等や職場でのあいさつがないので必要と思っていない→挨拶を交わすようになれば話しをするきっかけになり、お互いの気持ちが分かり合える→困った人がいればお互いに助け合う心がわいてくる→防犯に強いまちづくり=住みよいまちづくり。
- 単身高齢者、高齢者世帯の調査については、各地区の民生委員の判断で行った方が良くと思います。
- 現在の様な少子高齢社会の人口が減少して行く地域では、75～80歳以上の人達が増加し、長い間築いてきた社会制度が崩壊しようとしている。法の改正で対応できない事を、今日が何とか過ごせればよいということではない。将来展望の危機感、市にも自治会にも感じられない。地域では高齢世帯に関する活動のみで、低所得児童、障害母等が見えにくい。近隣に幼児童がいないので人口構造が何か変。次世代を担う人の地域参加しやすい方法を。どの組織もほとんど同じ人が活動の中心である。不安が全てではないが、希望と期待が少ない。
- 市町へのハガキ制度はありますが、内容が伝わってきません。現代的な目安箱の設置（各地域）はいかがでしょうか？（自由意見）
- 町づくりは全体で考えなくてはいけないし、行事があっても出る人はいつも一緒だし、出ない人は誘ってもいつも出ないし、そのような人を積極的に集まれるような町づくりで、楽しく、喜ばれる町にしたいのですが、難しい。
- 情報共有が持てる手法を考えて進めていく。他を思いやれる人材の育成（各世代で）。
- 地域の方が気軽に交流出来る場や環境をもっと充実してほしい。
- 個人のプライバシーの兼ね合いが難しい（個人情報）。その方をもっと知っていれば違う援助が出来たかもしれない。知らなければ通り過ぎてしまうのは仕方がない。もっと高齢者を外に出し交流があっても良いのでは。身体的にも精神的にも外に出るキッカケ、手段がない。高齢者のサービスには公平不公平があると思う。いつもサロンなどに出られる方は決まっている。田舎のお隣さん同士は連れ立ってサロンや体操教室、お茶会などに出席しているうらやましい村もある。

- 民生委員になって感じ知ったことですが…
  - ① 包括センターの方が本当によく動いてくれています。
  - ② 社協の人たちがどれほど仕事はいえ、気遣って寄り添っているにも関わらず、周りが余りにも社協の存在を分かっていない。勿体ない。もう少し社協を簡単に易しく説明し、どのくらい皆さんを助けているか教えるべきではありませんか。
- ご近所同士の結束が何より大切だと思います。新しい住宅やアパート等に住まわれている方には、どのようにつながっているのか見えないような気がします。
- 個人情報保護が先行し過ぎて、本来の高齢者見守り活動すべきことが情報不足となっている。
- 安全の確保が重要と思っています。関係機関が情報や考え方を共有し、適切な連携の下で対応出来る地域ネットワークの一元的に把握、対応出来る機関が必要だと思います。プライバシー保護を考慮して情報共有化、在り方の明確化が条件。
- 地域の町内会と連携し、具体的な地域を支える仕組みづくりの取り組みが必要かと思っています。地域住民の声を集め、各個人の意見、悩みをまず知る。出来ることから出来る範囲で取り組んでいく仕組みを作る。
- 文化センターやコミュニティセンターの改装工事に多額な費用をかけていますが、それほど改装が本当に必要なのか理解できません。また、国際基準を満たすプールを作る計画があると聞いていますが、必要ないと思います。資金を回していただきたいのは子供や高齢者、生活困窮者の為です。目立たない分野にお金を使ってほしいです。公共交通の環境も整えてほしいです。車を手放した後、通院や買い物など日常生活に不可欠なことをどのようにするかを考えると、現状ではかなり不便だと思い、なかなか車を手放せない高齢者が多いと聞いています。
- 高齢者になっても心配なく外出や買い物が出来る町になれば良いと思う。
- コロナの影響で、高齢者になるべく人との接触を避けようとしているため、見回り活動をしていても、家にいるのかいないのか分かりづらく、活動も少し控えめになってしまう。何か良い見守り方法がないものかと心配。
- 挨拶は大切だと思います。噂話はしない！！自助、共助、公助の心構え。
- 民生委員は困っている方々を行政、他に繋ぐ役割として今まで活動してきました。しかし、私も限度があり、次の方々へ民生委員をしていただきたく声かけをしてきました。しかし成り手不足で困っています。何か方法はありますか。
- 上尾市全体の底上げをしていくのは大切なことですが、私たち一人一人の感じるところは身の回りの住みづらさ、不便さです。地域によって住みやすくなるために取り組まなければいけないところはそれぞれ違ってきます。もう少しきめ細かな所での（地域別等の）住みやすい町づくり案もあっても良いのでは？
- このアンケートを集計し結果をまとめ、その後の効果的な発展につなげてほしい。
- 自分が町内のいきいきクラブに入っていて、グランドゴルフ、女性部、カラオケクラブに参加し、1週間に何度も顔を合わせています。今年はコロナの為に大会やイベントが中止となり残念ですが…毎週の団欒の家に担当している方々を誘うようにして楽しんでもらっています。民生委員の方にも積極的に入ってもらえたら！と願っています。
- 地域で住民参加の行事を計画しても、新しいメンバーの参加がなく、いつも同じ人たちだけになってしまう。1回参加してみれば、楽しさや有意義なことも理解してもらえると思うが、なかなか難しい。本人が必要感を持たないと、参加者は増えないと思う。

- 現在、自分たちの生活で精一杯な中、長についている方も大変だと思うが、もっと町内会、行政、子供会、学校など助け合って共有していけたらいいと思う。
- 早く交流が持てる体制が出来るといいですね。町内サロンや、子供会、祭りなど、世代を超えた交流、コロナ禍の中、今は出来ないですが…。地域の交流する場所などに、公的機関が金銭面での支援も必要だと思います。
- 私は長年民生をやらせていただきましたが、あまりキャリアがなくても出来るようにしないとやり手がないように思います。近くの市町村とも参考にして、やり方を変えていってほしいです。次の人が決まりません。(私はあと2年で次の方をある程度お願いしてあります)
- ①各方面からの意見や要望を基に、第3次計画、第6次活動計画を組み立てるとは思いますが、大項目に対して、中項目、小項目を出来るだけ、具体的な数値目標に落とし込み、PDCAを3ヶ月、少なくとも6ヶ月で見直し、本来の意味でサイクルが回るように努めて頂きたい。  
②住民一人一人が本当に自分たちのために考えていると感じるのは、トップ(=市長)の持っている情報(考え、思い)が、同じレベルで出来るだけ早く伝わってくることです。そのためには、市のスタッフの皆様の意識も変える必要があると思いますが、本当の意味で一丸となった時のパワーは、計り知れない効果につながると思います。宜しくお願いします。
- 地域ボランティアを増すことで、地域の活性化を図り、近所付き合いを良くする。
- 市内で人気のある所は丸山公園を挙げる人が多いですが、残念なことに交通が少なく、ファミリーで車で行けない人は、なかなか行くことが出来ません。紅葉、花の季節に期間限定でバスを出していただくと、生活の楽しみが増します。世代別に何を望んでいるのか、どうしてほしいのか、アンケート等で分かったら、具体化していくことが見えてくるのではないかと思います。その中でお互いに歩み寄り、接点を見いだしていければ答えが出るのかなと感じます。まあまあと思う位がいいのかと。でないと、どこかの世代にしわ寄せがいきそう。
- 1人1人がほんの少しの思いやりと優しさを持って生活することで、街全体が穏やかで住みやすくなると思う。まずは自分自身からそれを実行していきたい。
- 1) 町内会に加入していないアパートなどでの一人暮らしの高齢者対策が必要です。(①大家さんと交渉して、町内会に全員加入させること。②アパート居住者の事情つかむこと)  
2) 災害時ケアプラン作成の取り組みが必要です。弱者支援のためにも、地域のプラン作りが急務を思います。行政任せだけでなく、「町内会もいきいきクラブ」も会合を持って、共に安心して暮らせる地域づくりに努力すべきです。
- ①それぞれの家庭の経済状況もある程度安定していることが大切ですが、お互いの気持ちを尊重し、思いやりのある言葉かけが大切だと思います。  
②最低限の衣食住が助け合える世の中になればいいですね。
- ①コンパクトシティー構想への転換。  
②高齢者に生きがいの為、仕事をやらせる。  
③高齢者が社会参加した場合、ポイントを付与して買い物に活用システムを作る。  
④住民の転入、転出の情報を民生委員にくるシステム希望。

- 人によって健康状態は違いますが、高齢者（元気な）が一人で暮らすことが出来ても、初めての挫折（病気は別として）するのが、足が痛くなり歩けなくなってくると買い物が出来なくなり、徐々に行動範囲が狭くなり外に出なくなります。せめて、日常の買い物やちょっとスーパーなどに気軽に出歩くための交通整備も急務だと思います。長年、民生委員活動をしてきて、一人で買い物が出来なくなった…という声を聞いてきました。この様に体操をして見て…とか筋力を使っ  
てとか言ってみますが、1人で生活出来ている自信はとてつもなく大きいと思います。
- 市役所など「すぐやる課」のような体制が必要と思われます。
- ①上尾市での新型コロナ感染の冬本番増加が予測され、かつ従来のインフルエンザも加わり大変な季節となりうると予測され、なお十分に防止対策していきたい。  
②埼玉県や上尾市の感染者が2次3次と増える傾向が顕著になり、高齢者の閉じこもりや、互いのコミュニケーション不足となり、認知症及び体力の低下により健康が不安視されるので、何とか活性化を図ってほしい。特に高齢者独居の方々の心身のケアを。また、県外からの就労者が多く、この状況では帰省もままならず、心配事を抱えることが多いと思われる。何かの心身の支えが必要であるかも。
- 今は1日も早くコロナが終息し、元の生活に戻れるようになることを祈っています。高齢者の憩いの場を復活させてあげたいと思っています。コロナにうつるな、うつすな、をモットーに頑張るしかありませんね。
- 年齢がいったからの民生委員。私より若い人のお手伝いでも引き受けたからには頑張ります。これからもご指導のほど宜しくお願い致します。
- 毎年のように大きな災害がある中、協力、助け合う体制作り。これは年齢には関係なく誰もが自分の問題として考えられるので進めてほしい。
- 自宅から担当が離れているので知らない人ばかりで、今年はコロナの関係で増々訪問がなく、大変困りました。やはり自分の住んでいる所をやりたかったです。
- 高齢化の中で、地域毎に「支え合いの会」の組織化が進んでいると思うが、その情報交換する機会、取り組み状況の情報交換、機会が欲しい。
- 地区において支え合いの活動を通してでも、家族の悩み等を気楽な気持ちで相談が出来る環境が整うと良いと思います。
- 公共交通網の充実。（車に乗れない人が病院に行くのも大変）

---

---

## VI. 調査結果のまとめ

---

---

以下に、このアンケート調査の結果をまとめます。前期の計画である「第2次上尾市地域福祉計画及び第5次上尾市地域福祉活動計画」における9つの取り組みについて、アンケートにご回答した皆さまがどのように評価しているか、という視点となっています。

(9つの取り組みに関する問は、市民アンケートの問37、福祉関係団体アンケートの問9、民生委員・児童委員アンケートの問13に対応しています。)

また、新型コロナウイルス問題についてうかがった結果についてもまとめます。

#### ■<1. 福祉サービスの利用支援>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第2位、満足度は第1位となっており、共に高い順位となっています。福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第2位、取組度は第1位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第1位、取組度は第1位となっており、市民アンケートとほぼ同様となっています。

市民アンケートでは、あなたやあなたの家族は、どの福祉サービスを利用しているかについては、「高齢者支援に関するサービス」が最も高く、前回調査と比べると、3.6ポイント増えています。

高齢者が安心して暮らすために必要なものについては、「在宅福祉サービスの充実」が5割強と最も高くなっています。

障害者が生きがいをもって暮らすために必要なものについては、「在宅福祉サービスの充実」が5割弱と、第2位になっています。

子どもが健やかに育つために必要なものについては、「安心して遊べる場所の充実」が6割半ばと最も高くなっています。

地域の課題や問題点については、「福祉保健サービスについて知らない」が3割弱と、第3位になっています。

地域でのより豊かな暮らしのために必要なものについては、「必要な情報を入手できる体制の整備」が4割強と最も高くなっています。次いで「支援が必要な人への支援」が3割半ばとなっています。

保健・福祉の情報で充実してほしいと思うものについては、「高齢者や障害者サービスの情報」が5割弱と最も高くなっています。しかしながら、年代別にみると、50歳未満では「子育てについての情報」、50～59歳と70歳以上では「高齢者や障害者サービスの情報」、60～69歳では「健康づくりに関する情報」が最も高くなっています。

福祉サービスに関する情報の入手先については、「市の広報紙、チラシなど」が5割半ばと最も高くなっています。前回調査と比べると、「入手していない」は2割強と、ほぼ同様の結果となっています。また、「インターネット」と「自治会・町内会・区会や老人クラブなど」は増えています。

福祉関係団体アンケートでは、すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「必要な情報を入手できる体制の整備」が5割半ばと最も高くなっています。

また、民生委員・児童委員アンケートでも、「必要な情報を入手できる体制の整備」が5割強と高く、第3位になっています。

## ■<2. 支援をつなぐ仕組みづくり>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第4位、満足度は第5位となっています。また、福祉関係団体アンケートでは、期待度は第3位、取組度は第4位となっています。一方、民生委員・児童委員アンケートでは、この取り組みの期待度は第2位、取組度は第2位となっており、重要な項目となっています。

市民アンケートでは、地域でのより豊かな暮らしのために必要なものについては、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」がほぼ3割と、第4位になっています。

不安や悩み事の相談先については、「家族・親戚」や「友人・知人」を除くと、「市職員・市の相談機関」が約2割弱と最も高くなっています。

上尾市社会福祉協議会に対して期待する活動や支援については、「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」が4割半ばと最も高くなっています。

高齢者が安心して暮らすために必要なものについては、「身近な相談窓口の整備」が3割半ばと、第3位になっています。

障害者が生きがいをもって暮らすために必要なものについては、「働く場の整備」が5割半ばと最も高くなっています。

民生委員・児童委員アンケートでは、すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が6割弱と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が5割半ばとなっています。

福祉関係団体アンケートでも、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が5割半ばと、第2位になっています。

さらに、福祉関係団体アンケートでは、「困っていることを相談できない人がいる」「地域から孤立している人がいる」が2割強となっています。また、民生委員・児童委員アンケートでも、「困っていることを相談できない人がいる」が2割弱、「地域から孤立している人がいる」が3割弱となっています。

## ■<3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第6位、満足度は第6位となっています。

福祉関係団体アンケートと民生委員・児童委員アンケートでは、この取り組みの期待度と取組度は市民アンケートと同程度となっています。

市民アンケートでは、地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」が3割半ばと最も高くなっています。次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が3割強、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が2割強となっています。年代別に見ると、70歳未満では「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」、70歳以上では、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が最も高くなっています。

福祉関係団体アンケートでは、福祉関係団体が市役所・社会福祉協議会に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が5割半ばと最も高くなっています。次いで「団体や活動についてのPR」と「経済的支援（活動資金など）」が4割弱となっています。

#### ■<4. 誰もが外出しやすい環境づくり>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第3位、満足度は第8位となっています。高い重要度に対して、満足度がやや低く、比較的優先的に取り組むべき項目であると考えられます。

一方、福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第8位、取組度は第9位、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第7位、取組度は第9位となっています。

市民アンケートでは、ふだん買い物（日常の食品などの購入）や通院、公共施設などを利用する際の移動手段について、不便だと感じることは、前回調査と比べると、「ない」が10.4ポイント増え、6割半ばとなっています。

不便だと感じることは、バスが少ない、バスの利便性が悪い、などの意見が多くなっています。その他、買い物、病院、公共施設等が遠い、駐輪場、駐車場が少ない、雨の日に不便と感じる、バスが時間通りに来ないなどの意見も比較的多くなっています。

地域でのより豊かな暮らしのために必要なものについては、「バスなどの公共交通手段の整備」がほぼ3割と、第3位になっています。そのほか、「買い物がしやすい環境づくり」が2割強、「公園や緑地などの自然環境の整備」「道路や建物のバリアフリー整備」が2割弱となっています。

福祉関係団体アンケートでは、すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「道路や建物のバリアフリー整備」「バスなどの公共交通手段の整備」が4割弱となっています。

民生委員・児童委員アンケートでも、「バスなどの公共交通手段の整備」が4割弱、「買い物がしやすい環境づくり」が3割半ば、「道路や建物のバリアフリー整備」が3割強、となっています。

#### ■<5. 地域における防災機能の強化>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第1位、満足度は第9位となっています。最も高い重要度に対して、満足度が最も低くなっており、優先的に取り組むべき項目と考えられます。

一方、福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第1位、取組度は第3位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第6位、取組度は第8位となっています。

市民アンケートでは、地域の課題や問題点については、「緊急時、災害時の対応体制がわからない」が4割強と最も高くなっています。

住んでいる地域のなかで安心して暮らしていくために、地域にある組織や団体に対して期待する活動については、「緊急事態が起きたときの対応」がほぼ7割と最も高くなっています。次いで「交通安全や防災・防犯などの活動」「子どもや高齢者、障害者に対する手助け」が4割弱となっています。上位の3項目は、前回調査と変わっていません。

地域の防災活動への参加状況については、参加していない人が7割半ばとなっています。年代別にみると、60歳未満で高く、8割以上となっています。

地域の自主防災組織への参加状況については、参加していない人が5割弱となっています。

地域の防災活動と自主防災組織への参加状況は、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

地域の自主防災組織への参加意向については、「わからない」がほぼ5割と最も高くなっています。

災害時に住民同士が協力し合えるために必要なことについては、「一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみんで考える」がほぼ5割と最も高くなっています。

福祉関係団体アンケートでは、すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「災害時における体制の整備」が5割強と、第4位となっています。



#### ■<6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保>

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第5位、満足度は第4位となっています。福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第4位、取組度は第6位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第3位、取組度は第4位となっています。

市民アンケートでは、地域の課題（ひとり暮らし高齢者の見守り、子どもへの虐待、孤立死など）を解決するにあたって、支え合い、助け合いが必要だと思うかについては、「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせた『必要だと思う（計）』が9割を超えおり、前回調査とほぼ同様になっています。

子どもが健やかに育つために必要なものについては、「地域での声かけ・見守り活動の実施」が5割強と、第2位になっています。

地域の支え合いや孤独死の防止などのために、支援者が必要な個人情報を共有することについては、「必要であれば共有してもよい」が6割強と最も高く、「あまり共有したくない」が2割弱となっています。年代別にみると、40歳未満の若い年代では「あまり共有したくない」の割合が比較的高く、3割以上となっています。

福祉関係事業所/福祉関係団体/民生委員・児童委員アンケートでは、個人情報保護法下での情報共有の難しさについての意見が上がっています。

民生委員・児童委員アンケートでは、民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることについては、「プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか戸惑う」「なり手が不足している」「担当地区で孤立死や、消費者被害などの事件が起こらないか心配になる」がほぼ5割と、上位3項目になっています。

上尾市社会福祉協議会の13支部で実施している「あったか見守りサービス事業」は、地域の中で浸透してきていると思うかについては、「浸透してきている」と「徐々に浸透してきていると思う」の合計が2割半ばにとどまっており、一方、「どちらともいえない」が3割弱、「あまり浸透しているとは思わない」がほぼ2割となっています。

十分浸透していないと思う理由としては、PRが不足している、という意見が多くなっています。

#### ■＜7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり＞

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第8位、満足度は第2位となっています。福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第6位、取組度は第2位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第4位、取組度は第3位となっています。

上記のように、市民の満足度は高くなっている一方、以下のように、地域福祉への関心や隣近所への結びつきについての項目は、前回調査と比べてほぼ同様の結果となっています。

市民アンケートでは、「地域福祉」という言葉の認識については、「聞いたことはあるが、内容まで知らなかった」が5割半ばとなっており、前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となっています。年代別にみると、70歳以上では「内容まで知っていた」が2割を超え比較的高くなっており、70歳未満では「知らなかった」が3割を超えています。

地域の課題への関心度については、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が7割弱となっており、前回調査とほぼ同様となっています。

身近な地域の人に対して「できる」手助けや支援については、「できる」で最も高い項目は、「安否確認の声かけ」、次いで「家の前などの掃除」「緊急時の手助け」となっています。前回調査と比べると、すべての項目で「できない」が増えている状況がみえます。ただし、「緊急時の手助け」と「防犯のための巡回」以外の項目では、身近な地域の人から「受けない」手助けや支援の割合より「できる」手助けや支援の割合が高くなっています。

近所付き合いについては、前回調査と比べると、「家族ぐるみのもとても親しい付き合い」と「ある程度親しい付き合い」の合計が5ポイント減り、その結果、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が増えています。年代別にみると、50歳未満の若い年代では「ほとんど(もしくはまったく)付き合いはない」の割合が比較的高くなっています。

#### ■＜8. 地域福祉活動の担い手の育成＞

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第9位、満足度は第3位となっています。福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第7位、取組度は第7位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第9位、取組度は第6位となっています。

上記のように、市民の満足度は比較的高くなっている一方、以下のように、地域活動への参加についての項目は、前回調査と比べてほぼ同様の結果となっています。

市民アンケートでは、地域活動等への参加状況については、「現在、継続的に参加している」「たまに、参加することがある」「参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない」を合わせた『参加したことがある(計)』は3割を超えています。前回と今回の調査では「取り組んでいますか」と「参加していますか」という質問の語句の違いがあります。これが回答に影響していないとすれば、今回の地域活動等への参加状況の割合は、前回と同様となっています。

今後の地域活動等への参加意向については、「機会があれば、参加してもよい」が4割強と最も高くなっています。年代別にみると、70歳未満では「機会があれば、参加してもよい」の割合が高く、4割以上となっています。

地域活動等に参加していない理由については、「勤務などの都合で機会がないから」が3割半ばと最も高く、次いで「時間がないから」が3割弱となっています。年代別にみると、18～39歳では「時間がないから」、40～69歳では「勤務などの都合で機会がないから」、70歳以上では「体調がすぐれないから」が最も高くなっています。

一方、「参加方法がわからないから」が2割強、「一緒に活動する仲間がないから」が1割半ばとなっています。

活動・参加の条件については、「活動時間や曜日が自由」「気軽に参加できる」「身近なところで活動できる」が上位3項目になっています。年代別にみると、18～39歳と70～79歳では「気軽に参加できる」、40～69歳では「活動時間や曜日が自由」、80歳以上では「身体的負担が少ない」が最も高くなっています。

趣味や特技については、「読書、音楽鑑賞など」「スポーツ、スポーツ指導など」「農業、園芸など」が上位3項目になっています。そのほかにも、市には様々な趣味や特技をお持ちの方がいます。

福祉関係事業所アンケートでは、地域福祉活動を推進する上で必要とする支援については、「補助金など資金面での支援」が5割弱と最も高く、次いで「他団体・組織との交流などの連携」が4割強となっています。

福祉関係団体アンケートでは、活動に一回だけでも気軽に参加してもらうことについては、「活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い」がほぼ4割と最も高くなっています。また、前回調査と比べると、「活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い」と「一回きりでもよいので、参加してもらえると助かる」の合計が15.0ポイント増え、ほぼ7割となっています。

活動を行う上で困っていることについては、上位の5項目は、前回調査と変わっていません。（「メンバーの高齢化」「新しいメンバーが入らない」「リーダー（後継者）が育たない」「活動のマンネリ化」「支援を必要とする人の情報が得にくい」）しかし、前回調査と比べて「メンバーの高齢化」が13.7ポイント増え、7割強となっており、「新しいメンバーが入らない」が10.7ポイント増え、6割弱、さらに「リーダー（後継者）が育たない」が6.3ポイント増え、5割弱となっています。

民生委員・児童委員アンケートでは、民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることについては、「なり手が不足している」がほぼ5割と最も高くなっています。

#### ■＜9. 活動団体への支援＞

市民アンケートでは、この取り組みの重要度は第7位、満足度は第7位となっています。福祉関係団体アンケートでは、この取り組みの期待度は第9位、取組度は第8位となっており、また、民生委員・児童委員アンケートでは、期待度は第8位、取組度は第7位となっています。

市民アンケートでは、今後参加してみたい地域活動やボランティア活動については、「地域を元気にする活動」が3割半ばと最も高く、次いで「特技や趣味を活かした交流活動」「周辺環境を整備する活動」が3割強となっています。

趣味や特技についてうかがったところ、市には、さまざまな趣味や特技をお持ちの方がいます。

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」が3割半ばと最も高く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が3割強、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が2割強となっています。

福祉関係団体アンケートでは、地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が5割弱と最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」も5割弱となっています。

団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が5割半ばと最も高く、次いで「団体や活動についてのPR」「経済的支援（活動資金など）」が4割弱となっています。ほかに「リーダーの養成支援」「会員募集の支援」がほぼ3割、「活動場所の提供」が2割半ばとなっています。

民生委員・児童委員アンケートでも、地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が5割半ばと最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」が4割半ばとなっています。

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「地域の人が交流できる場の整備」が5割強と、第4位となっています。

### ■＜新型コロナウイルス問題＞

市民アンケートでは、新型コロナウイルス問題に関連しては、困ったことがあった人がほぼ4割となっています。

新型コロナウイルス問題に関連して困ったこととしては、「気持ちが落ち込んだ」が5割強と最も高く、次いで「体力が低下した」が3割強、「仕事や収入が減った」が2割半ばとなっています。そのほか、回答率は高くありませんが、福祉による支えが必要な項目を選択した方もいました。

市民アンケートにおける、新型コロナウイルス問題に関連して心配事や気になることについての自由記述で、以下が比較的多かった意見です。

- ・感染が怖い。
- ・PCR 検査体制整備の希望。
- ・感染が終息してほしい。
- ・経済的心配。
- ・感染関連の情報の充実。
- ・この生活がいつまで続くかの不安。
- ・もし感染したときの心配（ひとり暮らし、受け入れ体制など）。

民生委員・児童委員アンケートにおける、新型コロナウイルス問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に起こった問題や課題についての自由記述で、以下が比較的多かった意見です。

- ・訪問活動を控えるように言われているので様子をあまりうかがえない。
- ・訪問活動を控えるよう言われたが、心配な人には電話、手紙、注意して訪問など工夫をして見守っている。
- ・どのように訪問したらよいか困った。
- ・訪問先から来ないでほしいと言われた。
- ・訪問先の人がマスクをしておらず困った。

民生委員・児童委員アンケートにおける、新型コロナウイルス問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に、困った人を見たり聞いたりしたかについての自由記述で、以下が比較的多かった意見です。

- ・外出を避け、孤立している人、ストレスを溜めている人がいた。
- ・外出を避けていることによる体力低下。
- ・新しい生活様式に対応できない人がいる。

---

---

資料編 使用した調査票

---

---

# 1. 市民

## ■ 地域福祉って何？

病気...子育て...介護...  
 あなたは、心だんの生活の中で、不安を感じたり困ったりすることがありませんか。  
 こういった不安や困りごとは、福祉の専門の人たちの協力を得て解決できることがある  
 一方で、まわりの人の少しの手助けで解決できることも少なくありません。

同じ地域で暮らす人や地域のボランティア、福祉組織、行政がつながりあって、みんな  
 困っている人を支え、住みなれた地域で安心して暮らせるようにするための取り組み、  
 それが「地域福祉」です。

地域福祉計画・地域福祉活動計画がめざす社会を「地域共生社会」と呼んでいます。

「地域共生社会」とは、  
 若い人も高齢の人も障害のある人も、同じ地域で暮らすみんなが、自分ができることを  
 行ってお互いに支え合い、生きがいを持って、元気に暮らしている社会です。  
 そして、地域で暮らす人や地域のボランティア、福祉組織、行政がつながりあい、自分の  
 こととして、一人ひとりの暮らしと生きがいをともにつくっていく社会です。

【地域福祉のイメージ】



上尾市の地域福祉を進めるためには？

地域のことや、日ごろ感じる生活の課題などを一番よく知っている、  
 地域の皆様の参加と協力が不可欠となります。

**市民参加の一環として、市民アンケートへのご協力を  
 よろしくお願ひします。**

## 第3次上尾市地域福祉計画 及び 第6次上尾市地域福祉活動計画 策定のための市民アンケート ご協力のお願い

市民の皆様には日ごろから地域福祉の向上にご協力いただき、ありがとうございます。  
 上尾市及び上尾市社会福祉協議会\*では、誰もがつながりあって安心して暮らせるまちづくりの  
 ため、市民、関係機関、団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのでき  
 る仕組みづくりを推進するため「第3次上尾市地域福祉計画」及び「第6次上尾市地域福祉活動  
 計画」を策定します。「地域福祉計画」は地域福祉を推進していくための理念や仕組みをつくる計画  
 であり、また、「地域福祉活動計画」は、より具体的な地域福祉活動の内容を位置付ける計画です。  
 市と社会福祉協議会が一体となって2つの計画を合同で策定し、上尾市の地域福祉を推進します。

この市民アンケートは、18歳以上の市民3,000人を対象に無作為抽出し、皆様の福祉に対し  
 る意識や地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、  
 計画を策定するための基礎資料として実施するものです。

また、この市民アンケートに際しましてはプライバシーの保護に万全を期しておりますので、  
 趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年10月

上尾市・上尾市社会福祉協議会

### ご記入にあたってのお願い

- 調査票には、お名前・ご住所のご記入は必要ありません。
- ご記入は、ご本人にお願いいたします。ご本人のご記入が困難な場合は、ご家族の方などが  
 ご本人のお考えをお聞きのうえ、またはご意向に沿ったかたちで、代理でご記入をお願いいた  
 します。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、「その他」を回答した場合  
 には、具体的にその内容を記入ください。
- なお、本調査の結果は統計的に処理いたしますので、お答えいただいた方に迷惑をおかけ  
 するようないことは一切ございません。思いのままをお答えいただけますようお願い申し上げます。
- ご記入いただいた調査票は、**11月9日(月)までに、同封の封筒に入れて(切手を貼らずに)**  
**投函してください。**ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

### 【調査に関するお問い合わせ先】

上尾市役所 健康福祉部 福祉総務課 電話：048-775-5118 (直通)

### ※社会福祉協議会とは…

地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを地  
 域住民、ボランティア、社会福祉施設・団体、民生委員・児童委員、行政などの関係者と連携しなが  
 ら推進する民間の非営利団体です。

## Ⅰ. あなたご自身についてうかがいます

問1 あなたの性別はどちらですか。(どちらかに○)

- 1 男性    2 女性

問2 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)

- 1 18～29歳    2 30～39歳    3 40～49歳  
4 50～59歳    5 60～69歳    6 70～79歳  
7 80歳以上

問3 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

- 1 上尾地区    2 平方地区    3 原市地区    4 大石地区  
5 上平地区    6 大谷地区    7 原市団地    8 尾山台団地  
9 西上尾第一団地    10 西上尾第二団地    11 分らない

⇒ 郵便番号も記入してください (〒 3 6 2 - □ □ □ □ )

問4 あなたは上尾市に何年住んでいますか。(ひとつだけ○)

- 1 50年以上住んでいる    2 20～49年住んでいる  
3 10～19年住んでいる    4 5～9年住んでいる  
5 住みはじめて5年に満たない

問5 あなたの世帯は自治会・町内会・区会に入っていますか。(ひとつだけ○)

- 1 はい    2 いいえ  
3 わからない

問6 あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ○)

- 1 会社員・公務員    2 自営業(農業・商工・サービス業)    3 自由業(医師、弁護士など)  
4 パート・アルバイト    5 学生    6 家事専業  
7 無職    8 その他( )

問7 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

- 1 ひとり世帯    2 夫婦のみの世帯  
3 2世代の世帯(親子)    4 3世代の世帯(親と子と孫)  
5 その他( )

問8 あなたの家族に介護・介助が必要な方がいらっしゃいますか。(どちらかに○)

- 1 いる    2 いない

## Ⅱ. 地域福祉や福祉課題に関する意識や行動についてうかがいます

問9 あなたはこの調査に回答する前から「地域福祉」という言葉を知っていましたか。(ひとつだけ○)

- 1 内容まで知っていた    2 聞いたことはあるが、内容まで知らなかった  
3 知らなかった

問10 あなたにとって地域とは、日常生活の上でのどのような範囲のことだと思いますか。(ひとつだけ○)

- 1 隣近所    2 自治会・町内会・区会    3 小学校区    4 中学校区  
5 市全体    6 その他( )

問11 あなたは、ふだん近所の人との程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)

- 1 家族ぐるみでも親しく付き合っている    2 ある程度親しく付き合っている  
3 会えばあいさつする程度の付き合いである    4 ほとんど(もしくはまったく)付き合いはない

問12 あなたは、近所の人との程度の付き合いをしたいと思いますか。(ひとつだけ○)

- 1 家族ぐるみでも親しい付き合い    2 ある程度親しい付き合い  
3 会えばあいさつする程度の付き合い    4 付き合いたいとは思わない

問13 あなたは、身近な地域の人に対して、どのような手助けや支援ができていると思いますか。  
(各項目の番号にひとつだけ○)

項目	できる	できる	できると 思っています	できない
① 安否確認の声かけ	1	2	3	3
② 趣味などの話し相手	1	2	3	3
③ 相談相手	1	2	3	3
④ 買い物の手伝い	1	2	3	3
⑤ ごみ出し	1	2	3	3
⑥ 外出の手助け	1	2	3	3
⑦ 家の前などの掃除	1	2	3	3
⑧ 短時間の子ども預かり	1	2	3	3
⑨ 子どもの送り迎え	1	2	3	3
⑩ 子どもの通学路の見守り	1	2	3	3
⑪ 高齢者などの介護や介助	1	2	3	3
⑫ 緊急時の手助け	1	2	3	3
⑬ 防犯のための巡回	1	2	3	3

問14 あなたは、どのような手助けや支援を受けたいですか。(各項目の番号にひとつだけ○)

項目	受けたい	受けたい とは思って いません	必要 はない	必要 はない とは思って いません
① 安否確認の声かけ	1	2	3	3
② 趣味などの話し相手	1	2	3	3
③ 相談相手	1	2	3	3
④ 買い物の手伝い	1	2	3	3
⑤ ごみ出し	1	2	3	3
⑥ 外出の手助け	1	2	3	3
⑦ 家の前などの掃除	1	2	3	3
⑧ 短時間の子ども預かり	1	2	3	3
⑨ 子どもの送り迎え	1	2	3	3
⑩ 子どもの通学路の見守り	1	2	3	3
⑪ 高齢者などの介護や介助	1	2	3	3
⑫ 緊急時の手助け	1	2	3	3
⑬ 防犯のための巡回	1	2	3	3

問15 あなたや、あなたの住んでいる身近な地域の中で課題や問題と思うものは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1 あいさつをしない人が多い
2 緊急時、災害時の対応体制がわからない
3 犯罪の増加
4 交通マナーの乱れ
5 ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ
6 地域での子どもの見守りがされていない
7 地域での高齢者の見守りがされていない
8 子育てに悩んでいる人がいる / 子育てに悩んでいる
9 困っていることを相談できない人がいる / 困っていることを相談できない
10 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見聞きする / 虐待されている / 虐待してしまう
11 隣近所との交流が少ない
12 世代間の交流が少ない
13 地域の活動が不活発である
14 地域の中で気軽に集まれる場が少ない
15 地域から孤立している人がいる / 地域から孤立している気がする
16 障害に関する情報や障害のある人に対する理解が不足している
17 福祉保健サービスについて知らない
18 健康に対する意識が低い
19 生活に困っている人を見たり聞いたりする / 生活に困っている
20 特になし
21 その他 ( )

問16 あなたは、地域の課題（ひとり暮らし高齢者の見守り、子どもへの虐待、孤立死など）を  
解決するにあたって、支え合い、助け合いが必要だと思いますか。(ひとつだけ○)

1 とても必要だと思います
2 ある程度必要だと思います
3 あまり必要だと思います
4 まったく必要だと思います

問17 あなたは、地域の課題に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)

1 とても関心がある
2 ある程度関心がある
3 あまり関心がない
4 まったく関心がない

問18 あなたは、地域での支え合いや孤立死の防止などのために、自治会・町内会・区会を単位と  
した支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(ひとつだけ  
○)

1 積極的に共有すべき
2 必要であれば共有してもよい
3 あまり共有したくない
4 一切共有すべきではない
5 わからない



問19 あなたが不安に感じていることや、悩み事を相談する場合、誰に相談しますか。もしくは、相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |             |            |                      |
|-------------|------------|----------------------|
| 1 家族・親戚     | 2 友人・知人    | 3 近所の人や自治会・町内会・区会の役員 |
| 4 民生委員・児童委員 | 5 職場の上司・同僚 | 6 市職員・市の相談機関         |
| 7 国や県の相談機関  | 8 社会福祉協議会  | 9 地域包括支援センター         |
| 10 医師       | 11 介護支援専門員 | 12 いらない              |
| 13 その他 ( )  |            |                      |

### Ⅲ. 地域活動・ボランティア活動（無償・有償）についてうかがいます

問20 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動などに参加していますか。(ひとつだけ○)

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 現在、継続的に参加している             | → 問 20-1 へ      |
| 2 たまに、参加することがある             |                 |
| 3 参加したことはあるが、現在はほとんど参加していない |                 |
| 4 参加したことはない                 |                 |
| 5 参加することかできない               | → 問 20-2、20-3 へ |
| 6 参加するつもりはない                |                 |

※問20で「1」「2」「3」を選んだ方にうかがいます

問20-1 どんな地域活動やボランティア活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |
|---|
| 1 地域を元気にする活動 (自治会・町内会・区会での行事や交流活動など)            |
| 2 子育てを支援する活動 (子育て交流会や児童の一時預かりなど)                |
| 3 高齢者を支援する活動 (家事援助、話し相手、見守り、外出付き添いなど)           |
| 4 障害のある人を支援する活動 (手話、点字、要約筆記、軽介助、外出付き添いなど)       |
| 5 児童の健全育成の活動 (スポーツの指導、子ども会の活動など)                |
| 6 特技や趣味を活かした交流活動 (手芸、調理、農作業、スポーツ、外国語、パソコン、陶芸など) |
| 7 周辺環境を整備する活動 (道路・公園の清掃、リサイクルなど)                |
| 8 地域の安全を守る活動 (防犯パトロール、学童登下校見守りなど)               |
| 9 災害時の支援などの活動 (物資の寄付、復興支援、災害時要援護者の見守りなど)        |
| 10 その他 ( )                                      |

※問20で「4」「5」「6」を選んだ方にうかがいます

問20-2 活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| 1 自治会・町内会・区会などの組織に入っていないから | 2 勤務などの都合で機会がないから |
| 3 参加方法がわからないから             | 4 時間がないから         |
| 5 興味がでないから                 | 6 経済的な負担が大きいから    |
| 7 家族の理解が得られないから            | 8 体調がすぐれないから      |
| 9 一緒に活動する仲間がないから           | 10 わずらわしいから       |
| 11 その他 ( )                 |                   |

※問20で「4」「5」「6」を選んだ方にうかがいます

問20-3 どのような条件であれば、活動・参加したいと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 活動情報の提供がある   | 2 友人などと一緒に参加できる  |
| 3 身近なところで活動できる | 4 活動時間や曜日が自由     |
| 5 気軽に参加できる     | 6 適切な指導者やリーダーがいる |
| 7 特技や知識が活かせる   | 8 身体的な負担が少ない     |
| 9 経済的な負担が少ない   | 10 その他 ( )       |

問21 あなたの趣味や特技を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |
|-----------------------|
| 1 農業、園芸など             |
| 2 大工、リフォーム作業など        |
| 3 介護、看護など             |
| 4 調理、うどん・そば打ちなど       |
| 5 経理、会計など             |
| 6 パソコン、インターネットなど      |
| 7 デザイン、スケッチ、絵画・絵画鑑賞など |
| 8 書道、華道、俳句、川柳など       |
| 9 楽器、カラオケなど           |
| 10 読書、音楽鑑賞など          |
| 11 学習指導など             |
| 12 スポーツ、スポーツ指導など      |
| 13 その他 ( )            |
| 14 特になし               |

問22 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動などに、どの程度参加していきたいと考えていますか。(ひとつだけ○)

1 積極的に、参加していきたい	→ 問 22-1 へ
2 できるだけ参加していきたい	
3 機会があれば、参加してもよい	→ 問 23 へ
4 あまり参加したくない	
5 参加することができない	
6 参加するつもりはない	

※問 22 で「1」「2」「3」を選んだ方にうかがいます

問22-1 あなたが今後参加してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動は何ですか。(○は3つまで)

1 地域を元気にする活動 (自治会・町内会・区会での交流活動など)	)
2 子育てを支援する活動 (子育て交流会や児童の一時期かひのなど)	
3 高齢者を支援する活動 (家事援助、話し相手、見守り、外出付き添いなど)	
4 障害のある人を支援する活動 (手話、点字、要約筆記、軽介助、外出付き添いなど)	
5 児童の健全育成の活動 (スポーツの指導、子ども会の活動など)	
6 特技や趣味を活かした交流活動 (手芸、調理、農作業、スポーツ、外国語、パソコン、陶芸など)	
7 周辺環境を整備する活動 (道路・公園の清掃、リサイクルなど)	
8 地域の安全を守る活動 (防犯パトロールなど)	
9 災害時の支援などの活動 (物資の寄付、復興支援、災害時要援護者の見守りなど)	
10 その他 ( )	

問23 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思えますか。(○は3つまで)

1 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする	)
2 地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	
3 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	
4 ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する	
5 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	
6 困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成する	
7 困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする	
8 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	
9 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	
10 その他 ( )	

#### IV. 防災活動についてうかがいます

問24 あなたは日ごろから地域の防災訓練に参加していますか。(ひとつだけ○)

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

問25 あなたの世帯は地域の自主防災組織(自治会・町内会・区会などを母体に、地域の住民が防災活動をする組織)に入っていますか。(ひとつだけ○)

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

※問 25 で「2」または「3」を選んだ方にうかがいます

問25-1 今後、あなたの世帯は地域の自主防災組織に入りたいと思いますか。(ひとつだけ○)

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

問26 地震や火災などの災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は3つまで)

1 一人で避難できない高齢者などのそれぞれの支援計画を地域のみんなで考える	)
2 地域での自主防災組織づくり	
3 地域での定期的な防災訓練	
4 地域での勉強会	
5 福祉サービス事業者や行政との連携	
6 その他 ( )	7 特にないと思う

#### V. 日常生活での交通手段についてうかがいます

問27 あなたは、ふだん買い物(日常の食品などの購入)や通院、公共施設などを利用する際に、どのような交通手段を利用しますか。(あてはまるものすべてに○)

1 徒歩	2 自転車	)
3 自動車(施設の送迎車を含む)	4 鉄道	
5 バス(民間の路線バス)	6 バス(市内循環バス“ぐるっとくん”)	
7 タクシー(福祉タクシーを含む)	8 その他 ( )	

問28 あなたは、ふだん買い物(日常の食品などの購入)や通院、公共施設などを利用する際の移動手段について、不便だと感じることがありますか。(ひとつだけ○)

1 ある	2 たまにある	)
3 ない		

※問 28 で「1」または「2」を選んだ方にうかがいます

問28-1 不便だと感じるとはどのようなことですか。ご自由にお書きください。

--

問29 あなたは、買い物をする際、店に行って直接購入する方法と、注文して届けてもらう方法（近くの商店からの宅配）のうち、どちらを選びますか。（ひとつだけ○）

- 1 店に行って購入する
- 2 注文して届けてもらう
- 3 その都度異なる

## VI. 福祉サービスについてうかがいます

問30 あなたやあなたの家族は、どの福祉サービスを利用していますか（したことがありませんか）。（あてはまるものすべてに○）

- 1 高齢者支援に関するサービス
- 2 障害者支援に関するサービス
- 3 子育て支援に関するサービス
- 4 健康づくりに関するサービス
- 5 生活困窮支援に関するサービス
- 6 その他（ ）
- 7 利用していない（したことがない）

問31 あなたは、ふだん福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 市の広報紙、チラシなど
- 2 社会福祉協議会などの広報紙、チラシなど
- 3 インターネット
- 4 新聞・テレビ・ラジオ
- 5 民生委員・児童委員
- 6 自治会・町内会・区会や老人クラブなど
- 7 友人・知人
- 8 家族・親戚
- 9 地域包括支援センター
- 10 ケアマネジャー、保健師などの保健福祉関係者
- 11 医師など医療関係者
- 12 その他（ ）
- 13 入手していない

問32 あなたは、保健・福祉について、どんな情報を充実してほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 健康づくりに関する情報
- 2 子育てについての情報
- 3 高齢者や障害者サービスの情報
- 4 介護サービスなどの情報
- 5 生活困窮支援に関する情報
- 6 ボランティア活動についての情報
- 7 その他（ ）

## VII. 社会福祉協議会についてうかがいます

問33 あなたは、「上尾市社会福祉協議会」を知っていますか。（ひとつだけ○）

- 1 知っている → 問 34、35 へ
- 2 知らない → 問 36 へ

※問 33 で「1」を選んだ方にうかがいます

問34 「上尾市社会福祉協議会」のことは何で知りましたか（あてはまるものすべてに○）

- 1 社会福祉協議会広報紙「あけお社協だより」
- 2 社協支部広報紙「支部だより」
- 3 ホームページ
- 4 関係機関（行政等）からの紹介
- 5 各種募金・社協会費の募集を通して
- 6 その他（ ）

※問 33 で「1」を選んだ方にうかがいます

問35 上尾市社会福祉協議会の事業で、あなたが知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 日赤募金・共同募金（赤い羽根、読本助けあい募金）
- 2 老人福祉センター「ことぶき荘」の運営・管理
- 3 安心・安全見守りネットワーク事業の実施
- 4 ボランティアセンター・ボランティアピュローの運営
- 5 ファミリー・サポート・センター事業の実施
- 6 リフト付車両の運行・貸出
- 7 手話通訳者の派遣
- 8 ケアプランの作成など
- 9 ホームヘルパーの派遣
- 10 地域活動支援センター「ふれあいハウス」の運営・管理
- 11 上尾市障害福祉サービス事業所「かしの木園」の運営・管理
- 12 上尾西地域福祉センター「ほほえみ」の運営・管理
- 13 日常生活自立支援事業（あんしんサポートなっご）の実施
- 14 生活福祉資金・上尾市福祉資金の貸付
- 15 福祉機器のリサイクル及び貸し出し
- 16 要・準要保護児童生徒に対する遠足費などの援助
- 17 世帯個人会員加入
- 18 相談事業
- 19 あげお在宅福祉サービス

問36 あなたは、上尾市社会福祉協議会に対してどのような活動や支援を期待しますか。（○は3つまで。その中で最も重視する項目には◎をつけてください）

- 1 住民参加型在宅福祉サービスの充実
- 2 住民による見守りや支え合い活動への支援
- 3 共同募金と寄付文化の醸成
- 4 ボランティア活動と福祉教育の推進
- 5 災害ボランティア活動の担い手、推進の仕組みづくり
- 6 気軽に相談できる福祉相談窓口の充実
- 7 福祉サービスの利用支援（相談・支援）
- 8 福祉サービスに関する情報発信の充実
- 9 その他（ ）
- 10 特になし

**Ⅷ. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについてうかがいます**

問37 次の項目の現在の満足度と今後の重要度はどれにあたりますか。

(それぞれ○はひとつずつ)

目指すべき市の姿と具体的な内容	満足度					重要度				
	満足している	ほぼ満足している	あまり満足していない	満足していない	わからない	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	わからない
<b>福祉サービスが利用しやすい地域の実現</b>										
福祉サービスの利用支援										
● 必要な福祉サービスが受けられる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● わかりやすい、適切な情報が入り手できる										
● 判断能力が不十分な人でも適切に制度やサービスが利用できる、権利が守られる										
支援をつなぐ仕組みづくり										
● 困っている人が気軽に相談できる場がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 困ったときの相談窓口が周知されている										
● 仕事や生活に困っている人が支援を受けられる										
さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり										
● 市民や団体が参加しやすい、活動しやすい環境がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 福祉にかかわる団体が連携して、困っている人を支えている										
● 地域のボランティアが増え、育成されている										
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現</b>										
誰もが外出しやすい環境づくり										
● 誰もが外出しやすい、利用しやすいまちづくりがすすんでいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 市民が利用しやすい公共交通網が充実している										
● 高齢者や障害者の移動支援や外出支援、生活支援が充実している										
地域における防災機能の強化										
● 防災に関する情報提供が充実している	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 自主防災組織の活動により、地域の防災力向上が図られている										
● 防災訓練への参加など、市民意識が醸成されている										
● 助けが必要な人が、緊急時に素早く避難できるような連携や体制づくりがすすんでいる										
● 災害ボランティアが育成されている										

目指すべき市の姿と具体的な内容	満足度					重要度				
	満足している	ほぼ満足している	あまり満足していない	満足していない	わからない	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	わからない
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現 (続き)</b>										
地域における見守り、声かけによる安全の確保										
● 高齢者や障害者世帯の見守り支援が行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 子育て家庭の孤立化防止、ひきこもり防止、虐待防止の取り組みが行われている										
● 悩みごとを抱えた人が気軽に相談できる場がある										
● 消費者被害の防止、地域の防犯活動が行われている										
<b>誰もが役割を持つことができる地域の実現</b>										
隣近所や地域力による福祉活動のきっかけづくり										
● 普段のあいさつや声かけが行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 地域の行事へ積極的に参加している										
● 地域の活動が活発に行われている										
● 障害などの福祉に関する教育や啓発が行われている										
地域福祉活動の担い手の育成										
● みんなが気軽に取組める健康づくり活動やイベントが行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 地域の活動やボランティア活動についての情報が提供されている										
● 地域の活動や健康づくり、ボランティア活動などに関わる人が増えている										
活動団体への支援										
● 高齢者や障害者、子育て中の人などが、生きがいや仲間づくりに気軽に集まれる場や機会がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
● 気軽に集まれる場や機会の情報が提供されている										

問38 地域での暮らしをより豊かにするために、どのようなことが必要だと考えますか。

(○は3つまで)

1 必要な情報入手できる体制の整備	2 日常生活に関する身近な相談窓口の整備
3 地域の人が交流できる場の整備	4 ネットワーク作り、見守り体制の整備
5 買い物しやすい環境づくり	6 ハスなどの公共交通手段の整備
7 支援が必要な人への支援	8 自主防災組織などの整備
9 災害時における体制の整備	10 道路や建物のバリアフリー整備
11 スポーツや文化教養活動の環境整備	12 公園や緑地などの自然環境の整備
13 その他 ( )	



問39 高齢者が安心して暮らすためには、どのようなことが必要だと考えますか。(○は3つまで)

1 在宅福祉サービスの充実	2 ホームヘルパーなどの福祉の人材の育成
3 地域での声かけ・見守り活動の実施	4 ボランティアや地域での人材の育成
5 身近な相談窓口の整備	6 介護予防に関する取り組みの充実
7 介護と医療の連携	8 病院など医療関係施設の整備
9 その他( )	

問40 障害者が生きがいをもって暮らすためには、どのようなことが必要だと考えますか。(○は3つまで)

1 在宅福祉サービスの充実	2 地域で理解を深める
3 地域での声かけ・見守り活動の実施	4 身近な相談窓口の整備
5 働く場の整備	6 ボランティアや地域での人材の育成
7 その他( )	

問41 子どもが健やかに育つためには、どのようなことが必要だと考えますか。(○は3つまで)

1 地域での声かけ・見守り活動の実施	2 要保護児童などに対する支援
3 安心して遊べる場所の充実	4 身近な相談窓口の整備
5 保育園・学童保育室の拡充	6 ボランティアや地域での人材の育成
7 その他( )	

問42 あなたが住んでいる地域のなかで安心して暮らしていくには、地域にある組織や団体に対してどのような活動を期待していますか。(○は3つまで)

1 緊急事態が起きたときの対応	2 地域内における決まりごとの徹底
3 交通安全や防災・防犯などの活動	4 地域の道路や公園などの清掃活動
5 リサイクルや自然保護の活動	6 住民間トラブルの仲介・解決
7 子どもや高齢者、障害者に対する手助け	8 住民同士の交流イベントの提供
9 文化・スポーツなどのサークル活動	10 市役所・社会福祉協議会との連絡調整
11 その他( )	12 特にない

## IX. 新型コロナウイルス問題についてうかがいます

問43 あなたは、新型コロナウイルス問題に関連して、困ったことがありましたか。(どちらかに○)

1 はい	2 いいえ
------	-------

※問43で「1 はい」を選んだ方にうかがいます

問44 それはどんなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

1 仕事や収入が減った	2 子どもをあずけられなかった
3 子どもが、十分に食事ができなかった	4 病気の高齢の親が病院に行けなかった
5 解雇された	6 子どもや家族にあたりそりようになった
7 気持ちが悪くなった	8 体力が低下した
9 その他( )	

問45 あなたは、新型コロナウイルス問題に関連して、心配事や気になることがありますか。ご自由にお書きください。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

## 2. 福祉関係事業所

### 1. 貴事業者についてうかがいます

事業者の名称	
連絡先電話番号	
代表者名	調査票記載者名
職員数	( ) 名
運営年数	( ) 年

#### 問1 貴事業者は、どの分野の業務を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<b>A 高齢者福祉関係</b>	1 在宅サービス関係	2 居宅介護支援関係
→	3 施設サービス関係	4 地域密着サービス関係
<b>B 障害者福祉関係</b>	5 その他 ( )	7 障害児通所
→	6 障害福祉サービス通所(入所)事業所	9 特定相談支援事業所及び障害児相談支援事業所
<b>C 児童福祉関係</b>	10 その他 ( )	12 子育て支援拠点
→	11 保育所(園)	13 その他 ( )
<b>D 上記以外分野</b>	( )	( )

#### 問2 貴事業者が所在する地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

1 上尾地区	2 平方地区	3 原市地区	4 大石地区
5 上平地区	6 大谷地区	7 原市団地	8 尾山台団地
9 西上尾第一団地	10 西上尾第二団地	11 分らない	

#### 問3 貴事業者の運営形態はどれですか。(ひとつだけ○)

1 社会福祉法人	2 医療法人	3 NPO法人
4 株式会社など	5 その他 ( )	

### 第3次上尾市地域福祉計画 及び 第6次上尾市地域福祉活動計画 策定のための事業者アンケート ご協力をお願いします

福祉関連施設の皆様には日ごろから地域福祉の向上にご協力いただき、ありがとうございます。上尾市及び上尾市社会福祉協議会では、誰もがつながりあって安心して暮らせるまちづくりのため、市民、関係機関、団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりを推進するため「第3次上尾市地域福祉計画」及び「第6次上尾市地域福祉活動計画」を策定します。「地域福祉計画」は地域福祉を推進していくための理念や仕組みをつくる計画であり、また、「地域福祉活動計画」は、より具体的な地域福祉活動の内容を位置付ける計画です。市と社会福祉協議会が一体となって2つの計画を合同で策定し、上尾市の地域福祉を推進します。

このアンケートは、福祉関係事業者を対象に、事業者の状況や地域の活動などに関するアンケート調査を実施させていただきます。調査の趣旨をご理解いただき、日頃の率直なご意見をお聞かせくださるよう、お願い申し上げます。

令和2年10月

上尾市・上尾市社会福祉協議会

#### ご記入にあたってのお願い

- ご回答は、施設・事業者の代表の方もしくは、事業全体がお分かりになる方がご記入くださいますようお願いいたします。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、11月9日(月)までに、同封の封筒に入れて(切手を貼らずに)投函してください。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

#### 【調査に関するお問い合わせ先】

上尾市役所 健康福祉部 福祉総務課 電話：048-775-5118 (直通)

問4 貴事業者では、情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 市の広報紙 『広報あけお』
- 2 社会福祉協議会の広報紙 『あけお社協だより』
- 3 施設だよりなど PR・広報誌(紙)の発行・配布  
(配布場所: )
- 4 ホームページ
- 5 家族や地域の人などを招いてイベントや見学会などの実施
- 6 その他 ( )

## II. 地域貢献、社会貢献や地域での活動についてうかがいます

問5 地域貢献、社会貢献や地域での活動で、現在実施している、実施予定である、今後必要だと思ふことを具体的に記入ください。

【記載例】

子ども・子育て	・不登校の子どもについての相談への対応。
障害(身体・知的・精神)	・障害者の就労の場の斡旋。

項目(複数回答)	該当する項目について具体的にお書きください。(自由記述)
子ども・子育て	
障害 (身体・知的・精神)	
高齢・介護 (認知症、見守り)	
人権・家庭内暴力	
ゴミ・住環境	
地域活動・ボランティア活動	

道路・公園・公共施設	
健康・医療	
就労・経済的な事項	
防災・防犯・交通安全	
青年 (ニート・引きこもり)	
福祉に関する情報提供	

## III. 他の団体・組織及び地域との連携についてうかがいます

問6 現在、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を行っていますか。(ひとつだけ○)

- 1 行っている
- 2 行っていない
- 3 わからばい

※問6で「1」に回答した事業者のうちかかいます

問6-1 情報交換や連携を行っている団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1 市役所	2 社会福祉協議会	3 自治会・町内会・区会
4 地域包括支援センター	5 子ども会	6 当事者団体
7 民生委員・児童委員	8 保育所(園)・幼稚園	9 小学校・中学校・高校
10 大学・専門学校	11 PTA	12 NPO・ボランティアグループ
13 いきいきクラブ	14 商店会・商店街	15 介護・福祉施設
16 医療機関	17 保健所	18 警察・消防
19 弁護士・司法書士	20 企業	21 商工会
22 その他 ( )		

問7 今後、行政や他の団体・組織との間で情報交換や連携を強めたいと思いますか。(ひとつだけ○)

- 1 思う 2 思わない 3 わからない

※問7で「1」に回答した事業者にうかがいます

問7-1 特に情報交換や連携を強めたい団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |              |                   |
|--------------|--------------|-------------------|
| 1 市役所        | 2 社会福祉協議会    | 3 自治会・町内会・区会      |
| 4 地域包括支援センター | 5 子ども会       | 6 当事者団体           |
| 7 民生委員・児童委員  | 8 保育所(園)・幼稚園 | 9 小学校・中学校・高校      |
| 10 大学・専門学校   | 11 PTA       | 12 NPO・ボランティアグループ |
| 13 いきいきクラブ   | 14 商店会・商店街   | 15 介護・福祉施設        |
| 16 医療機関      | 17 保健所       | 18 警察・消防          |
| 19 弁護士・司法書士  | 20 企業        | 21 商工会            |
| 22 その他( )    |              |                   |

問8 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例がありますか。(具体的に記入)

問8-1 問8で書かれた問題・事例に対して、他で同様な問題がおこった場合に、貴事業者として協力できることがありますらお書きください。(具体的に記入)

問9 他の団体・組織と連携・協働関係を築く際、連携できることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 接点、交流の機会を増やす | 2 活動への理解を促進する  |
| 3 財政的な問題を解消する  | 4 制度的な問題を解消する  |
| 5 その他( )       | 6 特に連携できることはない |

問10 貴事業者が地域福祉活動を推進するうえで必要とする支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                          |
|--------------------------|
| 1 補助金など資金面での支援           |
| 2 研修制度など人材育成面での支援        |
| 3 活動場所の確保への支援            |
| 4 助言などの専門知識の支援           |
| 5 他団体・組織との交流などの連携        |
| 6 広報活動、ニーズの把握など情報についての支援 |
| 7 その他( )                 |
| 8 特に支援は必要ない              |

問11 貴事業者は、地域での支え合い活動の推進のために、自治会などの支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(ひとつだけ○)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 積極的に共有すべき  | 2 必要であれば共有してもよい |
| 3 あまり共有したくない | 4 一切共有すべきではない   |
| 5 わからない      |                 |



#### IV. 新型コロナウイルス問題についてうかがいます

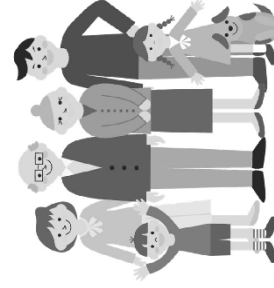
問12 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴事業者の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

問13 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。

#### 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。



### 第3次上尾市地域福祉計画 及び 第6次上尾市地域福祉活動計画 策定のための関係団体アンケート ご協力をお願い

関係団体の皆様におかれましては、日ごろから地域福祉の向上に対しご協力をいただきましたき厚くお礼申し上げます。

上尾市及び上尾市社会福祉協議会では、誰もがつながりがあり安心して暮らせるまちづくりのため、市民、関係機関、団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりを推進するため「第3次上尾市地域福祉計画」及び「第6次上尾市地域福祉活動計画」を策定します。「地域福祉計画」は地域福祉を推進していくための理念や仕組みをつくる計画であり、また、「地域福祉活動計画」は、より具体的な地域福祉活動の内容を位置付ける計画です。市と社会福祉協議会が一体となって2つの計画を合同で策定し、上尾市の地域福祉を推進します。

つきましては、福祉関係団体を対象に、団体の状況や地域の活動などに関するアンケート調査を実施させていただきたいと思っております。なお、アンケート調査ご協力の後にヒアリング調査のご協力をお願いする場合がございます。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年10月

上尾市・上尾市社会福祉協議会

#### ご記入にあたってのお願い

○お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。

○なお、本調査の結果は統計的に処理いたしますので、お答えいただいた方にご迷惑をおかけするようないことは一切ございません。思いのままをお答えいただけますようお願い申し上げます。

○ご記入いただいた調査票は、11月9日(月)までに、**同封の封筒に入れて(切手を貼らずに)**投函してください。ご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

#### 【調査に関するお問い合わせ先】

上尾市役所 健康福祉部 福祉総務課

電話：048-775-5118 (直通)

## 3. 福祉関係団体

■ 貴団体の概要についてお書きください。

ふりがな	
団体の名称	
連絡先電話番号	
代表者名	調査票記載者名
会員数	( ) 名
活動年数	( ) 年 (例：サロン活動、見守り活動など)
主な活動内容	
主な活動拠点	(例：メンバーの自宅、市民センター、市役所など)

## 1. 貴団体の活動についてうかがいます

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関などとの交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1 市役所        | 2 社会福祉協議会         |
| 3 自治会・町内会・区会 | 4 民生委員・児童委員       |
| 5 地域包括支援センター | 6 当事者団体*          |
| 7 子ども会       | 8 保育所(園)・幼稚園      |
| 9 小学校・中学校・高校 | 10 大学・専門学校        |
| 11 PTA       | 12 NPO・ボランティアグループ |
| 13 いきいきクラブ   | 14 商店会・商店街        |
| 15 介護・福祉施設   | 16 医療機関           |
| 17 保健所       | 18 警察・消防          |
| 19 弁護士・司法書士  | 20 企業             |
| 21 商工会       | 22 その他( )         |
| 23 特になし      |                   |

\*地域の中には、高齢者、障害者、子ども、子育て中の方など様々な人が暮らししており、それぞれに悩みごとなどを抱えている方がいます。当事者団体は、同じ悩みや問題などを抱える人が集まり、課題解決のための活動や、交流や連携を深めるための組織のことです。

295

※問1で「1」から「22」のいずれかを選んだ団体にうかがいます

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関などどのような関係がありますか。(具体的に記入)

--

3

問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 活動のマンネリ化            | 2 新しいメンバーが入らない      |
| 3 リーダー(後継者)が育たない      | 4 市民に情報発信する場や機会が乏しい |
| 5 人々のニーズに合った活動ができていない | 6 支援を必要とする人の情報が得にくい |
| 7 他の団体と交流する機会が乏しい     | 8 活動の場所(拠点)の確保が難しい  |
| 9 活動資金が足りない           | 10 メンバーの高齢化         |
| 11 その他( )             | 12 特に困ったことはない       |

※問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にうかがいます

問2-1 問2で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。(具体的に記入)

--

※問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にうかがいます

問2-2 問2で挙げた課題解決のために、どのような機関・団体と連携したいですか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1 市役所        | 2 社会福祉協議会         |
| 3 自治会・町内会・区会 | 4 民生委員・児童委員       |
| 5 地域包括支援センター | 6 当事者団体           |
| 7 子ども会       | 8 保育所(園)・幼稚園      |
| 9 小学校・中学校・高校 | 10 大学・専門学校        |
| 11 PTA       | 12 NPO・ボランティアグループ |
| 13 いきいきクラブ   | 14 商店会・商店街        |
| 15 介護・福祉施設   | 16 医療機関           |
| 17 保健所       | 18 警察・消防          |
| 19 弁護士・司法書士  | 20 企業             |
| 21 商工会       | 22 その他( )         |

4

問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 市の広報紙 『広報あげお』
- 2 社会福祉協議会の広報紙 『あげお社協たより』
- 3 ボランティアニュース
- 4 チラシやパンフレットの配布  
(配布場所: )
- 5 ホームページ
- 6 メンバーなどによる口コミ
- 7 その他 ( )

問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 知り合いを通して
- 2 市役所の窓口・掲示板
- 3 市の広報紙 『広報あげお』
- 4 市のホームページ
- 5 社会福祉協議会の窓口
- 6 社会福祉協議会の広報紙 『あげお社協たより』
- 7 社会福祉協議会のホームページ
- 8 民生委員・児童委員を通して
- 9 福祉サービスの事業所またはその職員
- 10 他団体を通して
- 11 その他 ( )
- 12 特にない

問5 市民の方が貴団体の活動に一回だけでも気軽に参加してもらうことについて、どう考えますか。(ひとつだけ○)

- 1 固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい
- 2 活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い  
(例えばどのような内容: )
- 3 一回きりでもよいので、参加してもらえると助かる  
(例えばどのような内容: )
- 4 その他 ( )

## II. 地域についてうかがいます

問6 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 あいざつをしない人が多い
- 2 緊急時、災害時の対応体制がわからない
- 3 犯罪の増加
- 4 交通マナーの乱れ
- 5 ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ
- 6 地域での子どもの見守りがされていない
- 7 地域での高齢者の見守りがされていない
- 8 子育てに悩んでいる人がいる
- 9 困っていることを相談できない人がいる
- 10 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見たり聞いたりする
- 11 隣近所との交流が少ない
- 12 世代間の交流が少ない
- 13 地域の活動が不活発である
- 14 地域の中で気軽に集まれる場が少ない
- 15 地域から孤立している人がいる
- 16 障害に関する情報や障害のある人に対する理解が不足している
- 17 健康に対する意識が低い
- 18 福祉保健サービスについて市民に知られていない
- 19 高齢者世帯(一人暮らしなど)やその他支援が必要な方の住まいなどの情報が手に入りにくい
- 20 児童や認知症高齢者などの虐待が疑われる家庭があってもどのように対応したらいいかわからない
- 21 大規模な風水害や地震時の避難と安否確認など、防災対策に不安がある
- 22 生活困窮者※への支援が不十分
- 23 特にない
- 24 その他 ( )

※生活困窮者：現に経済的に困難し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者。(生活困窮者自立支援法より)

問7 貴団体では、地域での支え合いのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報共有することについてどうあるべきだと思いますか。(ひとつだけ○)

- 1 積極的に共有すべき  
 2 必要であれば共有してもよい  
 3 あまり共有したくない  
 4 一切共有すべきではない  
 5 わからない  
 6 その他 ( )

問8 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 必要な情報入手できる体制の整備  
 2 日常生活に関する身近な相談窓口の整備  
 3 地域の人が交流できる場の整備  
 4 ネットワーク作り、見守り体制の整備  
 5 買い物しやすい環境づくり  
 6 バスなどの公共交通手段の整備  
 7 支援が必要な人への支援  
 8 自主防災組織などの整備  
 9 災害時における体制の整備  
 10 道路や建物のバリアフリー整備  
 11 スポーツや文化教養活動の環境整備  
 12 公園や緑地などの自然環境の整備  
 13 その他 ( )

### Ⅲ. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについてうかがいます

問9 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれにあたりますか。

(それぞれ○はひとつずつ)

取り組み内容と具体的なイメージ	取り組み状況					期待度				
	取り組んでいる	まあまあ取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	わからない	期待している	やや期待している	あまり期待していない	期待していない	わからない
<b>福祉サービスが利用しやすい地域の実現</b>										
福祉サービスの利用支援 ●必要な福祉サービスが受けられる ●わかりやすい、適切な情報入手できる ●判断能力が不十分な人でも適切に制度やサービスが利用でき、権利が守られる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
支援をつなぐ仕組みづくり ●困っている人が気軽に相談できる場がある ●困ったときの相談窓口が周知されている ●仕事や生活に困っている人が支援を受けられる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり ●市民や団体が参加しやすい、活動しやすい環境がある ●福祉にかかわる団体が連携して、困っている人を支えている ●地域のボランティアが増え、育成されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現</b>										
誰もが外出しやすい環境づくり ●誰もが外出しやすい、利用しやすいまちづくりがすすめている ●市民が利用しやすい公共交通網が充実している ●高齢者や障害者の移動支援や外出支援、生活支援が充実している	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
地域における防災機能の強化 ●防災に関する情報提供が充実している ●自主防災組織の活動により、地域の防災力向上が図られている ●防災訓練への参加など、市民意識が醸成されている ●助けが必要な人が、緊急時に素早く避難できるような連携や体制づくりがすすめている ●災害ボランティアが育成されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

**IV. 今後の活動に向けてうかがいます**

問10 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、または、やりたいですか。また、他の団体に期待することはどんなことですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいこと、期待することを教えてください。（具体的に記入）

（記入例：声かけ、ゴミだしなどの手助け）

--

問11 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。（具体的に記入）

--

問12 地域貢献活動に取り組んでいるボランティア団体やNPO団体で、地域や市民にPRしていくべきだと思う団体はありますか。貴団体が把握している範囲でお答えください。（具体的に記入）

--

問13 貴団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1 団体や活動についてのPR	2 活動上必要な情報の提供
3 活動場所の提供	4 会員募集の支援
5 リーダーの養成支援	6 経済的支援（活動資金など）
7 他団体とのネットワーク化	8 団体運営上の助言
9 設備・備品の充実	10 成果の発表の場の提供
11 その他（	12 特にない

取組内容と具体的なイメージ	取組状況				期待度					
	取組んでいる	まあまあ取組んでいる	あまり取組んでいない	わからない	期待している	やや期待している	あまり期待していない	期待していない	わからない	
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現（続き）</b> 地域における見守り、声かけによる安全の確保 ● 高齢者や障害者世帯の見守り支援が行われている ● 子育て家庭の孤立化防止、ひきこもり防止、虐待防止の取組が行われている ● 悩むことを抱えた人が気軽に相談できる場がある ● 消費者被害の防止、地域の防犯活動が行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	<b>誰もが役割を持つことができる地域の実現</b> 隣近所や地域の方による福祉活動のきっかけづくり ● 普段のあいさつや声かけが行われている ● 地域の行事へ積極的に参加している ● 地域の活動が活発に行われている ● 障害などの福祉に関する教育や啓発が行われている 地域福祉活動の担い手の育成 ● みんなが気軽に取組める健康づくりの活動やイベントが行われている ● 地域の活動やボランティア活動についての情報が提供されている ● 地域の活動や健康づくり、ボランティア活動などに関わる人が増えている	1	2	3	4	5	1	2	3	4
活動団体への支援 ● 高齢者や障害者、子育て中の人などが、生きがいや仲間づくりが気軽に集まれる場や機会がある ● 気軽に集まれる場や機会の情報が提供されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

## V. 新型コロナウイルス問題についてうかがいます

問14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴団体の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

--

問15 新型コロナウイルスの問題の発生に関連して、貴団体の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたか。それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。

--

問16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。

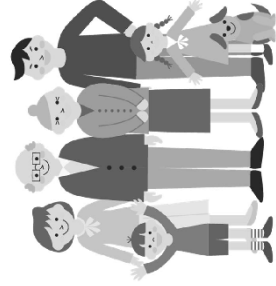
--

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

--

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。





## 4. 民生委員・児童委員

### I. 担当地区についてうかがいます

問1 あなたが民生委員・児童委員として担当している地区は次のうちどこに含まれますか。(ひとつだけ○)

1 上尾東	2 上尾西	3 上尾南	4 平方
5 原市北	6 原市南	7 大石東	8 大石西
9 上平	10 大谷		

問2 あなたの民生委員・児童委員としての在任・経験年数はどれくらいですか。(ひとつだけ○)

1 3年未満	2 3年～5年
3 6年～8年	4 9年以上

### II. 民生委員・児童委員の活動についてうかがいます

問3 あなたは民生委員・児童委員の活動のやりがいについてどう思いますか。また、どのようなときにやりがいを感じますか。(ひとつだけ○)

1 やりがいがあると思う	2 やや、やりがいがあると思う
3 どちらともいえない	4 やりがいがあるとは思えない

令和2年 10月

上尾市・上尾市社会福祉協議会

#### ご記入にあたってのお願い

- 調査票には、お名前・ご住所のご記入は必要ありません。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- なお、本調査の結果は統計的に処理いたしますので、お答えいただいた方にご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。思いのままをお答えいただけますようお願い申し上げます。
- ご記入いただいた調査票は、11月の各地区定例会にてご提出いただくか、11月13日(金)までに、福祉総務課または社会福祉協議会へ直接提出してください。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

#### 【調査に関するお問い合わせ先】

上尾市役所 健康福祉部 福祉総務課 電話：048-775-5118 (直通)

### 第3次上尾市地域福祉計画 及び 第6次上尾市地域福祉活動計画 策定のための民生委員・児童委員アンケート ご協力をお願いします

民生委員・児童委員の皆様には日ごろから地域福祉の向上にご協力いただき、ありがとうございます。

上尾市及び上尾市社会福祉協議会では、誰もがつながりがあり安心して暮らせるまちづくりのため、市民、関係機関、団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりを推進するため「第3次上尾市地域福祉計画」及び「第6次上尾市地域福祉活動計画」を策定します。「地域福祉計画」は地域福祉を推進していくための理念や仕組みをつくる計画であり、また、「地域福祉活動計画」は、より具体的な地域福祉活動の内容を位置付ける計画です。市と社会福祉協議会が一体となって2つの計画を合同で策定し、上尾市の地域福祉を推進します。

このアンケートは、上尾市内において活動する民生委員・児童委員の方を対象に、活動の状況や地域の課題を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画を策定するための基礎資料として実施するものです。

また、このアンケートに際しましてはプライバシーの保護に万全を期しておりますので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



問5 民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることが、どんなことですか。(5つまで○)

1	相手となかなか会えない(時間が合わない)
2	訪問しても会ってもらえない
3	家庭のことを話してくれない
4	プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか戸惑う
5	責任の重い見守りを依頼される
6	怖い思いをしたことがある
7	本人の情報を持つ公的機関や関係者から情報を提供してもらえない
8	持っている個人情報を守秘義務のない人に知らせてよいか迷うことがある
9	担当地区で孤立死や、消費者被害などの事件が起らないか心配になる
10	地域の中で本当に支援を必要としている人が支援を受けることができていると感じることが多い
11	どこに相談していいかわからないことが多い
12	困ったときに行政職員が対応してくれない
13	自治会・町内会・区会の行事などの参加の負担が大きい
14	受け持ちの世帯数が多すぎる
15	相談件数が多すぎる
16	配布物や調査など、行政や社協からの協力依頼事項が多すぎる
17	なり手が不足している
18	特にない
19	その他( )

問6 上尾市社会福祉協議会の13支部で実施している「あったか見守りサービス事業」は、地域の中で浸透してきていると思いますか。(ひとつだけ○)

1	浸透してきている	2	徐々に浸透してきていると思う
3	どちらともいえない	4	あまり浸透していません
5	浸透していません	6	わからない

※問6で「4」または「5」を選んだ方にうかがいます

問7 十分浸透していないと思う理由は何ですか。また、どのようにしていけば浸透すると思いますか。(具体的に記入ください)

「あったか見守りサービス事業とは…」  
見守り協力員が、在宅の高齢者などに対して、訪問などによる安否確認と日常生活の支援を行い、地域で安心して生活することができるための支え合いの事業です。

問8 現在、担当地区で見守り活動を展開していく上で、お互いに協力・連携している団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1	市役所	2	社会福祉協議会	3	自治会・町内会・区会
4	地域包括支援センター	5	子ども会	6	当事者団体*
7	保育所(園)・幼稚園	8	小学校・中学校・高校	9	大学・専門学校
10	PTA	11	NPO・ボランティアグループ	12	いきいきクラブ
13	商店会・商店街	14	介護・福祉施設	15	医療機関
16	保健所	17	警察・消防	18	弁護士・司法書士
19	企業	20	商工会	21	その他( )

※地域の中には、高齢者、障害者、子ども、子育て中の方など様々な人が暮らしており、それぞれに悩みごとなどを抱えている方がいます。当事者団体は、同じ悩みや問題などを持つ人が集まり、課題解決のための活動や、交差点を繋ぎを深めるための組織のことです。

問9 今後、担当地区において、お互いに協力・連携して地域の見守り活動を進めた方がよいと思う団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1	市役所	2	社会福祉協議会	3	自治会・町内会・区会
4	地域包括支援センター	5	子ども会	6	当事者団体
7	保育所(園)・幼稚園	8	小学校・中学校・高校	9	大学・専門学校
10	PTA	11	NPO・ボランティアグループ	12	いきいきクラブ
13	商店会・商店街	14	介護・福祉施設	15	医療機関
16	保健所	17	警察・消防	18	弁護士・司法書士
19	企業	20	商工会	21	その他( )

※すでに協力・連携している団体・組織にも○をつけてください。

### Ⅲ. 地域の課題についてうかがいます

問10 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

- |    |  |
|----|--|
| 1  | あいさつをしない人が多い                                 |
| 2  | 緊急時、災害時の対応体制がわからない                           |
| 3  | 犯罪の増加  |
| 4  | 交通マナーの乱れ                                     |
| 5  | ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ                              |
| 6  | 地域での子どもの見守りがされていない                           |
| 7  | 地域での高齢者の見守りがされていない                           |
| 8  | 子育てに悩んでいる人がいる                                |
| 9  | 困っていることを相談できない人がいる                           |
| 10 | 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見たり聞いたりする                  |
| 11 | 隣近所との交流が少ない                                  |
| 12 | 世代間の交流が少ない                                   |
| 13 | 地域の活動が不活発である                                 |
| 14 | 地域の中で気軽に集まれる場が少ない                            |
| 15 | 地域から孤立している人がいる                               |
| 16 | 障音に関する情報や障音のある人に対する理解が不足している                 |
| 17 | 健康に対する意識が低い                                  |
| 18 | 福祉保健サービスについて市民に知られていない                       |
| 19 | 高齢者世帯（一人暮らしなど）やその他支援が必要な方の住まいなどの情報が手に入りにくい   |
| 20 | 児童や認知症高齢者などの虐待が疑われる家庭があってもどのように対応したらいいかわからない |
| 21 | 大規模な風水害や地震時の避難と安否確認など、防災対策に不安がある             |
| 22 | 生活困窮者※への支援が不十分                               |
| 23 | 特になし   |
| 24 | その他（ ）                                       |

※生活困窮者：親に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなっている者。（生活困窮者自立支援法より）

問11 あなたは、地域での支え合いや孤獨死・孤立死の防止などのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を活用する方法をどのように考えますか。（ひとつだけ○）

- |   |               |
|---|---------------|
| 1 | 積極的に共有すべき     |
| 2 | 必要であれば共有してもよい |
| 3 | あまり共有したくない    |
| 4 | 一切共有すべきではない   |
| 5 | わからない         |
| 6 | その他（ ）        |

問12 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

- |    |                    |
|----|--------------------|
| 1  | 必要な情報を入力できる体制の整備   |
| 2  | 日常生活に関する身近な相談窓口の整備 |
| 3  | 地域の人が交流できる場の整備     |
| 4  | ネットワーク作り、見守り体制の整備  |
| 5  | 買い物しやすい環境づくり       |
| 6  | バスなどの公共交通手段の整備     |
| 7  | 支援が必要な人への支援        |
| 8  | 自主防災組織などの整備        |
| 9  | 災害時における体制の整備       |
| 10 | 道路や建物のバリアフリー整備     |
| 11 | スポーツや文化教養活動の環境整備   |
| 12 | 公園や緑地などの自然環境の整備    |
| 13 | その他（ ）             |

**IV. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについてうかがいます**

問13 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれくらいありますか。  
(それぞれ○はひとつずつ)

取り組み内容と具体的なイメージ	取り組み状況					期待度				
	取 り 組 ん で い る	ま ま あ ま り 取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い ない	取 り 組 ん で い ない	わ か ら な い	取 り 組 ん で い る	ま ま あ ま り 取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い ない	取 り 組 ん で い ない	わ か ら な い
<b>福祉サービスが利用しやすい地域の実現</b>										
福祉サービスの利用支援 ● 必要な福祉サービスが受けられる ● わかりやすい、適切な情報入手できる ● 判断能力が不十分な人でも適切に制度やサービスが利用でき、権利が守られる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
支援をつなぐ仕組みづくり ● 困っている人が気軽に相談できる場がある ● 困ったときの相談窓口が周知されている ● 仕事や生活に困っている人が支援を受けられる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり ● 市民や団体が参加しやすい、活動しやすい環境がある ● 福祉にかかわる団体が連携して、困っている人を支えている ● 地域のボランティアが増え、育成されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現</b>										
誰もが外出しやすい環境づくり ● 誰もが外出しやすい、利用しやすいまちづくりがすすめている ● 市民が利用しやすい公共交通機関が充実している ● 高齢者や障害者の移動支援や外出支援、生活支援が充実している	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
地域における防災機能の強化 ● 防災に関する情報提供が充実している ● 自主防災組織の活動により、地域の防災力向上が図られている ● 防災訓練への参加など、市民意識が醸成されている ● 助けが必要な人が、緊急時に素早く避難できるような連携や体制づくりがすすめられている ● 災害ボランティアが育成されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

取り組み内容と具体的なイメージ	取り組み状況					期待度				
	取 り 組 ん で い る	ま ま あ ま り 取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い ない	取 り 組 ん で い ない	わ か ら な い	取 り 組 ん で い る	ま ま あ ま り 取 り 組 ん で い る	あ ま り 取 り 組 ん で い ない	取 り 組 ん で い ない	わ か ら な い
<b>誰もが快適に住み続けられる地域の実現 (続き)</b>										
地域における見守り、声かけによる安全の確保 ● 高齢者や障害者世帯の見守り支援が行われている ● 子育て家庭の孤立化防止、ひきこもり防止、虐待防止の取り組みが行われている ● 悩みを抱えた人が気軽に相談できる場がある ● 消費者被害の防止、地域の防犯活動が行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
<b>誰もが役割を持つことができる地域の実現</b>										
隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり ● 普段のあいさつや声かけが行われている ● 地域の行事へ積極的に参加している ● 地域の活動が活発に行われている ● 障害などの福祉に関する教育や啓発が行われている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
地域福祉活動の担い手の育成 ● みんなが気軽に取組める健康づくり活動やイベントが行われている ● 地域の活動やボランティア活動についての情報が提供されている ● 地域の活動や健康づくり、ボランティア活動などに関わる人が増えている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
活動団体への支援 ● 高齢者や障害者、子育て中の人などが、生きがいや仲間づくりに気軽に集まれる場や機会がある ● 気軽に集まれる場や機会の情報が提供されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

## V. 新型コロナウイルス問題についてうかがいます

問14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

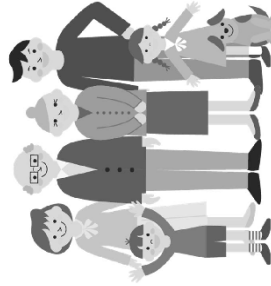
問15 新型コロナウイルスの問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたが、それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。

問16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。





---

---

第3次上尾市地域福祉計画及び  
第6次上尾市地域福祉活動計画策定のための  
アンケート調査報告書

令和3年3月

上尾市 健康福祉部 福祉総務課  
〒362-8501 埼玉県上尾市本町三丁目1番1号  
TEL：048-775-5118（直通）  
FAX：048-775-9846

---

---